総合検査案内

2020～2021

株式会社エスアールエル北関東検査センター

個人情報保護方針

《 基 本 的 姿 勢 》

株式会社エスアールエル北関東検査センター（以下、「当社」といいます。）は、個人情報（特定個人情報を含む、以下同じ。）を適切に保護することが当社の社会的責務であり、また事業活動の基本と考えております。

当社では、個人情報保護に関する行動指針を以下のとおり定め、個人情報保護マネジメントシステムを確立し、全従業者（役員・社員・契約社員・パート社員・派遣社員等）に個人情報保護の重要性を認識させるとともに、個人情報の安全管理措置を周知徹底することをもって、個人情報の漏えい、滅失またはき損を防止し、個人情報の保護に邁進することを宣言いたします。

《 行 動 指 針 》

1. 基本原則
   - 当社で取扱うすべての個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」をはじめとする法令や、国が定めた指針その他の規範および社内諸規定および個人情報保護マネジメントシステムで定めた手続（特定個人情報については、「特定情報等取扱規程」を優先して適用）などを遵守し、適切に取扱います。
   - 当社で取扱う全ての検体検査の受託にあたり、取得する被検者の個人情報を、適切な安全管理措置を講ずることによって保護管理いたします。
   - 当社の個人情報保護マネジメントシステムは適宜見直しを行い、継続的に改善いたします。
2. 情報取得の原則
   - 検体検査は、医療機関等と個人情報保護に関する覚書を結んで実施いたします。
   - 被検者の個人情報は、医療機関等から適法かつ公正に取得し、受託した検体検査の実施に必要な範囲（特定個人情報については、個人番号を利用できる事務の範囲）内のものとします。
3. 情報利用の原則
   - お預かりした個人情報は、利用目的の達成に必要な範囲を超えて（特定個人情報については、個人番号を利用できる事務の範囲以外、検体検査の受託に際し取得する被検者の個人情報は、受託した検体検査の実施目的以外）利用いたしません。またそのために必要となる措置を講じます。
   - 医療機関等の要請により、医療の向上を目的として検査結果を活用させていただく場合がありますが、被検者氏名など個人を特定できるような形での情報開示は行いません。
4. 情報提供・開示の原則
   - 検査結果は医師の総合的判断における重要な判断情報の一部であり、当社が被験者本人又はその代理人等に直接、情報提供又は開示等は行いません。
   - 当社は、法令に基づく場合や人の生命、身体の保護に必要な場合など正当な理由がある場合を除き、あらかじめ本人の同意を得ないで（特定個人情報については本人の同意の如何なく）個人情報を第三者に提供いたしません。
5. 安全管理の原則
   - 個人情報保護管理者の設置をはじめ内部における責任体制を確保し、不正アクセス、紛失、改ざん、漏えい等の危険防止を図るため、必要かつ適切な保護措置を講じ、不具合があれば是正します。
   - 個人情報の適切な保護が確保できるよう、教育研修の実施等を通じて、従業者の個人情報の保護意識の啓発を図ってまいります。
   - お預かりした検体検査を委託する場合には、委託先において個人情報保護の措置が確保されるよう、委託契約及び個人情報保護に関する覚書を取り交わし、定期的に必要かつ適切な監督を行います。
6. 苦情及び相談への対応
   - 個人情報の取扱いに関して、ご本人からの苦情、相談、開示等のご請求は以下で受け付けております。

【苦情相談窓口】　電話番号 027-265-6498　FAX番号 027-265-6180

制定　2017年 6月 1日
改訂　2018年 4月 1日

株式会社エスアールエル北関東検査センター

代表取締役社長　堀池 英一

2020～2021 総合検査案内

目　次

索引
ご利用の手引き

索引 …… 2
ご利用の手引き …… 19

内分泌学的検査
腫瘍関連検査

視床下部・下垂体関連検査 … 24
甲状腺関連検査 …… 25
副甲状腺関連検査 …… 26
副腎髄質関連検査 …… 27
副腎皮質関連検査 …… 29
性腺・胎盤関連検査 …… 31
膵・消化管関連検査 …… 34
心臓関連検査 …… 34
その他 …… 35
腫瘍関連検査 …… 36

ウイルス感染症検査

抗体検査 …… 41
抗原検査 …… 52
HTLV-I検査 …… 58
HIV検査 …… 59
肝炎ウイルス検査 …… 62

免疫学的検査

感染症抗体検査 …… 65
感染症抗原検査 …… 66
感染症関連検査 …… 68
自己免疫関連検査 …… 71
免疫血液学的検査 …… 76
免疫グロブリン …… 77
補体 …… 77
血漿蛋白 …… 78

アレルギー検査

アレルギー検査 …… 81

生化学的検査

蛋白・膠質反応 …… 84
酵素関連物質 …… 85
低分子窒素化合物 …… 88
糖質関連物質 …… 90
有機酸 …… 91
脂質関連物質 …… 92
ビタミン …… 96
電解質 …… 98
生体微量金属 …… 99
生体色素 …… 99
ポルフィリン …… 100
毒物・産業医学 …… 101
その他 …… 102
クリアランス・機能試験 …… 104

血液学的検査

血液一般・形態検査…… 105
血小板活性化検査…… 107
凝固系一般検査…… 108
凝固因子検査…… 108
凝固・線溶系検査…… 109

一般検査
微生物学的検査

尿一般検査 …… 111
糞便検査 …… 112
髄液検査・穿刺液検査・精液検査 … 113
専用輸送容器・輸送培地一覧 … 114
目的菌 …… 115
一般細菌・抗酸菌・抗酸菌核酸同定 … 116
検査材料および採取方法 …… 117
標準薬剤パターン …… 118
薬剤略号一覧 …… 118

薬物検査

抗てんかん剤 …… 119
精神神経用剤 …… 121
強心剤 …… 121
不整脈用剤 …… 122
抗生物質製剤 …… 124
抗真菌剤 …… 124
その他 …… 125

細胞性免疫検査

細胞性免疫検査 …… 127

病理学的検査
細胞診検査
アミノ酸解析サービス

病理組織検査 …… 128
病理標本作製 …… 128
細胞診検査 …… 129
AIRS・AICS …… 130

緊急報告検査値範囲
検査方法の概略
参考文献一覧

緊急報告検査値範囲 …… 132
検査方法の概略 …… 133
参考文献一覧 …… 136

専用容器の取り扱い方法

専用容器の取り扱い方法 …… 154

五十音

ア	ページ	診療報酬区分	実施料
亜鉛(Zn)	99	D007 37	140
(α_1)アシドグリコプロテイン	78		
アスコルビン酸(ビタミンC)	96	D007 58	314
アスピリン→サリチル酸	125	B001 02	特
アスペノン→アプリンジン	123	B001 02	特
アスペルギルス抗原	69	D012 28	161
アスペルギルス抗体	69		
アセタゾラミド	120	B001 02	特
(抗)アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	74	D014 41	847
アセトアミノフェン	125	D007 44	185
アセトン定量	91		
アディポネクチン(LA)	35		
アデノウイルス〔CF〕〔NT〕	41	D012 11 イ	79
アデノウイルスDNA	54		
アデノウイルス抗原〔ELISA〕	54	D012 35	189
アデノウイルス抗原〔シェル・バイアル〕	53		
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	87	D007 11	32
アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	81	D015 20	194
(抗)アニサキスIgG・A抗体	70	D012 36	210
アプリンジン	123	B001 02	特
アポリポ蛋白A-Ⅰ	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白A-Ⅱ	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白B	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白C-Ⅱ	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白C-Ⅲ	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白E	95	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白Eフェノタイプ	95		
アミオダロン	123	B001 02	特
アミカシン	124	B001 02	特
アミカマイシン→アミカシン	124	B001 02	特
アミサリン→プロカインアミド	122	B001 02	特
アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)[LC/MS]	89	D010 04 イ	287+287
アミノ酸分析(39種類，9種類)[LC/MS]	89	D010 04 ロ	1176
アミノ酸分析(41種類)	89	D010 04 ロ	1176
アミラーゼ(AMY)	85	D007 01	11
アミラーゼアイソザイム	85	D007 14	48
(P型)アミラーゼ定量	85	D007 14	48
(血清)アミロイドA蛋白(SAA)	79	D015 06	47
アルカリフォスファターゼ(ALP)	86	D007 01	11
(骨型)アルカリフォスファターゼ(BAP)	26，86，103	D008 27	161
アルカリフォスファターゼアイソザイム→ALPアイソザイム	86	D007 14	48
アルドステロン	29	D008 14	125
アルドステロン/レニン活性比	35	D008 14+D008 07	125+100
アルドステロン/レニン定量比	35	D008 14+D008 11	125+108
アルドラーゼ	86	D007 01	11
アルファフェトプロテイン定量	36	D009 03・B001 03 ロ	107・腫2
アルブミン(Alb)	78，84	D007 01	11
(尿中)アルブミン	84	D001 08	102
(尿中)アルブミン(クレアチニン換算値)	84	D001 08	102
アルブミン・グロブリン比(A/G比)	84		

ア	ページ	診療報酬区分	実施料
アルブミン定量	78，84	D007 01	11
アルベカシン	124	B001 02	特
アルミニウム(Al)	102	D007 29	115
アレビアチン→フェニトイン	119	B001 02	特
アンカロン→アミオダロン	123	B001 02	特
アンギオテンシンⅠ	35		
アンギオテンシンⅡ	35		
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	87	D007 38	144
(α_1)アンチトリプシン	78	D006 11	80
アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)	109	D006 10	70
アンチプラスミン(α_2プラスミンインヒビター)	109	D006 15	128
アンモニア	88	D007 16	50

イ	ページ	診療報酬区分	実施料
イオン化カルシウム	98	D007 07	26
イーケプラ→レベチラセタム	120	B001 02	特
(尿中)一般検査	111	D000	★26
(一般細菌)培養同定(口腔，気道，呼吸器)	116	D018 01	160
(一般細菌)培養同定(消化器)	116	D018 02	180
(一般細菌)培養同定(泌尿器，生殖器)	116	D018 04	170
(一般細菌)培養同定(血液，穿刺液)	116	D018 03	215
(一般細菌)培養同定(その他部位)	116	D018 05	160
(一般細菌)嫌気性菌培養	116	D018	注1 112
(一般細菌)感受性検査	116	D019 01/02/03	嫌菌(1)/嫌菌(2)/嫌菌(3)
イヌリン定量[酵素法]	102	D007 32	120
(抗)胃壁細胞抗体	74		
イマチニブ	125	B001 02	特
インスリン	34	D008 10	106
インスリン抗体	34	D014 06	110
インスリン様成長因子→IGF-Ⅰ(ソマトメジン-C)	24	D008 42	224
インタクトPTH→副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	26	D008 31	175
インデラル→プロプラノロール	123		
インフルエンザウイルス〔CF〕〔HI〕	42	D012 11 ト.チ	79
インフルエンザウイルスRNA	54		
インフルエンザウイルス抗原	53	D012 22	139
インプロメン→ブロムペリドール	121	B001 02	特

ウ	ページ	診療報酬区分	実施料
ウイルス同定	52		
ウイルス分離	52		
ウロポルフィリン(血中)	100		
ウロポルフィリン(尿中)	100	D001 10	105
ウロビリノーゲン(尿一般定性検査)	111	D000	★26
運動率(精液一般検査)	113	D004 05	70

エ	ページ	診療報酬区分	実施料
エクセグラン→ゾニサミド	120	B001 02	特
エコーウイルス	43，44	D012 11 ホ	79
エステル型コレステロール(Echo)	92		
エストラジオール(E_2)〔ECLIA〕	31	D008 34	177

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

エ	ページ	診療報酬区分	実施料
エストラジオール(E_2)(IVF)	31		
エタノール	102	D007 27	111
エトスクシミド	119	B001 02	㊕
エピレオプチマル→エトスクシミド	119	B001 02	㊕
エベロリムス	125	B001 02	㊕
(子宮頸管粘液中顆粒球)エラスターゼ	33	D004 07	125
エラスターゼ1	36, 85	D009 07・B001 03 ロ	126・腫2
エリスロポエチン	35	D008 39	209
エルタシン→ゲンタマイシン	124	B001 02	㊕
塩基性フェトプロテイン(BFP)	39	D009 14・B001 03 ロ	150・腫2
塩酸バンコマイシン→バンコマイシン	124	B001 02	㊕
(塩酸)ピルシカイニド	122	B001 02	㊕
エンテロウイルス	47		
エンテロウイルスRNA	54		
エンドトキシン定量	68	D012 44	243

オ	ページ	診療報酬区分	実施料
黄体形成ホルモン(LH)	24	D008 13	111
黄体ホルモン→プロゲステロン	32	D008 22	155
オーム病クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ	65	D012 11 ネ	79
オステオカルシン	26	D008 27	161
オリゴクローナルバンド	77	D004 10	522

カ	ページ	診療報酬区分	実施料
外見(キサントクロミー)(髄液一般検査)	113	D004 04	62
(尿中)核マトリックスプロテイン22(NMP22)	39	D009 13	151
(抗)下垂体抗体1	74		
ガストリン	34	D008 09	104
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	39	D009 21・B001 03 ロ	175・腫2
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	108	D006 07	29
カテコールアミン3分画	27	D008 31	170
カテコールアミン総	27	D008 37	194
カドミウム	102		
ガバペンチン	120	B001 02	㊕
カフィール→ジソピラミド	122	B001 02	㊕
可溶性IL-2レセプター	39	D009 29・B001 03 ロ	438・腫2
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	109	D006 12	93
可溶性メソテリン関連ペプチド	39	D009 26・B001 03ロ	220・腫2
(抗)ガラクトース欠損IgG抗体	71	D014 08	117
カリウム(K)	98	D007 01	11
(ニューモシスチス)カリニDNA	67		
(子宮頸管粘液中)顆粒球エラスターゼ	33	D004 07	125
カルシウム(Ca)	98	D007 01	11
(イオン化)カルシウム	98	D007 07	26
(抗)カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体(抗CL・β_2GPⅠ抗体)	72	D014 25	223
(抗)カルジオリピン抗体(IgG)	72	D014 27	239
(抗)カルジオリピン抗体(IgM)	72		
カルシトニン	26	D008 20	137
カルニチン分画	97	D007 23	95
カルバマゼピン	119	B001 02	㊕

カ	ページ	診療報酬区分	実施料
肝細胞増殖因子(HGF)	35	D007 50	227
カンジダマンナン抗原	68	D012 19	134
(抗)肝腎マイクロゾーム1抗体→抗LKM-1抗体	73	D014 24	221
(一般細菌)感受性検査	116	D019 01/02/03	1菌種170 2菌種220 3菌種280
(抗酸菌)感受性検査(間接法)4薬剤以上	116	D022	380
関節液検査	113		
間接クームス試験	76	D011 02 ロ	47
癌胎児性抗原(CEA)	36	D009 02・B001 03 ロ	102・腫2
(ヒト)癌胎児性フィブロネクチン	33	D015 23	204
寒冷凝集反応	68	D014 01	11

キ	ページ	診療報酬区分	実施料
奇形精子率(精液一般検査)	113	D004 05	70
キシロカイン→リドカイン	122	B001 02	㊕
キニジン	122	B001 02	㊕
凝固因子活性検査〔第Ⅱ, Ⅴ, Ⅶ, Ⅷ, Ⅸ, Ⅹ, ⅩⅠ, ⅩⅡ, ⅩⅢ因子〕	108	D006 30	223
凝固抑制因子検査〔第Ⅷ, Ⅸ因子〕	108	D006 20	148

ク	ページ	診療報酬区分	実施料
グアナーゼ	87	D007 12	35
クォンティフェロンTBゴールドプラス	67	D015 27	612
(間接)クームス試験	76	D011 02 ロ	47
(直接)クームス試験	76	D011 02 イ	34
クエン酸	91		
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ(オーム病クラミドフィラ)	65	D012 11 ネ	79
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ	65		
クラミジアトラコマティス	65	D012 37	200
クラミジアトラコマティスDNA	66	D023 02	198
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgA	65	D012 10	75
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgG	65	D012 09	70
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgM	65	D012 26	156
クリオグロブリン定性	77	D015 05	42
グリコアルブミン	90	D007 17	55
グリココール酸(CG)	94	D007 21	80
グリコヘモグロビンA_1c→ヘモグロビンA_1c(HbA_1c)	90	D005 09	49
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	69	D012 32	174
グリベック	125	B001 02	㊕
(HCV群別)グルーピング	63	D013 11	233
グルカゴン(IRG)	34	D008 23	150
グルコース	90	D007 01	11
クレアチニン	88	D007 01	11
クレアチニンクリアランス	104		
クレアチニンクリアランス(24時間法)	104		
クレアチン	88	D007 01	11
クレアチンフォスフォキナーゼ→CK(CPK)	86	D007 01	11
クレアチンフォスフォキナーゼ-MB→CK-MB(CPK-MB)〔CLIA〕	86	D007 23	90
クレアチンフォスフォキナーゼ-MB→CK-MB(CPK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	86	D007 18	55
クレアチンフォスフォキナーゼアイソザイム→CK(CPK)アイソザイム	86	D007 18	55
クロール(Cl)	98	D007 01	11
クロール定量(髄液検査)	113	D007 01	11

㊕：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ク	ページ	診療報酬区分	実施料
クロナゼパム	120	B001 02	特
クロバザム	120	B001 02	特
クロム	102		
クンケル反応（ZTT）	84		

ケ	ページ	診療報酬区分	実施料
（末梢）血液一般検査	105	D005 05	21
血液型〔ABO・Rh（D因子）式〕	76	D011 01+D011 01	24+24
血液型〔Rh-Hr式〕	76	D011 04	160
血液型不適合妊娠	76		
血液像	106	D005 03	15
結核菌群核酸同定〔TRC〕	67，116	D023 11	410
結核菌特異的IFN-γ	67	D015 27	612
血小板数（PLT）	105	D005 05	21
血小板関連IgG（PAIgG）	74	D011 06	198
（抗）血小板抗体	74	D011 08	262
血小板第4因子（PF-4）	107	D006 26	178
血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体（HIT抗体）	74，107	D011 10	390
血色素量（Hb）	105	D005 05	21
血清 HER2タンパク	37	B001 03 ロ	腫2
血清亜鉛（Zn）	99	D007 39	144
血清アミロイドA蛋白（SAA）	79	D015 06	47
血清抗p53抗体	36	D009 18・B001 03 ロ	163・腫2
血清総サイロキシン（T_4）	25	D008 11	111
血清鉄（Fe）	99	D007 01	11
血清銅（Cu）	99	D007 05	23
血清補体価	71，77	D015 04	38
結石分析〔成分比率〕	102	D010 02	120
血中11-OHCS	29	D008 02	60
血中ケトン体分画	91	D007 19	59
血中脂肪酸分画	93	D010 07	429
血糖→グルコース	90	D007 01	11
ケトン体（尿一般定性検査）	111	D000	★26
（血中）ケトン体分画	91	D007 20	59
ケモカイン→TARC	81	D015 19	189
ゲンタシン→ゲンタマイシン	124	B001 02	特
ゲンタマイシン	124	B001 02	特

コ	ページ	診療報酬区分	実施料
（HCV抗原）コア蛋白質	64	D013 05	111
抗AChR抗体（抗アセチルコリンレセプター抗体）	74	D014 41	822
抗BP180抗体	74	D014 31	270
抗CL・β_2GP Ⅰ抗体（抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体）	72	D014 25	223
抗DNA抗体〔RIA〕	71	D014 16	168
抗ds-DNA IgG抗体	71	D014 16	168
抗ds-DNA IgM抗体	71		
抗GAD抗体	34	D008 18	134
抗GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）	73	D014 31	270
抗IA-2抗体	34	D008 40	213
抗Jo-1抗体〔CLEIA〕	73	D014 09	140

コ	ページ	診療報酬区分	実施料
抗Jo-1抗体〔オクタロニー法〕	73	D014 09	140
抗LKM-1抗体	73	D014 24	221
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	72	D014 17	170
抗RNP抗体〔CLEIA〕	72	D014 10	144
抗RNP抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 10	144
抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	72	D014 14	161
抗Scl-70抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 14	161
抗Sm抗体〔CLEIA〕	72	D014 12	151
抗Sm抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 12	151
抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	72	D014 15	163
抗SS-A/Ro抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 15	163
抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕	72	D014 14	161
抗SS-B/La抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 14	161
抗ss-DNA IgG抗体	71	D014 16	168
抗ss-DNA IgM抗体	71		
抗TPO抗体（抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体）	25	D014 11	146
抗アクアポリン４抗体	73	D014 43	1000
抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	74	D014 41	822
抗アニサキスIgG・A抗体	70	D012 39	210
抗胃壁細胞抗体	74		
抗核抗体（ANA）	71	D014 05	105
抗下垂体抗体1	74		
抗ガラクトース欠損IgG抗体	71	D014 08	117
抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体（抗CL・β_2GP Ⅰ抗体）	72	D014 25	223
抗カルジオリピン抗体（IgG）	72	D014 27	232
抗カルジオリピン抗体（IgM）	72		
抗肝腎マイクロゾーム1抗体→抗LKM-1抗体	73	D014 24	221
抗血小板抗体	74	D011 08	262
抗甲状腺サイログロブリン抗体（サイロイドテスト）	25	D014 03	37
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	25	D014 10	146
抗甲状腺マイクロゾーム抗体（マイクロゾームテスト）	25	D014 03	37
抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA）	73	D014 29	265
抗好中球細胞質抗体（PR3-ANCA）	73	D014 30	267
抗サイログロブリン抗体	25	D014 10	144
好酸球塩基性蛋白→ECP	80，81		
好酸球数	105	D005 04	17
（抗酸菌）塗抹鏡検	116	D017 03	61
（抗酸菌）分離培養（液体法）	116	D020 01	280
（抗酸菌）分離培養（小川法）	116	D020 02	204
（抗酸菌）感受性検査（間接法）4薬剤以上	116	D022	380
抗酸菌同定（質量分析）	116	D023 11	410
抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	73	D014 31	270
抗シトルリン化ペプチド（CCP）抗体	71	D014 23	204
（抗）甲状腺サイログロブリン抗体（サイロイドテスト）	25	D014 03	37
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	24，25	D008 09	104
甲状腺刺激ホルモン（TSH）レセプター抗体	25	D014 26	232
（抗）甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	25	D014 11	146
（抗）甲状腺マイクロゾーム抗体（マイクロゾームテスト）	25	D014 03	37
抗ストレプトキナーゼ抗体（ASK）	68	D012 03	29
抗ストレプトリジン-0抗体（ASO）	68	D012 01	15

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

コ	ページ	診療報酬区分	実施料
抗セントロメア抗体〔ELISA〕	73	D014 18	179
酵素抗体染色	128	N002 08	400
抗体同定・抗体価測定（不規則性抗体）	76	D011 03/K920 注6	159/197
（抗）好中球細胞質抗体（MPO-ANCA）	73	D014 31	273
（抗）好中球細胞質抗体（PR3-ANCA）	73	D014 31	273
抗デスモグレイン1抗体	74	D014 35	300
抗デスモグレイン3抗体	74	D014 31	270
抗トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	72	D014 13	162
抗トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 13	162
抗内因子抗体	74		
抗表皮成分自己抗体（直接法）	74	N002(08)+N002(08注)	400+1200
抗平滑筋抗体	73		
抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	68	D012 12	80
抗ミトコンドリアM2抗体	73	D014 21	194
抗ミトコンドリア抗体	73	D014 19	186
（抗リン脂質抗体）→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	72	D014 25	223
（抗リン脂質抗体）→抗カルジオリピン抗体（IgG）	72	D014 27	239
（抗リン脂質抗体）→抗カルジオリピン抗体（IgM）	72		
コクサッキーウイルス〔CF〕〔NT〕	45，46	D012 11 ロ	79
極長鎖脂肪酸	93		
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ（TRACP-5b）	103	D008 25・B001 03 ロ	156・腫2
骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）	26，86，103	D008 27	161
コプロポルフィリン（血中）	100	D007 48	210
コプロポルフィリン（尿中）	100	D001 14	135
コプロポルフィリン定性	100		
コリンエステラーゼ（ChE）	87	D007 01	11
抗利尿ホルモン（ADH）（AVP）	24	D008 47	235
コルチゾール	29	D008 15	127
（遊離）コレステロール	92	D007 01	11
（総）コレステロール（T-Cho）	92	D007 03	17
コレステロールエステル比	92		
コレステロール分画	94	D007 18	57

サ	ページ	診療報酬区分	実施料
（肺）サーファクタントプロテインA（SP-A）	80	D007 35	130
（肺）サーファクタントプロテインD（SP-D）	80	D007 36	136
サイクリックAMP	35	D008 33	175
サイトケラチン19フラグメント（シフラ）（CYFRA）	39	D009 17・B001 03 ロ	162・腫2
サイトメガロウイルス	50	D012 11 ハ	79
サイトメガロウイルス〔IgM，IgG〕	50	D012 38 ハ	212
サイトメガロウイルスDNA	56		
サイトメガロウイルスDNA定量	56		
サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP）	56	D012 48	377
サイトメガロウイルスpp65抗原（C10，C11）	56	D012 48	377
サイトメガロウイルス抗原	53		
細胞診検査（婦人科）	129	N004 01	150
細胞診検査〔喀痰集細胞法〕	129	N004 02	190
細胞数（髄液一般検査）	113	D004 03	62
細胞種類（髄液一般検査）	113	D004 03	62
サイロイドテスト（抗甲状腺サイログロブリン抗体）	25	D014 03	37

サ	ページ	診療報酬区分	実施料
（遊離）サイロキシン（Free T_4）	25	D008 14	130
（血清総）サイロキシン（T_4）	25	D008 12	111
サイロキシンバインディンググロブリン定量→TBG定量	25	D008 14	130
サイログロブリン	25	D008 17	133
（抗）サイログロブリン抗体	25	D014 09	144
サリチル酸	125	B001 02	㊖
ザロンチン→エトサクシミド	119	B001 02	㊖
三塩化エタノール→尿中トリクロルエタノール	101		
酸化LDL（MDA-LDL）	94	D007 46	194
サンリズム→ピルジカイニド	122	B001 02	㊖

シ	ページ	診療報酬区分	実施料
ジアゼパム	120	B001 02	㊖
ジアパックス→ジアゼパム	120	B001 02	㊖
シアリルLe^x-i抗原（SLX）	37	D009 13・B001 03 ロ	148・腫2
シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）	37	D009 19・B001 03 ロ	164・腫2
シアリルTn抗原（STN）	38	D009 11・B001 03 ロ	146・腫2
シアル化糖鎖抗原KL-6→KL-6	80	D007 30	117
シアル酸	90		
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	33	D004 07	122
（抗）糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	73	D014 33	277
シクロスポリン	125	B001 02	㊖
ジゴキシン	121	B001 02	㊖
ジゴキシンサンド，ジゴシン→ジゴキシン	121	B001 02	㊖
シスタチンC［金コロイド凝集法］	79	D007 31	118
ジソピラミド	122	B001 02	㊖
ジフェニルヒダントイン→フェニトイン	119	B001 02	㊖
シフラ（CYFRA）（サイトケラチン19フラグメント）	39	D009 17・B001 03 ロ	162・腫2
シベンゾリン	122	B001 02	㊖
脂肪酸分画	93	D010 07	429
（尿中）シュウ酸	91		
絨毛性ゴナドトロピン（HCG）	33	D008 21	138
絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット（HCG-β）	33	D008 19	136
女性AICS（6種）	130		
シリアルLe^{x}抗原（CSLEX）	37	D009 20・B001 03 ロ	169・腫2
シリアルLe^x-i抗原（SLX）	37	D009 14・B001 03 ロ	152・腫2
シリアルTn抗原（STN）	38	D009 10・B001 03 ロ	146・腫2
心筋トロポニンT	34，79	D007 29	115
シングルアレルゲン（特異的IgE）	81，83	D015 12	各110
神経特異エノラーゼ（NSE）	39	D009 11・B001 03 ロ	146・腫2
（真菌）塗抹鏡検	116	D017 03	61
（真菌）培養同定（口腔，気道，呼吸器）	116	D018 01	160
（真菌）培養同定（消化器）	116	D018 02	180
（真菌）培養同定（泌尿器，生殖器）	116	D018 04	170
（真菌）培養同定（血液，穿刺液）	116	D018 03	210
（真菌）培養同定（その他部位）	116	D018 05	160
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	34，79	D007 43	184
（ヒト）心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	34，79	D007 38	143
浸透圧（血清）	98	D005 03	15
浸透圧（部分尿）	98	D001 03	16

㊖：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

シ	ページ	診療報酬区分	実施料
(ヒト)心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	34	D008 43	227

ス	ページ	診療報酬区分	実施料
髄液一般検査	113	D004 03	62
膵PLA_2(膵ホスホリパーゼA_2)	85	D007 50	204
膵アミラーゼ→P型アミラーゼ定量	85	D007 15	48
水痘・帯状ヘルペスウイルス	49	D012 11 ナ	79
水痘・帯状ヘルペスウイルス〔IgM，IgG〕	49	D012 38 チ	212
水痘・帯状ヘルペスウイルスDNA	55		
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原〔FA〕	55	D012 43	233
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原〔シェル・バイアル〕	53		
膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	85	D007 47	204
(抗)ストレプトキナーゼ抗体(ASK)	68	D012 03	29
(抗)ストレプトリジン-O抗体(ASO)	68	D012 01	15
ストロムマイシン1→MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	71	D014 07	116

セ	ページ	診療報酬区分	実施料
精液一般検査	113	D004 04	70
精子数(精液一般検査)	113	D004 04	70
精子不動化抗体(SI50)	74		
精子不動化抗体(不動化法)	74		
成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLV抗体)〔CLEIA〕	58	D012 30	173
成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLV抗体)〔PA〕	58	D012 13	85
成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLV抗体)〔LIA〕	58	D012 49	425
成長ホルモン(GH)	24	D008 13	111
赤血球形態	106	D005 03	15
赤血球数(RBC)	105	D005 05	21
赤血球遊離プロトポルフィリン	100	D007 57	272
セルシン→ジアゼパム	120	B001 02	特
セルロプラスミン	78	D015 09	90
セレニカR→バルプロ酸	119	B001 02	特
セレネース→ハロペリドール	121	B001 02	特
セロトニン	28		
潜血(尿一般定性検査)	111	D000	★26
全脂質中脂肪酸分画	93	D010 07	429
染色標本作製	128		
(抗)セントロメア抗体〔ELISA〕	73	D014 16	184
前立腺特異抗原(PSA)	37	D009 08・B001 03 ロ	127・腫2
前立腺特異抗原(PSA)F/T比→PSA F/T比タンデム	37	D009 15・B001 03 ロ	154・腫2
前立腺特異抗原・α_1-アンチキモトリプシン複合体→PSA-ACT	37	D009 08・B001 03 ロ	130・腫2

ソ	ページ	診療報酬区分	実施料
総IgE→IgE(非特異的IgE)	81	D015 10	100
総コレステロール(T-Cho)	92	D007 03	17
(血清)総サイロキシン(T_4)	25	D008 11	111
(尿中)総三塩化物	101		
総胆汁酸	94	D007 13	47
総蛋白(TP)(血清)	84	D007 01	11
総蛋白(TP)(髄液)	84	D007 01	11
総蛋白(TP)(蓄尿)	84	D001 01	7

ソ	ページ	診療報酬区分	実施料
総鉄結合能(TIBC)	99	D007 01	11
総ビリルビン(T-Bil)	99	D007 01	11
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)	89	D010 05	288
総ホモシステイン	90	D010 04 イ	287
ソナコン→ジアゼパム	120	B001 02	特
ゾニサミド	120	B001 02	特
ソビラール→プロパフェノン	122	B001 02	特
ソマトメジン-C(IGF-Ⅰ)	24	D008 42	218

タ	ページ	診療報酬区分	実施料
第Ⅱ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第Ⅴ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第Ⅶ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第Ⅷ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第Ⅷ因子(凝固抑制因子検査)	108	D006 20	152
第Ⅸ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第Ⅸ因子(凝固抑制因子検査)	108	D006 20	152
第Ⅹ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第ⅩⅠ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第ⅩⅡ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
第ⅩⅢ因子(凝固因子活性検査)	108	D006 29	229
大腸菌ベロトキシン	115	D023-2 03	194
ダイアモックス→アセタゾラミド	120	B001 02	特
タクロリムス	125	B001 02	特
タゴシッド→テイコプラニン	124	B001 02	特
(炭酸)リチウム	99，121	B001 02	特
(総)胆汁酸	94	D007 14	47
単純ヘルペスウイルス	50	D012 11 ヘ	79
単純ヘルペスウイルス〔1型，2型〕	50	D012 11 ヘ	79
単純ヘルペスウイルス〔IgM，IgG〕	50	D012 38 イ	212
単純ヘルペスウイルスDNA	55		
単純ヘルペスウイルスDNA定量	55	D023 14	450
単純ヘルペスウイルスIgG(髄液中)	50		
単純ヘルペスウイルス抗原〔シェル・バイアル〕	53		
単純ヘルペスウイルス特異抗原〔FA〕	55	D012 34	180
男性AICS(5種)	130		
蛋白(尿一般定性検査)	111	D000	★26
蛋白定量(髄液検査)	113	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(血清)	84	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(髄液)	84	D007 01	11
(総)蛋白(TP)(蓄尿)	84	D001 01	7
蛋白分画	84	D007 04	18
タンボコール→フレカイニド	122	B001 02	特

チ	ページ	診療報酬区分	実施料
チミジンキナーゼ活性	39	D005 12	233
中性脂肪(TG)	92	D007 01	11
虫卵(セロテープ)	112	D003 02	20
直接クームス試験	76	D011 02 イ	34
直接ビリルビン	99	D007 01	11

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

チ	ページ	診療報酬区分	実施料
チロシン・フェニルアラニン(アミノ酸分析2種類[LC/MS])	89	D010 05	295
(尿)沈渣(フローサイトメトリー)	111	D002 02	24

ツ	ページ	診療報酬区分	実施料
ツツガムシカープIgG，IgM	65	D012 38	207
ツツガムシカトーIgG，IgM	65	D012 38	207
ツツガムシギリアムIgG，IgM	65	D012 38	207

テ	ページ	診療報酬区分	実施料
テイコプラニン	124	B001 02	特
デオキシピリジノリン	26，38，80	D008 36・B001 03 ロ	191・腫2
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	103	D008 36	191
テオドール→テオフィリン	125	B001 02	特
テオフィリン	125	B001 02	特
テオロング→テオフィリン	125	B001 02	特
テグレトール→カルバマゼピン	119	B001 02	特
テストステロン	32	D008 14	125
(抗)デスモグレイン1抗体	74	D014 36	300
(抗)デスモグレイン3抗体	74	D014 29	270
鉄(Fe)	99	D007 01	11
(総)鉄結合能(TIBC)	99	D007 01	11
(不飽和)鉄結合能(UIBC)	99	D007 01	11
デパケン→バルプロ酸	119	B001 02	特
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	30	D008 32	174
テレスミン→カルバマゼピン	119	B001 02	特

ト	ページ	診療報酬区分	実施料
トイ→メキシレチン	122	B001 02	特
糖(尿一般定性検査)	111	D000	★26
糖定量(髄液検査)	113	D007 01	11
銅(Cu)	99	D007 05	23
糖代謝解析	90		
トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)	110	D006 33	240
ドーパミン総	27		
トキソプラズマIgG抗体	69	D012 14	93
トキソプラズマIgM抗体	69	D012 15	95
特異的IgE(12種吸入性アレルゲン)→アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	81，82	D015 20	194
特異的IgE(MAST36アレルゲン)	81，82	D015 13	1430
特異的IgE(シングルアレルゲン)	81	D015 13	各110
特異的IgE(ミックスアレルゲン)	81，82	D015 13	各110
トピラマート	120	B001 02	特
トブラシン→トブラマイシン	124	B001 02	特
トブラマイシン	124	B001 02	特
(抗)トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	72	D014 13	162
(抗)トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 13	162
(一般細菌)塗抹鏡検	116	D017 03	61
(抗酸菌)塗抹鏡検	116	D017 03	61
トランスサイレチン→プレアルブミン	78	D015 11	107
トランスフェリン	78	D015 07	60
(尿中)トランスフェリン(クレアチニン換算値)	78	D001 09	104

ト	ページ	診療報酬区分	実施料
(尿中)トランスフェリン	78	D001 09	104
トリグリセライド→中性脂肪(TG)	92	D007 01	11
(尿中)トリクロルエタノール	101		
(尿中)トリクロル酢酸	101		
トリプシン	85	D007 45	189
トリプトファン反応(髄液一般検査)	113	D004 03	62
トリメタジオン	120	B001 02	特
(遊離)トリヨードサイロニン(Free T_3)	25	D008 14	127
トリヨードサイロニン(T_3)	25	D008 08	102
(心筋)トロポニンT	34，79	D007 32	120
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	109	D006 27	181
トロンボモジュリン	110	D006 29	204

ナ	ページ	診療報酬区分	実施料
ナイアシン(ニコチン酸)	97		
(抗)内因子抗体	74		
ナトリウム(Na)	98	D007 01	11
ナパ→アセトアミノフェン	125	D007 47	190
鉛(Pb)	101		

ニ	ページ	診療報酬区分	実施料
ニコチン酸(ナイアシン)	97		
ニトラゼパム	120	B001 02	特
日本脳炎ウイルス	47	D012 11 ツ	79
日本脳炎ウイルスRNA	54		
乳酸	91	D007 13	47
乳酸脱水素酵素→LD(LDH)	86	D007 01	11
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LD(LDH)アイソザイム	86	D007 15	48
ニューモシスチスカリニDNA	67		
尿酸(UA)	88	D007 01	11
尿素窒素(UN)	88	D007 01	11
尿中2,5-ヘキサンジオン	101		
尿中Ⅳ型コラーゲン	79	D001 16	194
尿中N-メチルホルムアミド	101		
尿中アセトン定量	91		
尿中アルブミン	78	D001 08	102
尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	78	D001 08	102
尿一般定性検査	111	D000	★26
尿蛋白定量(蓄尿)(部分尿)	111	D001 01	7
尿中核マトリックスプロテイン22(NMP22)	39	D009 12	147
尿中シュウ酸	91	D001 18	200
尿中総三塩化物	101		
尿中トランスフェリン	78	D001 09	104
尿中トリクロルエタノール	101		
尿中トリクロル酢酸	101		
尿中馬尿酸	101		
尿中マンデル酸	101		
尿中メチル馬尿酸	101		
尿中免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンス蛋白の同定)	77	D015 21	201
尿沈渣(フローサイトメトリー)	111	D002 02	24

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

二	ページ	診療報酬区分	実施料
尿糖定量（蓄尿）（部分尿）	111	D001 02	9

ネ	ページ	診療報酬区分	実施料
ネオプテリン	102		
ネオペリドール→ハロペリドール	121	B001 02	特
ネルボン→ニトラゼパム	120	B011 02	特

ノ	ページ	診療報酬区分	実施料
（ヒト）脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）	34	D008 16	136
ノルペース→ジソピラミド	122	B001 02	特
ノンネアペルト反応（髄液一般検査）	113	D004 04	62

ハ	ページ	診療報酬区分	実施料
肺サーファクタントプロテインA（SP-A）	80	D007 34	130
肺サーファクタントプロテインD（SP-D）	80	D007 35	136
ハイセレニン→バルプロ酸	119	B001 02	特
梅毒定性RPR（LA）	70	D012 01	15
梅毒定性TP抗体（LA）	70	D012 04	32
梅毒定量TP抗体（LA）	70	D012 06	53
梅毒定量RPR（LA）	70	D012 05	34
（一般細菌）培養同定（口腔、気道、呼吸器）	116	D018 01	160
（一般細菌）培養同定（消化器）	116	D018 02	180
（一般細菌）培養同定（泌尿器、生殖器）	116	D018 04	170
（一般細菌）培養同定（血液、穿刺液）	116	D018 03	215
（一般細菌）培養同定（その他部位）	116	D018 05	160
ハイドロキシプロリン（総）	90	D010 04 イ	287
白血球数（WBC）	105	D005 05	21
白血球像	106	D005 03	15
（尿中）馬尿酸	101		
バニリルマンデル酸→VMA	28	D008 04	90
バファリン→サリチル酸	125	B001 02	特
ハプトグロビン	78	D015 14	136
ハベカシン→アルベカシン	124	B001 02	特
パラインフルエンザウイルス	42	D012 11 ヌ・ル・ヲ	79
パラインフルエンザウイルス抗原	53		
パラサイロイドホルモン→PTH	26	D008 31	175
（遊離）バルプロ酸	119	B001 02	特
バルプロ酸	119	B001 02	特
（ヒト）パルボウイルスB19DNA	54		
（ヒト）パルボウイルスB19IgG	49		
（ヒト）パルボウイルスB19IgM	49	D012 38 ト	218
パレコウイルス1型（エコーウイルス22型）	44	D012 11 ホ	79
バレリン→バルプロ酸	119	B001 02	特
ハロステン→ハロペリドール	121	B001 02	特
ハロペリドール	121	B001 02	特
ハロマンス→ハロペリドール	121	B001 02	特
バンコマイシン	124	B001 02	特
パンディ反応（髄液一般検査）	113	D004 03	62
反応（pH）（髄液一般検査）	113	D004 03	62
反応（pH）（精液一般検査）	113		

ヒ	ページ	診療報酬区分	実施料
ヒアルロン酸（胸水）	90		
ヒアルロン酸（血清）	90	D007 43	184
ビクリン→アミカシン	124	B001 02	特
鼻汁中好酸球	106	D005 03	15
ビタミンA	96		
ビタミンB_1	96	D007 51	246
ビタミンB_2	96	D007 52	249
ビタミンB_6	96		
ビタミンB_{12}	96	D007 38	144
ビタミンC（アスコルビン酸）	96	D007 58	314
ビタミンE	97		
ビタミンE分画	97		
ビタミンK分画	97，110		
ヒダントール→フェニトイン	119	B001 02	特
比重（髄液一般検査）	113	D004 03	62
比重（尿一般定性検査）	111	D000	★26
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	33	D015 22	204
非特異的IgE→IgE	81	D015 10	100
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）	33	D008 21	138
ヒト絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット（HCG-β）	33	D008 19	136
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	34，79	D007 36	139
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド（HANP）	34	D008 45	227
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）	34	D008 19	136
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）	34	D008 19	136
ヒトパピローマウイルスDNA（ハイリスクグループ）	57	D023 09	350
ヒトパピローマウイルスDNA（ハイリスクグループ）（LBC）	57	D023 09	350
ヒトパピローマウイルスDNA（ローリスクグループ）	57		
ヒトパピローマウイルスDNA（ローリスクグループ）（LBC）	57		
ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA型判定（ハイリスク13種）	57	D023 19	2000
ヒトパルボウイルスB19DNA	54		
ヒトパルボウイルスB19IgG	49		
ヒトパルボウイルスB19IgM	49	D012 38 ト	212
ヒトヘルペスウイルス6型	50		
ヒトヘルペスウイルス6型DNA	55		
ヒトヘルペスウイルス7型DNA	55		
ピメノール→ピルメノール	123	B001 02	特
百日咳菌DNA	69	D023 10	360
百日咳抗体	69	D012 45	264
（抗）表皮成分自己抗体（直接法）	74	N002（08）+N002（08注）	400+1600
病理組織検査（1臓器）	128	N000	860
病理組織検査（2臓器）	128	N000	1720
病理組織検査（3臓器）	128	N000	2580
ピリナジン→アセトアミノフェン	125	D007 47	190
ビリルビン（尿一般定性検査）	111	D000	★26
（総）ビリルビン	99	D007 01	11
ビリルビン分画（直接・間接）	99	D007 01	11
ピルシカイニド	122	B001 02	特
ピルビン酸	91	D007 13	47
ピルメノール	123	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

フ	ページ	診療報酬区分	実施料
(ファディアトーブ)→アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	81	D015 21	194
フィブリノーゲン(FIB)	108	D006 04	23
(可溶性)フィブリンモノマー複合体(SFMC)	109	D006 12	93
フィブリンモノマー複合体定量	109	D006 31	227
風疹ウイルス	49	D012 11 レ	79
風疹ウイルス〔IgM，IgG〕	49	D012 38 ロ	212
(遊離)フェニトイン	119	B001 02	特
フェニトイン	119	B001 02	特
フェノバール→フェノバルビタール	119	B001 02	特
フェノバルビタール	119	B001 02	特
フェリチン	78	D007 26	108
フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	109	D006 16	132
フォン・ウィルブランド因子抗原定量	109	D006 21	151
フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	109		
不規則性抗体(抗体同定・抗体価測定)	76	D011 04/K920 注6	159/197
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	26	D008 31	170
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	26	D008 31	170
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	26	D008 37	194
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	24	D008 37	194
不飽和鉄結合能(UIBC)	99	D007 01	11
プラスミノーゲン	109	D006 13	100
フリーT_3→遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	25	D008 14	130
フリーT_4→遊離サイロキシン(Free T_4)	25	D008 14	130
フリーテストステロン	32	D008 28	163
プリミドン	119	B001 02	特
プリムロン→プリミドン	119	B001 02	特
ブルセラ凝集反応	68	D012 37	200
プレアルブミン	78	D015 12	107
フレカイニド	122	B001 02	特
プレグナンジオール(P_2)	32	D008 40	213
プレグナントリオール(P_3)	32	D008 46	234
(プロGRP)→ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	39	D009 22・B001 03 ロ	175・腫2
プロウイルス→HTLV-Ⅰ(ATLV)DNA(クロナリティ)	58		
プロカインアミド	122	B001 02	特
プロカルシトニン	68	D007 55	292
プログラフ→タクロリムス	125	B001 02	特
プロゲステロン	32	D008 24	151
プロゲステロン(IVF)	32		
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)	79	D007 37	140
ブロック作製	128		
プロテインC(抗原量)	110	D006 32	239
プロテインC活性	110	D006 34	241
プロテインS(抗原量)	110	D006 23	162
プロテインS(遊離型抗原量)	110	D006 23	162
プロテインS活性	110	D006 24	168
プロトポルフィリン	100	D007 54	272
(遊離)プロトポルフィリン(赤血球)	100	D007 54	272
プロトロンビン時間(PT)	108	D006 02	18
プロトロンビンフラグメントF1＋2	109	D006 28	193
プロノン→プロパフェノン	122	B001 02	特

フ	ページ	診療報酬区分	実施料
プロパフェノン	122	B001 02	特
プロプラノロール	123		
ブロムペリドール	121	B001 02	特
プロラクチン	24	D008 06	98
(抗酸菌)分離培養(液体法)	116	D020 01	280
(抗酸菌)分離培養(小川法)	116	D020 02	204

ヘ	ページ	診療報酬区分	実施料
平均赤血球容積(MCV)	105	D005 05	21
平均赤血球血色素量(MCH)	105	D005 05	21
平均赤血球血色素濃度(MCHC)	105	D005 05	21
(抗)平滑筋抗体	73		
(尿中2,5)ヘキサンジオン	101		
ヘパリン	109	D007 26	108
ペプシノゲン	87		
ペプリジル	123	B001 02	特
ペプリコール	123	B001 02	特
ヘマトクリット値(Ht)	105	D005 05	21
(便中)ヘモグロビン	112	D003 05	37
ヘモグロビンA1c(HbA1c)	90	D005 09	49
(便中)ヘモグロビン及びトランスフェリン	112	D003 08	56
ヘリコバクター培養同定	115	D018 02	180
ヘリコバクター感受性	115	D019 01	170
(抗)ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	68	D012 12	80
(便中)ヘリコバクターピロリ抗原	68	D012 23	142
ヘルツペース→プロプラノロール	123		
(水痘・帯状)ヘルペスウイルス	49	D012 11 ナ	79
(水痘・帯状)ヘルペスウイルス〔IgM，IgG〕	49	D012 38 ナ	218
(水痘・帯状)ヘルペスウイルスDNA	55		
(水痘・帯状)ヘルペスウイルス抗原〔FA〕	55	D012 42	240
(水痘・帯状)ヘルペスウイルス抗原〔シェル・バイアル〕	53		
(単純)ヘルペスウイルス	50	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス〔1型，2型〕	50	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス〔IgM，IgG〕	50	D012 38 イ	218
(単純)ヘルペスウイルスDNA	55		
(単純)ヘルペスウイルスDNA定量	55		
(単純)ヘルペスウイルスIgG(髄液中)	50		
(単純)ヘルペスウイルス抗原〔シェル・バイアル〕	53		
(単純)ヘルペスウイルス特異抗原〔FA〕	55	D012 32	180
(ヒト)ヘルペスウイルス6型	50		
(ヒト)ヘルペスウイルス6型DNA	55		
(ヒト)ヘルペスウイルス7型DNA	55		
ベンザリン→ニトラゼパム	120	B001 02	特
ベンスジョーンス蛋白の同定(尿中免疫電気泳動)	77	D015 22	203
便中ヘモグロビン定性(1日目)(2日目)(3日目)	112	D003 05	37
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	112	D003 08	56
便中ヘリコバクターピロリ抗原	68	D012 24	146
ペントラキシン3(PTX3)	35		
扁平上皮癌関連抗原→SCC	39	D009 04・B001 03 ロ	110・腫2

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ホ	ページ	診療報酬区分	実施料
ホールPTH→副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	26	D008 31	175
(膵)ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	85	D007 50	204
補体因子(C3)	77	D015 08	70
補体因子(C4)	77	D015 08	70
(血清)補体価	71，77	D015 04	38
(総)ホモシステイン	90	D010 05	295
ホモバニリン酸→HVA	28	D008 03	69
ボリコナゾール	124	B001 02	特
ホリゾン→ジアゼパム	120	B001 02	特
ポルフォビリノーゲン	100	D001 17	191

マ	ページ	診療報酬区分	実施料
マイクロゾームテスト(抗甲状腺マイクロゾーム抗体)	25	D014 03	37
マイコプラズマニューモニエ	65	D012 04	32
マイコプラズマニューモニエDNA	66	D023 07	300
マイスタン→クロバザム	120	B001 02	特
マグネシウム(Mg)	98	D007 01	11
(α_2)マクログロブリン	78	D006 18	138
麻疹ウイルス	48	D012 11 ソ	79
麻疹ウイルス〔IgM，IgG〕	48	D012 38 ホ	212
麻疹ウイルスRNA	54		
末梢血液一般検査	105	D005 05	21
末梢血液像	106	D005 03	15
マンガン	102	D007 08	27
(尿中)マンデル酸	101		

ミ	ページ	診療報酬区分	実施料
ミオグロビン	34，79	D007 36	139
(心室筋)ミオシン軽鎖Ⅰ	34，79	D007 44	184
未染標本作製	128		
ミックスアレルゲン	81	D015 12	110
ミトコンドリア-AST(m-AST)(m-GOT)	86	D007 15	49
ミトコンドリア-GOT→ミトコンドリア-AST(m-AST)(m-GOT)	86	D007 15	49
(抗)ミトコンドリアM2抗体	73	D014 21	200
(抗)ミトコンドリア抗体	73	D014 19	191
ミノアレビアチン→トリメタジオン	120	B001 02	特

ム	ページ	診療報酬区分	実施料
無機リン(P)	98	D007 03	17
ムラミダーゼ→リゾチーム	85		
ムンプスウイルス	48	D012 11 リ	79
ムンプスウイルス〔IgM，IgG〕	48	D012 38 ヘ	212
ムンプスウイルスRNA	54		

メ	ページ	診療報酬区分	実施料
メキシチール→メキシレチン	122	B001 02	特
メキシレート→メキシレチン	122	B001 02	特
メキシレチン	122	B001 02	特
メソトレキセート→メトトレキサート	125	B001 02	特
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	28	D008 44	221

メ	ページ	診療報酬区分	実施料
(尿中)メチル馬尿酸	101		
メトトレキサート	125	B001 02	特
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	77	D015 26	388
免疫電気泳動	77		
免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンス蛋白の同定)	77	D015 21	201
免疫複合体(C1q)	73	D014 13	157
免疫複合体(モノクローナルRF)	73	D014 21	194

モ	ページ	診療報酬区分	実施料
網状赤血球数	105	D005 02	12
モノクローナルRF(免疫複合体)	73	D014 20	194

ヤ	ページ	診療報酬区分	実施料
薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	127		

ユ	ページ	診療報酬区分	実施料
有機酸スクリーニング検査	91	D010 08	★1141
遊離コレステロール(F-Cho)	92	D007 01	11
遊離サイロキシン(Free T_4)	25	D008 15	127
遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	25	D008 15	127
遊離バルプロ酸	119	B001 02	特
遊離フェニトイン	119	B001 02	特
(赤血球)遊離プロトポルフィリン	100	D007 57	272
ユニフィル→テオフィリン	125	B001 02	特

ヨ	ページ	診療報酬区分	実施料
葉酸	97	D007 41	154

ラ	ページ	診療報酬区分	実施料
ラコサミド	120	B001 02	特
ラモトリギン	120	B001 02	特
ランドセン→クロナゼパム	120	B001 02	特
卵胞刺激ホルモン(FSH)	24	D008 13	111

リ	ページ	診療報酬区分	実施料
リーマス→リチウム	99，121	B001 02	特
(IgG型)リウマチ因子	71	D014 22	203
リウマチ因子(RF)定量	71	D014 02	30
リストセチンコファクター(フォン・ウィルブランド因子活性)	109	D006 16	132
リスモダン→ジソピラミド	122	B001 02	特
リスラミドR→ジソピラミド	122	B001 02	特
リゾチーム	85		
リチウム	99，121	B001 02	特
リチオマール→リチウム	99，121	B001 02	特
リドカイン	122	B001 02	特
リパーゼ	85	D007 06	24
リポ蛋白コレステロール(LP-C)分画定量	94		
リポ蛋白脂質分画定量	94		
リポ蛋白分画〔アガロース電気泳動法〕	94	D007 15	49
リポ蛋白分画〔ポリアクリルアミドゲルディスク電気泳動法〕	94	D007 21	80

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

リ	ページ	診療報酬区分	実施料
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	95	D007 49	223
リボトリール→クロナゼパム	120	B001 02	特
リポプロテイン(a)	95	D007 25	107
硫酸キニジン→キニジン	122	B001 02	特
(無機)リン(P)	98	D007 03	17
淋菌DNA	66	D023 03	204
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時測定	66	D023 05	278
リン脂質	92	D007 02	15
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	72	D014 25	223
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピン抗体(IgG)	72	D014 27	239
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピン抗体(IgM)	72		
リントン→ハロペリドール	121	B001 02	特

ル	ページ	診療報酬区分	実施料
ルイネシン→ゲンタマイシン	124	B001 02	特
ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	72，110		
ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	72，110	D014 33	281
ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	72，110	D014 33	281
ルナプロン→ブロムペリドール	121	B001 02	特
ルミナール→フェノバルビタール	119	B001 02	特

レ	ページ	診療報酬区分	実施料
レキシン→カルバマゼピン	119	B001 02	特
レチノール結合蛋白(RBP)	78，96	D015 14	136
レニン活性(PRA)	35	D008 07	100
レニン定量(活性型)	35	D008 11	108
レベチラセタム	120	B001 02	特
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	92	D007 43	184

ロ	ページ	診療報酬区分	実施料
ロイシンアミノペプチダーゼ→LAP	86	D007 01	11
ロタウイルス抗原	54	D012 08	65

ワ	ページ	診療報酬区分	実施料
ワコビタール→フェノバルビタール	119	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

アルファベット

A	ページ	診療報酬区分	実施料
ABC分類	87		
ABO・Rh(D因子)式血液型	76	D011 01+D011 01	24+24
ACA→抗セントロメア抗体〔ELISA〕	73	D014 17	184
ACE(アンギオテンシンⅠ転換酵素)	87	D007 38	144
AChR→抗アセチルコリンレセプター抗体	74	D014 41	847
ACTH(副腎皮質刺激ホルモン)	24	D008 37	194
ADA(アデノシンデアミナーゼ)	87	D007 11	32
AFP→α-フェトプロテイン定量	36	D009 03・B001 03 ロ	107・腫2
A/G比(アルブミン・グロブリン比)	84		
AICS→女性AICS(6種)，男性AICS(5種)	130		
Al(アルミニウム)	102	D007 29	115
Alb(アルブミン)	78，84	D007 01	11
AIRS→男性AIRS・女性AIRS	130		
ALD→アルドラーゼ	86	D007 01	11
ALP→アルカリフォスファターゼ	86	D007 01	11
ALPアイソザイム	86	D007 14	48
ALT(GPT)	86	D007 03	17
AMA→抗ミトコンドリア抗体	73	D014 19	191
AMY(アミラーゼ)	85	D007 01	11
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム	85	D007 14	48
ANA(抗核抗体)	71	D014 05	105
ANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	34	D008 43	227
APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)	108	D006 07	29
ARC→レニン定量(活性型)	35	D008 11	111
ASK(抗ストレプトキナーゼ抗体)	68	D012 03	29
ASMA→抗平滑筋抗体	73		
ASO(抗ストレプトリジン-O抗体)	68	D012 01	15
AST(GOT)	86	D007 03	17
ATⅢ(アンチトロンビンⅢ)	109	D006 10	70
ATLV(HTLV-Ⅰ)抗体〔CLEIA〕	58	D012 30	173
ATLV(HTLV-Ⅰ)抗体〔PA〕	58	D012 13	85
ATLV(HTLV-Ⅰ)抗体〔LIA〕	58	D012 49	425
ATLV(HTLV-Ⅰ)プロウイルスDNA(クロナリティ)	58		

B	ページ	診療報酬区分	実施料
BAP(骨型アルカリフォスファターゼ)	26，86	D008 27	161
BCA225	37	D009 17・B001 03 ロ	162・腫2
BFP(塩基性フェトプロテイン)	39	D009 14・B001 03 ロ	150・腫2
BGP→オステオカルシン	26	D008 26	165
B-J蛋白→尿中免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンス蛋白の同定)	77	D015 22	203
BMG→β_2-マイクログロブリン	79	D015 11	107
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	34	D008 19	136
(抗)BP180抗体	74	D014 29	270
BS→グルコース	90	D007 01	11
BUN→尿素窒素(UN)	88	D007 01	11
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	63	D013 12	266

C	ページ	診療報酬区分	実施料
C1q(免疫複合体)	77	D014 13	157
C1インアクチベーター活性(C1エステラ-ゼインヒビター活性)	77，109	D015 24	268
C1エステラ-ゼインヒビター活性(C1インアクチベーター活性)	77，109	D015 24	268
C3(補体因子)	77	D015 08	70
C4(補体因子)	77	D015 08	70

C	ページ	診療報酬区分	実施料
CA→カテコールアミン総	27	D008 37	200
CA→寒冷凝集反応	68	D014 01	11
CA-3F→カテコールアミン3分画	27	D008 37	175
CA15-3	37	D009 06・B001 03 ロ	118・腫2
CA19-9	36	D009 08・B001 03 ロ	127・腫2
CA54/61	38	D009 22・B001 03 ロ	184・腫2
CA72-4	38	D009 11・B001 03 ロ	146・腫2
CA125	38	D009 10・B001 03 ロ	144・腫2
CA602	38	D009 23・B001 03 ロ	190・腫2
cAMP→サイクリックAMP	35	D008 31	175
C-ANCA→抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	73	D014 32	275
Ca(カルシウム)	98	D007 01	11
(CA・RF)→抗ガラクトース欠損IgG抗体	71	D014 08	117
Cd→カドミウム	102		
CEA(癌胎児性抗原)	36	D009 02・B001 03 ロ	102・腫2
CG(グリココール酸)	94	D007 21	80
CH50→血清補体価	71，77	D015 04	38
ChE(コリンエステラーゼ)	87	D007 01	11
CK(CPK)	86	D007 01	11
CK(CPK)アイソザイム	86	D007 17	55
CK-MB(CPK-MB)〔CLIA〕	86	D007 22	90
CKアイソザイム→CPKアイソザイム	86	D007 17	55
Cl(クロール)	98	D007 01	11
CL→抗カルジオリピン抗体(IgG)	72	D014 27	239
CL→抗カルジオリピン抗体(IgM)	72		
(抗)CL・β_2GPⅠ抗体→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	72	D014 25	223
CMV→サイトメガロウイルス	50	D012 11 ハ	79
CMV→サイトメガロウイルス〔IgM，IgG〕	50	D012 38 ハ	218
CMV DNA→サイトメガロウイルスDNA	56		
CMV pp65抗原(C10，C11)→サイトメガロウイルスpp65抗原(C10，C11)	56	D012 48	387
CMV pp65抗原(C7-HRP)→サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	56	D012 48	387
CMV抗原→サイトメガロウイルス抗原	53		
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	127	D016 07	345
Cp→セルロプラスミン	78	D015 09	90
CPK(CK)	86	D007 01	11
CPK-MB(CK-MB)(CLIA)	86	D007 22	90
CPK-MB(CK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	86	D007 17	55
CPR(C-ペプチド)	34	D008 13	111
Cr→クレアチニン	88	D007 01	11
Cr→クロム	102		
CRP(C反応性蛋白)定量	79	D015 01	16
CSLEX(シアリルLex抗原)	37	D009 19・B001 03	164・腫2
CT→カルシトニン	26	D008 19	141
Cu(銅)	99	D007 05	23
CYFRA(シフラ)(サイトケラチン19フラグメント)	39	D009 17・B001 03 ロ	162・腫2
(HB)c抗体〔CLIA〕	62	D013 06	141
(HB)c抗体〔PHA〕	62	D013 07	141
C反応性蛋白(CRP)定量	79	D015 01	16
C-ペプチド(CPR)	34	D008 13	111
C.ディフィシル毒素	115	D012 12	80

D	ページ	診療報酬区分	実施料
DA→ドーパミン総	27		

㊖：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

D	ページ	診療報酬区分	実施料
DHEA-S(デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	30	D008 32	174
DLST(薬剤によるリンパ球刺激試験)	127		
(抗)DNA抗体〔RIA〕	71	D014 16	172
DPD→デオキシピリジノリン	26，38，80	D008 36・B001 03 □	191・腫2
DPD(デオキシピリジノリン)(骨粗鬆症)	103	D008 35	191
(抗)ds-DNA IgG抗体	71	D014 16	172
(抗)ds-DNA IgM抗体	71		
DUPAN-2	36	D009 06・B001 03 □	118・腫2
Dダイマー	109	D006 17	133

E	ページ	診療報酬区分	実施料
E_2(IVF-エストラジオール)	31		
E_2(エストラジオール)〔ECLIA〕	31	D008 34	177
EBウイルスDNA	56		
EBウイルスDNA(クロナリティ)	56		
EBウイルスDNA定量	56		
EBウイルス抗EA IgG〔EIA〕	51	D012 38 二	212
EBウイルス抗EA-DR IgA〔FA〕	51	D012 11 二	79
EBウイルス抗EA-DR IgG〔FA〕	51	D012 38 二	212
EBウイルス抗EBNA IgG〔EIA〕	51	D012 38 二	212
EBウイルス抗EBNA〔FA〕	51	D012 11 二	79
EBウイルス抗VCA IgA〔FA〕	51	D012 11 二	79
EBウイルス抗VCA〔IgG，IgM〕〔EIA〕	51	D012 38 二	212
EBウイルス抗VCA〔IgG，IgM〕〔FA〕	51	D012 38 二	212
Echo(エステル型コレステロール)	92	D007 01	11
ECP	80，81		
EL-1→エラスターゼ1	36，85	D009 07・B001 03 □	129・腫2
EPO→エリスロポエチン	35	D008 38	209
(HB)e抗原	62	D013 04	107
(HB)e抗体	62	D013 04	107

F	ページ	診療報酬区分	実施料
F1＋2→プロトロンビン フラグメントF1＋2	109	D006 27	193
Fbg→フィブリノーゲン(FIB)	108	D006 04	23
F-Cho→遊離コレステロール	92	D007 01	11
FDP定量(血漿)	109	D006 11	80
FDP定量(部分尿)	109	D001 07	72
Fe(鉄)	99	D007 01	11
FEP→赤血球遊離プロトポルフィリン	100	D007 57	272
Free T_3(遊離トリヨードサイロニン)	25	D008 15	127
Free T_4(遊離サイロキシン)	25	D008 15	127
FSH(卵胞刺激ホルモン)	24	D008 13	111
FT_3→遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	25	D008 15	127
FT_4→遊離サイロキシン(Free T_4)	25	D008 15	127
FTA-ABS	70	D012 21	138

G	ページ	診療報酬区分	実施料
GA→グリコアルブミン	90	D007 18	55
GABA(γ-アミノ酪酸)	90	D010 04 イ	287
(抗)GAD抗体	34	D008 15	134
GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	73	D014 33	277
GH(成長ホルモン)	24	D008 13	111
GLU→グルコース	90	D007 01	11

G	ページ	診療報酬区分	実施料
GOT(AST)	86	D007 03	17
GPT(ALT)	86	D007 03	17
GST→ガストリン	34	D008 09	107
GU→グアナーゼ	87	D007 13	35

H	ページ	診療報酬区分	実施料
HA→ヒアルロン酸(胸水)	90		
HA→ヒアルロン酸(血清)	90	D007 44	184
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	34	D008 45	227
HA抗体	62	D013 08	146
HA抗体- IgM	62	D013 08	146
Hb(血色素量)	105	D005 05	21
HbA1c→ヘモグロビンA1c(HbA1c)	90	D005 09	49
HBc抗体〔CLIA〕	62	D013 06	137
HBc抗体〔PHA〕	62	D013 06	137
HBc抗体-IgM	62	D013 08	146
HBe抗原	62	D013 04	104
HBe抗体	62	D013 04	104
HBs抗原〔CLEIA〕	62	D013 03	88
HBs抗原〔HQ〕	62	D013 03	88
HBs抗原〔CLEIA〕	62	D013 01	29
HBs抗体〔CLEIA〕	62	D013 03	88
HBs抗体〔CLEIA〕	62	D013 02	32
HBV DNA定量(IU)(リアルタイムPCR)	63	D023 04	271
HBVゲノタイプ	62	D013 14	340
HBコア関連抗原→HBcrAg	63	D013 12	266
HCG(絨毛性ゴナドトロピン)	33	D008 21	138
HCG-βサブユニット	33	D008 19	136
HCV DCV耐性変異(L31/Y93)	64		
HCV RNA 1b(NS5A)	64		
HCV RNAコアジェノタイプ	64		
HCV RNA定量(リアルタイムPCR)	64	D023 13	437
HCV群別(グルーピング)	63	D013 11	227
HCV抗原(コア蛋白質)	64	D013 05	108
HCV抗体(第3世代)	63	D013 05	108
$HDL_{2,3}$コレステロール	92		
HDL-コレステロール	92	D007 03	17
H-FABP(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	34	D007 36	139
HGF(肝細胞増殖因子)	35	D007 50	227
HHV-6→ヒトヘルペスウイルス6型	50		
HHV-6 DNA→ヒトヘルペスウイルス6型DNA	55		
HHV-7 DNA→ヒトヘルペスウイルス7型DNA	55		
HIAA→5-HIAA(5-ハイドロキシインドール酢酸)	28	D008 05	95
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	74，107	D011 10	390
HIV-1 RNA定量(リアルタイムPCR)	59	D023 15	520
HIV-1抗体	59	D012 46	280
HIV-2抗体	59	D012 49	380
HIV抗原・抗体	59	D012 16	115
HIVスクリーニング	59		
Hp→ハプトグロビン	78	D015 14	140
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	57	D023 09	350
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)	57	D023 09	350
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	57		

㊥：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

H	ページ	診療報酬区分	実施料
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA（ローリスクグループ）（LBC）	57		
HS-PTH→副甲状腺ホルモン（PTH）	26	D008 31	175
HSV DNA→単純ヘルペスウイルスDNA	55		
HSV→単純ヘルペスウイルス	50	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス〔1型，2型〕	50	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス〔IgM，IgG〕	50	D012 38 イ	218
HSV→単純ヘルペスウイルスIgG（髄液中）	50		
HSV抗原→単純ヘルペスウイルス抗原〔シェル・バイアル〕	53		
HSV特異抗原→単純ヘルペスウイルス特異抗原〔FA〕	55	D012 32	180
Ht（ヘマトクリット値）	105	D005 05	21
HTLV-Ⅰ（ATLV）抗体〔CLEIA〕	58	D012 30	168
HTLV-Ⅰ（ATLV）抗体〔PA〕	58	D012 13	85
HTLV-Ⅰ（ATLV）プロウイルスDNA（クロナリティ）	58		
HTLV-Ⅰ核酸検出（妊婦）	58	D023 14	450
HTLV-Ⅰプロウイルス DNA定性	58		
HVA	28	D008 03	69

I	ページ	診療報酬区分	実施料
（抗）IA-2抗体	34	D008 39	213
IC-C1q→免疫複合体（C1q）	73	D014 12	161
IC-mRF→免疫複合体（モノクローナルRF）	73	D014 20	194
IEP→免疫電気泳動	77		
IgA	77	D015 04	38
IgA-HEV抗体（定性）	64	D013 10	210
IgD	77	D015 04	38
IgE〔RAST〕→特異的IgE（シングル・ミックスアレルゲン）	81	D015 12	各110
IgE〔RIST〕→IgE（非特異的IgE）	81	D015 10	100
IgE（アトピー鑑別試験）→アトピー鑑別試験（12種吸入性アレルゲン）	81	D015 21	194
IgE（非特異的IgE）	81	D015 10	100
IGF-Ⅰ（ソマトメジン-C）	24	D008 42	218
IgG	77	D015 04	38
IgG型リウマチ因子	71	D014 22	203
IgGサブクラス分画	77		
IgM	77	D015 04	38
IgM-HA抗体	62	D013 08	146
IgM-HBc抗体	62	D013 08	146
（可溶性）IL-2レセプター	39	D009 30・B001 03 ロ	438・腫2
Intact-PTH→副甲状腺ホルモン（PTH）-インタクト	26	D008 31	175
IRI→インスリン	34	D008 10	109
IRT→トリプシン	85	D007 46	189
IVF-エストラジオール（E2）	31		
IVF-プロゲステロン	32		

J	ページ	診療報酬区分	実施料
（抗）Jo-1抗体〔CLEIA〕	73	D014 09	144
（抗）Jo-1抗体〔オクタロニー法〕	73	D014 09	144

K	ページ	診療報酬区分	実施料
K（カリウム）	98	D007 01	11
KL-6	80	D007 28	114

L	ページ	診療報酬区分	実施料
LA→ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	72，110		
LA→ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	72，110	D014 34	281
LA→ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	72，110	D014 34	281
LAP	86	D007 01	11
LD（LDH）	86	D007 01	11
LD（LDH）アイソザイム	86	D007 14	48
LDH（LD）	86	D007 01	11
LDH（LD）アイソザイム	86	D007 14	48
LDL-コレステロール	92	D007 04	18
LH（黄体形成ホルモン）	24	D008 13	111
（抗）LKM-1抗体	73	D014 24	221
LP（a）→リポプロテイン（a）	95	D007 26	107
LP-C（リポ蛋白コレステロール）分画定量	94		
LPL（リポ蛋白リパーゼ）	95	D007 49	223
L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）	88	D001 19	210
L-ドーパ	27		

M	ページ	診療報酬区分	実施料
（抗ミトコンドリア）M2抗体	73	D014 21	200
MA→マンデル酸（尿中）	101		
MAC核酸同定〔TRC〕	67，116	D023 12	421
m-AST（ミトコンドリア-AST）（m-GOT）	86	D007 15	49
MAST36アレルゲン（特異的IgE）	81，82	D015 12	1430
Mb→ミオグロビン	34，79	D007 38	143
MCV（平均赤血球容積）	105	D005 05	21
MCH（平均赤血球血色素量）	105	D005 05	21
MCHC（平均赤血球血色素濃度）	105	D005 05	21
MCPA→抗甲状腺マイクロゾーム抗体（マイクロゾームテスト）	25	D014 03	37
MDA-LDL（酸化LDL）	94	D007 46	194
Mg（マグネシウム）	98	D007 01	11
m-GOT（ミトコンドリア-AST）（m-AST）	86	D007 15	49
MHPG	28		
MLCⅠ→心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	34，79	D007 44	184
MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	71	D014 07	116
Mn→マンガン	102	D007 08	27
MN-2F→メタネフリン・ノルメタネフリン分画	28	D008 43	227
MPO-ANCA（抗好中球細胞質抗体）	73	D014 29	265
mRF→免疫複合体（モノクローナルRF）	73	D014 20	194

N	ページ	診療報酬区分	実施料
Na（ナトリウム）	98	D007 01	11
（NAG）N-アセチルグルコサミニダーゼ	87	D001 05	41
NCC-ST-439	36	D009 06・B001 03 ロ	118・腫2
NH_3（アンモニア）	88	D007 17	50
（尿中）NMP22（核マトリックスプロテイン22）	39	D009 12	147
（HCV RNA 1b）NS5A	64		
NSE（神経特異エノラーゼ）	39	D009 11・B001 03 ロ	146・腫2
NT-proBNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント）	34	D008 19	136
NTx（Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド）	26，38，80	D008 23・B001 03 ロ	156・腫2
NTx（Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド）（骨粗鬆症）	103	D008 23	156
N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）	87	D001 05	41
（尿中）N-メチルホルムアミド	102		

㊖：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

P	ページ	診療報酬区分	実施料
P（無機リン）	98	D007 03	17
P_2→プレグナンジオール	32	D008 39	213
P_3→プレグナントリオール	32	D008 46	234
P-Ⅲ-P（プロコラーゲンⅢペプチド）	79	D007 37	140
PA→前立腺特異抗原（PSA）	37	D009 08・B001 03 □	130・腫2
PABA排泄率（PFD）	104	D289 01	100
PAIgG（血小板関連IgG）	74	D011 06	198
P-ANCA→抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA）	73	D014 31	273
Pb（鉛）	101		
PCA→抗胃壁細胞抗体	74		
PF-4（血小板第4因子）	107	D006 26	178
PFD（PABA排泄率）	104	D289 01	100
PG→ペプシノゲン	87		
pH（尿一般定性検査）	111	D000	★26
pH（反応）（髄液一般検査）	113	D004 03	62
PHAによるリンパ球幼若化検査	127	D016 07	345
PICテスト（α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体）	109	D006 22	158
PIVKA-Ⅱ	36	D009 09・B001 03 □	139・腫2
PLA_2→膵ホスホリパーゼA_2（膵PLA_2）	85	D007 47	204
PIg→プラスミノーゲン	109	D006 13	100
PLT（血小板数）	105	D005 05	21
PR3-ANCA（抗好中球細胞質抗体）	73	D014 30	267
PRA（レニン活性）	35	D008 07	100
PR-F→蛋白分画	84	D007 04	18
PRL→プロラクチン	24	D008 06	98
ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	39	D009 21・B001 03 □	175・腫2
PSA（前立腺特異抗原）	37	D009 08・B001 03 □	127・腫2
PSA- ACT	37	D009 08・B001 03 □	127・腫2
PSA F/T比タンデム	37	D009 15・B001 03 □	154・腫2
PT→プロトロンビン時間（PT）	108	D006 02	18
PTH（副甲状腺ホルモン）（Whole PTH）	26	D008 31	170
PTH（副甲状腺ホルモン）-インタクト	26	D008 31	170
PTHrP（副甲状腺ホルモン関連蛋白）	26	D008 37	194
PTフラグメントF1+2（プロトロンビンフラグメントF1+2）	109	D006 27	193
P型アミラーゼ定量	85	D007 14	48

R	ページ	診療報酬区分	実施料
RBC（赤血球数）	105	D005 05	21
RBP（レチノール結合蛋白）	78，96	D015 14	136
RET（網状赤血球数）	105	D005 02	12
RF（リウマチ因子）定量	71	D014 02	30
Rh-Hr式血液型	76	D011 03	152
RLP-C（レムナント様リポ蛋白コレステロール）	92	D007 43	184
（抗）RNP抗体〔CLEIA〕	72	D014 09	144
（抗）RNP抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 09	144
RSウイルス〔CF〕〔NT〕	42	D012 11 タ	79

S	ページ	診療報酬区分	実施料
SAA（血清アミロイドA蛋白）	79	D015 06	47
SCC	39	D009 04・B001 03 □	107・腫2
（抗）Scl-70抗体〔CLEIA〕	72	D014 13	162
（抗）Scl-70抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 13	162
SFMC（可溶性フィブリンモノマー複合体）	109	D006 12	93

S	ページ	診療報酬区分	実施料
SLX（シアリルLex-i抗原）	37	D009 13・B001 03 □	148・腫2
SM-C→IGF-Ⅰ（ソマトメジン-C）	24	D008 42	224
（抗）Sm抗体〔CLEIA〕	72	D014 11	155
（抗）Sm抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 11	155
SP-A（肺サーファクタントプロテインA）	80	D007 35	130
SPan-1	36	D009 11・B001 03 □	146・腫2
SP-D（肺サーファクタントプロテインD）	80	D007 36	136
（抗）SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	72	D014 14	163
（抗）SS-A/Ro抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 14	163
（抗）SS-B/La抗体〔CLEIA〕	72	D014 12	161
（抗）SS-B/La抗体〔オクタロニー法〕	72	D014 12	161
（抗）ss-DNA IgG抗体	71	D014 16	172
（抗）ss-DNA IgM抗体	71		
SSEA-1抗原→シアリルLex-i抗原（SLX）	37	D009 14・B001 03 □	152・腫2
STN（シアリルTn抗原）	38	D009 10・B001 03 □	146・腫2
（HB）s抗原〔CLEIA〕	62	D013 03	88
（HB）s抗原〔CLEIA〕	62	D013 01	29
（HB）s抗体〔CLEIA〕	62	D013 03	88
（HB）s抗体〔CLEIA〕	62	D013 02	32

T	ページ	診療報酬区分	実施料
T_3（トリヨードサイロニン）	25	D008 08	102
T4（血清総サイロキシン）	25	D008 11	111
TARC（Th2ケモカイン）	81	D015 18	184
TAT（トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体）	109	D006 27	181
TB→総ビリルビン	99	D007 01	11
TBA→総胆汁酸	94	D007 14	47
TBG定量	25	D008 16	130
TBII→TSHレセプター抗体	25	D014 26	232
TCA→尿中トリクロル酢酸	101		
TCE→尿中トリクロルエタノール	101		
T-Cho（総コレステロール）	92	D007 03	17
Tg→サイログロブリン	25	D008 17	137
TG→中性脂肪（TG）	92	D007 01	11
TgAb→抗サイログロブリン抗体	25	D014 09	144
TGPA→抗甲状腺サイログロブリン抗体（サイロイドテスト）	25	D014 03	37
Th2ケモカイン→TARC	81	D015 18	184
TIBC（総鉄結合能）	99	D007 01	11
TK活性→チミジンキナーゼ活性	39	D005 12	233
TM→トロンボモジュリン	110	D006 28	205
TnT→トロポニンT	34，79	D007 32	120
total P1NP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	26，103	D008 30	169
TP（総蛋白）（血清）	84	D007 01	11
TP（総蛋白）（髄液）	84	D007 01	11
TP（総蛋白）（蓄尿）	84	D001 01	7
TPA	36	D009 05・B001 03 □	110・腫2
tPA・PAI-1複合体（トータルPAI-1）	110	D006 33	240
TP-F→蛋白分画	84	D007 04	18
（抗）TPO-Ab→抗TPO抗体（抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体）	25	D014 10	146
Tr→トランスフェリン	78	D015 07	60
Tr→トランスフェリン（クレアチニン換算値）（尿中）	78	D001 09	107
Tr→トランスフェリン（尿中）	78	D001 09	107
TRAb→TSHレセプター抗体	25	D014 26	232

㊥：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

T	ページ	診療報酬区分	実施料
TRACP-5b（骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ）	103	D008 25・B001 03 ロ	156・腫2
TSH（甲状腺刺激ホルモン）	24，25	D008 09	104
TSAb（TSH刺激性レセプター抗体）	25	D014 36	340
TSH刺激性レセプター抗体（TSAb）	25	D014 36	340
TSHレセプター抗体	25	D014 26	226
TSHレセプター抗体（定量）	25	D014 26	226
TSHレセプター抗体（第3世代）	25	D014 26	226
TTC→尿中総三塩化物	101		

U	ページ	診療報酬区分	実施料
UA（尿酸）	88	D007 01	11
UIBC（不飽和鉄結合能）	99	D007 01	11
UN（尿素窒素）	88	D007 01	11

V	ページ	診療報酬区分	実施料
VMA→（バニリルマンデル酸）	28	D008 04	90
vWF→フォン・ウィルブランド因子	109	D006 21	155
VZV→水痘・帯状ヘルペスウイルス	49	D012 11 ナ	79
VZV→水痘・帯状ヘルペスウイルス〔IgM，IgG〕	49	D012 38 イ	218
VZV DNA→水痘・帯状ヘルペスウイルスDNA	55		
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原〔FA〕	55	D012 42	240
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原〔シェル・バイアル〕	53		

W	ページ	診療報酬区分	実施料
WBC（白血球数）	105	D005 05	21
Whole PTH（副甲状腺ホルモン）	26	D008 31	170

Z	ページ	診療報酬区分	実施料
Zn（亜鉛）	99	D007 37	140
ZTT（クンケル反応）	84		

㊖：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ギリシャ文字

α	ページ	診療報酬区分	実施料
α_1AG→α_1アシドグリコプロテイン	78		
α_1AT→α_1アンチトリプシン	78	D006 11	80
α_1-M→α_1-マイクログロブリン	78	D015 14	136
α_1アシドグリコプロテイン	78		
α_1アンチトリプシン	78	D006 11	80
α_1-マイクログロブリン	78	D015 14	136
α_2プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	109	D006 15	128
α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)	109	D006 22	158
α_2-マクログロブリン	78	D006 18	138
α-hANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	34	D008 43	227
α-フェトプロテイン定量	36	D009 03・B001 03 ロ	104・腫2

β	ページ	診療報酬区分	実施料
β_2GP Ⅰ抗体→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	72	D014 25	223
β_2-MG→β_2-マイクログロブリン	79	D015 11	104
β_2-マイクログロブリン	79	D015 11	104
β-D-グルカン	68	D012 38	207
β-TG(β-トロンボグロブリン)	107	D006 25	177
β-カロチン	96		
β-トロンボグロブリン(β-TG)	107	D006 25	177
β-リポ蛋白	94		

γ	ページ	診療報酬区分	実施料
γ-GT(γ-GTP)	87	D007 01	11
γ-Sm(γ-セミノプロテイン)	37	D009 24・B001 03 ロ	194・腫2
γ-アミノ酪酸(GABA)	90	D010 04 イ	287
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	37	D009 24・B001 03 ロ	194・腫2

δ	ページ	診療報酬区分	実施料
δALA(δ-アミノレブリン酸)	100	D001 11	109
δ-アミノレブリン酸(δALA)	100	D001 11	109

㊥：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

数字

		ページ	診療報酬区分	実施料
1,5AG（1,5-アンヒドロ-D-グルシトール）		90	D007 21	80
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）		90	D007 21	80
1,25-$(OH)_2$ビタミンD		26，97	D007 59	388
ＩCTP→Ｉ型コラーゲンC末端テロペプチド		38，80	B001 03 ロ	腫2
Ｉ型コラーゲンC末端テロペプチド（ICTP）		38，80	B001 03 ロ	腫2
Ｉ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）		26，38，80	D008 25・B001 03 ロ	156・腫2
Ｉ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）（骨粗鬆症）		103	D008 25	156
Ｉ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（total P1NP）		26・103	D008 30	169
（尿中）2,5-ヘキサンジオン		101		
Ⅱ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
Ⅳ型コラーゲン		79	D007 36	139
（尿中）Ⅳ型コラーゲン		79	D001 16	189
Ⅳ型コラーゲン・7S		79	D007 39	148
5-HIAA		28	D008 05	95
5-HT→セロトニン		28		
5-S-CD（5-S-システイニルドーパ）		39		
5-S-システイニルドーパ（5-S-CD）		39		
Ⅴ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
5-ハイドロキシインドール酢酸→5-HIAA		28	D008 05	95
Ⅶ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
Ⅷ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
Ⅷ因子（凝固抑制因子検査）		108	D006 20	152
Ⅸ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
Ⅸ因子（凝固抑制因子検査）		108	D006 20	152
Ⅹ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
（血中）11-OHCS		29	D008 02	60
ⅩⅠ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
11-ハイドロオキシコルチステロイド→血中11-OHCS		29	D008 02	60
ⅩⅡ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
12種吸入性アレルゲン（アトピー鑑別試験）		81，82	D015 20	194
ⅩⅢ因子（凝固因子活性検査）		108	D006 29	229
17-KS7分画		29	D008 40	213
25-OHビタミンD		97		

㊖：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

取り引きのお申し込み

当社をご利用の際には当社営業部までご連絡ください。営業員がお伺いし，ご依頼の詳細についてご説明，ご相談をいたします。

個人情報保護方針に基づき，検査の受託から報告まで対応致します。

検査のご依頼方法

1．依頼書

それぞれの依頼項目に適合した依頼書をご使用ください。なお，「病院控」伝票に診療報酬点数（実施料）を掲載していますので，院内伝票としてご利用ください。

〈種　類〉

依頼書名	依頼書名
1．総合検査依頼書１	5．病理組織検査依頼書
2．アレルギー検査依頼書	6．細胞診検査依頼書
3．細菌検査依頼書	
4．連名依頼書	

2．報告書

それぞれの依頼検査に適合した報告書にてご報告いたします。

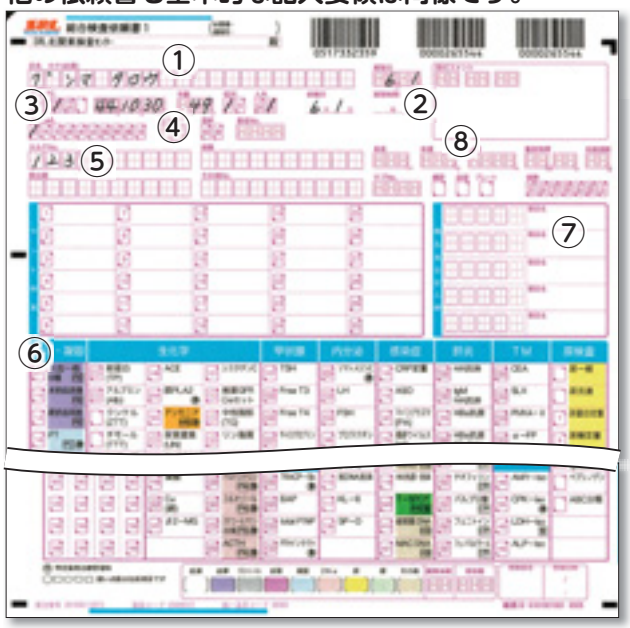
1．総合検査報告書
2．検査報告書２
3．血液検査プロファイル
4．一般細菌・抗酸菌・真菌検査報告書
5．ウイルス肝炎検査報告書
6．糖負荷試験報告書
7．TUMOR MARKER検査報告書
8．アレルギー検査報告書
9．妊婦検査成績書
10．甲状腺機能検査報告書
11．血液型検査成績書
12．遺伝子検査報告書
13．Two-Color Analysis報告書
14．染色体検査報告書
15．HLA検査報告書
16．アミノ酸分析報告書
17．病理組織検査・細胞診検査報告書
18．その他

3．依頼書の記入要領

検査依頼書及び検体ラベルには下記事項をご記入ください。

①患者様氏名についてはカタカナでご記入ください。
②検体採取日，採取時刻をご記入ください。
③生年月日，年齢をご記入ください。
④性別，入院・外来，診療科名は該当するものに⧄印でご記入ください。
⑤カルテNo，提出医，病棟はカタカナ、アルファベット、数字にてご記入ください。
⑥ご依頼項目はチェック欄に⧄印をご記入ください。
⑦記載されていない項目をご依頼の場合は、欄外項目記入欄にご記入ください。
⑧検査項目に応じて、蓄尿量・身長・体重等をご記入ください。

〈記入例〉
他の依頼書も基本的な記入要領は同様です。



4．検体容器

検体容器については，154 ～ 181 ページの「専用容器の取り扱い方法」をご参照ください。

5．検体ラベル

①検体ラベルには、依頼書と同じ依頼No（９桁）とバーコードが印刷されておりますので、必ず依頼書に添付されたラベルを検体に貼付してください。
②血清，血算，グルコース，尿，凝固，２Na血漿は検査材料名を印刷した材料名表示ラベルをご使用ください。
③検体ラベルの氏名欄に依頼書と同じ氏名や材料名、負荷時間等をご記入ください。

総合検査案内掲載内容

1．**検体量**：検体量は再検査分を考慮して設定しております。
血清または血漿の場合，必要量の約３倍量をめやすに血液を採血してください。（検体採血方法は154ページをご参照ください）

2．**保存**：指定の保存方法にてご提出ください。
凍結　必ず凍結（－10℃以下）保存してご提出ください。　冷蔵　冷蔵（2℃～15℃）で保存してご提出ください。
室温　必ず室温（16℃～30℃）で保存してご提出ください。

3．**基準値**：「正常参考値および判定基準」は当社では「基準値」で表示しております。

4．**所要日数**：原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし，結果を先生のお手元へお届けするまでの日数（通常の日曜日を含みます）です。再検査の場合や祝祭日の前後は，さらに若干の日数を要することがあります。
なお，記載されている材料以外でのご依頼の場合や，絶凍マークの項目との同時のご依頼の場合は，表示日数より遅れることがあります。

5．**実施料・判断料**：検体検査料は検体検査実施料と，検体検査判断料に区分されています。

検　体　検　査　判　断　料

	判断料	判断料区分		判断料	判断料区分
1. 尿・糞便等検査判断料	34点	…… ※1	4. 生化学的検査（Ⅱ）判断料	144点	…… ※4
2. 血液学的検査判断料	125点	…… ※2	5. 免疫学的検査判断料	144点	…… ※5
3. 生化学的検査（Ⅰ）判断料	144点	…… ※3	6. 微生物学的検査判断料	150点	…… ※6

病　理　診　断　……　※7

組織診断料	400点	病理判断料	150点
細胞診断料	200点		

6．**採取条件**：検体を適正に採取するために，検体採取時に留意していただきたい事項です。（備考または専用容器の取り扱い方法をご参照ください。）

7．**提出条件**：血清分離の要否など，適正な検査・測定を行うために必要な事項です。（備考または専用容器の取り扱い方法をご参照ください。）
速やかに遠心　採血後，長時間の室温放置は避け，速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や，前処理，遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので，備考欄または専用容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
冷却遠心　低温（4℃）にて遠心分離してください。

8．**緊急報告検査値範囲**　緊急：緊急報告検査値範囲（132ページ参照）が設定されておりますので，範囲を超えた場合には，当社より緊急連絡させていただきます。

9．**予約検査**　予約検査：予約検査となりますので，検体採取前に必ず当社までご連絡ください。

10．**曜日指定**　曜日指定：指定曜日のみ（休日除く）受託可能となりますので，ご注意ください。受託可能日につきましては，本文の備考欄をご参照ください。

11．**参考文献**：検査方法についての基本的な参考文献です。（136 ～ 153ページ参照）

12. 測定委託先：備考欄に＆印が無い項目については，当社ラボラトリーにて測定実施しております。
＆印の項目については，当社より下記会社へ測定委託しております。

記号	測定委託先	検体搬送時間	記号	測定委託先	検体搬送時間
＆I	エスアールエル八王子ラボラトリー	4時間以内	＆T	東京セントラルパソロジーラボラトリー	10時間以内
＆ｬ	エスアールエル第3八王子ラボラトリー		＆I	ファルコバイオシステムズ	6時間以内
＆ｭ	エスアールエル遺伝子・染色体解析センター		＆M	LSIメディエンス	
＆ｮ	エスアールエルMUQSラボラトリー		＆N	ビー・エム・エル	
＆D	エスアールエル羽村ラボラトリー	6時間以内	＆Y	東京都予防医学協会	
＆L	エスアールエル相模原ラボラトリー		＆ﾛ	日本医学臨床検査研究所	33時間以内
＆W	エスアールエル福岡ラボラトリー	33時間以内	＆2	第一岸本臨床検査センター	
＆5	エスアールエル北海道ラボラトリー		＆3	日立化成工業	
＆C	あすか製薬メディカル	6時間以内	＆4	東洋紡バイオロジックス株式会社	
＆E	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所		＆ﾐ	江東微生物研究所	9時間以内

就業時間　8:30～18:30　　検体搬送時間：当社から測定委託先までの検体搬送時間

検体のご提出と搬送方法

貴院への集配は　（　　）（指定日時）
（　　）（指定場所）
へお伺いいたします。

お預かりしました検体は
①当社ラボには　　時頃（平均搬送時間：　　）
②　　には　　時頃（平均搬送時間：　　）
搬入されます。

ご依頼検体の保管期間

お預かり致しました検体は，依頼日より２週間保管し，再検査や追加検査のご要望にお応えしております。ただし，尿一般検査，末梢血液検査など一部の検査につきましては２日間保管とさせていただきます。なお，保管期間を過ぎた検体につきましては，当社で処分させていただきます。また，当社から測定委託する項目につきましては，測定委託先の基準に基づいて保管させていただきます。

RIA測定項目のご依頼にあたっての注意事項

シンチグラフィー等で*in vivo*に投与したアイソトープが残存するとRIAでの異常値発生の原因となることがありますので，あらかじめご了承ください。

免責について

ご依頼いただきました検査は当社検査実施基準に基づき行われますが，お預かりした検体の状態，または検査方法の技術的限界等により検査結果を臨床診断に資することが困難な場合があります。この場合当社はその検査結果に対し免責とさせていただきます。

マーク一覧

受付・報告関連	予約検査	予約検査	予約検査となりますので，検体採取前に必ず弊社へご連絡ください。
	曜日指定	曜日指定	指定曜日のみ(休日除く)受託可能となりますので，ご注意ください。受託可能日につきましては，本文の備考欄をご参照ください。
	緊　急	緊急	緊急報告検査値範囲(132ページ参照)が設定されておりますので，範囲を超えた場合には、弊社より緊急連絡させていただきます。
	重複不可	重	他項目との重複依頼は避けてください。
検体取り扱い	速やかに遠心	速やかに遠心	採血(採尿)後，長時間の室温放置は避け，速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や，前処理，遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので，備考欄または専用容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
	冷却遠心	冷却遠心	低温(4℃)にて遠心分離してください。
	凍　結	凍結	必ず凍結(−10℃以下)保存してご提出ください。
	冷　蔵	冷蔵	冷蔵(2℃〜15℃)で保存してご提出ください。 なお，長期間にわたって保存される場合は，凍結してくださるようお願いいたします。ただし凍マークのついている項目は，長期間であっても凍結しないでください。
	室　温	室温	必ず室温(16℃〜30℃)で保存してご提出ください。
	遮　光	遮光	直射日光または蛍光灯等を避け，遮光した容器にてご提出ください。
検査値への影響	溶血不可	溶	溶血検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	不活化不可	不	不活化(非働化)検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	酸性蓄尿不可	酸	酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	凍結不可	凍	凍結（−10℃以下）保存は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。

主な単位記号

L	liter	mmol	millimole(=0.001mol)
dL	deciliter(=0.1L)	μmol	micromole(=10^{-6}mol)
mL	milliliter(=0.001L)	nmol	nanomole(=10^{-9}mol)
μL	microliter(=10^{-6}L)	pmol	picomole(=10^{-12}mol)
fL	femtoliter(=10^{-15}L)	fmol	femtomole(=10^{-15}mol)
kg	kirogram	mm	millimeter
g	gram	mm^2	squaremillimeter(平方ミリメーター)
mg	milligram(=0.001g)	mm^3	cubicmillimeter(立方ミリメーター)
μg	microgram(=10^{-6}g)	μ^3	cubicmicron(立方マイクロ)
ng	nanogram(=10^{-9}g)	Meq	megaequivalents
pg	picogram(=10^{-12}g)	mEq	milliequivalent
U	unit	mOsm	milliosmole
mU	milliunit(0.001U)	%	percent
μU	microunit(10^{-6}U)	‰	permill
IU	international unit	cpm	counts per minutes
mIU	milliinternational unit(=0.001 IU)	U_A	unit allergen
AU	arbitrary unit	IU_A	international unit allergen
M	mol／L		

検査項目欄の見かた

検体をお預かりした翌日を起算日とし，結果をお届けするまでの日数です。
再検査の場合や祝祭日の前後はさらに日数を要することがあります。

実施料，判断料区分です。※については20ページをご参照ください。
●については保険点数算定上の，同時算定不可，回数制限の算定条件を抜粋して欄外に掲載しています。

検査項目名　項目略称　項目コード

統一コード（日本臨床検査医学会臨床検査項目コードの分析物コードを表示）

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
視床下部・	3001 6（4A055）	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	104 ※4	ECLIA	0.500～5.000（μIU/mL）	
	3002 5（4A010）	成長ホルモン（GH）	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	111 ※4	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13～9.88（ng/mL）	&I
	3170 9（4A015）	IGF-Ⅰ（ソマトメジンC）	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結（21日）	2～4	218 ※4	RIA固相法（IRMA）	下記参照	&I
	6760 1（4A030）	黄体形成ホルモン（LH）	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	111 ※4	CLIA	下記参照	

ご提出いただく検体の提出条件・提出量です。血清または血漿の場合，必要量の約3倍をめやすに血液を採取してください。

ご提出いただく検体の保存条件です。**採血後の保存条件ではありませんの**でご注意ください。（　）内の安定性とは検体の保存可能時間のめやすを記載しています。

検査ご依頼にあたっての注意事項です。

検査方法名です。検査方法の概略につきましては133～135ページをご参照ください。

採取容器 ⬇ 提出容器 を示します。

容器の取り扱いについては下記の例をご参照ください。また，取り扱い方法に条件がある項目もありますので，備考欄または専用容器の取り扱い方法もご参照ください。

（例1）検体が血清の場合

検体量（mL）	容器
血清 0.5	01 ⬇ X

汎用容器に血液を採取し，遠心分離後，血清0.5mLを別容器（X）に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合，必要量の約3倍量をめやすに血液を採取してください。

（例2）添加剤入り容器に採取し，遠心分離後，上清をご提出いただく場合

検体量（mL）	容器
血漿 0.5	C ⬇ X

当社専用容器（C）に血液を採取し，遠心分離後，血漿 0.5mLを別容器（X）に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合，必要量の約3倍量をめやすに血液を採取してください。

（例3）検体が添加剤入りの血液の場合

検体量（mL）	容器
血液 5.0（EDTA-2Na加）	A

当社専用容器（A）に血液 5.0mLを採取し，よく混和させ，そのままご提出ください。
採取および提出とも同一容器（A）で，別容器への移し替えは不要です。

検査結果のご報告

原則的には当社営業員が直接お届けいたします。
緊急報告を希望されるときは，検査依頼時にあらかじめご指示ください。検査結果が判明次第，原則としてFAX連絡させていただきます。
緊急報告検査値範囲の設定してある項目については，特にご指示がない場合でも電話およびFAX連絡させていただきます。

検査結果のお問い合せ

検査内容等のお問い合せ，ご意見，ご指摘等につきましては，当社データインフォメーションへお問い合せください。
データインフォメーション　TEL.027(265)6498

料金請求とお支払い方法

継続お取り引き機関は1ヵ月をまとめてご請求申し上げ，支払方法はご契約に従ってお支払いいただきます。
その他の場合は原則として報告時にお支払いください。
※尚，振込の際の銀行振込金受領書をもって領収書に替えさせていただきます。また，ご要望があれば領収書の発行をいたしますので担当営業員にお申しつけください。

登録検査業務　生化学的検査，血清学的検査，血液学的検査，微生物学的検査，寄生虫学的検査

視床下部・下垂体関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
視床下部・下垂体関連検査	3001 6 (4A055)	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1~2	104 ※4	ECLIA	0.500~5.000 (μIU/mL)	
	3002 5 (4A010)	成長ホルモン(GH)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	111 ※4	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13~9.88 (ng/mL)	&I
	3170 9 (4A015)	IGF-Ⅰ (ソマトメジンC)	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (21日)	2~4	218 ※4	RIA固相法 (IRMA)	下記参照	&I
	6760 1 (4A030)	黄体形成ホルモン (LH)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	111 ※4	CLIA	下記参照	性別を明記してください。 &I
	6761 0 (4A035)	卵胞刺激ホルモン (FSH)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	111 ※4	CLIA	下記参照	
	G614 3 (4A025)	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結 (21日)	2~4	194 ※4	ECLIA	午前7時~10時 7.2~63.3 (pg/mL)	ACTH は EDTA 濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。 &I
	G619 8 (4A020)	プロラクチン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	98 ※4	ECLIA	男性 4.29~13.69 閉経前女性 4.91~29.32 閉経後女性 3.12~15.39 (ng/mL)	&I
	A208 0 (4A070)	抗利尿ホルモン (AVP)	血漿1.5	A ⬇ X	凍結	5~7	235 ※4	RIA2抗体法	水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下 (pg/mL)	溶 採血後，速やかに血漿分離してください。 溶血でのご依頼は避けてください。 &I

[3170]IGF-Ⅰ(ソマトメジンC)年齢別・性別における基準値

(単位:ng/mL)

年齢(歳)	男性	女性	年齢(歳)	男性	女性	年齢(歳)	男性	女性
0	11~149	15~154	26	119~329	146~336	52	86~242	78~213
1	14~148	23~186	27	116~322	141~328	53	85~240	77~212
2	18~154	32~213	28	114~315	137~320	54	84~239	76~211
3	24~164	40~227	29	111~309	133~312	55	84~238	75~210
4	32~176	48~238	30	109~303	129~304	56	83~237	74~208
5	44~193	56~252	31	107~297	126~297	57	82~236	73~207
6	55~215	69~287	32	105~292	122~290	58	81~235	72~205
7	63~247	89~357	33	103~287	119~283	59	80~233	71~203
8	72~292	111~438	34	102~283	115~277	60	79~232	70~201
9	84~350	133~517	35	100~279	112~271	61	77~230	69~198
10	99~423	155~588	36	99~275	109~265	62	76~228	68~196
11	113~499	175~638	37	97~272	106~260	63	75~226	66~194
12	125~557	188~654	38	96~269	103~254	64	73~224	65~191
13	133~579	193~643	39	95~266	100~250	65	72~221	64~188
14	138~570	193~625	40	94~263	98~245	66	70~219	62~186
15	141~552	192~614	41	94~261	95~240	67	68~216	61~183
16	142~543	192~611	42	93~259	93~236	68	66~213	60~180
17	142~540	191~599	43	92~257	90~233	69	65~209	59~177
18	142~526	188~574	44	92~255	88~229	70	63~206	57~175
19	143~501	182~539	45	91~253	87~226	71	61~202	56~172
20	142~470	175~499	46	90~250	85~224	72	58~198	55~170
21	139~436	168~459	47	90~250	83~221	73	56~194	54~167
22	135~405	161~425	48	89~248	82~219	74	54~190	53~165
23	131~379	155~397	49	88~246	81~218	75	52~185	52~163
24	128~356	151~375	50	87~245	80~216	76	50~181	50~160
25	125~337	147~358	51	87~243	79~215	77	48~177	49~158

[6760]黄体形成ホルモン(LH)基準値

(単位：mIU/mL)

女性	卵胞期	1.76~10.24
	排卵期	2.19~88.33
	黄体期	1.13~14.22
	閉経後	5.72~64.31
男性		0.79~ 5.72

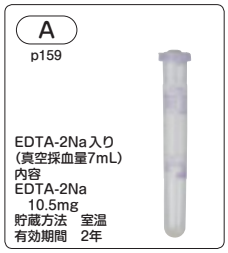
[6761]卵胞刺激ホルモン(FSH)基準値

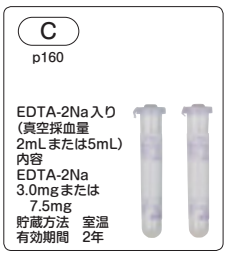
(単位：mIU/mL)

女性	卵胞期	3.01~14.72
	排卵期	3.21~16.60
	黄体期	1.47~ 8.49
	閉経後	157.79以下
男性		2.00~ 8.30

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
甲状腺関連検査	3021 4 (4B010)	トリヨードサイロニン (T_3)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	102 ※4	ECLIA	0.80〜1.60 (ng/mL)	&I
	3023 2 (4B015)	遊離トリヨードサイロニン (Free T_3)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	1〜2	127 ※4	ECLIA	2.30〜4.30 (pg/mL)	
	3024 1 (4B030)	血清総サイロキシン (T_4)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	111 ※4	ECLIA	6.10〜12.4 (μg/dL)	&I
	3025 0 (4B035)	遊離サイロキシン (Free T_4)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	1〜2	127 ※4	ECLIA	0.90〜1.70 (ng/dL)	
	3026 9 (4B045)	TBG定量	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜6	130 ※4	RIA PEG法	15.9〜35.6 (μg/mL)	
	3028 7 (4B040)	サイログロブリン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	133 ※4	ECLIA	33.7以下 (ng/mL)	
	3543 5 (5G290)	抗甲状腺サイログロブリン抗体(サイロイドテスト)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	37 ※5	PA	陰性(100未満) (倍)	
	3030 4 (5G290)	抗サイログロブリン抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	144 ※5	ECLIA	28未満 (IU/mL)	
	3545 3 (5G285)	抗甲状腺マイクロゾーム抗体(マイクロゾームテスト)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 37 ※5	PA	陰性(100未満) (倍)	
	4499 4 (5G285)	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 146 ※5	ECLIA	16未満 (IU/mL)	&I
	3001 6 (4A055)	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1〜2	104 ※4	ECLIA	0.500〜5.000 (μIU/mL)	
	3031 3 (5G310)	TSHレセプター抗体	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❷ 226 ※5	RRA	15以下 (%)	ブタ TSH レセプターを使用しています。液相法の第1世代 TRAb (TSH receptor antibody) です。 &I
	4199 7 (5G310)	TSHレセプター抗体(定量)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4		RRA	1.0未満 (IU/L)	ヒト型レセプターを使用しています。固相法の第2世代 TRAb です。(基準値について) 少数の健常人において，1.0 IU/L を超える結果を示すことがあるため，欧米では1.0〜1.5IU/L をグレーゾーンと設定することを推奨しています。 &I
	K248 6 (5G310)	TSHレセプター抗体(第3世代)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4		ECLIA	2.0未満 (IU/L)	TSH レセプターの TSH 結合部位を認識する M22抗体（抗 TSH レセプターヒトモノクローナル抗体）を用いた第3世代 TRAb です。 &I
	3044 9 (5G300)	TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)	血清 0.8	01 ⬇ X	凍結	3〜5	❷ 340 ※5	Bioassay EIA	120以下 (%)	&I

❶「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)」を「抗甲状腺マイクロゾーム抗体(マイクロゾームテスト)」と併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❷「TSHレセプター抗体」，「TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)」を同時に行った場合は，いずれか一方のみを算定する。





副甲状腺関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副甲状腺関連検査	3154 7 (4C025)	副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	冷却遠心 血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	1～2	170 ※4	ECLIA	10～65 (pg/mL)	不
	6475 8 (4C026)	副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	血漿 0.5	C ⬇ X	凍結 (28日)	2～4		CLEIA	8.3～38.7 (pg/mL)	&I
	3624 5 (4C034)	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	冷却遠心 血漿 0.5	D ⬇ X	凍結 (7日)	5～7	194 ※4	RIA固相法(IRMA)	1.1以下 (pmol/L)	不 &I
	2221 3 (4C035)	カルシトニン	速やかに遠心 血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	2～4	137 ※4	ECLIA	男性 9.52以下 女性 6.40以下 (pg/mL)	速やかに血清分離後凍結保存してください。 &I
	3794 7 (3G070)	1,25-$(OH)_2$ ビタミンD	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	3～7	❶ 388 ※3	RIA2抗体法	成人 20.0～60.0 小児 20.0～70.0 (pg/mL)	&I
	A220 6 (4Z280)	オステオカルシン	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (1ヵ月)	2～4	❷ 161 ※4	ECLIA	閉経前女性 7.8～30.8 閉経後女性 14.2～54.8 男性 8.4～33.1(ng/mL)	&I
	4753 1 (5C123)	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	部分尿3	Y	冷蔵	2～4	❷❸ 156 ※4 腫2	ELISA	下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。 &I
	4742 3 (5C146)	デオキシピリジノリン	部分尿3	Y	冷蔵	2～4	❷❸ 191 ※4 腫2	EIA	クレアチニン換算値 M2.1～5.4 F2.8～7.6 (nmol/mmol・CRE)	&I
	3345 5 (3B072)	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❹❺❻ 161 ※4	CLEIA	男性 3.7～20.9 閉経前女性 2.9～14.5 閉経後女性 3.8～22.6 (μg/L)	&I
	A197 3 (5C120)	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	2～4	169 ※4	ECLIA	男性(30～83歳) 18.1～74.1 閉経前女性(30～44歳) 16.8～70.1 閉経後女性(45～79歳) 26.4～98.2 (ng/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください(溶血の場合，データが低値傾向となります。) &I

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料（40ページ参照）

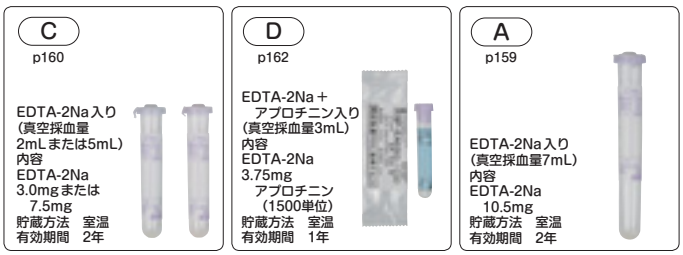
❶活性型ビタミンD3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし，その後は3月に1回を限度として算定する。
❷「NTx」，「オステオカルシン」，「尿中DPD」，「TRACP-5b」を併せて実施した場合は，いずれか1つのみ算定する。
❸骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回，その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り，また，薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。
❹「骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」，「インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（Intact PⅠNP）」，「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠNP）」及び「ALP・アイソザイム（PAG電気泳動法）」のうち2項目以上を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❺「ALPアイソザイム（PAG電気泳動法）」，「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」，「骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❻「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」，「骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」と併せて実施した場合には，いずれか主たるもののみ算定する。

[4753] Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)基準値，判定基準

（単位：nmolBCE/mmol・CRE）

基準値(参考値)	男　性	13.0～66.2
	閉経前女性	9.3～54.3
	閉経後女性	14.3～89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術の適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌，肺癌，前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎髄質関連検査	(4E010)	カテコールアミン総	酸性蓄尿 2	Y	凍結(28日)	3~5	194 ※4	HPLC	52.0~195.3 (μg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し，よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので，必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &ヤ
	4710 8 (4E016)	カテコールアミン3分画 (A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン)	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	A ⬇ X	凍結(1ヵ月)	3~5	170 ※4	HPLC	アドレナリン 100以下 ノルアドレナリン 100~450 ドーパミン 20以下 (pg/mL)	&ヤ
	4508 3 (4E016)		酸性蓄尿 2	Y	凍結(7日)				アドレナリン 3.4~26.9 ノルアドレナリン 48.6~168.4 ドーパミン 365.0~961.5 (μg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し，よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので，必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &ヤ
	(4E050)	ドーパミン総	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	A ⬇ X	凍結	5~11		HPLC	1.8~7.7 (ng/mL)	
	(4E050)		髄液 1.5	X					(ng/mL)	
	(4E045)	L-ドーパ	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	A ⬇ X	凍結	5~11		HPLC	1.2~2.2 (ng/mL)	&ヤ



副腎髄質関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎髄質関連検査	4016 9 (4E060)	VMA	血漿 1.5	A ⬇ X	凍結	3〜6	90 ※4	HPLC	3.3〜8.6 (ng/mL)	&ヤ
	(4E060)		随時尿 1.5	Y	凍結 (21日)	3〜5			(mg/L)	&ヤ
	4513 7 (4E060)		酸性蓄尿 1.5						1.5〜4.3 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し，よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので，必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &ヤ
		HVA	血漿 1.5	A ⬇ X	凍結 (25日)	3〜6	69 ※4	HPLC	4.4〜15.1 (ng/mL)	&ヤ
			髄液 1.5	X					(ng/mL)	
	(4E055)		酸性蓄尿 1.5	Y	凍結 (21日)	3〜5			2.1〜6.3 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し，よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので，必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &ヤ
	(4E040)	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	酸性蓄尿 2	Y	凍結 (21日)	3〜5	❶ 221 ※4	LC/MS/MS	メタネフリン 0.04〜0.19 ノルメタネフリン 0.09〜0.33 (mg/day)	
	(4E080)	MHPG	血漿 1.5	A ⬇ X	凍結 (35日)	事前にご確認ください		HPLC	3.2〜5.9 (ng/mL)	&ヤ
	(4E080)		髄液 1.5	X	凍結				(ng/mL)	
	4506 5 (4E065)	セロトニン	血液 1.0 (EDTA-2Na加)	C ⬇ X	凍結	3〜9		HPLC	57〜230 (ng/mL)	(検体のご提出について) 血液はポリスピッツに移し替え必ず凍結保存にてご提出ください。 &ヤ
	(4E065)		速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	A ⬇ X		3〜6			P(血漿) 0.04〜0.35 PRP(多血小板血漿) 0.17〜0.62 (μg/mL)	P：低温（4℃）で1500r.p.m. 10分間血漿分離 PRP：低温（4℃）で900r.p.m. 20分間血漿分離 &ヤ
		5-HIAA	血漿 1.5	A ⬇ X	凍結	3〜6	95 ※4	HPLC	1.8〜6.1 (ng/mL)	&ヤ
			髄液 1.5	X					(ng/mL)	
	4512 8 (4E070)		酸性蓄尿 0.5	Y	凍結 (21日)	3〜5			1.0〜6.0 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し，よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので，必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 &ヤ

❶「ノルメタネフリン」,「メタネフリン」を併せて行った場合は，主たるもののみ算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎皮質関連検査	(4D018)	17-KS7分画	蓄尿12	Y	冷蔵(28日)	6～7	213 ※4	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法(酵素水解法)	下記参照	酸 酸性蓄尿は避けてください。 &ヤ
	3050 2 (4D035)	血中11-OHCS	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～6	60 ※4	蛍光法(De Moor変法)	午前10時採血 7.0～23.0 (μg/dL)	&I
	4019 6 (4D040)	コルチゾール	血漿 0.5	C ⬇ X	凍結(21日)	2～4	127 ※4	ECLIA法	午前6時～10時 7.07～19.6 (μg/dL)	&I
	3051 1 (4D040)		血清 0.5	01 ⬇ X	凍結					
	4534 4 (4D045)		蓄尿 5	Y	冷蔵	2～6		RIA固相法	11.2～80.3 (μg/day)	酸 非抱合型コルチゾールの測定となります。 &I
	4020 4 (4D115)	アルドステロン	血漿 0.5	C ⬇ X	凍結	3～5	125 ※4	RIA固相法	随時 35.7～240 臥位 29.9～159 立位 38.9～307 (pg/mL)	&I
	3053 9 (4D115)		血清 0.5	01 ⬇ X						
	4566 9 (4D115)		蓄尿 1.5	Y		3～7			10以下 (μg/day)	

17-KS7分画基準値

(単位：mg/day)

	男性	女性
アンドロステロン	1.10～4.20	0.40～3.00
エチオコラノロン	0.55～2.60	0.30～2.50
デヒドロエピアンドロステロン	0.12～5.20	0.04～2.60
11-ケトアンドロステロン	0.12以下	0.07以下
11-ケトエチオコラノロン	0.04～0.65	0.03～0.50
11-OHアンドロステロン	0.40～2.30	0.22～1.60
11-OHエチオコラノロン	0.03～0.65	0.02～0.65

A
p159
EDTA-2Na入り
(真空採血量7mL)
内容
EDTA-2Na
10.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

C
p160
EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

副腎皮質関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎皮質関連検査	3055 7 (4D090)	デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	174 ※4	CLEIA法	下記参照	性別，年齢を明記してください。 &I

[3055]デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)基準値

(単位：μg/dL)

年齢(歳)	男性	女性
18〜20	24〜537	51〜321
21〜30	85〜690	18〜391
31〜40	106〜464	23〜266
41〜50	70〜495	19〜231
51〜60	38〜313	8〜188
61〜70	24〜244	12〜133
71〜	5〜253	7〜177

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
性腺・胎盤関連検査	G617 0 (4F025)	エストラジオール(E_2)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	177 ※4	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 &I
	(4F025)	IVF-エストラジオール(E_2)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4		ECLIA	(pg/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 &I

[G617]エストラジオール(E_2)基準値(血中)

(単位：pg/mL)

非妊婦	女性	卵胞期	28.8~196.8
		排卵期	36.4~525.9
		黄体期	44.1~491.9
		閉経後	47.0以下
	男性		14.6~48.8
妊婦	妊娠初期		208.5~4289
	妊娠中期		2808~28700
	妊娠後期		9875~31800

性腺・胎盤関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
性腺・胎盤関連検査	3079 1 (4F045)	プロゲステロン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	151 ※4	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 &I
	(4F045)	IVF-プロゲステロン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4		ECLIA	(ng/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 &I
	(4F055)	プレグナンジオール	蓄尿 12	Y	冷蔵 (28日)	6～7	213 ※4	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 &ｱ
	4546 1 (4F060)	プレグナントリオール	蓄尿 12	Y	冷蔵 (28日)	6～7	234 ※4	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	
	3081 8 (4F065)	テストステロン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	125 ※4	ECLIA	M 1.31～8.71 F 0.11～0.47 (ng/mL)	性別を明記してください。 &I
	A221 5 (4F070)	フリーテストステロン	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結	2～6	163 ※4	RIA固相法	下記参照	午前中に採血してください。 性別，年齢を明記してください。 &I

[3079]プロゲステロン基準値

(単位：ng/mL)

非妊婦	女性	卵胞期	0.28以下
		排卵期	5.69以下
		黄体期	2.05～24.2
		閉経後	0.33以下
	男性		0.22以下
妊婦	4～13週(妊娠前期)		13.0～51.8
	14～27週(妊娠中期)		24.3～82.0
	28～38週(妊娠後期)		63.5～174

プレグナンジオール基準値

(単位：mg/day)

非妊婦	卵胞期	0.28～1.42
	黄体期	0.79～6.83
	男性	0.16～0.79
妊婦	前期	1.29～6.08
	中期	3.05～24.22
	後期	9.10～60.51

[4546]プレグナントリオール基準値

(単位：mg/day)

女性	卵胞期	0.13～1.30
	分泌期	0.13～1.90
	閉経期	0.02～0.83
男性		0.13～1.60

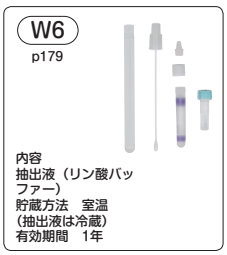
[A221]フリーテストステロン年齢別・性別における基準値(メーカー参考値)

(単位：pg/mL)

年齢	男性	女性
20～29	7.6～23.8	0.4～2.3
30～39	6.5～17.7	0.6～2.5
40～49	4.7～21.6	0.3～1.8
50～59	4.6～19.6	0.8～1.7
60～69	5.3～11.5	
70以上	4.6～16.9	

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
性腺・胎盤関連検査	6463 1 (4F080)	絨毛性ゴナドトロピン(HCG)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 138 ※4	CLEIA	2.7以下 (mIU/mL)	トータルのHCGを測定しています。抗体はHCG-βを認識しています。絨毛性疾患の診断，予後管理に有用です。絨毛性疾患取り扱い規約第3版における推奨方法で，測定感度は1.0mIU/mLです。 &ヨ
	3092 6 (4F090)	遊離HCG-β(HCG-βサブユニット)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 136 ※4	RIA固相法(IRMA)	0.1以下 (ng/mL)	遊離のHCG-βサブユニットを測定しています。抗体は遊離のHCG-βを認識しています。絨毛性および非絨毛性HCG産生腫瘍のマーカーとして有用です。 &エ
	(4F090)		部分尿 0.3	Y	凍結		❶ 136 ※4			
	(3B200)	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	子宮頸管粘液	W6	凍結 (1ヵ月)	2〜4	122 ※1	ラテックス凝集免疫法	1.60以下 (μg/mL)	検体採取方法は181ページをご参照ください。 &ヨ
	(5C111)	ヒト癌胎児性フィブロネクチン	膣分泌物	W5	凍結 (1ヵ月)	2〜4	❷ 204 ※5	ELISA	陰性	検体採取方法は180ページをご参照ください。 &エ

❶「HCG-βサブユニット」,「HCG定性」,「HCG」,「HCG半定量」を併せて実施した場合は，主たるもの1つに限り算定する。
❷「ヒト癌胎児性フィブロネクチン」及び「IGFBP-1」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。



膵・消化管関連検査／心臓関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
膵・消化管関連検査	3070 0 (4G010)	インスリン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	106 ※4	CLEIA	負荷前 1.84～12.2 (μU/mL)	溶
	L386 2 (4G020)	C-ペプチド(CPR)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶111 ※4	CLEIA	負荷前 0.61～2.09 (ng/mL)	&I
	4503 8 (4G020)		蓄尿 1	Y	凍結 (20日)				29.2～167 (μg/day)	重 酸 蓄尿は冷蔵保存しながら行うかあらかじめ専用保存剤を蓄尿容器に一袋全量（10g／袋 最終濃度約0.5%）を入れて蓄尿を行ってください。他項目との重複依頼は避けてください。 &I
	A106 3 (4G030)	グルカゴン(IRG)	冷却遠心 血漿 0.5	D ⬇ X	凍結 (21日)	4～10	150 ※4	RIA2抗体法	70～174 (pg/mL)	&I
	A212 5 (5G340)	抗GAD抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	134 ※4	ELISA	5.0未満 (U/mL)	&I
	A263 9 (5G342)	抗IA-2抗体	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	3～9	213 ※4	ELISA	0.6未満 (U/mL)	
	K485 3 (5G360)	インスリン抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	3～7	110 ※5	RIA	0.4未満 (U/mL)	
	3038 6 (4G040)	ガストリン	血清 0.4	01 ⬇ X	凍結	2～4	104 ※4	RIA PEG法	負荷前 200以下 (pg/mL)	&I
心臓関連検査	4033 0 (4Z270)	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	D ⬇ X	凍結 (21日)	2～4	❷227 ※4	CLEIA	43.0以下 (pg/mL)	安静時に指定の採取量を指定の容器に採血しよく混和させ低温4℃で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 &I
	4263 5 (4Z271)	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	速やかに遠心 血漿 0.5	g ⬇ X	凍結	1～2	❷❸136 ※4	CLEIA	18.4以下 (pg/mL)	採血後，冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離し，速やかに凍結保存してください。
	E682 0 (4Z272)	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	❷❸136 ※4	ECLIA	125以下 (pg/mL)	125pg/mL は心不全除外カットオフ値です。 &I
	3649 8 (5C091)	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❹139 ※3	ラテックス凝集法	6.2未満 (ng/mL)	&I
	3172 7 (5C090)	ミオグロビン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❹139 ※3	CLIA	男性 154.9以下 女性 106.0以下 (ng/mL)	採尿後，速やかに専用容器に入れ，冷蔵してください。凍結は避けてください。 &I
	4605 5		部分尿 6	Y5	冷蔵 (21日)	2～5	❹139 ※3	RIA2抗体法	10以下 (ng/mL)	
	3173 6 (5C092)	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～5	❺184 ※3	EIA	2.5以下 (ng/mL)	
	9532 1 (5C093)	心筋トロポニンT	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	2～4	❻115 ※3	ECLIA	0.014以下 急性心筋梗塞診断のカットオフ値 0.100 (ng/mL)	&I

❶同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は，血液の場合の所定点数のみを算定する。
❷「NT-proBNP」,「HANP」及び「BNP」のうち2項目以上いずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は，主たるもの1つに限り算定する。
❸心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月に1回に限り算定する。
❹「H-FABP」,「ミオグロビン」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❺同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は，1回のみ算定する。
❻「心筋トロポニンI」,「心筋トロポニンT」を同一月に併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
その他	4028 6 (4Z010)	レニン活性(PRA)	冷却遠心 血漿 0.3	C ⬇ X	凍結 (1ヵ月)	3〜5	❶ 100 ※4	RIA2抗体法	臥位 0.3〜2.9 立位 0.3〜5.4 (ng/mL/hr)	
	4029 5 (4Z020)	レニン定量(活性型)	冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結 (20日)	2〜5	❶ 108 ※4	RIA固相法 (IRMA)	随時 3.2〜36 臥位 2.5〜21 立位 3.6〜64 (pg/mL)	&I
	K338 6 (4D120)	アルドステロン／レニン活性比	冷却遠心 血漿 0.8	C ⬇ X	凍結 (1ヵ月)	3〜5	125 + 100 ※4	アルドステロン: RIA固相法 レニン活性: RIA2抗体法	下記参照	早朝安静時に指定の容器に採血しよく混和させ血漿分離してください。血漿は凍結保存してください。
	K342 1 (4D122)	アルドステロン／レニン定量比	冷却遠心 血漿 1.0	C ⬇ X	凍結 (20日)	2〜5	125 + 108 ※4	RIA固相法	下記参照	&I
	4031 2 (4Z025)	アンギオテンシンⅠ	冷却遠心 血漿 0.2	C ⬇ X	凍結	5〜7		RIA2抗体法	110以下 (pg/mL)	
	4032 1 (4Z030)	アンギオテンシンⅡ	冷却遠心 血漿 0.3	C ⬇ X	凍結	5〜7		RIA2抗体法	22以下 (pg/mL)	
	(5C072)	ペントラキシン3 (PTX3)	速やかに 冷却遠心 血漿 0.3	C ⬇ X	凍結	3〜9		ELISA	0.73〜5.49 (ng/mL)	&I
	(4Z255)	サイクリックAMP	冷却遠心 血漿 0.3	C ⬇ X	凍結 (1ヵ月)	3〜9	175 ※4	RIA DCC法	11〜21 (pmol/mL)	(蓄尿) トルエン1〜2mLを入れて冷暗所にて24時間蓄尿し，よく混和し必要量をご提出ください。
	(4Z255)		蓄尿 1	Y	凍結		175 ※4		1.8〜6.3 (μmol/day)	&I
	(4Z315)	肝細胞増殖因子 (HGF)	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (1ヵ月)	2〜8	227 ※3	ELISA	0.39以下 (ng/mL)	
	3171 8 (4Z275)	エリスロポエチン	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	209 ※4	CLEIA	4.2〜23.7 (mIU/mL)	&I
	K221 5 (4Z401)	アディポネクチン (LA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4		ラテックス免疫比濁法	4.0以上 (μg/mL)	&Ǝ

❶「レニン活性」,「レニン定量」を併せて行った場合は，一方の所定点数のみ算定する。

[K338]アルドステロン／レニン活性比
[K342]アルドステロン／レニン定量比 基準値

アルドステロン(pg/mL)
随時 35.7〜240
臥位 29.9〜159
立位 38.9〜307

レニン活性(ng/mL/hr)
臥位 0.3〜2.9
立位 0.3〜5.4

レニン定量(pg/mL)
随時 3.2〜36
臥位 2.5〜21
立位 3.6〜64

アルドステロン／レニン活性比
200以下

アルドステロン／レニン定量比
40以下

g p156
EDTA-2K入り
(真空採血量2mL)
内容
EDTA-2K
2.4mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

Y5 p181
保存剤入り
(容器容量10mL)
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

D p162
EDTA-2Na＋
アプロチニン入り
(真空採血量3mL)
内容
EDTA-2Na
3.75mg
アプロチニン
(1500単位)
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

C p160
EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

腫瘍関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連検査	0072 1 (5D010)	癌胎児性抗原(CEA)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	102 ※4 腫2	CLEIA	5.0以下 (ng/mL)	
	E821 5 (5D560)	血清抗p53抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	163 ※4 腫2	CLEIA	1.30以下 (U/mL)	&I
	A210 7 (5D320)	TPA	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	4～6	110 ※4 腫2	CLIA	75未満 (U/L)	&D
	0073 0 (5D015)	α-フェトプロテイン定量	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	104 ※4 腫2	CLEIA	10.0以下 (ng/mL)	
	8608 8 (5D520)	PIVKA-Ⅱ	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	139 ※4 腫2	CLEIA	40未満 (mAU/mL)	
	(5D520)	PIVKA-Ⅱ	血漿 0.5	C ⬇ X	冷蔵	2～4	139 ※4 腫2	CLEIA	40未満 (mAU/mL)	
	3108 8 (5D170)	DUPAN-2	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	118 ※4 腫2	EIA	150以下 (U/mL)	&I
	3037 7 (3B195)	エラスターゼ1	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	2～4	126 ※4 腫2	ラテックス免疫比濁法	300以下 (ng/dL)	&E
	0074 9 (5D130)	CA19-9	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	127 ※4 腫2	CLEIA	37.0以下 (U/mL)	
	3113 2 (5D220)	SPan-1	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	146 ※4 腫2	RIA固相法(IRMA)	30以下 (U/mL)	
	3114 1 (5D200)	NCC-ST-439	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	118 ※4 腫2	EIA	女性 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 男性 4.5未満 (U/mL)	&I

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料（40ページ参照）

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連検査	L433 9 (5D120)	CA15-3	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 118 ※4 腫2	CLEIA	25.0以下 (U/mL)	&I
	3116 9 (5D125)	BCA225	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	162 ※4 腫2	CLEIA	160未満 (U/mL)	&I
	E871 0 (5D590)	血清 HER2タンパク	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	腫2	CLIA	15.2以下 (ng/mL)	&E
	3065 6 (5D177)	シアリルLe^{X}抗原 (CSLEX)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～6	❶ 164 ※4 腫2	EIA	8.0未満 (U/mL)	&I
	3117 8 (5D175)	シアリルLe^{X}-i抗原 (SLX)	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	148 ※4 腫2	RIA固相法 (IRMA)	38以下 (U/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 &I
	8879 8 (5D305)	前立腺特異抗原 (PSA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❷ 127 ※4 腫2	CLEIA	4.00以下 (ng/mL)	&I
	A061 3 (5D308)	PSA F/T比タンデム	血清 0.8	01 ⬇ X	凍結 (21日)	2～4	154 ※4 腫2	CLEIA	25 (PSA4.00～10.0ng/mLにおけるカットオフ値) (%)	本項目は、PSA とフリー PSA の測定結果も併せてご報告いたします。(基準値について) 25% は PSA4.00～10.0ng/mL における前立腺癌と非癌（前立腺肥大症等）との判別に用いるカットオフ値です。(低値ほど前立腺癌の確率が高くなります。) &E
	A074 9 (5D305)	前立腺特異抗原 (PSA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	❷ 127 ※4 腫2	ECLIA	4.00以下 (ng/mL)	前立腺肥大症と前立腺癌の判別に用いるカットオフ値は3.6ng/mL が推奨されます。
	3648 9 (5D306)	PSA-ACT	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4		CLIA	3.4以下 (ng/mL)	良性の前立腺疾患と前立腺癌の判別に用いるカットオフ値は7.0ng/mL が推奨されます。 &E
	(5D310)	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結 (21日)	2～4	194 ※4 腫2	CLEIA	4.0以下 (ng/mL)	(基準値について) 4.0ng/mL は良性疾患との鑑別値です。 &E

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料（40ページ参照）

❶「CSLEX」,「CA15-3」を併せて測定した場合は，主たるもののみ算定する。
❷診察，腫瘍マーカー以外の検査，画像等の結果から，前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に，前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として，1回を限度として算定する。ただし，前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては，3月に1回に限り，3回を上限として算定できる。

腫瘍関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連検査	8768 1 (5C124)	Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド(ⅠCTP)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	腫2	RIA2抗体法	4.5未満 (ng/mL)	&I
	4753 1 (5C123)	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	部分尿 3	Y	冷蔵	2～4	❶❷ 156 ※4 腫2	ELISA	下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。
	4742 3 (5C146)	デオキシピリジノリン	部分尿 3	Y	冷蔵	2～4	❶❷ 191 ※4 腫2	EIA	クレアチニン 換算値 M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 (nmol/mmol・CRE)	&I
	L385 3 (5D100)	CA125	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❸ 144 ※4 腫2	CLEIA	35.0以下 (U/mL)	
	(5D103)	CA602	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～9	❸ 190 ※4 腫2	ELISA	63以下 (U/mL)	
	(5D155)	CA54/61	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～6	184 ※4 腫2	ELISA	12以下 (U/mL)	
	3012 4 (5D150)	CA72-4	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	146 ※4 腫2	ECLIA	10.0以下 (U/mL)	
	3131 2 (5D153)	シアリルTn抗原(STN)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	146 ※4 腫2	RIA固相法	45以下 (U/mL)	&I

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(40ページ参照)

❶「NTx」,「オステオカルシン」,「尿中DPD」,「TRACP-5b」を併せて実施した場合は，いずれか1つのみ算定する。
❷骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回，その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り，また，薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。
❸「CA125」,「CA602」を併せて測定した場合は，主たるもの1つに限り算定する。

[4753] Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)基準値，判定基準

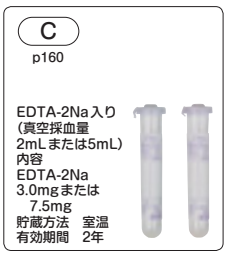
(単位：nmolBCE/mmol・CRE)

基準値(参考値)	男　性	13.0～66.2
	閉経前女性	9.3～54.3
	閉経後女性	14.3～89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌，肺癌，前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連検査	3126 8 (5D300)	SCC	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	107 ※4 腫2	ECLIA	2.5以下 (ng/mL)	唾液・フケ・皮膚(表皮)・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いには十分にご注意ください。 &I
	3797 4 (5D325)	シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	162 ※4 腫2	CLEIA	3.5以下 (ng/mL)	検体の混和・撹拌により低値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いにはご注意ください。 &I
	3664 1 (5D550)	ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	血漿 0.4	C ⬇ X	凍結	2~4	❶ 175 ※4 腫2	CLEIA	81未満 (pg/mL)	&I
	3127 7 (5D410)	NSE(神経特異エノラーゼ)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❶ 146 ※4 腫2	ECLIA	16.3以下 (ng/mL)	溶 採血後,1時間以内に血清分離し冷蔵保存してください。溶血でのご依頼は避けてください。(溶血の場合,赤血球からNSEが逸脱して高値となります。) &I
	3129 5 (5D025)	塩基性フェトプロテイン(BFP)	速やかに遠心 血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	2~4	150 ※4 腫2	EIA	75未満 (ng/mL)	溶 採血後,2時間以内に血清分離してください。溶血でのご依頼は避けてください。 &I
	4639 8 (5D570)	尿中核マトリックスプロテイン22(NMP22)	速やかに遠心 部分尿5	Y8	冷蔵 (21日)	2~4	147 ※4	ELISA	12.0未満 (U/mL)	重 凍 検体採取後速やかに遠心し,その上清を専用容器に入れてください。凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。 &I
	A274 7 (5J095)	可溶性IL-2レセプター	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	438 ※4 腫2	CLEIA	157~474 (U/mL)	&I
	(2C105)	チミジンキナーゼ活性	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	4~6	233 ※2	CLIA	7.5以下 (U/L)	&ロ
	(5D350)	5-S-システイニルドーパ(5-S-CD)	血清 1.0	01 ⬇ X	凍結	3~7		HPLC	1.5~8.0 (nmol/L)	&ヤ
	K440 2 (5D600)	可溶性メソテリン関連ペプチド	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	4~10	220 ※4	CLEIA	1.5未満 (nmol/L)	&ヨ

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(40ページ参照)

❶「ProGRP」を「NSE」と併せて実施した場合には,主たるもののみ算定する。



腫瘍関連検査

腫瘍マーカー

腫瘍マーカーは，悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に，悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定できます。
悪性腫瘍の診断が確定し，計画的な治療管理を開始した場合，当該治療中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ，腫瘍マーカーは，原則として，特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できません。
ただし，悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても，次に掲げる場合においては，特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

ア）急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のために「エラスターゼ1」を行った場合
イ）肝硬変，HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について「α-フェトプロテイン（AFP）」，「PIVKA-Ⅱ半定量」又は「PIVKA-Ⅱ」を行った場合（月1回に限る）
ウ）子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として「CA125」，「CA130」又は「CA602」を行った場合（診断または治療前及び治療後の各1回に限る）
エ）家族性大腸腺腫症の患者に対して「癌胎児性抗原（CEA）」を行った場合

悪性腫瘍特異物質治療管理料

太文字は総合検査案内書掲載項目です。

測定方法	検査項目		悪性腫瘍特異物質治療管理料（同一患者月1回）	加算点（初回月）
1．測定方法が一般的なもの［（腫1）で表示］	尿中BTA定性		220点	
2．測定方法が精密なもの［（腫2）で表示］	癌胎児性抗原（CEA）	BCA225	1項目　360点 2項目以上　400点	150点
	α-フェトプロテイン定量	Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド（ⅠCTP）		
	TPA	血清中抗p53抗体		
	SCC	シフラ（サイトケラチン19フラグメント）		
	DUPAN-2	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）		
	NCC-ST-439	CA602		
	CA15-3	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L_3%）		
	エラスターゼ1	CA54/61		
	前立腺特異抗原（PSA）	癌関連ガラクトース転移酵素（GAT）		
	CA19-9	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）		
	塩基性フェトプロテイン（BFP）	可溶性メソテリン関連ペプチド		
	CA72-4	癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）		
	SPan-1	癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）		
	シアリルTn抗原（STN）	HER2タンパク（乳頭分泌液）		
	NSE（神経特異エノラーゼ）	血清HER2タンパク		
	PIVKA-Ⅱ［ECLIA］	可溶性IL-2レセプター		
	PIVKA-Ⅱ半定量	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）		
	シアリルLe^x-i抗原（SLX）	デオキシピリジノリン		
	CA125	骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ（TRACP-5b）		
	シアリルLe^x抗原（CSLEX）			
	PSA　F/T比			

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	6004 0 (5F150)	アデノウイルス		速やかに遠心 血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	(5F151)	アデノウイルス	1型	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	7〜13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT)
	(5F152)		2型								
	(5F153)		3型								
	(5F154)		4型								
	(5F155)		5型								
	(5F156)		6型								
	(5F157)		7型								
	(5F158)		8型								
	(5F161)		11型								
	(5F169)		19型								
	(5F171)		21型								
	(5F177)		37型								&I

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2〜3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	6056 3 (5F400)	インフルエンザウイルス	A型 (H1N1) (H3N2)	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶❷ 79 ※5	HI (赤血球凝集抑制反応)	A型(HIN1)10未満 A型(H3N2)10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。下記参照(＊HI) &I
	6001 3 (5F400)		A型	速やかに遠心 血清 0.2					CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	6057 2 (5F410)		B型	血清 0.2				❶❷ 79 ※5	HI (赤血球凝集抑制反応)	B-1 10未満 B-2 10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。下記参照(＊HI) &I
	6002 2 (5F410)		B型	速やかに遠心 血清 0.2					CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	(5F421)	パラインフルエンザウイルス	1型	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 79 ※5	HI (赤血球凝集抑制反応)	10未満 (倍)	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。下記参照(＊HI) &I
	(5F422)		2型					❶ 79 ※5			
	(5F423)		3型					❶ 79 ※5			
	6020 2 (5F430)	RSウイルス		速やかに遠心 血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	(5F430)			血清 0.2			7〜11		NT (中和反応)		下記参照(＊NT) &I

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。
❷「インフルエンザウイルスA型」若しくは「インフルエンザウイルスB型」又は「インフルエンザウイルス抗原定性」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。

＊CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊NT(中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊HI(赤血球凝集抑制反応)：出発希釈　10倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　10倍未満　出発希釈　10倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2〜3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	(5F311)	エコーウイルス	1型	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	7～11	❶ 79 ※5	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I
	(5F313)		3型								
	(5F313)		3型				3～5		HI (赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I
	(5F314)		4型				7～11		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I
	(5F315)		5型				7～13				
	(5F316)		6型				7～11				
	(5F317)		7型								
	(5F317)		7型				3～5		HI (赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I
	(5F319)		9型				7～11		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I
	(5F321)		11型				7～13				
	(5F321)		11型				3～5		HI (赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I
	(5F322)		12型				7～13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I
	(5F322)		12型				3～5		HI (赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。
＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊HI(赤血球凝集抑制反応):出発希釈　8倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　8倍未満　出発希釈　8倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2～3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	(5F323)	エコーウイルス	13型	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	7~11	❶ 79 ※5	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT)
	(5F324)		14型				7~13				
	(5F326)		16型				7~11				
	(5F327)		17型								
	(5F328)		18型								
	(5F329)		19型				7~13				
	(5F331)		21型								
	(5F332)	エコーウイルス (パレコウイルス1型)	22型	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	
	(5F334)	エコーウイルス	24型	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	7~13		NT (中和反応)	4未満 (倍)	
	(5F335)		25型				7~11				
	(5F340)		30型								&I

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。
＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	(5F282)	コクサッキーウイルス	A群2型	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	7〜13	❶79※5	NT(中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I
	(5F283)		A群3型								
	(5F284)		A群4型								
	6092 3 (5F285)		A群5型								
	6093 2 (5F286)		A群6型								
	(5F287)		A群7型								
	(5F289)		A群9型								
	(5F289)		A群9型	速やかに遠心 血清 0.2			3〜5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I
	6096 9 (5F290)		A群10型	血清各0.2			7〜13		NT(中和反応)		下記参照(＊NT) &I
	6097 8 (5F296)		A群16型								

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2〜3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	(5F301)	コクサッキーウイルス	B群1型	血清 0.2	01⬇X	冷蔵	7~13	❶79 ※5	NT(中和反応)	4未満(倍)	下記参照(＊NT) &I
	(5F301)		B群1型	速やかに遠心 血清 0.2			3~5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I
	6099 6 (5F302)		B群2型	血清 0.2			7~13		NT(中和反応)		下記参照(＊NT) &I
	(5F302)		B群2型	速やかに遠心 血清 0.2			3~5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I
	(5F303)		B群3型	血清 0.2			7~13		NT(中和反応)		下記参照(＊NT) &I
	(5F303)		B群3型	速やかに遠心 血清 0.2			3~5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I
	6101 2 (5F304)		B群4型	血清 0.2			7~13		NT(中和反応)		下記参照(＊NT) &I
	(5F304)		B群4型	速やかに遠心 血清 0.2			3~5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I
	6102 1 (5F305)		B群5型	血清 0.2			7~13		NT(中和反応)		下記参照(＊NT) &I
	(5F305)		B群5型	速やかに遠心 血清 0.2			3~5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I
	(5F306)		B群6型	血清 0.2			7~13		NT(中和反応)		下記参照(＊NT) &I
	(5F306)		B群6型	速やかに遠心 血清 0.2			3~5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	(5F270)	エンテロウイルス 70型	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	6~12		NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I
	(5F271)	エンテロウイルス 71型								
	6041 9 (5F385)	日本脳炎ウイルス (JaGAr株)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	4~7	❶ 79 ※5	HI (赤血球凝集抑制反応)	ジャガー 10未満 ジャガー2ME 10未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I
	(5F385)	日本脳炎ウイルス	速やかに遠心 血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3~5		CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊HI(赤血球凝集抑制反応):日本脳炎ウイルス (JaGAr株)：出発希釈　10倍 (髄液の測定も可能です　検体量　1.0mL (冷蔵)　基準値　10倍未満　出発希釈　10倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2~3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	6193 1 (5F432)	ムンプスウイルス	IgM	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	2〜4	❶212 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊捕捉法) &I
	6191 3 (5F432)		IgG							2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊固相法) &I
	6050 9 (5F432)	ムンプスウイルス		血清各0.2	01⬇X	冷蔵	3〜5	❷79 ※5	HI(赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I
	6083 3 (5F432)						7〜13		NT(中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I
	6003 1 (5F432)			速やかに遠心 血清 0.2			3〜5		CF(補体結合反応)		下記参照(＊CF) &I
	6185 0 (5F431)	麻疹ウイルス	IgM	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	2〜4	❶212 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊捕捉法) &I
	6183 2 (5F431)		IgG							2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊固相法) &I
	6044 6 (5F431)	麻疹ウイルス		血清各0.2	01⬇X	冷蔵	3〜5	❷79 ※5	HI(赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I
	6082 4 (5F431)						7〜11		NT(中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) &I

❶グロブリンクラス別ウイルス抗体価(61ページ)を参照ください。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

＊捕捉法:髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　0.80未満 陰性

＊固相法:髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　0.20未満 陰性

＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊HI(赤血球凝集抑制反応):出発希釈　8倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵))　(基準値　ムンプス　8倍未満　出発希釈　8倍)
(基準値　麻疹　1倍未満　出発希釈　1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2〜3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

[6193，6191]ムンプスウイルス [6185，6183]麻疹ウイルス の判定基準

判　定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)
−	0.80未満	2.0未満
±	0.80〜1.20	2.0〜3.9
＋	1.21以上	4.0以上

[6185]麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項

伝染性紅斑(パルボウイルスB19感染)，テング熱，突発性発疹(HHV6感染)などでも麻疹ウイルスIgMが陽性となる症例があることが報告されています。診断においては臨床症状および他の検査法を加味し，総合的に判断してください。

[6189，6187]風疹ウイルス [6173，6171]水痘・帯状ヘルペスウイルス の判定基準

判　定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)
−	0.80未満	2.0未満
±	0.80〜1.20	2.0〜3.9
＋	1.21以上	4.0以上

[3502，3501]ヒトパルボウイルスB19(判定基準)

判　定	抗体指数
−	0.80未満
±	0.80〜0.99
＋	1.00以上

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	6189 6 (5F395)	風疹ウイルス	IgM	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 212 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊捕捉法) &I
	6187 8 (5F395)		IgG							2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊固相法) &I
	6045 5 (5F395)	風疹ウイルス		血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❷ 79 ※5	HI (赤血球凝集抑制反応)	8未満 (倍)	下記参照(＊HI) &I
	3502 0 (5F011)	ヒトパルボウイルスB19	IgM	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 212 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	捕捉法 &I
	3501 1 (5F011)		IgG								固相法 &I
	6173 3 (5F193)	水痘・帯状ヘルペスウイルス	IgM	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 212 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊捕捉法) &I
	6171 5 (5F193)		IgG							2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊固相法) &I
	4845 9 (5F193)	水痘・帯状ヘルペスウイルス		速やかに遠心 血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❷ 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	L648 1	風疹ウイルス(HI)クーポン 5F395-1430-023-111		血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	3〜7		HI (赤血球凝集抑制反応)	8以下 (倍)	本項目は、厚生労働省による「風しんの追加的対策」のクーポン専用項目です。定期接種の対象となる風疹抗体価「8以下(倍)」を基準値欄に記載しています。測定キットは風疹ウイルス HI 試薬「生研」(デンカ生研株式会社)です。 &I
	L649 0	風疹ウイルスIgG(EIA)クーポン 5F395-1431-023-023					3〜7		EIA	6.0未満(EIA価)	本項目は、厚生労働省による「風しんの追加的対策」のクーポン専用項目です。定期接種の対象となる風疹抗体価「6.0未満(EIA価)」を基準値欄に記載しています。測定キットはウイルス抗体 EIA「生研」ルベラ IgG(デンカ生研株式会社)です。 &I
	L674 2	風疹ウイルスIgG(CLEIA)クーポン		血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	2〜4		CLEIA	20未満 (IU/mL)	本項目は、厚生労働省による「風しんの追加的対策」のクーポン専用項目です。定期接種の対象となる風疹抗体価「20未満(IU/mL)」を基準値欄に記載しています。測定キットはアクセス ルベラ IgG(ベックマン・コールター株式会社)です。 &I
	L675 1	風疹ウイルスIgG(FIA)クーポン		血清 0.6		冷蔵 (14日)	3〜7		FIA	1.5未満(AI)	本項目は、厚生労働省による「風しんの追加的対策」のクーポン専用項目です。定期接種の対象となる風疹抗体価「1.5未満(AI)」を基準値欄に記載しています。測定キットは BioPlex MMRV IgG(バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社)です。AI は、バイオ・ラッド社が設定した抗体価単位です。 &I

❶グロブリンクラス別ウイルス抗体価(61ページ)を参照ください。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

＊捕捉法:髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.80未満 陰性

＊固相法:髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.20未満 陰性

＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊HI(赤血球凝集抑制反応):風疹ウイルス:出発希釈　8倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2〜3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス感染症検査

抗体検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	4917 9 (5F190)	単純ヘルペスウイルスIgM	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 212 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊捕捉法) &I
	4915 1 (5F190)	単純ヘルペスウイルスIgG	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4		EIA	2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	固相法 同時期の髄液と血清の双方を同時測定することにより、髄液中の局所産生抗体の証明が可能です。 &I
	(5F190)		髄液 0.4	X					0.20未満 陰性 判定基準:下記参照	
	6084 2 (5F191)	単純ヘルペスウイルス 1型	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	6〜12	❷ 79 ※5	NT (中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊NT) 1型,2型間には抗原交差性があります。 &I
	4848 6 (5F192)	単純ヘルペスウイルス 2型								
	4844 0 (5F190)	単純ヘルペスウイルス	速やかに遠心 血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5		CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	(5F210)	ヒトヘルペスウイルス6型 IgM	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5		FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍 &I
	3386 0 (5F210)	ヒトヘルペスウイルス6型 IgG								
	A265 7 (5F194)	サイトメガロウイルス IgM	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶❸ 212 ※5	EIA	0.80未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊捕捉法) &I
	6175 1 (5F194)	サイトメガロウイルス IgG							2.0未満 陰性 判定基準:下記参照	下記参照(＊固相法) &I
	6021 1 (5F194)	サイトメガロウイルス	速やかに遠心 血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❷❸ 79 ※5	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I

❶グロブリンクラス別ウイルス抗体価(61ページ)を参照ください。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。
❸先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として「サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)」「サイトメガロウイルスIgG」「サイトメガロウイルスIgM」「サイトメガロウイルス」を併せて実施した場合には，主たるもののみ算定する。

＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

＊NT(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され，測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

＊捕捉法:髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 0.80未満 陰性

＊固相法:髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 0.20未満 陰性

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので，必ず急性期(発病後早期)および回復期(発病後2〜3週間)の血清をペアで依頼してください。
なお，急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍(2管差)以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

[4917]単純ヘルペスウイルスIgM [4915]単純ヘルペスウイルスIgG の判定基準

判定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価) 血清	IgG(EIA価) 髄液
−	0.80未満	2.0未満	0.20未満
±	0.80〜1.20	2.0〜3.9	0.20〜0.39
＋	1.21以上	4.0以上	0.40以上

[A265，6175]サイトメガロウイルスの判定基準

判定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)
−	0.80未満	2.0未満
±	0.80〜1.20	2.0〜3.9
＋	1.21以上	4.0以上

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗体検査	6751 1 (5F203)	EBウイルス	抗EA IgG	血清 各0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 212 ※5	EIA	0.5未満　陰性 判定基準:下記参照	&I
	6158 0 (5F202)		抗VCA IgM								
	6159 9 (5F202)		抗VCA IgG								
	6160 7 (5F204)		抗EBNA IgG								
	4953 9 (5F203)		抗EA-DR IgG			冷蔵	3〜5		FA (蛍光抗体法)	10未満　(倍)	出発希釈 10倍 &I
	4951 1 (5F202)		抗VCA IgM								
	4950 2 (5F202)		抗VCA IgG								
	4955 7 (5F204)		抗EBNA					❷ 79 ※5			
	4952 0 (5F202)		抗VCA IgA								
	(5F203)		抗EA-DR IgA								

❶グロブリンクラス別ウイルス抗体価(61ページ)を参照ください。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。

[6751]EBウイルス 抗EA IgG
[6158]EBウイルス 抗VCA IgM
[6159]EBウイルス 抗VCA IgG
[6160]EBウイルス 抗EBNA IgG
の判定基準

判　定	抗体指数
−	0.5未満
±	0.5〜0.9
＋	1.0以上

ウイルス感染症検査

抗原検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗原検査	(6B655)	ウイルス分離	下記参照	V	冷蔵	4~21		細胞変性効果，血球吸着現象，赤血球凝集反応		凍 凍結保存は避けてください。分離，同定検査は以下の細胞を使用しています。PHfb（ヒト繊維芽細胞），HEp-2（ヒト喉頭癌細胞），Vero（ミドリザル腎細胞），MA104（アカ毛ザル腎細胞），RD-18S（ヒト横紋筋腫細胞），MDCK（イヌ腎細胞），B95a（マーモセットB細胞），AGMK（アフリカミドリザル腎細胞），A549（ヒト肺癌細胞），Caco-2（ヒト結腸腺癌細胞） &I
	(6B705)	ウイルス同定	※1参照	V	冷蔵	13~29		標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応		

検査材料

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と，同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は，分離率向上のため，できる限り複数の材料をご提出ください。

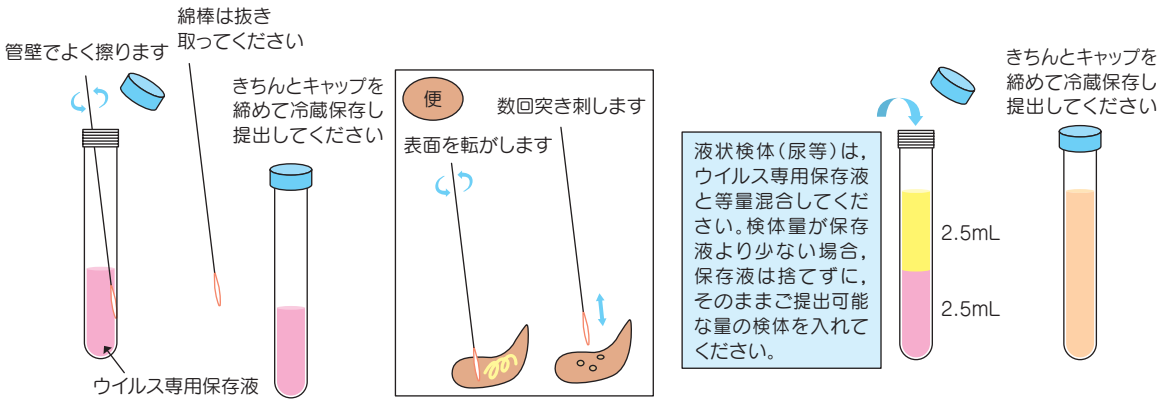
臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ，パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液，鼻分泌液
	アデノ，コクサッキー，エコー	咽頭ぬぐい液，糞便
下気道感染症	インフルエンザ，パラインフルエンザ，アデノ，RS，サイトメガロ	咽頭ぬぐい液，喀痰，気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹，風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー，コクサッキー	咽頭ぬぐい液，糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス，水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
	コクサッキー，エンテロ71	水疱内容，咽頭ぬぐい液，糞便
中枢神経系疾患	エコー，コクサッキー，ポリオ	咽頭ぬぐい液，髄液，糞便
	水痘・帯状疱疹，ムンプス	咽頭ぬぐい液，髄液
先天性異常	サイトメガロ，風疹	咽頭ぬぐい液，尿，髄液
	単純ヘルペス，水痘・帯状疱疹	水疱内容
嘔吐・下痢症	エコー，コクサッキー，アデノ	咽頭ぬぐい液，糞便
	ロタ	糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ，単純ヘルペス，水痘・帯状疱疹	結膜ぬぐい液

検体採取および保存方法

検査材料	ウイルス専用容器への採取方法
患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　等	※2 滅菌綿棒でぬぐい，下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し，冷蔵保存してください。
尿・髄液・胸水・鼻汁　等	下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し，冷蔵保存してください。
組織	組織小片(5mm角程度)をウイルス専用保存液に入れて冷蔵保存してください。

※1 同定検査は当社の分離検査において分離された検体のみの受付となります。
※2 滅菌綿棒はプラスチック棒かアルミニウム棒付の綿棒で採取してください。

●ウイルス専用保存液は当社にて準備しておりますので，ご依頼前に営業担当員にお申し付けください。



	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗原検査	(5F150)	アデノウイルス抗原	結膜ぬぐい液	V	冷蔵(14日)	4～6		シェル・バイアル法	陰性	凍 凍結保存は避けてください。
	(5F150)		咽頭ぬぐい液							
	(5F150)		部分尿 5							
	(5F399)	インフルエンザウイルス抗原	咽頭ぬぐい液	V	冷蔵(3日)	3～5	139	シェル・バイアル法	インフルエンザウイルスA型 陰性 インフルエンザウイルスB型 陰性	
	(5F420)	パラインフルエンザウイルス抗原	咽頭ぬぐい液	V	冷蔵(6日)	3～5		シェル・バイアル法	陰性	
	(5F193)	水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原	水疱内容	V	冷蔵	4～6		シェル・バイアル法	陰性	
	(5F190)	単純ヘルペスウイルス抗原	水疱内容	V	冷蔵	3～5		シェル・バイアル法	1型 陰性 2型 陰性	
	(5F190)		咽頭ぬぐい液							
	(5F194)	サイトメガロウイルス抗原	部分尿 5	V	冷蔵	3～5		シェル・バイアル法	陰性	&I

ウイルス感染症検査

抗原検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗原検査	(5F150)	アデノウイルスDNA	結膜ぬぐい液	h	室温(3ヵ月)	3～9		PCR	陰性	重 測定対象は1，2，3，4，5，6，7，8，11，19，37型です。ただし型判定は実施できません。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F150)		部分尿 0.5	r	凍結(1ヵ月)					
	(5F150)		糞便 500mg	U	凍結(1ヵ月)					
	(5F150)	アデノウイルス抗原	角結膜ぬぐい液	W7	凍結(21日)	2～8	189 ※5	ELISA	陰性	専用容器（アデノクローン用）以外での受託はできません。 &I
	(5F150)		咽頭ぬぐい液		凍結					
	M209 7 (5F610)	ロタウイルス抗原	糞便 1g	U	凍結	1～2	❶ 65 ※5	免疫クロマト法	(－)	
	(5F011)	ヒトパルボウイルスB19DNA	血清 0.5	⬇ r	凍結(3ヵ月)	3～5		PCR	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F250)	エンテロウイルスRNA	髄液 0.5	r	凍結(3ヵ月)	7～11		RT-PCR	陰性	
	(5F250)		咽頭ぬぐい液	h	室温(1ヵ月)					
	(5F385)	日本脳炎ウイルスRNA	髄液 0.5	r	凍結(3ヵ月)	7～11		RT-PCR	陰性	
	6663 9 (5F432)	ムンプスウイルスRNA	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵(10日)	7～11		RT-PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F432)		髄液 0.5	r	凍結(3ヵ月)					
	(5F431)	麻疹ウイルスRNA	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵(10日)	7～11		RT-PCR	陰性	
	(5F431)		髄液 0.5	r	凍結(3ヵ月)					
	(5F431)		組織 50mg							
	(5F399)	インフルエンザウイルスRNA	咽頭ぬぐい液	V	冷蔵(1ヵ月)	7～11		RT-PCR	インフルエンザウイルスA型 陰性 インフルエンザウイルスB型 陰性	重 咽頭ぬぐい液 ： 凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F399)		髄液 0.5	r	凍結(3ヵ月)					

❶「アデノウイルス抗原定性(糞便)」と「ロタウイルス抗原定性(糞便)又は定量(糞便)」を同時に行った場合は，主たる検査のみ算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗原検査	(5F193)	水痘・帯状ヘルペスウイルスDNA	患部ぬぐい液	h	室温(3ヵ月)	3〜5		PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F193)		血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵(10日)					
	(5F193)		髄液 0.5	r	凍結(3ヵ月)					
	4885 5 (5F193)	水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原	塗抹標本 2枚	W1	凍結	2〜4	233 ※5	FA	陰性	塗抹標本の採取方法は177ページをご参照ください。 &I
	(5F190)	単純ヘルペスウイルスDNA定量	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵(10日)	2〜4	450 ※6	PCR (リアルタイムPCR)	2.0×10^{1}未満 (コピー/10^{6}cells)	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F190)	単純ヘルペスウイルスDNA	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵(10日)	3〜5		PCR	陰性	
	(5F190)		髄液 0.5	r	凍結(3ヵ月)					
	(5F190)		患部ぬぐい液	h	室温(3ヵ月)					
	(5F190)		組織 5mg	r	凍結(3ヵ月)	4〜6				
	4927 8 (5F190)	単純ヘルペスウイルス特異抗原	塗抹標本 2枚	W1	凍結	2〜4	180 ※5	FA	単純ヘルペスウイルス1型抗原(FA)陰性 単純ヘルペスウイルス2型抗原(FA)陰性	塗抹標本の採取方法は177ページをご参照ください。 &I
	(5F210)	ヒトヘルペスウイルス6型DNA	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵(10日)	3〜9		PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F210)		血清 0.5	⬇ r	凍結(3ヵ月)					
	(5F210)		髄液 0.5	r						
	(5F210)		患部ぬぐい液	h	室温(3ヵ月)					
	(5F210)		組織 5mg	r	凍結(3ヵ月)	3〜9				
	(5F211)	ヒトヘルペスウイルス7型DNA	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵(10日)	3〜9		PCR	陰性	
	(5F211)		血清 0.5	⬇ r	凍結(3ヵ月)					
	(5F211)		髄液 0.5	r						
	(5F211)		患部ぬぐい液	h	室温(3ヵ月)					
	(5F211)		組織 5mg	r	凍結(3ヵ月)	3〜9				

W7 p179

内容
リン酸バッファー
貯蔵方法　冷蔵
有効期間　1年

U p176

糞便容器
貯蔵方法　室温

W1 p177

貯蔵方法　室温
有効期間　1年

r p174

貯蔵方法　室温

C p160

EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

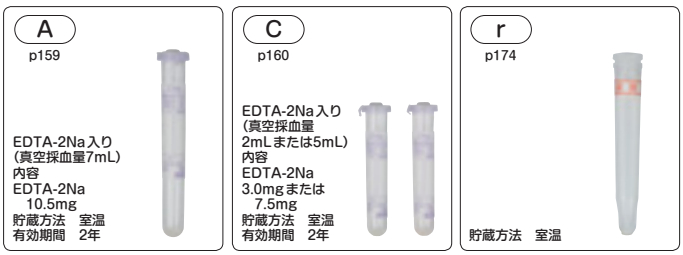
h p168

SDS
EDTA-2Na入り
(容器容量10mL)
貯蔵方法　室温

ウイルス感染症検査

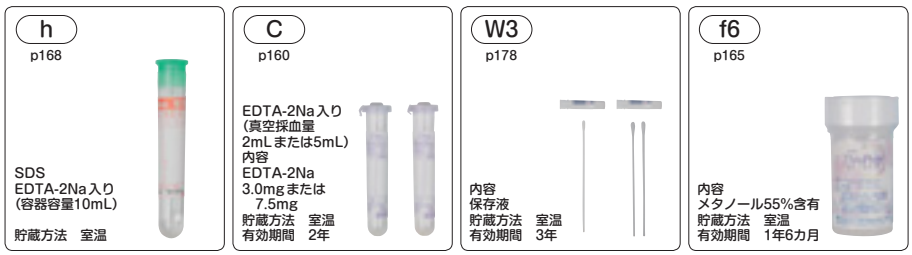
抗原検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗原検査	(5F194)	サイトメガロウイルスDNA定量	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	2~4		PCR (リアルタイムPCR)	2.0×10¹未満 (コピー/10⁶cells)	
	(5F194)	サイトメガロウイルスDNA	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵 (10日)	3~5		PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F194)		髄液 0.5	r	凍結 (3ヵ月)					
	(5F194)		患部ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)					
	(5F194)		部分尿0.5	r	凍結 (3ヵ月)					
	(5F194)		組織 5mg		凍結 (3ヵ月)	3~5				
	(5F194)	曜日指定 サイトメガロウイルスpp65抗原(C10，C11)	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵	2~4	377 ※5	間接酵素抗体法	陰性	凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。血液は採血後，速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合，検出率の低下が認められます。 &I
	6745 8 (5F194)	曜日指定 サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	血液 3.0 (EDTA-2Na加)	C	室温	2~4		直接酵素抗体法	陰性	受託可能日は月~金曜日です。血液は採血後，速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合，検出率の低下が認められます。 &I
	(5F201)	EBウイルスDNA定量	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	2~4	310 ※6	PCR (リアルタイムPCR)	2.0×10¹未満 (コピー/10⁶cells)	重 凍 凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F201)	EBウイルスDNA	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵	3~5		PCR	陰性	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F201)		血清 0.5	⬇ r	凍結 (3ヵ月)					
	(5F201)		髄液 0.5	r						
	(5F201)		患部ぬぐい液	h	室温 (3ヵ月)					
	(5F201)		組織 5mg	r	凍結 (3ヵ月)	3~5				
	(5F201)	EBウイルスDNA (クロナリティ)	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	17~23		サザンブロットハイブリダイゼーション		血液：凍結保存は避けてください。化学療法などにより細胞数が減少している場合は，必要量のDNAが抽出できない場合がありますので，あらかじめご了承ください。ホルマリンなどにより固定した組織は，高分子DNAが得られないため，サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。本法では，ウイルスDNA数が少ないと，EBV DNAが検出されない場合があります。 &I
	(5F201)		組織 250mg	r	凍結 (3ヵ月)					



	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗原検査	6644 0 (5F101)	ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	組織 250mg	W3	凍結(3ヵ月)	3~5	❶❷❹ 350 ※6	液相(核酸)ハイブリダイゼーション	陰性	測定対象は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。ただし型別の判定ではありません。 &D
	(5F101)		患部ぬぐい液		凍結					
	(5F101)	ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)	子宮頸部	f6	室温(1ヵ月)	3~5		液相(核酸)ハイブリダイゼーション	陰性	測定対象は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。ただし，型別の判定ではありません。細胞診検査（婦人科CR）との同時依頼も可能です。 &D
	(5F101)		膣内容							
	(5F101)		子宮膣部							
	A011 8	ヒトパピローマウイルスDNA(16型，18型，その他ハイリスクグループ)	子宮頸部 3.0	f6	冷蔵	2~4	❶❷❸ 360 ※6	PCR(リアルタイムPCR)	HPV16型 陰性 HPV18型 陰性 その他ハイリスクグループ 陰性	重 測定対象は16型, 18型, その他ハイリスクグループ（31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型および66型)です。「その他のハイリスクグループ」については，型別の判定ではありません。検体に血液が混入しているとデータに影響を及ぼす場合がありますのでご注意ください。 &I
	6645 9 (5F102)	ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	組織 250mg	W3	凍結(3ヵ月)	4~10		液相(核酸)ハイブリダイゼーション	陰性	測定対象は6, 11, 42, 43, 44型です。ただし型別の判定ではありません。 &D
	(5F102)		患部ぬぐい液		凍結					
	(5F102)	ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)(LBC)	子宮頸部	f6	室温(1ヵ月)	4~10		液相(核酸)ハイブリダイゼーション	陰性	測定対象は6, 11, 42, 43, 44型です。ただし，型別の判定ではありません。細胞診検査（婦人科CR）との同時依頼も可能です。 &D
	(5F102)		膣内容							
	(5F102)		子宮膣部							
		ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	子宮頸部	f6	室温	4~6	❺ 2000 ※6	PCR-rSSO法	陰性	検出可能な型は, 16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。本検査は予め，組織診断によりCIN1またはCIN2と診断された患者から採取された検体を専用容器f6でご提出ください。本検査方法では，コンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。他項目との重複依頼は避けてください。 &D

❶HPV核酸検出を「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」と併せて実施した場合は，主たるもの１つに限り算定する。
❷予め行われた細胞診の結果ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁上皮）と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除を行った患者に対して行った場合に限り算定する。なお，細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
❸保険請求名称は,「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」です。
❹保険請求名称は,「HPV核酸検出」です。
❺予め行われた組織診断の結果，CIN1又はCIN2と判定された患者に対し，治療方針の決定を目的として，ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。当該検査は，HPV核酸検出の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。



ウイルス感染症検査

HTLV-Ⅰ検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
HTLV-Ⅰ検査	A433 0 (5F450)	HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	168 ※5	CLEIA	陰性	検査結果が「陽性」であった場合、ラインブロット法による確認検査をお勧めいたします。 測定対象は、 抗 HTLV-Ⅰ抗体および抗 HTLV-Ⅱ抗体です。型別の報告ではありません。 &Ⅰ
	6801 5 (5F450)		血清 各0.2		冷蔵		85 ※5	PA	16未満 (倍)	検査結果が「陽性」であった場合、ラインブロット法による確認検査をお勧めいたします。 &Ⅰ
	A095 6	HTLV-1抗体 5F460-0000-023-833	血清 各0.2		冷蔵 (28日)	3～5	425 ※5	ラインブロット法(LIA法)	陰性 判定基準:下記参照	測定対象は、抗 HTLV-1 抗体および抗 HTLV-2 抗体です。型別の報告ではありません。 &Ⅰ
	(5F455)	HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (10日)	17～23		サザンブロットハイブリダイゼーション		血液:凍結保存は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少している場合は，必要量の DNA が抽出できない場合がありますので，あらかじめご了承ください。 ホルマリンなどにより固定した組織は，高分子 DNA が得られないため，サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。&Ⅰ
	(5F455)		組織 250mg	r	凍結 (1ヵ月)					
		HTLV-Ⅰ核酸検出(妊婦)	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (3日)	10～16	❶ 450 ※6	PCR(リアルタイムPCR)	陰性 (プロウイルスを認めませんでした)	重 凍 血液:凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少している場合は，必要量の DNA が抽出できない場合もあります。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &Ⅰ
		HTLV-Ⅰプロウイルス DNA 定性	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	A	冷蔵 (3日)					
			組織 50mg	r	凍結					

＊PA:出発希釈　16倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　設定なし　出発希釈　2倍)
❶HTLV-Ⅰ核酸検出はHTLV-Ⅰ(ATLV)抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)によって判定保留となった妊婦を対象として測定した場合のみ算定できる。

(A095 6)HTLV-1抗体(ラインブロット法)(判定基準)

ラインが認められない		陰性
ラインが１本認められる(≧±)	gag p19かgag p24かenv gp46のいずれかが認められる	陰性
	env gp21が認められる	保留
ラインが２本認められる(≧±)	env gp21が認められない	保留
	env gp21が認められる	陽性
ラインが３本以上認められる(≧±)		陽性

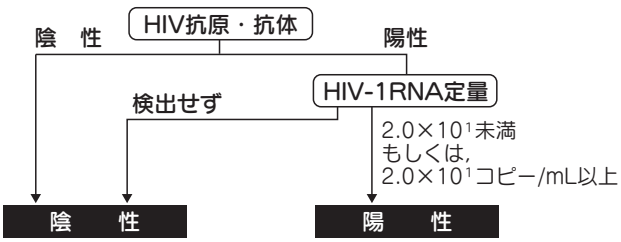
	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
HIV検査	8512 4 (5F560)	HIV抗原・抗体	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 115 ※5	CLEIA	陰性	重 不 不活化（非働化）した検体は，判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	6809 7 (5F500)	HIV-1抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❷ 280 ※5	ウエスタンブロット法	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。確認検査（ウエスタンブロット法）をご依頼の際には，改めて採血しご提出ください。 &I
	6835 8 (5F550)	HIV-2抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	380 ※5	ウエスタンブロット法	陰性	
	A239 6 (5F500)	HIV-1RNA定量	血漿 1.8	P3	凍結 (22日)	3〜5	❷ 520 ※6	RT-PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (コピー/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I

❶保険請求上の名称は，「HIV1，2抗原・抗体同時測定定性」です。
❷「HIV-1RNA定量」，「HIV-1抗体」を併せて実施した場合は，それぞれを算定することができる。

●HIVスクリーニング検査

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	検査方法	基準値(単位)	備考
	HIVスクリーニング HIV抗原・抗体，HIV-1RNA定量	血清 0.6 と 血漿 1.8	01 ⬇ X と P3	冷蔵 と 凍結	3〜12	HIV抗原・抗体 CLEIA HIV-1RNA定量 RT-PCR (リアルタイムPCR)	HIV抗原・抗体 陰性 HIV-1RNA定量 検出せず (コピー/mL)	重 不 他項目との重複依頼は避けてください。X容器の血清で不活化（非働化）した検体は，判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。P3容器の血漿は，コンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I

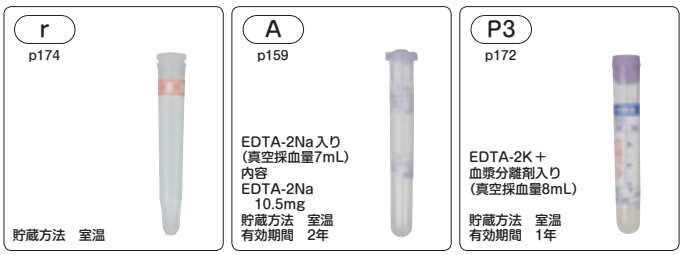
▼HIVスクリーニングの検査フロー



※ご注意
左図検査フローに従って検査を実施いたしますので，ご依頼に際し，必ずX容器とP3容器の2種類の検体を1本ずつご提出ください。
P3容器の血漿は，他項目との重複依頼はできませんので，あらかじめご了承ください。

本検査は，検診を目的とした検査ですので，実施料，判断料は表記しておりません。

「HIV抗原・抗体が陽性，かつHIV-1RNA定量が検出せず」の場合，HIV-2の感染の疑いもあるため，HIV-2抗体（WB法）を実施することをお勧めいたします。



ウイルス感染症検査

HTLV-Ⅰ検査

ウイルス抗体検査の特徴

検査方法	原　　理	特　　徴
補体結合反応(CF)	抗原抗体複合体と結合した補体を感作血球の不溶血を指標として間接的に証明します。	・群特異性が高い ・比較的早期に抗体消失 ・感染スクリーニング用
赤血球凝集抑制反応(HI)	赤血球凝集能をもつウイルスの場合，その凝集を抑制する抗体を証明します。	・型特異性が高い ・早期に抗体が上昇，持続する
蛍光抗体法(FA)	感染細胞中のウイルス抗原と抗体との反応を蛍光標識抗体で証明します。	・抗体分画が可能
中和反応(NT)	活性ウイルスを抗体により中和させ，感染防御抗体を証明します。	・型特異性が高い
酵素免疫法(EIA)	固相化したウイルス抗原と抗体を反応させ，酵素標識抗体との反応により証明します。	・抗体分画が可能 ・定量的データ ・他法に比して高感度
受身(粒子)凝集反応(PA)	固相化ゼラチン粒子にウイルスを吸着させ，これに抗体を反応させ，凝集の有無により証明します。	・高感度
ウエスタンブロット法(WB)	転写膜に分画された抗原タンパクのバンドと特異的に反応する抗体を検出します。	・特異性が高い ・確認試験

検出抗体の性質

		性　　質			
		動　　態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
抗体	IgM	早期に産生されるが短期間で消失	＋	＋	－
	IgG	IgMに遅れて出現。漸減しながら長期間持続	＋	＋	＋
	IgA	IgMより多少遅れて出現するがIgMより長期間検出可能	＋	－	－

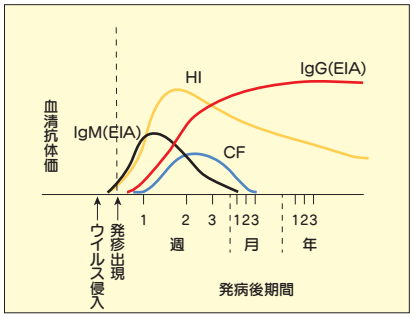
抗体価の解釈とペア血清検査の意義

ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は，過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで，現在の状態を必ずしも反映してはいません。

ウイルス抗体は感染の直後に高く，以後下降するパターンを示しますが，単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定は出来ない場合が多いといえます。

ウイルス感染後の抗体応答パターン，各検査法の特徴，検査意義を理解し，目的に応じた検査法を選択する必要があります。

急性期(発病後早期）と回復期(発病後14～21日）のペア血清の抗体価が4倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし，治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は，必ずしも有意とは考えられません。



目的別検査法選択のめやす

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみることが有用です。

また，既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAによるIgG抗体の検査が有用です。

	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
麻疹	HI，NT，EIA(IgM)(IgG)	NT，EIA(IgG)	NT，EIA(IgG)
風疹	HI，EIA(IgM)(IgG)	HI，EIA(IgG)	HI，EIA(IgG)
ムンプス	CF, HI, NT, EIA(IgM)(IgG)	EIA(IgG)	NT，EIA(IgG)
水痘	CF，EIA(IgM)(IgG)	EIA(IgG)	IAHA，EIA(IgG)
ポリオ		NT	NT
日本脳炎	HI，CF		HI
インフルエンザ	CF，HI		HI

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)

同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は，8項目を限度として算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は，治療上必要な場合に行うものとし，次に掲げるものを当該検査の対象とする。

①アデノウイルス　②コクサッキーウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤エコーウイルス　⑥ヘルペスウイルス　⑦インフルエンザウイルスA型　⑧インフルエンザウイルスB型　⑨ムンプスウイルス　⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型　⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型　⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型　⑬ポリオウイルスⅠ型　⑭ポリオウイルスⅡ型　⑮ポリオウイルスⅢ型　⑯RSウイルス　⑰風疹ウイルス　⑱麻疹ウイルス　⑲日本脳炎ウイルス　⑳オーム病クラミジア　㉑水痘・帯状疱疹ウイルス

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量) にあたって，同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても，所定点数のみを算定する。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価

同一検体について，グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は，2項目を限度として算定する。
グロブリンクラス別ウイルス抗体価は，下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
ただし，⑦のヒトパルボウイルスB19は，紅斑が出現している妊婦について，このウイルスによる感染症が強く疑われ，IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

①ヘルペスウイルス　②風疹ウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤麻疹ウイルス　⑥ムンプスウイルス　⑦ヒトパルボウイルスB19　⑧水痘・帯状疱疹ウイルス

同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては，いずれか一方の点数を算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては，いずれか一方の点数を算定する。

ウイルス抗原検査の特徴

検査方法	原　　理	特　　徴
シェル・バイアル法	シェル・バイアル(円筒形容器)内のスライドグラスに感受性細胞を培養し，検体を接種した後遠心操作を行う。24～48時間培養後に，ウイルス特異的抗体を用いた蛍光抗体法(FA)により，培養で発現したウイルス特異抗原を検出。	感染性のあるウイルスの検索が，ウイルス分離培養に較べ短時間で可能
酵素免疫法(EIA)	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ，酵素反応により検出。特異抗体に直接酵素を標識して検出する直接法と二次抗体に酵素標識する間接法がある。	高感度
蛍光抗体法(FA)	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ，蛍光色素により検出。特異抗体に直接蛍光物質を標識して検出する直接法と二次抗体に蛍光物質を標識する間接法がある。	特異性が高い
遺伝子増幅法(PCR)	熱変性1本鎖DNAに目的のプライマー（特異的に増幅させたい領域の各DNA末端と相補的20～30塩基のDNA断片）を結合させ，DNAポリメラーゼによりDNA合成反応を行い，これを繰り返すことにより目的とするDNA配列を指数関数的に増幅。	高感度・特異性が高い
サザンブロット ハイブリダイゼーション	制限酵素で消化した検体DNAをアガロース電気泳動で分画，変性させた1本鎖DNAをメンブランに転写後，標識プローブとハイブリダイゼーションさせ，目的遺伝子を検出。	DNAの量的，質的変化の異常を解析

ウイルス感染症検査

肝炎ウイルス検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
肝炎ウイルス検査	E661 3 (5F350)	HA抗体	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 146 ※5	CLIA	63ページ参照	不 IgG 型を測定しています。 &I
	E664 0 (5F350)	IgM-HA抗体	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4		CLIA	63ページ参照	&I
	M739 9 (5F016)	HBs抗原	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	29 ※5	CLEIA	(－)	
	M007 1 (5F016)	HBs抗体	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	32 ※5	CLEIA	(－)	
	0593 3 (5F016)	HBs抗原〔CLEIA〕	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	88 ※5	CLEIA	1.0未満(－) (C.O.I)	不
	A021 7	HBs抗原(HQ)	血清 0.6	01 ⬇ X	凍結 (21日)	2～4	88 ※5	CLEIA	0.005未満 (IU/mL)	溶血および不活性（非働化）した検体でのご依頼は避けてください。 &I
	A003 7 (5F016)	HBs抗体〔CLEIA〕	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	88 ※5	CLEIA	10.0未満 (mIU/mL)	不 (基準値について) 10.0mIU/mL は，HBV ワクチンの再接種基準のためのカットオフ値です（最小防御抗体価）。
	1416 8 (5F019)	HBe抗原	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	104 ※5	CLEIA	C.O.I 1.0未満	不 &I
	1227 8 (5F019)	HBe抗体	血清 0.7	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	104 ※5	CLEIA	INHIBITON 60未満 (%)	
	(5F018)	HBc抗体	血清 各0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❷ 137 ※5	PHA	陰性(64未満) (倍)	&I
	A059 6 (5F018)	HBc抗体(IgG)			冷蔵			CLEIA	C.O.I 1.0未満	不
	1238 6 (5F018)	IgM-HBc抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❷ 146 ※5	CLIA	S/CO 1.00未満	&I
	K416 9	HBVゲノタイプ	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❸ 340 ※5	EIA		HBs 抗原量の少ない検体は，判定保留となる場合があります。 &I

❶「HA抗体」と「IgM-HA抗体」を同時に測定した場合は，一方の所定点数のみを算定する。
❷「HBc抗体」と「IgM-HBc抗体」を同時に測定した場合は，一方の所定点数を算定する。
❸B型肝炎の診断が確定した患者に対して，B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に，患者1人につき1回限り算定できる。

[M739]HBs抗原について

【HBV感染の診断】
B型肝炎ウイルス(HBV) 感染の診断は，他の免疫測定法等と同じく，本製品による陽性または陰性の検査結果のみにより行わず，HBc抗体測定，HBV-DNA定量検査等，他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断してください。特に下記の場合は使用方法にご留意ください。
1.健康診断時のスクリーニング検査
できるだけ検出感度の高いEIA法／化学発光法などを用いた検出試薬を使用し，イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては，十分にご留意ください。
2.緊急検査
緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも，必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお勧めします。
3.B型肝炎と診断された患者の経過観察検査
EIA法／化学発光法，凝集法，イムノクロマト法等いずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが，陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお勧めします。
(注)HBV感染直後はウイルス量が極めて少なく，どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウインドウ(空白)期間」と呼ばれており，ウインドウ時に採取された血液では，HBs抗原は必ず検出されるとは限りません。
【性　能】
〔A021〕感度0.0050IU/mL以上

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
肝炎ウイルス検査	K130 6 (5F018)	B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜5	❶❷ 266 ※5	CLEIA	3.0未満 (LogU/mL)	&Ɜ
	A238 7 (5F015)	HBV DNA定量(IU)	血清 1.8	P1	凍結 (21日)	3〜5	❶ 271 ※6	PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (LogIU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	0591 5 (5F360)	HCV抗体(第3世代)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1〜2	108 ※5	CLEIA	1.0未満(−) (COI)	不 不活化（非働化）検体は偽陽性を呈する場合がありますので避けてください。
	3435 5 (5F360)	HCV群別(グルーピング)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❸ 227 ※5	CLEIA	(グループ)	不 不活化（非働化）検体は，判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I

❶「HBcrAg」と「HBV DNA定量」を同時に測定した場合は，主たるもののみ算定する。
❷HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で測定した場合に1月に1回に限り算定する。
❸C型肝炎の診断が確定した患者に対して，C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に，患者1人につき1回に限り算定できる。

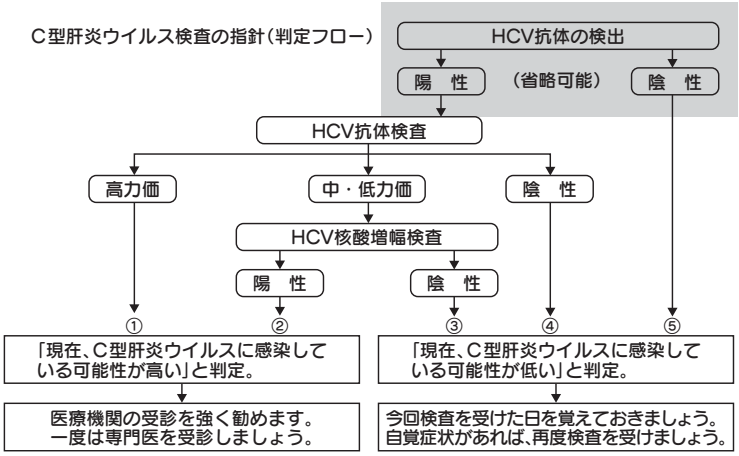
HCV抗体(第3世代)について

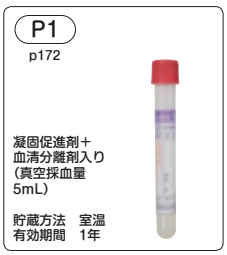
本検査に用いている試薬の添付文書には重要な基本的注意点として，「C型肝炎ウイルス(HCV) 感染の診断は，本製品による検査結果のみで行わず，HCV-RNA測定等，他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断すること。」が記載されております。

肝炎ウイルス項目の判定基準

検査項目		陰性	保留	陽性
HA 抗体〔CLIA〕	S/CO	1.00未満		1.00以上
IgM-HA 抗体〔CLIA〕	S/CO	0.80未満	0.80〜1.20	1.21以上

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
HCV検診	4188 9	肝炎ウイルス検診セット(HBs抗原)	血清 1.0 と 血清 1.8	X と P1	冷蔵 と 凍結	2〜10		CLEIA RT-PCR (リアルタイムPCR)		必ず検体を2本ご提出ください。HCV 抗原検査は，HCV 抗体が，中力価もしくは低力価の場合に自動追加し検査を実施いたします。HCV RNA 定性検査は，HCV 抗原検査が陰性の場合に自動追加し検査を実施いたします。下記参照 &I
		肝炎ウイルス検診セット	血清 0.5 と 血清 1.8	X と P1	冷蔵 と 凍結	2〜10		CLEIA RT-PCR (リアルタイムPCR)		





肝炎ウイルス検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
肝炎ウイルス検査	6234 5 (5F360)	HCV抗原(コア蛋白質)	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	108 ※5	CLIA	3.0未満 (定量下限値) (fmol/L)	&I
	E660 4 (5F360)	HCV RNA定量	血清 1.8	P1	凍結 (21日)	3〜5	❶ 437 ※6	RT-PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (LogIU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	6574 8 (5F360)	HCV RNA コアジェノタイプ	血清 0.5	P1	凍結 (3ヵ月)	3〜5		RT-PCR	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(5F360)	HCV RNA 1b(NS5A)	血清 0.5	P1	凍結 (3ヵ月)	10〜14		サンガー法	AA2209-2248 検出せず (変異数)	重 HCV ジェノタイプが1b 型のみ検査対象です。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	A029 9 (5F363)	HCV DCV耐性変異 (L31/Y93)	血清 0.5	P1	凍結 (21日)	10〜14		ダイレクトシーケンス法およびCycleave PCR法		重 HCV ジェノタイプが1b 型のみ検査対象です。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分にご注意ください。 &I
	K568 1 (5F370)	IgA-HEV抗体 (定性)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜5	210 ※5	EIA	陰性	&I

❶「HCV RNA定量」及び「HCV核酸検出」を併せて実施した場合は，いずれか一方に限り算定する。

P1
p172

凝固促進剤＋
血清分離剤入り
(真空採血量
5mL)

貯蔵方法　室温
有効期間　1年

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症抗体検査	3362 6 (5E106)	マイコプラズマニューモニエ		速やかに遠心 血清 0.2	01⬇X	冷蔵	3~5	32 ※5	CF	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	3363 5 (5E106)			血清 0.2			2~4		PA	40未満 (倍)	下記参照(＊PA) &I
	(5E128)	ツツガムシギリアム	IgG	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	3~6	207 ※5	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してください。
	3375 2 (5E129)		IgM								
	3378 9 (5E125)	ツツガムシカトー	IgG	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	3~6	207 ※5	FA	10未満 (倍)	
	3377 0 (5E126)		IgM								
	(5E122)	ツツガムシカープ	IgG	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	3~6	207 ※5	FA	10未満 (倍)	&I
	3379 8 (5E123)		IgM								
	7653 9 (5E018)	クラミジアトラコマティス	IgG	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	2~4	❶ 200 ※5	EIA	0.90未満 陰性 判定基準:下記参照	&I
	7655 7 (5E017)		IgA								
	(5E027)	クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ	IgG	血清各0.2	01⬇X	冷蔵	3~5		FA	10未満 (倍)	下記参照(＊FA) &I
	(5E028)		IgM								
	3361 7 (5E026)	オーム病クラミドフィラ((クラミジア)シッタシ)		速やかに遠心 血清 0.2	01⬇X	冷蔵	3~5	❷ 79 ※5	CF	4未満 (倍)	下記参照(＊CF) &I
	A023 5 (5E031)	クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ	IgG	血清各0.2	01⬇X	冷蔵 (21日)	2~4	❸ 70 ※5	ELISA	30未満 陰性 判定基準:下記参照	
	A024 4 (5E032)		IgA					❸ 75 ※5		8未満 陰性 判定基準:下記参照	
	K425 9 (5E033)		IgM					❸ 156 ※5		0.5未満 陰性 判定基準:下記参照	&I

❶「IgG抗体価」,「IgA抗体価」及び「IgM抗体価」のうち2項目以上を同時に測定した場合は，主たるもののみ算定する。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(61ページ)を参照ください。
❸「クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体価」を「クラミドフィラ・ニューモニエIgG」又は「クラミドフィラ・ニューモニエIgA」と併せて実施した場合は，主たるもの1つに限り算定する。
＊CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ，測定不能になる場合がありますので，抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
(出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍))
＊PA:出発希釈　40倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　設定なし　出発希釈　2倍)
＊FA:出発希釈　10倍(髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

[7653，7655]クラミジアトラコマティスIgG，IgA(判定基準)

Cut off index	判定
0.90未満	(−)
0.90~1.09	(±)＊
1.10以上	(+)

＊10日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

[A023]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgG(判定基準)

EIU値	判定
EIU<30	陰　性(−)
30≦EIU≦45	判定保留(±)＊1
EIU>45	陽　性(+)

＊1:28日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

[A024]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgA(判定基準)

EIU値	判定
EIU<8	陰　性(−)
8≦EIU≦12	判定保留(±)＊1
EIU>12	陽　性(+)

＊1:28日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

[K425]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgM(判定基準)

S/CO値	判定
S/CO<0.5	陰　性(−)
0.5≦S/CO≦1.1	判定保留(±)＊2
S/CO>1.1	陽　性(+)

＊2:10日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

感染症抗原検査

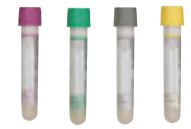
	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症抗原検査	K600 4 (5E107)	マイコプラズマニューモニエDNA	咽頭ぬぐい液	r	凍結(21日)	2～4	300 ※6	LAMP法	陰性	重 咽頭ぬぐい液は，滅菌綿棒で拭い，滅菌ポリスピッツ（r）に綿棒を入れて凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	K601 3 (5E107)		喀痰 2.0	ℓ						
	A004 6 (6B615)	淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時測定	分泌物	F3	冷蔵	2～4	❶ 278 ※6	PCR（リアルタイムPCR）	陰性	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 分泌物，部分尿：検体に大量の血液が混入した場合は，正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合，PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので，尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液：検体採取前の食事，うがい，歯磨きなどは避けてください。 &I
	A005 5 (6B615)		部分尿 5	Y1						
	A006 4 (6B615)		うがい液 5							
	A009 1 (6B615)		咽頭ぬぐい液	F3						
	7700 6 (5E021)	クラミジアトラコマティスDNA	分泌物	F3	冷蔵	2～4	❶❷ 198 ※6	PCR（リアルタイムPCR）	陰性	重 凍 凍結保存は避けてください。 男性の場合，PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので，尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 分泌物，部分尿：検体に大量の血液が混入した場合は，正しい結果が得られないことがあります。 うがい液：検体採取前の食事，うがい，歯磨きなどは避けてください。 &I
	7644 9 (5E021)		部分尿 5	Y1						
	K589 8 (5E021)		うがい液 5							
	4759 5 (6B610)	淋菌DNA	分泌物	F3	冷蔵	2～4	❶❸ 204 ※6	PCR（リアルタイムPCR）	陰性	重 凍結保存は避けてください。 男性の場合，PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので，尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 分泌物，部分尿：検体に大量の血液が混入した場合は，正しい結果が得られないことがあります。 うがい液：検体採取前の食事，うがい，歯磨きなどは避けてください。 &I
	4719 9 (6B610)		部分尿 5	Y1						
	K590 6 (6B610)		うがい液 5							

❶「淋菌およびクラミジアトラコマチスrRNA同時同定」，「淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時測定」，「淋菌抗原定性」，「クラミジアトラコマチス抗原」，細菌培養同定検査（淋菌およびクラミジアによる感染を疑って実施するもの），「淋菌DNA」，「クラミジアトラコマチスDNA」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
❷「クラミジアトラコマチスDNA」，「クラミジアトラコマチス抗原」を併用した場合は，主なもののみ算定する。
❸「淋菌DNA」，「淋菌抗原定性」又は「細菌培養同定検査」（淋菌およびクラミジアによる感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は，主なもののみ算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症抗原検査	A275 6 (6B620)	結核菌群核酸同定(TRC)	喀痰・気管支洗浄液 胃液・中間尿・胞水などの検体(上記以外はお問い合わせください))	P116参照	冷蔵	2～4	410 ※6	TRC	陰性	検体は十分量をご提出願います。(検体量が少ない場合は検出感度が低下します)スワブで提出された場合,きわめて検体量が少ないために偽陰性となることがありますので,ご提出はお避けください。 &ヤ
	A276 5 (6B621)	MAC核酸同定(TRC)		P116参照	冷蔵	2～4	❶ 421 ※6	TRC	アビウム 陰性 イントラセルラー 陰性	
	K602 2 (5E301)	結核菌特異的IFN-γ	血液 5.0	G	室温(32時間)	3～5	612 ※5	ELISPOT法	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。検体は採取後,当日中にご提出ください。 &I
	M025 1	曜日指定 クォンティフェロンTBゴールドプラス	血液 1.0(各色とも)	QFT	室温(22±5℃)	2～8	612 ※5	ELISA法	(－)	専用容器にてご提出ください。検体は採血後,当日中にご提出ください。
	(6B614)	ニューモシスチスカリニ(P.jirovecii)DNA	喀痰 2.0	ℓ	凍結(3ヵ月)	3～5		PCR	陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので,検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	(6B614)		肺胞洗浄液 0.5	r						
	(6B614)		胸水 0.5							
	(6B614)		組織 50mg			3～5				

❶他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。抗酸菌同定検査が併せて実施された場合にあっては,主たるもののみ算定する。

QFT



結核菌感染診断試薬
ヘパリンリチウム
貯蔵方法　4～25℃
有効期間　製造後15カ月

G
p166

ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

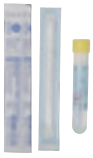
W9
p180

内容
保存液　1mL
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

Y1
p180

内容
グアニジン塩酸塩
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

F3
p164



内容
グアニジン塩酸塩
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

ℓ
p171

滅菌喀痰採取容器
貯蔵方法　室温

r
p174

貯蔵方法　室温

感染症関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症関連検査	4412 9 (5E105)	寒冷凝集反応	速やかに遠心 血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	11 ※5	HA	256未満 (倍)	採血後，速やかに血清分離してください。(血清分離までは37℃保存) &I
	0502 3 (5E035)	抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1〜2	15 ※5	ラテックス凝集免疫法	239以下 (IU/mL)	
	4411 0 (5E036)	抗ストレプトキナーゼ抗体(ASK)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	29 ※5	PA	成人 2560未満 小児 5120未満 (倍)	&I
	(5E051)	ブルセラ凝集反応	血清 1.0	01 ⬇ X	凍結	事前にご確認ください	200 ※5	細菌凝集反応	アボルタス 40未満 カニス 160未満 (倍)	&E
	4657 8 (5E068)	便中ヘリコバクターピロリ抗原	糞便(専用スティック1本)	d7	冷蔵	2〜4	142 ※5	ELISA	陰性	凍 凍結保存は避けてください。必ず専用容器で採取してご提出ください。 &I
	A310 6 (5E065)	抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	80 ※5	ラテックス凝集比濁法	10未満 (U/mL)	&I
	K219 8 (5C215)	プロカルシトニン	血清 0.4	01 ⬇ X	凍結(28日)	2〜4	❶ 292 ※3	CLEIA	0.05以下 (ng/mL)	敗血症（細菌性）鑑別診断のカットオフ値：0.50ng/mL 未満 敗血症（細菌性）重症度判定のカットオフ値：2.00ng/mL 以上 &I
	6449 7 (5E046)	エンドトキシン定量	血液 2.0(ノボヘパリン加)	T3	冷蔵	2〜4	❶ 243 ※5	比濁時間分析法	1.0以下(カットオフ値) (pg/mL)	凍 凍結保存は避けてください。1.0pg/mL は，グラム陰性菌による敗血症診断のカットオフ値です。1.1pg/mL 以上は，グラム陰性菌による敗血症の疑いがあります。β-D- グルカン以外との重複依頼は避けてください。本検査においては，血漿中のエンドトキシンを測定いたします。血液 2.0mL を専用容器（T3）にて採血し，よく混和してください。室温保存ではデータ影響が認められるため，速やかに冷蔵保存にてご提出ください。 &I
	3626 3 (5E151)	β-D-グルカン	血液 2.0(ノボヘパリン加)	T3	冷蔵	2〜4	❷ 207 ※5	発色合成基質法	20.0以下(カットオフ値) (pg/mL)	凍 凍結保存は避けてください。(基準値について）20pg/mL は，深在性真菌症のカットオフ値です。エンドトキシン定量以外の項目との重複依頼は避けてください。本検査においては，血漿中の（1→3）- β -D- グルカンを測定いたします。血液2.0mL を専用容器（T3）にて採血し，よく混和させ，速やかに冷蔵保存にてご提出ください。グルカン製剤（抗悪性腫瘍剤），セルロース膜で精製した血液製剤などの投与，セルロース膜での透析後の血液などは，データが高値を示す可能性があります。また，多発性骨髄腫 ・ 高γ - グロブリン血症では非特異反応を示す可能性があります。溶血の度合いによっては検査不能となる場合があります。 &I
	K141 4 (5E142)	カンジダマンナン抗原	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❷❸ 134 ※5	ELISA	0.05未満 (U/mL)	フィブリン除去時に竹串を使用すると，高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いに十分ご注意ください。 &I

❶「プレセプシン」「プロカルシトニン」と「エンドトキシン定量」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❷「β-D-グルカン」を「カンジダ抗原」,「カンジダマンナン抗原」,「D-アラビニトール」,「アスペルギルス抗原」又は「クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原」と併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❸保険請求上の名称は「カンジダ抗原定量」です。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症関連検査	3591 2 (5E140)	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶❷ 174 ※5	ラテックス凝集反応	陰性	EDTA（抗凝固剤）は酵素処理に影響を与え，検査不能となる場合がありますので，EDTA の使用は避けてください。 &I
	(5E140)		髄液 0.8	X	冷蔵					
	3679 5 (5E148)	アスペルギルス抗原	血清 1.0	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 161 ※5	ELISA	0.5未満 陰性	フィブリン除去時に竹串を使用すると，高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いに十分ご注意ください。また，ピペラシリン / タゾバクタム合剤の投与で偽陽性となる場合があります。 &I
	8551 1 (5E146)	アスペルギルス抗体	血清 1.0	01 ⬇ X	冷蔵	5〜7		オクタロニー法	陰性	&I
	K478 1 (5E054)	百日咳抗体〔EIA〕	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	2〜4	264 ※5	EIA	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 (EU/mL)	&I
	A235 0	百日咳菌DNA	後鼻腔ぬぐい液	VS4 r	凍結 (21日)	2〜4	❸ 360 ※6	LAMP法	陰性	重 後鼻腔ぬぐい液は、必ずフロックスワブ（VS4）で採取し、滅菌ポリスピッツ（r）にスワブを入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &I
	3471 5 (5E156)	トキソプラズマ IgG抗体	血清 各0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	93 ※5	ELISA	6未満 判定基準：下記参照	IgM 抗体は長期間陽性が持続する場合がありますので、下記判定基準をご参照ください。 &I
	3472 4 (5E157)	トキソプラズマ IgM抗体					95 ※5		0.8未満 判定基準：下記参照	

❶「β-D-グルカン」を「カンジダ抗原」,「カンジダマンナン抗原」,「D-アラビニトール」,「アスペルギルス抗原」又は「クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原」と併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❷保険請求上の名称は「クリプトコックス抗原定性」です。
❸「百日咳菌DNA」は，関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床診断例の定義を満たす患者に対して，LAMP法により測定した場合には算定できる。

[3471] トキソプラズマIgG抗体（判定基準）

IU/mL	判定	解釈
6未満	陰性	トキソプラズマの感染は認められません。
6〜8	判定保留	低濃度の抗体が認められ，トキソプラズマ感染の疑いがあります。
9以上	陽性	トキソプラズマ感染が考えられます。

[3472] トキソプラズマIgM抗体（判定基準）

Cut off index	判定	解釈
0.8未満	陰性	最近のトキソプラズマ感染のないことが考えられます。
0.8〜0.9	判定保留	10〜20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	陽性	

T3
p175

(真空採血量2mL)
内容
ノボヘパリン
15IU
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

d7
p162

内容
リン酸バッファー
1.0mL
財蔵方法　室温
有効期間　1年

感染症関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症関連検査	M012 5 (5E074)	梅毒定性	RPR (LA)	血清 各0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	❶ 15 ※5	ラテックス比濁法	(−)	乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	M010 7 (5E075)		TP抗体 (LA)					❷ 32 ※5			
	3474 2 (5E079)	FTA-ABS		血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	138 ※5	FA	陰性	IgG 抗体を検出しています。下記参照（＊） &I
	M013 4 (5E074)	梅毒定量	RPR (LA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	❸ 34 ※5	ラテックス比濁法	1.0未満 (R.U.)	乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	0728 3 (5E075)		TP抗体 (LA)	血清 0.5				❹ 53 ※5	ラテックス比濁法	5未満 (U/mL)	乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	(5E201)	抗アニサキスIgG・A抗体		血清 0.3	01 ⬇ X	凍結	9～14	210 ※5	ELISA	1.50以下 (INDEX)	& N

❶保険請求上の名称は「梅毒血清反応(STS)定性」です。
❷保険請求上の名称は「梅毒トレポネーマ抗体定性」です。
❸保険請求上の名称は梅毒定量RPR(LA)が「梅毒血清反応(STS)定量」，梅毒定量RPR法が「梅毒血清反応(STS)半定量」です。
❹保険請求上の名称は，梅毒定量TP抗体(LA)が「梅毒トレポネーマ抗体定量」，梅毒定量TPHAが「梅毒トレポネーマ抗体半定量」です。

＊TPHA：髄液の測定も可能です　検体量　0.5mL(冷蔵)　基準値　陰性(10倍未満)
＊FTA-ABS：髄液の測定も可能です　検体量　0.5mL(冷蔵)　基準値　陰性

梅毒血清反応検査における抗体価の相互関係と結果の解釈

梅毒血清反応検査の結果の解釈

STS〔RPR(LA)〕	TP抗体(LA)またはFTA-ABS	結果の解釈
(−)	(−)	非梅毒 まれに梅毒感染初期
(+)	(−)	生物学的偽陽性(BFP) まれに梅毒感染初期
(+)	(+)	梅毒(早期から晩期) 梅毒治癒後の抗体保有者
(−)	(+)	梅毒治癒後の抗体保有者 Tp抗原系の偽陽性(ごくまれ)

梅毒感染初期が疑われる場合は3～4週間後に再検査する

[0728]梅毒定量　TP抗体(LA)(判定基準)

U/mL	判定
5未満	陰　性
5～9	判定保留
10以上	陽　性

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	M016 1 (5G160)	リウマチ因子(RF)定量	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	❶❷❸ 30 ※5	ラテックス凝集免疫比濁法	15以下 (IU/mL)	
	E872 9 (5G167)	抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❹❺ 204 ※5	CLEIA	4.5未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	3674 0 (5G166)	抗ガラクトース欠損IgG抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶❷❹ 117 ※5	ECLIA	6.0未満 (AU/mL)	&I
	3310 3 (5G161)	IgG型リウマチ因子	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶❹ 203 ※5	ELISA	2.0未満	&I
	4646 0 (3B503)	MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶❹ 116 ※5	LTIA	M 36.9～121 F 17.3～59.7 (ng/mL)	不 不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	1258 4 (5G010)	抗核抗体(ANA)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	105 ※5	FA	40未満 (倍)	&I
	3513 8 (5B010)	血清補体価	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結 (−20℃以下)(1ヵ月)	2～4	38 ※5	Mayer法相対比濁法	25.0～48.0 (CH50/mL)	血清分離後，直ちに−20℃以下で保存してください。 &I
	3505 7 (5G020)	抗DNA抗体〔RIA〕	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	168 ※5	RIA硫安塩析法	6.0以下 (IU/mL)	
	E667 7 (5G026)	抗ss-DNA IgG抗体	血清 各0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4		ELISA	25以下 (AU/mL)	
	(5G028)	抗ss-DNA IgM抗体				2～8			17未満 (U/mL)	
	E669 5 (5G036)	抗ds-DNA IgG抗体	血清 各0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	168 ※5	ELISA	12以下 (IU/mL)	
	(5G038)	抗ds-DNA IgM抗体				2～8			6未満 (U/mL)	&I

❶「リウマチ因子」,「MMP-3」,「抗ガラクトース欠損IgG抗体」,「免疫複合体(C1q)」,「免疫複合体(モノクローナルRF)」,「IgG型リウマチ因子」,「免疫複合体(C3d)」のうち3項目以上を併せて実施した場合には，主たるもの2つに限り算定する。
❷「抗ガラクトース欠損IgG抗体」と「リウマチ因子」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❸保険請求上の名称は，リウマチ因子(RF)定量が「リウマトイド因子(RF)定量」です。
❹「抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体」,「MMP-3」,「抗ガラクトース欠損IgG抗体」,「免疫複合体(C1q)」,「免疫複合体(モノクローナルRF)」,「IgGリウマチ因子」,「免疫複合体(C3d)」のうち2項目以上を併せて実施した場合には，主たるもの1つに限り算定する。
❺関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に，原則として1回を限度として算定できる。
ただし，当該検査結果が陰性の場合においては，3月に1回限り算定する。なお当該検査を2回以上算定するに当たっては，検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。別に関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては，患者1人につき1回に限り算定する。

[1258]抗核抗体(ANA)の成人健常者における出現率

抗体価	出現率(%)
40倍未満	67～75
40倍	16～22
80倍	7～13
160倍	1～4
320倍	1

＊当社検討結果(最小・最大値)より

自己免疫関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	4158 2 (5G500)	ループスアンチコアグラント	速やかに 冷却遠心 血漿 各1.0	L ⬇ X	凍結 (21日)	2～4		APTT 凝固時間法	46.5以下 (秒)	採血後，速やかに室温で1500G以上15分間遠心後，バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は，測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r：遠心器のローター半径（cm） n：1分間あたりの回転数（rpm） &ヤ
	A049 7 (5G500)						281 ※5	リン脂質中和法	1.16以下 (秒)	
	4167 2 (5G501)					2～4		希釈ラッセル蛇毒時間法	1.3未満	
	3142 0 (5G504)	抗カルジオリピン β_2グリコプロテインⅠ複合体抗体（抗CL・β_2GPⅠ抗体）	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (1ヵ月)	2～4	❶ 223 ※5	ELISA	3.5未満 (U/mL)	
	6730 4 (5G508)	抗カルジオリピン抗体(IgG)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 232 ※5	ELISA	10未満 (U/mL)	
	6757 5 (5G510)	抗カルジオリピン抗体(IgM)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	3～5		ELISA	8未満 (U/mL)	
	3518 3 (5G066)	抗RNP抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～5	144 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	&Ⅰ
	A213 4 (5G066)	抗RNP抗体(CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2～4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &Ⅰ
	3520 0 (5G065)	抗Sm抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～5	151 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	&Ⅰ
	A214 3 (5G065)	抗Sm抗体(CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2～4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &Ⅰ
	3522 8 (5G076)	抗SS-A/Ro抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～5	163 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	&Ⅰ
	A215 2 (5G076)	抗SS-A/Ro抗体(CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2～4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &Ⅰ
	3524 6 (5G077)	抗SS-B/La抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～5	161 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	&Ⅰ
	A216 1 (5G077)	抗SS-B/La抗体(CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2～4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &Ⅰ
	3526 4 (5G085)	抗Scl-70抗体	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～5	161 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	&Ⅰ
	A217 0 (5G085)	抗Scl-70抗体(CLEIA)	血清 0.3		冷蔵	2～4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &Ⅰ
	K034 3 (5G087)	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	170 ※5	ELISA	28未満 判定基準：下記参照	&Ⅰ

❶「抗CLβ_2GPⅠ抗体」と「抗カルジオリピン抗体」を併せて実施した場合，主たるもののみ算定する。

[K034]抗RNAポリメラーゼⅢ抗体(判定基準)

Index	判　定
28未満	陰性(－)
28～50未満	(±)
50以上	陽性(＋)

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	9500 6 (5G120)	抗Jo-1抗体	血清 各0.3	01 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❹ 140 ※5	オクタロニー法	陰性 (倍)	&I
	A218 9 (5G120)	抗Jo-1抗体(CLEIA)			冷蔵	2〜4		CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	6203 9 (5G090)	抗セントロメア抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	179 ※5	ELISA	10.0未満 判定基準：下記参照	&I
	3539 0 (5G175)	抗ミトコンドリア抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	186 ※5	FA	陰性(20未満) (倍)	
	A008 2 (5G176)	抗ミトコンドリアM2抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	194 ※5	CLEIA	7.0未満	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	4162 7 (5G555)	抗LKM-1抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜5	221 ※5	ELISA	17未満 判定基準：下記参照	&I
	3537 2 (5G180)	抗平滑筋抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4		FA	陰性(40未満) (倍)	
	7710 5 (5G551)	抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	267 ※5	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	4184 3 (5G552)	抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	265 ※5	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	
	7685 4 (5G420)	抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	270 ※5	CLEIA	3.0未満 (U/mL)	
	3532 7 (5G610)	免疫複合体(C1q)	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結	2〜4	❶❷ 157 ※5	ELISA	3.0以下 (μg/mL)	&I
	(5G635)	免疫複合体(モノクローナルRF)	血清 0.2	01 ⬇ X	凍結 (21日)	2〜8	❶❷ 194 ※5	EIA	4.2未満 (μg/mL)	
	A064 0	抗アクアポリン４抗体	血清 0.4	01 ⬇ X	凍結 (28日)	2〜8	❸ 1000 ※5	ELISA	3.0未満 陰性 (U/mL)	&I

❶「リウマチ因子」,「MMP-3」,「抗ガラクトース欠損IgG抗体」,「免疫複合体(C1q)」,「免疫複合体(モノクローナルRF)」,「IgG型リウマチ因子」,「免疫複合体(C3d)」のうち3項目以上を併せて実施した場合には，主たるもの2つに限り算定する。
❷「抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体」,「MMP-3」,「抗ガラクトース欠損IgG抗体」,「免疫複合体(C1q)」,「免疫複合体(モノクローナルRF)」,「IgGリウマチ因子」,「免疫複合体(C3d)」のうち2項目以上を併せて実施した場合には，主たる1つに限り算定する。
❸抗アクアポリン４抗体は，ELISA法により視神経脊髄炎の診断（治療効果判定を除く）を目的として測定した場合に算定できる。なお，検査の結果は陰性であったが臨床症状，検査所見等の変化を踏まえ視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して疾患の診断を行う必要があり，再度実施した場合も算定できる。
❹「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体(オクタロニー法)」又は「抗Jo-1抗体(CLEIA)」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。

[6203]抗セントロメア抗体(判定基準)

Index	判　定
10.0未満	陰　性(−)
10.0〜15.9	判定保留(±)
16.0以上	陽　性(+)

[4162]抗LKM-1抗体(判定基準)

Index	判　定
17未満	陰　性(−)
17〜49	判定保留(±)
50以上	陽　性(+)

L
p171

3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量4.5mL)

3.2%クエン酸Na 0.5mL
貯蔵方法　室温
有効期間　1年(25本入りプラスティックケース開封後1カ月)

自己免疫関連検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	3541 7 (5G185)	抗胃壁細胞抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2~4		FA	陰性(10未満) (倍)	&I
	K301 6 (5G190)	抗内因子抗体	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2~6		CLEIA	(−)	ビタミンB_{12}摂取後1週間以内の検体は偽陽性を呈する可能性がありますので，ご依頼は避けてください。 &I
	6077 0 (5G396)	抗デスモグレイン1抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❶ 300 ※5	CLEIA	20.0未満 (U/mL)	不活性（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 &I
	6079 8 (5G397)	抗デスモグレイン3抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❶ 270 ※5	CLEIA	20.0未満 (U/mL)	
	E884 6 (5G398)	抗BP180抗体 (血清中抗BP180NC16a抗体)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	270 ※5	CLEIA	9.0未満 (U/mL)	
	(5G395)	抗表皮成分自己抗体 (直接法)	皮膚組織 5×5×3mm	u1	凍結	12~14	❷ 400 + 1200 ※7	蛍光抗体染色法		実施抗原は,「IgG，IgA，IgM，C3」の4抗原です。 & D
	(5G351)	抗下垂体抗体1	血清 0.9	01 ⬇ X	凍結	7~13		間接蛍光抗体法	(−)	&N
	3580 4 (5G520)	抗血小板抗体	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	3~6	262 ※5	MPHA (混合受身凝集法)	陰性	不 採血後室温で静置し完全に血餅凝固後，血清分離してください。(不活性化しないでください。) 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &ヤ
	3315 8 (5G525)	曜日指定 PAIgG (血小板関連IgG)	血液 7.5 (ACD-A 液加)	B	冷蔵	2~4	198 ※5	ELISA	46以下 (ng/10^7cells)	凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月~金曜日です。 末梢血の血小板が3×10^4/μL以下の場合は，専用容器（B）2本を使用し必ず10mL以上採血して下さい。 &ヤ
	K593 3 (5G530)	HIT抗体 (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結	2~6	390 ※5	ラテックス比濁法	1.0未満 陰性 (U/mL)	採血後，速やかに血漿分離してください。血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体（IgG・IgM・IgA）を測定しております。なお，検査結果はグロブリンクラス別での報告ではありません。 &ヤ
	4497 6 (5G385)	抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	3~7	❸ 822 ※5	RIA	0.2以下 (nmol/L)	&I
	3550 7 (5G440)	精子不動化抗体	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (9ヵ月)	5~7		不動化法 (Isojima法)	(−) 判定基準：下記参照	溶 溶血・乳び検体などでは，精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。 &I
	(5G440)	精子不動化抗体 (SI50)	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (9ヵ月)	5~7		不動化法 (Isojima法)	1.0未満	

❶「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」を併せて測定した場合は，主たるもののみ算定する。
❷確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して，標本作製を実施した場合には，1,200点を所定点数に加算する。「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは，悪性リンパ腫,悪性中皮腫，肺悪性腫瘍（腺癌，扁平上皮癌），消化管間質腫瘍（GIST），慢性腎炎，内分泌腫瘍，軟部腫瘍，皮膚の血管炎，水疱症（天疱瘡,類天疱瘡等）悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は，当該加算は算定できない。
❸「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」と「抗アセチルコリンレセプター抗体」を併せて測定した場合は，主たるもののみ算定する。

[3550]精子不動化抗体(判定基準)

SIV値	判　定
1.40以下	(−)
1.41~1.99	判定保留
2.00~20.00	(+)
20.01以上	STRONG POSITIVE

K1
p169
3.2%クエン酸ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

B
p159
ACD-A保存液入り
内容
ACD-A保存液
貯蔵方法　室温
有効期間　1年
(アルミ包装開封後1カ月)

u1
p176
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

抗核抗体(ANA)染色型と主な関連検査および疾患

染色型	主な関連検査	主な関連疾患
Homogeneous型 (均質型)	抗DNA抗体(DNAテスト)[4]	全身性エリテマトーデス
	抗DNA抗体〔RIA〕	
	抗ss-DNA IgG抗体	
	抗ss-DNA IgM抗体	
	抗ds-DNA IgG抗体	
	抗ds-DNA IgM抗体	
	抗ヒストン抗体	全身性エリテマトーデス，薬剤性ループス
	抗核抗体(LEテスト)	全身性エリテマトーデス
Peripheral型[1] (辺縁型)	抗DNA抗体〔RIA〕	全身性エリテマトーデス
	抗ds-DNA IgG抗体	
	抗ds-DNA IgM抗体	
Speckled型 (斑紋型)	抗RNP抗体〔オクタロニー法〕	混合性結合組織病，強皮症， 全身性エリテマトーデス
	抗RNP抗体〔CLEIA〕	
	抗Sm抗体〔オクタロニー法〕	全身性エリテマトーデス
	抗Sm抗体〔CLEIA〕	
	抗SS-A/Ro抗体〔オクタロニー法〕	シェーグレン症候群，全身性エリテマトーデス， 関節リウマチ
	抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	
	抗SS-B/La抗体〔オクタロニー法〕	シェーグレン症候群
	抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕	
	抗Ki抗体〔オクタロニー法〕[4]	全身性エリテマトーデス
	抗Ku抗体〔オクタロニー法〕[4]	筋炎・強皮症重複症候群
	抗Scl-70抗体〔オクタロニー法〕[3]	強皮症
	抗Scl-70抗体〔CLEIA〕[3]	
Nucleolar型 (核小体型)	抗U3RNP抗体[4]	強皮症
	抗7-2RNP抗体[4]	
	抗RNPポリメラーゼⅢ抗体	
	抗PM-Scl抗体[4]	筋炎・強皮症重複症候群
	抗リボゾームP抗体〔ELISA〕[2]	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
Discrete-Speckled型 (セントロメア型)	抗セントロメア抗体〔ELISA〕	強皮症(CREST症候群)，原発性胆汁性肝硬変
Cytoplasmic型[5] (細胞質型)	抗ミトコンドリア抗体〔FA〕	原発性胆汁性肝硬変
	抗ミトコンドリアM2抗体〔CLEIA〕	
	抗Jo-1抗体〔オクタロニー法〕	多発性筋炎，皮膚筋炎
	抗Jo-1抗体〔CLEIA〕	
	抗SS-A/Ro抗体〔オクタロニー法〕	シェーグレン症候群，全身性エリテマトーデス， 関節リウマチ
	抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	
	抗リボゾームP抗体〔ELISA〕[2]	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
	抗平滑筋抗体	自己免疫性肝炎
PCNA型	抗PCNA抗体〔オクタロニー法〕[4]	全身性エリテマトーデス
PCNA様型	抗Na抗体[4]など	全身性エリテマトーデスなど
核膜型	抗核膜ラミン抗体[4]	原発性胆汁性肝硬変，自己免疫性肝炎など
	抗gp210抗体[4]	
Granular型	抗p80 coilin抗体[4]	原発性胆汁性肝硬変，シェーグレン症候群など
	抗sp-100抗体[4]	
紡錘体型[5] NuMa-1 NuMa-2	 抗NuMa-1抗体[4] 抗NuMa-2抗体[4]	 シェーグレン症候群など 全身性エリテマトーデスなど
中心体型[5]	抗中心体抗体[4]	レイノー病，強皮症など
ゴルジ体型[5]	抗golgin-97抗体[4]など	シェーグレン症候群，全身性エリテマトーデス， 関節リウマチなど

1)Homogeneous型との鑑別は難しく，多くのPeripheral型陽性血清は希釈していくとHomogeneous型に変化します。
2)項目の詳細につきましては営業員へお問い合わせください。
3)染色型はSpeckled型とHomogeneous型の中間的な染色像であり，またNucleolar型が陽性となることがあります。
4)未実施項目です。
5)対応抗原の局在が核ではないため，狭義の抗核抗体には含まれません。

〔参考文献〕
竹内　健，他:医学検査51(9):1256～1264,2002.
三森　経世:リウマチ32(4):366～378,1992.

免疫血液学的検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫血液学的検査	M008 0	ABO血液型	血液 2.0 (EDTA2K加)	g	冷蔵	1～2	24+24 ※5	ペーパー法		凍 凍結保存は避けてください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。
	M009 9	Rh(D因子)式血液型								
	(5H025)	Rh-Hr式血液型	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	C	冷蔵	2～4	152 ※5	カラム凝集法		凍 凍結保存は避けてください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &3
	0518 6 (5H121)	緊急 直接クームス試験	血液 1.0 (EDTA2K加)	g	室温	1～2	34 ※5	試験管法	(－)	重 EDTA-2K も可。＊）血液は採血後，速やかにご提出ください。依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。
	4495 8 (5H122)	間接クームス試験	速やかに遠心 血清 2.0	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	47 ※5	カラム凝集法	陰性	重 抗凝固剤を入れずに採血してください。＊）血液は採血後，速やかに分離し，血清をご提出ください。依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &3
	3577 8 (5H180)	不規則性抗体 (抗体同定・抗体価測定)	速やかに遠心 血清 5.0 と 血液 2.0 (EDTA-2Na加)	(血清) 01 ⬇ X と (血液) C	(血清) 冷蔵 と (血液) 室温	3～5	❶ 159 ※5	カラム凝集法〔クームス法，酵素法(フィシン法)〕		重 ＊）血清と血液（EDTA-2Na 加）をペアでご提出ください。血清につきましては，血液を採血後，速やかに分離してください。依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 &3
	(5H030)	血液型不適合妊娠	速やかに遠心 血清 4.0 と 血液 2.0 (EDTA-2Na加)	(血清) 01 ⬇ X と (血液) C	(血清) 冷蔵 と (血液) 室温	3～5		2-メルカプトエタノール法		重 ＊）血清と血液（EDTA-2Na 加）をペアでご提出ください。血清につきましては，血液を採血後，速やかに分離してください。依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。また，妊婦・ベビー・移植のいずれかを明記してください。 &3

❶手術に際して輸血が行なわれた場合は，免疫血液学的検査，あるいは，輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。
＊検査結果に影響を及ぼすことがありますので検体(血液や血清)は，採血当日中にご提出ください。
なお，検査時において採血後48時間を越えた検体での検査は，参考値としてご報告させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

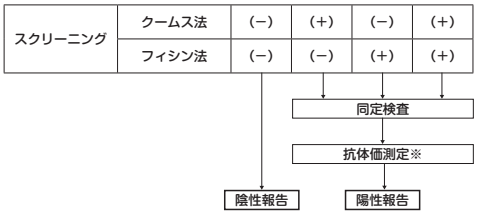
[M008，M009]ABO・Rh(D因子)式血液型について

ABO式血液型
生後1歳未満の乳幼児の場合は，抗A，抗B抗体の産生が不十分なため，表試験のみのご報告となります。成長後の再検査をお勧めいたします。
Rh(D因子)式血液型
ペーパー法陰性の場合は，D陰性確認試験を試験管法で実施いたします。

[4495]間接クームス試験，[3577]不規則性抗体　血液型不適合妊娠(不規則性抗体)について

血漿検体では補体の活性化により検出される抗体を見逃す場合がありますので，血清をご提出ください。

[3577]不規則性抗体について



1.不規則性抗体検査は，カラム凝集法にて，クームス法・酵素法（フィシン法）を実施しております。これらの方法は37℃にて加温するため，低温反応性抗体(冷式抗体および寒冷凝集素)は検出できない場合があります。
2.自己対照陽性時の解離同定試験は実施しておりません。

※一部を除き，不規則性抗体が同定された場合に抗体価測定を実施します。

血球を使用する検査について

血球を使用する検査におきましては，凝固促進剤，分離剤入り容器の使用の際，偽陽性または異常反応を示す場合がありますので，必ず指定容器での提出をお願いいたします。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫グロブリン	3202 3 (5A135)	免疫電気泳動〔抗ヒト全血清による同定〕	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	4~6	❶❷❸ 170 ※5	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので，ご了承ください。年齢，病歴を明記してください。 &ヤ
	A260 2 (5A135)	免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	4~6	❶❷❸ 224 ※5	免疫固定法		
	A261 1 (5A145)	尿中免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンス蛋白の同定)	部分尿10	Y	冷蔵	3~5	201 ※5	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので，ご了承ください。年齢，病歴を明記してください。使用する抗血清はIgG・IgA・IgMκλの5つになります。 &ヤ
	A295 4 (5A141)	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	388 ※5	ラテックス比濁法	κ型3.3~19.4 (mg/L) λ型5.7~26.3 (mg/L) κ/λ比0.26~1.65	&エ
	(5A150)	オリゴクローナルバンド(等電点電気泳動法)	髄液 0.5	X	冷蔵	10~14	❹ 522 ※1	等電点電気泳動法	検出せず	他項目との重複依頼を避けてください。 &ヤ
	3311 2 (5A010)	IgG	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	38 ※5	免疫比濁法	870~1700 (mg/dL)	&エ
	A065 9 (5A050)	IgGサブクラス分画(TIA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~6		免疫比濁法およびラテックス免疫比濁法	IgG1 351~962 IgG2 239~838 IgG3 8.5~140 IgG4 4.5~117 (mg/dL)	&エ
	3312 1 (5A015)	IgA	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	38 ※5	免疫比濁法	110~410 (mg/dL)	
	3313 0 (5A020)	IgM	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	38 ※5	免疫比濁法	M 33~190 F 46~260 (mg/dL)	&エ
	3314 9 (5A025)	IgD	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	38 ※5	ラテックス凝集免疫法	9.0以下 (mg/dL)	&ヨ
	3336 5 (5A160)	クリオグロブリン定性	血清 1.0	01 ⬇ X	冷蔵	4~6	42 ※5	寒冷沈澱法	陰性	採血時より血清分離までの間は37℃の状態で行い，血清分離後は冷蔵保存してください。必ず血清でご依頼ください。 &ヤ
補体	3513 8 (5B010)	血清補体価	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結 (−20℃以下)(1カ月)	2~4	38 ※5	Mayer法 相対比濁法	25.0~48.0 (CH50/mL)	血清分離後，直ちに−20℃以下で保存してください。 &エ
	(5B040)	C1q	血清 0.4	01 ⬇ X	凍結	2~8		ネフェロメトリー	8.8~15.3 (mg/dL)	&ヨ
	4123 0 (5B045)	C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ⬇ X	凍結 (16日)	2~8	268 ※5	発色性合成基質法	70~130 (%)	採血後，速やかに血漿分離してください。 &ヤ
	3325 7 (5B023)	C3	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	70 ※5	免疫比濁法	86~160 (mg/dL)	
	3326 6 (5B024)	C4	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	70 ※5	免疫比濁法	17~45 (mg/dL)	&エ

❶「免疫グロブリンL鎖κ／λ比」と「抗ヒト全血清による同定」又は「特異抗血清による同定」を同時に実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❷「抗ヒト全血清による同定」及び「特異抗血清による同定」については，同一検体につき一回に限り算定する。
❸「抗ヒト全血清による同定」及び「特異抗血清による同定」を併せて行った場合は，主たるもののみ算定する。
❹多発性硬化症の診断目的で行った場合に算定する。

[A295]免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)検査結果について(試薬メーカー資料より引用)

- 本測定結果は，補助診断としてご利用ください。
- 診断・治療を決定する場合，また，臨床経過と測定値が一致しない場合は，病歴や他の検査所見も参考にして，総合的判断で行ってください。
- 遊離L鎖の増加のため，抗原過剰により，予想外に低い測定値を示すこともあります。
- 遊離L鎖の構造変化により，前回測定値と結果が大きく乖離する場合があります。

g p156

EDTA-2K入り
(真空採血量2mL)
内容
EDTA-2K
2.4mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

C p160

EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

K1 p169

3.2%クエン酸
ナトリウム入り
(真空採血量1.8mL)
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

血漿蛋白

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	(3A015)	アルブミン定量	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵(1ヵ月)	2～4	❶ 11 ※3	ネフェロメトリー	3900～4900 (mg/dL)	&3
	0014 5 (3A015)	アルブミン(Alb)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵(21日)	1～2		BCP改良法	3.8～5.2 (g/dL)	
	L113 4 (3A015)	尿中アルブミン	蓄尿 1	Y	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❷ 102 ※1	免疫比濁法	2～20 (mg/day)	酸
	L114 3 (3A015)	尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	部分尿 2	Y	冷蔵(1ヵ月)	1～2		免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 (mg/g・CRE)	
	3335 6 (5C010)	プレアルブミン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	107 ※5	免疫比濁法	22.0～40.0 (mg/dL)	
	(5C030)	レチノール結合蛋白(RBP)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	136 ※5	ラテックス凝集比濁法	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6 (mg/dL)	
	3319 4 (5C015)	α_1-マイクログロブリン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	136 ※5	ラテックス凝集免疫法	M 12.5～25.5 F 11.0～19.0 (mg/L)	
	(5C015)		部分尿 0.5	Y			136 ※5		M 1.0～15.5 F 0.5～9.5 (mg/L)	&3
	3317 6 (5C020)	α_1アンチトリプシン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	80 ※2	ネフェロメトリー	94～150 (mg/dL)	
	(5C025)	α_1アシドグリコプロテイン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4		ネフェロメトリー	M 45～98 F 39～86 (mg/dL)	
	(5C035)	α_2-マクログロブリン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	138 ※2	ネフェロメトリー	M 100～200 F 130～250 (mg/dL)	
	3332 9 (5C040)	ハプトグロビン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	136 ※5	ネフェロメトリー	1-1型 83～209 2-1型 66～218 2-2型 25～176 (mg/dL)	
	3321 1 (5C045)	セルロプラスミン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	90 ※5	ネフェロメトリー	21～37 (mg/dL)	&3
	M018 9 (5C095)	フェリチン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	108 ※3	ラテックス比濁法	M 30.0～310.0 F 3.0～120.0 (ng/mL)	鉄欠乏性貧血および貧血のない鉄欠乏の診断基準は12ng/mL未満です[鉄剤の適正使用による貧血治療指針(日本鉄バイオサイエンス学会)]
	3322 0 (5C060)	トランスフェリン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	60 ※5	免疫比濁法	M 190～300 F 200～340 (mg/dL)	&3
	(5C060)	尿中トランスフェリン	蓄尿 0.5	Y	冷蔵(1ヵ月)	2～4	❷ 104 ※1	ラテックス凝集比濁法	0.80以下 (mg/day)	酸 凍 凍結保存は避けてください。採尿後，速やかにご提出ください。
	(5C060)	尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	部分尿 1	Y	冷蔵(1ヵ月)	2～4		ラテックス凝集比濁法	尿中トランスフェリン換算値 1.00以下 (mg/g・CRE)	&3

❶「蛋白分画」,「総蛋白」及び「アルブミン」を併せて測定した場合は，主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「尿中アルブミン」,「尿中トランスフェリン」及び「尿中Ⅳ型コラーゲン」は，糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に3か月に1回に限り算定できる。なお，これらを同時に行った場合は，主たるもののみ算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	M017 0 (5C065)	β_2-マイクログロブリン	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	1~2	104 ※5	ラテックス凝集免疫法	1.0~1.9 (mg/L)	
	4730 6 (5C065)	β_2-マイクログロブリン	蓄尿 1 部分尿 1	Y	冷蔵	2~4	104 ※5	ラテックス凝集免疫法	230以下 (μg/L)	酸 尿はpH5.5~7.5にし，必要量をご提出ください。 &Ɜ
	0112 6 (3C016)	シスタチンC	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❶ 118 ※3	金コロイド凝集法	M 0.63~0.95 F 0.56~0.87 (mg/L)	推算GFRcys(項目コードNo.5257)を同時に依頼いただきますと推算GFRcys値をご報告いたします。(下記参照) &Ɜ
	0007 3 (5C070)	C反応性蛋白(CRP)定量	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	1~2	❷ 16 ※5	ラテックス免疫比濁法	0.30以下 (mg/dL)	
	3393 2 (5C080)	血清アミロイドA蛋白(SAA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	2~4	❷ 47 ※5	ラテックス凝集免疫法	8.0以下 (μg/mL)	
	3649 8 (5C091)	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❸ 139 ※3	ラテックス凝集法	6.2未満 (ng/mL)	&Ɜ
	3172 7 (5C090)	ミオグロビン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❸ 139 ※3	CLIA	男性 154.9以下 女性 106.0以下 (ng/mL)	採尿後，速やかに専用容器に入れ，冷蔵してください。凍結は避けてください。 &I
	4605 5 (5C090)	ミオグロビン	部分尿 6	Y5	冷蔵 (21日)	2~5	❸ 139 ※3	RIA2抗体法	10以下 (ng/mL)	
	3173 6 (5C092)	心室筋ミオシン軽鎖 I	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~5	❹ 184 ※3	EIA	2.5以下 (ng/mL)	
	9532 1 (5C093)	心筋トロポニンT	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	2~4	❺ 115 ※3	ECLIA	0.014以下 急性心筋梗塞診断のカットオフ値 0.100 (ng/mL)	&I
	A234 1 (5C130)	プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)(CLIA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❻ 140 ※3	CLIA	3.62~9.52 (ng/mL)	カットオフ値（肝に線維化のみられる疾患）6.95ng/mL &Ɜ
	6785 4 (5C134)	Ⅳ型コラーゲン	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❻ 139 ※3	ラテックス凝集比濁法	150以下 (ng/mL)	&Ɜ
	3176 3 (5C135)	Ⅳ型コラーゲン・7S	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3~5	❻ 148 ※3	RIA2抗体法	6以下 (ng/mL)	&I
	(5C134)	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5	Y7	冷蔵 (1ヵ月)	3~9	❼ 189 ※1	EIA	30~39歳 4.0以下 40歳以上 4.9以下 (μg/g・CRE)	重 凍 凍結保存は避けてください。早朝一番尿をご提出ください。凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。なお，随時尿による参考基準値（健常人）は7.3μg/g・CRE以下と報告されています。 &I

❶尿素窒素(BUN)又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に，3月に1回に限り算定できる。「シスタチンC」,「ペントシジン」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する
❷「SAA」,「CRP定性」,「CRP定量」と併せて測定した場合は，主たるもののみ算定する。
❸「H-FABP」と「ミオグロビン」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❹同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は，1回のみ算定する。
❺「心筋トロポニンI」と「心筋トロポニンT」を同一月に測定した場合は，主たるもののみ算定する。
❻「Ⅳ型コラーゲン」又は「Ⅳ型コラーゲン・7S」は,「P-Ⅲ-P」又は「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」と併せて行った場合には，主たるもののみ算定する。
❼「尿中トランスフェリン」,「尿中アルブミン」及び「尿中Ⅳ型コラーゲン」は，糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に3月に1回に限り算定できる。なお，これらを同時に行った場合は，主たるもののみ算定する。

推算GFRcysについて

日本人のGFRcys推算式

男性：推算GFRcys値(mL/min/1.73m^2)＝(104×Cys-C$^{-1.019}$×0.996^{Age})-8

女性：推算GFRcys値(mL/min/1.73m^2)＝(104×Cys-C$^{-1.019}$×0.996^{Age}×0.929)-8

報告条件

①シスタチンC(項目コードNo.011 2)と同時依頼された場合のみ，ご報告いたします。
②下記に該当する場合は，ご報告できません。
・「シスタチンC」あるいは「推算GFRcys」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
・年齢が18歳未満の場合。
③報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。

Y7
p181
Tris＋Hcl入り
(容器容量10mL)
内容
1.5M Tris-Hcl
0.5mL
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

Y5
p181
保存剤入り
(容器容量10mL)
貯蔵方法 室温
有効期間 2年

血漿蛋白

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	3067 4 (5C210)	KL-6	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 114 ※3	CLEIA	500未満 (U/mL)	&I
	7925 7 (3F253)	肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 136 ※3	EIA	110未満 (ng/mL)	&I
	3343 7 (3F250)	肺サーファクタントプロテインA(SP-A)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	4～6	❶ 130 ※3	CLEIA	43.8未満 (ng/mL)	&D
	4753 1 (5C123)	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	部分尿 3	Y	冷蔵	2～4	❷❸ 156 ※4 腫2	ELISA	下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。 &I
	4742 3 (5C146)	デオキシピリジノリン	部分尿 3	Y	冷蔵	2～4	❷❸ 191 ※4 腫2	EIA	クレアチニン換算値 M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 (nmol/mmol・CRE)	
	8768 1 (5C124)	Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド(ⅠCTP)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	腫2	RIA2抗体法	4.5未満 (ng/mL)	&I
	(5C180)	ECP	血清 0.2	e1 ⬇ X	冷蔵	2～8		FEIA	成人14.9以下 (μg/L)	血液2.5～3.0mLを専用容器に採血し，転倒混和を5回繰り返した後，室温（24～28℃）で60～120分間静置してください。静置後10分間遠心分離し，血清を(X)(ポリスピッツ)にてご提出ください。なお，静置時の温度条件により値が大きく変動する場合がありますので温度変化にご注意ください。 &I

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料（40ページ参照）

❶「KL-6」,「SP-A」,「SP-D」のうちいずれか複数を実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❷「NTx」,「オステオカルシン」,「尿中DPD」,「TRACP-5b」を併せて実施した場合は，いずれか1つのみ算定する。
❸骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回，その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り，また薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。

[4753] Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)基準値，判定基準

(単位：nmolBCE/mmol・CRE)

基準値(参考値)	男　性	13.0～66.2
	閉経前女性	9.3～54.3
	閉経後女性	14.3～89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術の適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌，肺癌，前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
アレルギー検査	A500 5 (5A090)	IgE(非特異的IgE)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	100 ※5	CLEIA法	170以下 (IU/mL)	
	7003 0 (5A100)	アトピー鑑別試験 (12種吸入性アレルゲン)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	194 ※5	FEIA	陰性	対象アレルゲンは82ページをご参照ください。 &I
	A050 5 (5A100)	特異的IgE (MAST36アレルゲン)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	3～5	1430 ※5	CLEIA法	MASTクラス 0 1.39以下 (LC)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。判定基準，アレルゲン一覧表は82ページをご参照ください。 &I
	(5A100)	特異的IgE (ミックスアレルゲン)	血清 各0.3	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	各 110 ※5	CLEIA法	クラス 0 0.10未満 (IU_A/mL)	判定基準，アレルゲン一覧表は82，83ページをご参照ください。
	(5A100)	特異的IgE (シングルアレルゲン)	1アレルゲン 血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	1～2	1アレルゲン 110 ※5	CLEIA法	クラス 0 0.35未満 (U_A/mL)	判定基準，アレルゲン一覧表は82，83ページをご参照ください。 &I
	(5A100)	特異的IgE (シングルアレルゲン)	1アレルゲン 血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	1アレルゲン 110 ※5	FEIA法	クラス 0 0.35未満 (U_A/mL)	判定基準，アレルゲン一覧表は82，83ページをご参照ください。 &I
	E287 9 (5J228)	TARC (Th2ケモカイン)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 184 ※5	CLEIA	小児(6～12ヶ月) :1367未満 小児(1～2歳) :998未満 小児(2歳以上) :743未満 成人 :450未満 (pg/mL)	血漿はデータ低下が見られますので避けてください。 トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。 &I
	(5C180)	ECP	血清 0.2	e1 ⬇ X	冷蔵	2～8		FEIA	成人 14.9以下 (μg/L)	血液2.5～3.0mLを専用容器に採血し，転倒混和を5回繰り返した後，室温（24～28℃）で60～120分間静置してください。静置後10分間遠心分離し，血清を（X）(ポリスピッツ)にてご提出ください。なお，静置時の温度条件により値が大きく変動する場合がありますので温度変化にご注意ください。 &I

❶月1回を限度として算定できる。

アレルギー検査

[7003]アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)

混合アレルゲンの内容(個々のアレルゲンのご報告はありません)
ヤケヒョウヒダニ，コナヒョウヒダニ，ネコのフケ，イヌのフケ，ギョウギシバ，カモガヤ，ブタクサ，ヨモギ，シラカンバ(属)，スギ，カンジダ，アルテルナリア

[A050]特異的IgE(MAST36アレルゲン)

含まれるアレルゲン
コナヒョウヒダニ，ハウスダスト1，ネコ皮屑，イヌ皮屑，オオアワガエリ，カモガヤ，ブタクサ混合物1，ヨモギ，スギ，ヒノキ，ハンノキ，シラカンバ，カンジダ，アルテルナリア，アスペルギルス，ラテックス，トマト，モモ，キウイ，バナナ，ゴマ，ソバ，小麦，ピーナッツ，大豆，米，マグロ，サケ，エビ，カニ，ミルク，豚肉，牛肉，鶏肉，オボムコイド，卵白

厚生労働省により，食品の原材料表記を定められた特定原材料7品目（エビ，カニ，卵，小麦，そば，落花生，乳）全てが含まれております。

特異的IgE(MAST36アレルゲン)(判定基準)

MASTクラス	ルミカウント(LC)	判　定
0	0～1.39	陰　性
1	1.40～2.77	疑陽性
2	2.78～13.4	陽　性
3	13.5～58.0	
4	58.1～119	
5	120～159	
6	160～200	

特異的IgE(ミックスアレルゲン)

項目コード	分　野	混合アレルゲンの内容(個々のアレルゲンのご報告はありません)
A501 4	イネ科植物パネル5	ハルガヤ，ギョウギシバ，カモガヤ，オオアワガエリ，アシ
A503 2	雑草パネル5	ブタクサ，ヨモギ，フランスギク，タンポポ(属)，アキノキリンソウ
A507 8	動物パネル2	ネコ上皮・皮屑，イヌ皮屑，モルモット上皮，ラット皮屑，マウス上皮
A505 0	食物パネル7	卵白，ミルク，小麦，ピーナッツ，大豆，米
A506 9	食物パネル4	小麦，トウモロコシ，米，ゴマ，ソバ
A509 6	真菌パネル	ペニシリウム，クラドスポリウム，アスペルギルス，カンジダ，アルテルナリア

(判定基準)
特異的IgE(シングルアレルゲン,ミックスアレルゲン) CLEIA法

クラス	特異的IgE抗体価(IU_A/mL)	判　定
0	0.10未満	陰　性
	0.10～0.34	微弱陽性
1	0.35～0.69	弱陽性
2	0.70～3.49	陽　性
3	3.50～17.4	
4	17.5～52.4	
5	52.5～99.9	
6	100以上	

(判定基準)
特異的IgE(シングルアレルゲン)(U_A/mL)　FEIA法

クラス	特異的IgE抗体価(U_A/mL)	判　定
0	0.35未満	陰　性
1	0.35～0.70未満	疑陽性
2	0.70～3.50未満	陽　性
3	3.50～17.5未満	
4	17.5～50.0未満	
5	50.0～100未満	
6	100以上	

特異的IgE（シングルアレルゲン）CLEIA法

実施料：1アレルゲンにつき110点算定できます。ただし，1回につき1430点を限度とします。判断料区分：※5

項目コード	名称	委託先
イネ科植物花粉		
A521 2	ハルガヤ	
A522 1	ギョウギシバ	&3
A523 0	カモガヤ	
	ヒロハウシノケグサ	&3
A525 8	ホソムギ	&3
A526 7	オオアワガエリ	
A527 6	アシ	&3
	ナガハグサ	&3
A530 2	セイバンモロコシ	&3
A535 7	小麦（属）（花粉）	
A536 6	オオスズメノテッポウ	&3
A537 5	スズメノヒエ（属）	&3
雑草花粉		
A551 9	ブタクサ	
A552 8	ブタクサモドキ	&3
A553 7	オオブタクサ	&3
A555 5	ニガヨモギ	&3
A556 4	ヨモギ	
A557 3	フランスギク	&3
A558 2	タンポポ（属）	
	ヘラオオバコ	&3
	シロザ	&3
A562 7	アキノキリンソウ	
A568 1	ヒメスイバ	&3
A570 8	イラクサ（属）	&3
A571 7	カナムグラ	
	ニセブタクサ	&3
	アオゲイトウ	&3
樹木花粉		
	カエデ（属）	&3
A582 5	ハンノキ（属）	
A583 4	シラカンバ（属）	
A585 2	ブナ（属）	&3
	ビャクシン（属）	&3
	コナラ（属）	&3
	ニレ（属）	&3
	オリーブ	&3
A590 6	クルミ（属）	&3
	ヤナギ（属）	&3
A595 1	マツ（属）	&3
A596 0	スギ	
A598 8	アカシア（属）	&3
A603 1	ヒノキ	
	クワ（属）	&3
	ホソイトスギ	&3

項目コード	名称	委託先
ダニ		
A711 1	ヤケヒョウヒダニ	
A712 0	コナヒョウヒダニ	
A713 9	アシブトコナダニ	&3
A714 8	サヤアシニクダニ	&3
7289 4	ケナガコナダニ	&3
	イエニクダニ	&3
室内塵		
A721 0	ハウスダスト1	
A722 9	ハウスダスト2	
A723 8	ハウスダスト6	&3
真菌		
A621 1	ペニシリウム	&3
A622 0	クラドスポリウム	&3
A623 9	アスペルギルス	
	ムコール	&3
A625 7	カンジダ	
A626 6	アルテルナリア	
A627 5	ヘルミントスポリウム	&3
A635 6	マラセチア（属）	
	フザリウム	&3
	ステムフィリウム	&3
	リゾプス	&3
	オーレオバシジウム	&3
	フォーマ	&3
	エピコッカム	&3
A634 7	カーブラリア	&3
動物表皮		
A651 8	ネコ上皮・皮屑	
A652 7	イヌ上皮	
A653 6	ウマ皮屑	&3
A654 5	ウシ皮屑	&3
A655 4	イヌ皮屑	
A656 3	モルモット上皮	&3
A662 6	セキセイインコ羽毛	&3
A663 5	ヤギ上皮	&3
A664 4	羊上皮	&3
A665 3	家兎上皮	
A666 2	豚上皮	&3
A667 1	ハムスター上皮	
A668 0	アヒル羽毛	&3
A669 9	ラット	&3
A670 7	マウス	&3
A657 2	マウス上皮	&3
A658 1	ラット上皮	&3
	ラット血清蛋白	&3

項目コード	名称	委託先
昆虫		
A691 4	ミツバチ	&3
A692 3	スズメバチ	&3
A695 0	アシナガバチ	&3
A698 7	ゴキブリ	
A696 9	ユスリカ（属）	
A697 8	ガ	
A693 2	スズメバチ（ホワイトフェイス）	&3
A694 1	スズメバチ（イエローフェイス）	&3
寄生虫		
A681 5	アニサキス	&3
食餌性アレルゲン		
A731 9	卵白	
A738 2	牛乳	
A754 4	タラ	&3
A777 9	小麦	
A778 8	ライ麦	&3
A779 7	大麦	&3
A780 5	オート麦	&3
A790 4	トウモロコシ	
A786 9	米	
A799 5	ゴマ	
A776 0	ソバ	
A796 8	エンドウ	&3
A831 8	ピーナッツ	
A797 7	大豆	
A798 6	インゲン	&3
A832 7	ハシバミ（の実）	&3
A833 6	ブラジルナッツ	&3
A834 5	アーモンド	&3
A766 1	カニ	
A767 0	エビ	
A803 9	トマト	
A746 3	豚肉	
A747 2	牛肉	&3
A804 8	ニンジン	&3
A816 5	オレンジ	&3
A787 8	ジャガイモ	&3
A836 3	ココナッツ	&3
A772 4	ムラサキイガイ	&3
A755 3	マグロ	
A756 2	サケ	
A817 4	イチゴ	&3
A841 7	ビール酵母	&3
A810 1	ニンニク	&3
A811 0	タマネギ	&3
A818 3	リンゴ	
A752 6	サバ	

項目コード	名称	委託先
A812 9	タケノコ	&3
A788 7	サツマイモ	&3
A760 7	イカ	
A761 6	タコ	&3
A751 7	アジ	&3
A753 5	イワシ	
A732 8	卵黄	
A736 4	α-ラクトアルブミン	&3
A737 3	β-ラクトグロブリン	&3
A843 5	カゼイン	
A844 4	グルテン	
A768 9	ロブスター	&3
A739 1	チェダーチーズ	
A745 4	鶏肉	
A819 2	キウイ	
A807 5	セロリ	&3
A808 4	パセリ	&3
A820 0	メロン	
A748 1	羊肉	&3
A845 3	マスタード	&3
A842 6	麦芽	&3
A821 9	マンゴー	&3
A822 8	バナナ	
A837 2	カカオ	&3
A823 7	洋ナシ	&3
A824 6	モモ	
A825 5	アボカド	&3
A826 4	グレープフルーツ	&3
A805 7	ホウレンソウ	&3
A809 3	カボチャ	&3
A757 1	カレイ	&3
A733 7	オボムコイド	
A758 0	イクラ	
A759 9	タラコ	&3
A769 8	アサリ	&3
A770 6	カキ（牡蠣）	&3
A771 5	ホタテ	&3
A789 6	ヤマイモ	&3
A827 3	スイカ	&3
A835 4	クルミ	&3
A838 1	ペカンナッツ	&3
A806 6	レタス	&3
職業性アレルゲン		
A852 5	ラテックス	
その他		
A851 6	綿	&3
A861 5	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA	
A862 4	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB	

特異的IgE（シングルアレルゲン）FEIA法

項目コード	名称	委託先
真菌		
7458 6	ピティロスポリウム	&1
7239 9	トリコフィトン	&1
動物表皮		
7215 5	ガチョウ羽毛	&1
7217 3	セキセイインコのフン	&1
7229 0	ニワトリ羽毛	&1
寄生虫		
7251 5	回虫	&1

項目コード	名称	委託先
昆虫		
7269 6	ヤブカ（属）	&1
食餌性アレルゲン		
K375 5	カシューナッツ	&1
K373 7	ω-5グリアジン	&1
7435 1	キビ	&1
7437 9	アワ	&1
7439 7	ヒエ	&1
8863 5	モールドチーズ	&1
A054 1	Gly m 4（大豆由来）	&1
A272 9	Anao3（カシューナッツ由来）	&1
A271 0	Jug r 1（クルミ由来）	&1

項目コード	名称	委託先
職業性アレルゲン		
7431 5	絹	&1
7497 3	オオバコ種子	&1
7491 9	イソシアネートTDI	&1
7477 5	イソシアネートMDI	&1
7473 9	イソシアネートHDI	&1
7479 3	エチレンオキサイド	&1
7495 5	無水フタル酸	&1
7185 9	ホルマリン	&1
	Hev b 6.02（ラテックス由来）	&1

項目コード	名称	委託先
その他		
7529 7	ヒトインシュリン	&1
7309 1	ゼラチン	&1

アレルゲンは一時的に入手不可能なものがありますので，あらかじめご了承ください。

蛋白・膠質反応

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
蛋白・膠質反応	0013 6 (3A010)	総蛋白(TP)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※3	Biuret法	6.7～8.3 (g/dL)	
	M014 3 (1C010)		髄液 0.5	X	冷蔵	2～4	❶ 11 ※3	ピロガロールレッド法	10.0～40.0 (mg/dL)	
	1011 7 (1A015)		蓄尿 1	Y	冷蔵	1～2	7 ※1		31.2～120.0 (mg/day)	
	(3A015)	アルブミン定量	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❷ 11 ※3	ネフェロメトリー	3900～4900 (mg/dL)	&ヨ
	0014 5 (3A015)	アルブミン(Alb)	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	1～2	❶ 11 ※3	BCP改良法	3.8～5.2 (g/dL)	
	L113 4 (3A015)	尿中アルブミン	蓄尿 1	Y	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❸ 102 ※1	免疫比濁法	2～20 (mg/day)	酸
	L114 3 (3A015)	尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	部分尿 2	Y	冷蔵 (1ヵ月)	1～2		免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 (mg/g・CRE)	
	0040 6 (3A016)	A/G比	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2		BCP改良法	1.10～2.10	
	A051 4 (3A020)	蛋白分画	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❶ 18 ※3	キャピラリー電気泳動法	ALB 55.8～66.1(%) α1-G 2.9～4.9(%) α2-G 7.1～11.8(%) β1-G 4.7～7.2(%) β2-G 3.2～6.5(%) γ-G 11.1～18.8(%) A/G 1.3～1.9(%)	
	A262 0 (3A020)	尿中蛋白分画	部分尿 1	Y	冷蔵			アガロースゲル電気泳動法	(%)	&ヤ
	0026 2 (3A030)	クンケル反応(ZTT)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (3日)	1～2		日本消化器病学会肝機能研究班推奨法	4～12 (U)	

❶「蛋白分画」,「総蛋白」及び「アルブミン」を併せて測定した場合は，主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「蛋白分画」,「総蛋白」及び「アルブミン定量」を併せて測定した場合は，主たるもの2つの所定点数を算定する。
❸「尿中トランスフェリン」,「尿中アルブミン」及び「尿中Ⅳ型コラーゲン」は，糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に，3月に1回に限り算定できる。なお，これらを同時に行った場合は，主たるもののみ算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素関連物質	3681 2 (3B180)	リパーゼ	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	2～4	24 ※3	酵素法	11～59 (U/L)	&ヨ
	(3B180)		部分尿 0.5	Y	冷蔵				(U/L)	
	0010 9 (3B160)	緊急 アミラーゼ(AMY)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※3	酵素法 (Gal-G2-CNP)	37～125 (U/L)	JCCLS 自動化法
	0110 8		部分尿 5	Y	冷蔵	1～2			65～700 (U/L)	
	3274 4	アミラーゼ アイソザイム	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵 (7日)	2～4	48 ※3	アガロース 電気泳動法	TOTAL-S 36.0～84.3 TOTAL-P 15.7～64.0 (%)	&ヤ
			部分尿 0.5	Y	冷蔵				TOTAL-S 17.7～61.3 TOTAL-P 38.7～82.3 (%)	
	3682 1 (3B175)	P型アミラーゼ定量	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	2～4	48 ※3	JSCC 標準化対応法	21～64 (U/L)	&ヨ
	3035 9 (3B185)	トリプシン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	189 ※3	ELISA	100～550 (ng/mL)	
	3788 4 (3B192)	膵ホスホリパーゼA_2 (膵PLA_2)	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (21日)	2～4	204 ※3	RIA固相法	130～400 (ng/dL)	&エ
	(3B192)		血漿 0.3	C ⬇ X	凍結					
	3037 7 (3B195)	エラスターゼ1	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	2～4	126 ※4 腫2	ラテックス 免疫比濁法	300以下 (ng/dL)	&ヨ
	3683 0 (3B255)	リゾチーム	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4		比濁法	5.0～10.2 (μg/mL)	&エ
	(3B255)		部分尿 0.4	Y	冷蔵				0.1未満 (μg/mL)	

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料（40ページ参照）

C
p160

EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

酵素関連物質

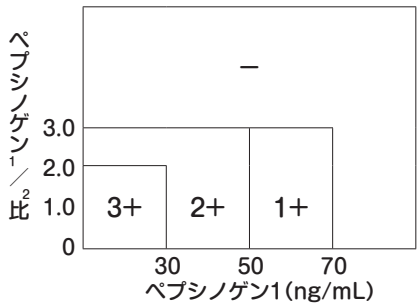
	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素関連物質	0018 1 (3B010)	CK(CPK)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (10日)	1～2	11 ※3	JSCC 標準化対応法	M 62～287 F 45～163 (U/L)	
	3684 9 (3B015)	CK-MB(CPK-MB)	血清 各0.5	01 ⬇ X	凍結	2～4	55 ※3	免疫阻止-UV法	MB 25以下 (U/L)	&ヨ
	3746 0 (3B015)						90 ※3	CLIA	5.0以下 (ng/mL)	&ヨ
	3282 5 (3B025)	CK(CPK) アイソザイム	速やかに遠心 血清 0.3	01 ⬇ X	凍結	2～4	55 ※3	アガロース電気泳動法	BB 2以下 MB 6以下 MM 93～99 (%)	採血後，速やかに血清分離してください。 &ヤ
	3686 7 (3B100)	アルドラーゼ	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	11 ※3	UV-酵素法	2.1～6.1 (U/L)	&ヨ
	0021 7 (3B035)	緊急 AST(GOT)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (14日)	1～2	17 ※3	JSCC 標準化対応法	10～40 (U/L)	
	(3B040)	ミトコンドリア-AST (m-AST)(m-GOT)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	49 ※3	プロテアーゼ法	7以下 (U/L)	&ヨ
	0022 6 (3B045)	緊急 ALT(GPT)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (14日)	1～2	17 ※3	JSCC 標準化対応法	5～40 (U/L)	
	0017 2 (3B050)	緊急 LD(LDH)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (3日)	1～2	11 ※3	JSCC 標準化対応法	115～245 (U/L)	
	3261 8 (3B055)	LD(LDH) アイソザイム	血清 0.3	01 ⬇ X	室温	2～4	48 ※3	アガロース電気泳動法	LDH1 21～31 LDH2 28～35 LDH3 21～26 LDH4 7～14 LDH5 5～13 (%)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。(溶血の場合 LDH1，2，3の上昇が考えられます。) &ヤ
	0016 3 (3B070)	アルカリフォスファターゼ (ALP)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※3	JSCC 標準化対応法	115～359 (U/L)	
	3345 5 (3B072)	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶❷❸ 161 ※4	CLEIA	男性 3.7～20.9 閉経前女性 2.9～14.5 閉経後女性 3.8～22.6 (μg/L)	&エ
	3267 2 (3B080)	ALPアイソザイム	血清 0.3	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	2～4	48 ※3	アガロース電気泳動法	ALP2 36～74 ALP3 25～59 ALP5 0～16 (%)	血液型 B または O 型で Lewis 分泌型の人では，ALP 総活性値および ALP5の出現率が高くなることがあります。 &ヤ
	0019 0 (3B135)	ロイシンアミノペプチターゼ (LAP)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※3	酵素法 (L-ロイシル-Pニトロアニリド基質)	35～73 (U/L)	

❶「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」,「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❷「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」と併せて実施した場合には，いずれか主たるもののみ算定する。
❸「骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)」,「インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PⅠNP)」,「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PⅠNP)及び「ALP・アイソザイム(PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は，主たるもののに算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素関連物質	0020 8 (3B090)	γ-GT(γ-GTP)	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※3	JSCC標準化対応法	M 70以下 F 30以下 (U/L)	基準値には飲酒群が含まれております。
	M003 5 (3B110)	コリンエステラーゼ(ChE)	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※3	JSCC標準化対応法	M 242～495 F 200～459 (U/L)	
	3698 4 (3B325)	アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	血清 0.7	01⬇X	冷蔵	2～4	144 ※3	笠原法	8.3～21.4 (U/L)	EDTA 血漿は測定不能となります。 &Ǝ
	4683 9 (3B330)	N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	部分尿 0.5	Y	冷蔵	2～4	41 ※1	比色法	0.7～11.2 (IU/L)	&Ǝ
	(3B125)	グアナーゼ	血清 0.5	01⬇X	冷蔵	2～4	35 ※3	酵素法	1.0以下 (U/L)	
	3702 8 (3B130)	アデノシンデアミナーゼ(ADA)	血清 0.6	01⬇X	冷蔵	2～4	32 ※3	酵素法	5.0～20.0 (U/L)	&Ǝ
	6762 9 (3B339)	ペプシノゲン	血清 0.5	01⬇X	冷蔵	2～4		CLEIA	下記参照	&I
		胃がんリスク層別化検査(ABC分類)	血清 0.8	01⬇X	冷蔵(21日)	2～4		ヘリコバクターピロリIgG抗体:EIA ペプシノゲン:CLEIA	下記参照	ペプシノゲンとヘリコバクターピロリ IgG 抗体を実施し，それぞれの検査結果と ABC 分類をご報告いたします。ピロリ菌の除菌治療を受けた方は，ABC 分類の判定対象にはなりません。除菌判定の結果に関わらず，E 群（除菌群）としてご報告いたします。除菌治療を受けた方は，胃がんリスク層別化検査（ABC分類）除菌ありにて，ご依頼ください。 &I

[6762]ペプシノゲン(判定基準)

		ペプシノゲン1		ペプシノゲン1/2比
強陽性	3+	30ng/mL以下	かつ	2.0以下
中程度陽性	2+	50ng/mL以下	かつ	3.0以下
陽性	1+	70ng/mL以下	かつ	3.0以下
陰性	−	上記条件以外		



胃がんリスク層別化検査(ABC分類)(判定基準)

ABC分類		ヘリコバクターピロリIgG抗体 3未満(−)	ヘリコバクターピロリIgG抗体 3以上(+)
ペプシノゲン	(−)	A群	B群
	(1+)～(3+)	D群	C群

A群	健康的な胃粘膜で，胃疾患の危険性は低いと考えられます。
B群	消化性潰瘍に留意する必要があります。
C群	萎縮の進んだ胃粘膜で，胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。
D群	萎縮が非常に進んだ胃粘膜で，胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の注意事項

以下の場合には，正しい結果が得られない可能性があります。
1. 明らかな上部消化器症状のある方
2. 上部消化管疾患で治療中の方
3. プロトンポンプ阻害剤服用中の方
4. 胃切除をされた方
5. 腎不全の方
6. ピロリ菌の除菌治療を受けた方

低分子窒素化合物

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	0399 9 (3C040)	アンモニア	速やかに遠心 除蛋白液 3.0	r4 ⬇ X	凍結	1～2	50 ※3	藤井・奥田法 変法	30～80 (μg/dL)	採血後，直ちに正確に血液1.0mLを専用容器（r4）に加え，十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し，その上清液をご提出ください。
	0004 6 (3C025)	緊急 尿素窒素(UN)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※3	ウレアーゼ LED・UV法 (回避)	8.0～22.0 (mg/dL)	
	L117 0		蓄尿 5	Y	冷蔵		11 ※3		6.5～13.0 (g/day)	
	M001 7 (3C015)	クレアチニン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※3	酵素法	M 0.61～1.04 F 0.47～0.79 (mg/dL)	推算GFRcreat(項目コードNo.K833 6)を同時に依頼いただきますと推算GFRcreat値をご報告いたします。(下記参照)
	L115 2		蓄尿 5	Y	冷蔵		❶ 11 ※3		M 0.70～2.20 F 0.40～1.50 (g/day)	
	(3C010)	クレアチン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	2～4	11 ※3	酵素法	0.31～1.10 (mg/dL)	
	4662 2		蓄尿 5	Y	冷蔵		11 ※3		M 0.20以下 F 0.43以下 (g/day)	&ヨ
	0027 1 (3C020)	尿酸(UA)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	1～2	11 ※3	酵素法 (ウリカーゼ POD法)	M 3.7～7.0 F 2.5～7.0 (mg/dL)	重 蓄尿：凍結保存は避けてください。高尿酸血症：7.0mg/dL超〔高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン（日本痛風・核酸代謝学会）2002年〕蓄尿は依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。
	L116 1		蓄尿 5	Y	冷蔵		11 ※3		0.4～1.2 (g/day)	
	A042 4 (5C100)	L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	部分尿 2.0	Y	冷蔵 (14日)	❷❸ 2～4	210 ※1	CLEIA	L-FABPクレアチニン換算値8.4以下 (μg/gCr)	重 酸 凍 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので，避けてください。室温保存ではデータ影響が認められるため，速やかに冷蔵保存にてご提出ください。 &I

❶「イヌリン」と「クレアチニン(腎クリアランス測定の目的で行い，血清及び尿を同時に測定する場合に限る。)」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❷「L型脂肪酸結合蛋白」は，原則として3月に1回に限り算定する。ただし，医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては，その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
❸「L-FABP(尿)」と「NGAL(尿)」を併せて実施した場合は，主たるもののに算定する。

推算GFRcreatについて

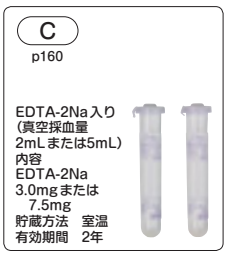
日本人のGFR推算式

男性：推算GFRcreat値（mL/min/1.73m^2）＝194×Cr$^{-1.094}$×Age$^{-0.287}$

女性：推算GFRcreat値（mL/min/1.73m^2）＝194×Cr$^{-1.094}$×Age$^{-0.287}$×0.739

報告条件

①クレアチニン（項目コードNo.M001 7）と同時依頼された場合のみ，ご報告いたします。
②下記に該当する場合は，ご報告できません。
・「クレアチニン」あるいは「推算GFRcreat」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
・年齢が18歳未満の場合。
③報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。



	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	(3C045)	アミノ酸分析(39種類)〔LC/MS〕	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結(21日)	4~6	1176 ※4	LC/MS	下記参照	採血後，速やかによく混和させ，低温（4℃）で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 &ヤ
	(3C045)	アミノ酸分析(41種類)	酸性蓄尿 2	Y	凍結(21日)	7~10	1176 ※4	HPLC	下記参照	6N 塩酸約20mL を入れた蓄尿瓶へ24時間蓄尿し，よく混和後必要量を必ず凍結保存しご提出ください。尿量が少ない場合には尿100mL に対して6N 塩酸1mL の割合で入れてください。必ず酸性蓄尿に（pH1.0～3.0）してください。 &ヤ
	K348 5 (3C046)	アミノ酸分析(9種類)〔LC/MS〕	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結(21日)	3~5	1176 ※4	LC/MS	下記参照	採血後，速やかによく混和させ，低温（4℃）で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 &ヤ
	K349 4 (3C046)	アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結(21日)	3~5	287 + 287 ※4	LC/MS	チロシン 40.4~90.3 (nmol/mL) フェニルアラニン 42.6~75.7 (nmol/mL) フィッシャー比 2.43~4.40	採血後，速やかによく混和させ，低温（4℃）で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 &ヤ
	0165 8	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR) 3C047-0000-023-271	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	2~4	288 ※4	酵素法	BCAA/TYR RATIO 4.41~10.05 BCAA 344~713 (μmol/mL) TYR 51~98 (μmol/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 &ヤ

アミノ酸分析〔39種類(血漿)，41種類(尿)，9種類(血漿)〕基準値

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
Taurine	Tau	39.5~93.2	322.2~5214.5
Phosphoethanolamine★	PEA		31.0~110.0
Urea ★	Urea		◎130.3~493.2
Aspartic acid	Asp	2.4以下	12.7以下
Hydroxyproline	Hypro	21.6以下	ND
Threonine	Thr	66.5~188.9	79.9~528.3
Serine	Ser	72.4~164.5	208.8~1020.0
Asparagine	Asn	44.7~96.8	60.7~372.3
Glutamic acid	Glu	12.6~62.5	11.3~42.7
Glutamine	Gln	422.1~703.8	207.0~1357.3
Sarcosine	Sarco	TR	99.0以下
α-Aminoadipic acid	α-AAA	ND	16.7~118.6
Proline	Pro	77.8~272.7	ND
Glycine	Gly	151.0~351.0	652.1~3670.6
Alanine	Ala	208.7~522.7	141.2~833.9
Citrulline	Cit	17.1~42.6	13.5~55.6
α-Aminobutyric acid	α-ABA	7.9~26.6	27.1以下
※Valine	Val	147.8~307.0	24.8~82.2
Cystine	Cys	13.7~28.3	23.7~170.9
Cystathionine	Cysthio	TR	TR~44.7
※Methionine	Met	18.9~40.5	TR~20.2
※Isoleucine	Ileu	43.0~112.8	7.5~23.5
※Leucine	Leu	76.6~171.3	24.6~89.3
※Tyrosine	Tyr	40.4~90.3	50.6~308.4
※Phenylalanine	Phe	42.6~75.7	27.2~110.2

※印はアミノ酸分析（9種類）の実施アミノ酸名
ND：測定感度以下　TR：痕跡
★印は「アミノ酸」ではありませんが，本項目に含めて測定いたします。

単位　血漿：nmol/mL，尿：μ mol/day（ただし◎印（Urea）は mmol/day）

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
γ-Amino β-hydroxy butyric acid	γ-A β-HBA	ND	ND
β-Alanine	β-Ala	TR	TR~153.0
β-Amino-iso-butyric acid	β-AIBA	TR	TR~1623.9
γ-Aminobutyric acid	γ-ABA	ND	ND
Monoethanolamine★	MEA	10.4以下	195.3~606.2
Homocystine	Homocys	ND	ND
※Histidine	His	59.0~92.0	436.4~2786.5
3-Methylhistidine	3-Me His	5.0以下	113.4~480.9
1-Methylhistidine	1-Me His	18.5以下	59.3~2816.2
Carnosine ★	Carno	ND	87.6以下
Anserine ★	Ans	ND	231.4以下
Tryptophan	Trp	37.0~74.9	20.7~150.7
Hydroxylysine	Hylys	ND	22.9以下
Ornithine	Orni	31.3~104.7	6.9~43.9
※Lysine	Lys	108.7~242.2	51.6~1639.6
※Arginine	Arg	53.6~133.6	11.6~54.8
Total AA(総アミノ酸：非必須アミノ酸の和＋必須アミノ酸の和)		2068.2~3510.3	
NEAA(非必須アミノ酸の和)		1381.6~2879.4	
EAA(必須アミノ酸の和)		660.0~1222.3	
BCAA(分岐鎖アミノ酸の和)		265.8~579.1	
EAA/NEAA(必須アミノ酸の和/非必須アミノ酸の和)		0.40~0.63	
BCAA/Total AA(分岐鎖アミノ酸の和/総アミノ酸)		0.11~0.18	
フィッシャー比		2.43~4.40	

EAA/NEAA，BCAA/Total AA，フィッシャー比においては単位なし

低分子窒素化合物／糖質関連物質

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	1757 0 (3C070)	総ホモシステイン	血漿 0.3	C ⬇ X	冷蔵	3～5	287 ※4	HPLC	3.7～13.5 (nmol/mL)	&ヤ
	(3C055)	ハイドロキシプロリン-総	蓄尿 1	Y	凍結 (21日)	4～10	287 ※4	HPLC	83～330 (μmol/day)	
	(3C050)	γ-アミノ酪酸(GABA)	速やかに遠心 血漿 1.0	G ⬇ X	凍結 (21日)	5～11	287 ※4	HPLC	120～210 (pmol/mL)	採血後，速やかに血漿分離してください。
	(3C050)		髄液 1.0	X	凍結		304 ※4		(pmol/mL)	&ヤ
糖質関連物質	0300 7 (3D010)	緊急 グルコース	血漿 0.5	E ⬇ X	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※3	酸化電極法	70～109 (mg/dL)	
	0547 4 (3D045)	ヘモグロビンA1c (HbA1c)(NGSP)	血液 2.0 (フッ化Na加)	E	冷蔵 (7日)	1～2	❶ 49 ※2	HPLC	4.6～6.2 (%)	凍 凍結保存は避けてください。データの影響を及ぼす場合がありますので，必ず専用容器Eに採血し，ご提出ください。
	3342 8 (3D055)	グリコアルブミン	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	2～4	❶ 55 ※3	酵素法	12.4～16.3 (%)	
	(3D055)		血漿 0.5	E ⬇ X						&ヨ
	3874 8 (3D055)	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❶ 80 ※3	酵素法	M 14.9～44.7 F 12.4～28.8 (μg/mL)	&ヨ
		糖代謝解析	部分尿 5	X	凍結	10～13		Gas-Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法	下記参照	食事2時間後に採尿してください。 &ッ
	3617 3 (3D080)	ヒアルロン酸	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	184 ※3	ラテックス凝集免疫比濁法	50以下 (ng/mL)	
	3627 2 (3D080)		胸水0.4	X					(ng/mL)	
	4948 5 (3D105)	シアル酸	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～5		酵素法	44～71 (mg/dL)	&ヨ

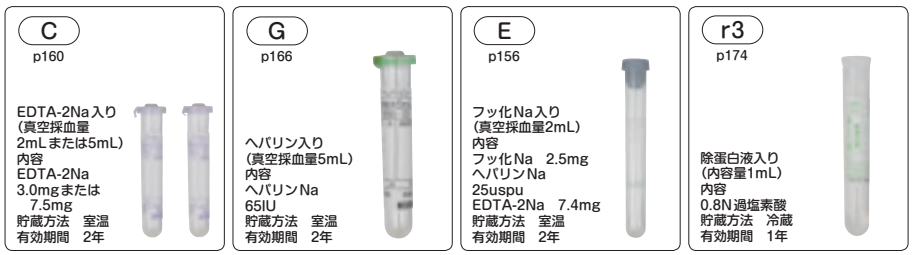
❶「HbA1c」,「グリコアルブミン」又は「1,5AG」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は，月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし，妊娠中の患者，1型糖尿病患者，経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者，インスリン治療を開始して6月以内の患者等については，いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。

糖代謝解析基準値

グルコース	6.25～115.85μg/mgCr.
ソルビトール	0.00～ 11.01μg/mgCr.
フルクトース	0.00～197.62μg/mgCr.
ミオイノシトール	1.02～ 8.34μg/mgCr.
1.5－アンヒドログルシトール	0.00～ 9.38μg/mgCr.
クレアチニン	0.30～ 2.30mg/mL

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
有機酸	4864 8 (3E010)	乳酸	速やかに遠心 除蛋白液 0.4	r3 ⬇ X	冷蔵	2～4	47 ※3	乳酸オキシダーゼによる酵素法	3.0～17.0 (全血中) (mg/dL)	採血後，直ちに正確に血液 1.0mL を専用容器（r3）に加え，十分撹拌後3000rpm5分間遠心分離し，その上清液をご提出ください。 &ヨ
	4865 7 (3E015)	ピルビン酸	速やかに遠心 除蛋白液 0.4	r3 ⬇ X	冷蔵	2～4	47 ※3	ピルビン酸オキシダーゼによる酵素法	0.30～0.94 (全血中) (mg/dL)	
	(3E025)	尿中シュウ酸	酸性蓄尿 3	X	冷蔵 (21日)	3～9	200 ※1	キャピラリー電気泳動法	M 10.3～41.5 F 9.0～37.7 (mg/day)	凍 凍結保存は避けてください。6N 塩酸10mL を入れた蓄尿ビンへ24時間蓄尿し，よく混和後必要量をご提出ください。なお，尿量があらかじめ少ないと予想される場合には，尿200mL に対して6N 塩酸1mL の割合で添加してください。酸性蓄尿されていない場合は，シュウ酸カルシウムが析出する可能性がありますので，必ず酸性蓄尿（pH1.0～2.0）してください。 &ヤ
	(3E030)	クエン酸	部分尿 0.5	Y	凍結 (1ヵ月)	6～12		酵素法	138～1010 (mg/L)	&M
	(3E030)		血清 1.5	01 ⬇ X	凍結				1.3～2.6 (mg/dL)	
	3774 9 (3E045)	血中ケトン体分画	速やかに 冷却遠心 血清 0.5 (静脈血)	01 ⬇ X	凍結 (7日)	2～4	❶ 59 ※3	酵素法	アセト酢酸 55以下 3-ヒドロキシ酪酸 85以下 総ケトン体 130以下 (μmol/L)	早朝空腹時採血（静脈）してください。採血後は速やかに冷却遠心にて分離し，凍結保存してください。 &ヨ
	3778 5 (3E045)		速やかに 冷却遠心 血清 0.5 (動脈血)						ケトン体比 アセト酢酸/3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	ブドウ糖投与下または食後（血糖120mg/dL 以上）に動脈採血してください。採血後は速やかに冷却遠心にて分離し，凍結保存してください。 &ヨ
	(3E060)	アセトン定量	血清 0.7	02 ⬇ X	凍結 (15日)	7～10		Gas-chromatograph法	5未満 (μg/mL)	分離剤入り容器は使用しないでください。 &M
	K153 1 (3E060)	尿中アセトン定量	部分尿 1.2	Y	凍結					&M
	8248 8 (3E105)	有機酸スクリーニング検査	部分尿 5	Y	凍結	7～14	❷ ★	Gas-chromatograph法 (GC-MS)		酸 酸性蓄尿は避けてください。専用依頼書に臨床所見を必ずご記入ください。本検査は疑われる先天性有機酸代謝異常症を専門医が判定する検査です。判定医による判定に時間を要する場合は所要日数より遅れる場合があります。 &ヤ

❶「ケトン体」及び「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は，「ケトン体分画」の所定点数のみ算定する。
❷★当該保険医療機関内において，当該検査を行った場合に患者1人につき月1回に限り算定する。（先天性代謝異常症検査1,141点）



脂質関連物質

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質関連物質	0001 9 (3F015)	中性脂肪(TG)	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※3	酵素法(GK-GPO・遊離グリセロール消去)	50～149 (mg/dL)	
	0422 2 (3F025)	リン脂質	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(21日)	2～4	15 ※3	酵素法	160～260 (mg/dL)	&3
	0003 7 (3F050)	総コレステロール(T-Cho)	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶17 ※3	酵素法	150～219 (mg/dL)	
	(3F055)	エステル型コレステロール(Echo)	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(28日)	2～4		コレステロール酸化酵素(COD・POD)法,酵素法	90～200 (mg/dL)	
	(3F065)	遊離コレステロール(F-Cho)	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(28日)	2～4	11 ※3	酵素法	30～60 (mg/dL)	
		コレステロールエステル比	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(28日)	2～4		コレステロール酸化酵素(COD・POD)法,酵素法	73～77 (%)	&3
	M006 2 (3F070)	HDL-コレステロール	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶17 ※3	直接法	M 40～86 F 40～96 (mg/dL)	LDL-C/HDL-C比(項目コードNo.2881)とLDL-コレステロールとHDL-コレステロールの3項目を同時にご依頼いただいた場合，LDL-C/HDL-C比をご報告いたします。
	M005 3 (3F077)	LDL-コレステロール	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶18 ※3	直接法	70～139 (mg/dL)	
	(3F075)	$HDL_{2,3}$コレステロール	血清 1.0	01⬇X	冷蔵(20日)	2～4		超遠心法	HDL2 コレステロール M 16.0～61.0 F 23.0～73.0 HDL3 コレステロール M 13.0～25.0 F 13.0～24.0 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 &1
	3341 9 (3F078)	レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	血清 0.5	01⬇X	冷蔵(7日)	2～4	❷184 ※3	酵素法	7.5以下 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 糖尿病，冠動脈疾患などの既往歴のある場合は，5.2mg/dL 以上がハイリスク域といわれています。 &3

❶「HDL-コレステロール」,「総コレステロール」及び「LDL-コレステロール」を併せて測定した場合は，主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷3月に1回を限度として算定できる。

LDL-C/HDL-C比

・LDL- コレステロールと HDL- コレステロールと本項目の3項目を同時にご依頼いただいた場合，LDL- コレステロールと HDL- コレステロールの測定結果とともに LDL-C/HDL-C 比を算出し，ご報告いたします。
・LDL-C/HDL-C 比のみのご依頼はできません。

動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版抜粋

表1　脂質異常症：スクリーニングのための診断基準(空腹時採血＊)

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症＊＊
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症

・LDLコレステロールはFriedewald(TC－HDL-C－TG/5) の式で計算する(TGが400mg/dL未満の場合)。
・TGが400mg/dL以上や食後採血の場合はnon HDL-C(TC－HDL-C) を使用し，その基準値はLDL-C＋30mg/dLとする。
＊　10-12時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし，水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。
＊＊スクリーニングで境界域高LDLコレステロール血症を示した場合は，高リスク病態がないか検討し，治療の必要性を考慮する。

表2　リスク区分別脂質管理目標値

治療方針の原則	管理区分	脂質管理目標値(mg/dL) LDL-C	HDL-C	TG	non HDL-C
一次予防 まず生活習慣の改善を行った後，薬物療法の適用を考慮する	カテゴリーⅠ	＜160	≧40	＜150	＜190
	カテゴリーⅡ	＜140			＜170
	カテゴリーⅢ	＜120			＜150
二次予防 生活習慣の是正とともに薬物療法を考慮する	冠動脈疾患の既往	＜100			＜130

・家族性高コレステロール血症については9章を参照のこと。
・高齢者(75歳以上)については15章を参照のこと。
・若年者などで絶対リスクが低い場合は相対リスクチャートを活用し，生活習慣の改善の動機づけを行うと同時に絶対リスクの推移を注意深く観察する。
・これらの値はあくまでも到達目標値である。
・LDL-Cは20～30%の低下を目標とすることも考慮する。
・non HDL-Cの管理目標は，高TG血症の場合にLDL-Cの管理目標を達成したのちの二次目標である。TGが400mg/dL以上および食後採血の場合は，non HDL-Cを用いる。
・いずれのカテゴリーにおいても管理目標達成の基本はあくまでも生活習慣の改善である。
・カテゴリーⅠにおける薬物療法の適用を考慮するLDL-Cの基準値は180mg/dL以上とする。

出典「日本動脈硬化学会」

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質関連物質	A084 8	脂肪酸分画(24成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	G ⬇ X	凍結(1ヵ月)	10~14	417 ※4	Gas-chromatograph法	下記参照	&ヤ
			血清 0.5	01 ⬇ X			417 ※4			
	G058 1	脂肪酸分画(4成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	G ⬇ X	凍結(35日)	4~6	417 ※4	Gas-chromatograph法	ジホモ-γ-リノレン酸 22.6~72.5 アラキドン酸 135.7~335.3 エイコサペンタエン酸 10.2~142.3 ドコサヘキサエン酸 54.8~240.3 (μg/mL) EPA/AA比 0.05~0.61 DHA/AA比 0.27~1.07 (EPA+DFA)/AA比 0.32~1.66	DHLA(ジホモ-γ-リノレン酸)・AA(アラキドン酸)・EPA(エイコサペンタエン酸)・DHA(ドコサヘキサエン酸) &ヤ
			血清 0.5	01 ⬇ X			417 ※4			
	(3F096)	極長鎖脂肪酸	血漿 2.0	G ⬇ X	凍結(1ヵ月)	6~19		Gas-chromatograph法(GC-MS)	C24:0/C22:0 0.628~0.977 C25:0/C22:0 0.012~0.023 C26:0/C22:0 0.003~0.006	&ヤ

[A084]脂肪酸分画(24成分)基準値

No.	脂肪酸名	略号(炭素数)	基準値 μg/mL	基準値 重量%
1	ラウリン酸	C12:0	10.2以下	0.31以下
2	ミリスチン酸	C14:0	10.8~61.1	0.36~1.43
3	ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.2以下	0.09以下
4	パルミチン酸	C16:0	495.1~918.3	19.18~23.84
5	パルミトレイン酸	C16:1ω7	23.8~117.3	0.87~3.18
6	ステアリン酸	C18:0	167.6~312.7	6.13~8.49
7	オレイン酸	C18:1ω9	433.9~910.1	16.19~23.66
8	リノール酸	C18:2ω6	708.1~1286.0	23.24~36.89
9	γ-リノレン酸	C18:3ω6	2.5~25.6	0.09~0.72
10	リノレン酸	C18:3ω3	11.5~45.8	0.40~1.30
11	アラキジン酸	C20:0	6.9~14.4	0.24~0.46
12	エイコセン酸	C20:1ω9	2.6~9.5	0.09~0.30
13	エイコサジエン酸	C20:2ω6	4.3~9.3	0.15~0.26
14	5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	6.0以下	0.17以下
15	ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	22.6~72.5	0.79~2.05
16	アラキドン酸	C20:4ω6	135.7~335.3	4.21~9.30
17	エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	10.2~142.3	0.36~3.99
18	ベヘニン酸	C22:0	14.6~30.3	0.43~0.91
19	エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9~10.4	0.10~0.30
21	ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	9.5~31.8	0.34~0.89
22	リグノセリン酸	C24:0	15.5~31.2	0.49~0.90
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	54.8~240.3	1.88~6.86
24	ネルボン酸	C24:1ω9	27.1~53.0	0.78~1.64

T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)	0.02以下
EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)	0.05~0.61
DHA/AA比(C22:6ω3/C20:4ω6)	0.27~1.07
(EPA+DHA)/AA比	0.32~1.66
w3/w6比	0.09~0.36

G
p166

ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

脂質関連物質

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質関連物質	2601 1 (3F110)	総胆汁酸	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 47 ※3	酵素法	10.0以下 (μmol/L)	&Ɜ
	(3F115)	グリココール酸(CG)	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	2～6	80 ※3	RIA PEG法	50以下 (μg/dL)	&I
	0006 4 (3F130)	β-リポ蛋白	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	2～4		免疫比濁法	220～650 (mg/dL)	&Ɜ
	3211 3 (3F135)	リポ蛋白分画	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵 (7日)	2～4	49 ※3	アガロース電気泳動法	α M 26.9～50.5 F 32.6～52.5 PREβ M 7.9～23.8 F 6.6～20.8 β M 35.3～55.5 F 33.6～52.0 (%)	凍 凍結保存は避けてください。
	3223 0 (3F140)		血清 0.5			3～7	80 ※3	ポリアクリルアミドゲルディスク電気泳動法	HDL M 22～47 F 27～50 LDL M 46～68 F 44～66 VLDL M 3～19 F 2～12 (%)	&ヤ
		リポ蛋白脂質分画定量 (リポ蛋白コレステロール分画定量 リポ蛋白トリグリセライド分画定量 リポ蛋白リン脂質分画定量)	血清 1.0	01 ⬇ X	冷蔵	2～4		超遠心法	下記参照	凍 凍結保存は避けてください。
	(3F150)	リポ蛋白コレステロール(LP-C)分画定量	血清 1.0	01 ⬇ X	冷蔵 (20日)	2～4		超遠心法	下記参照	&I
	(3F150)	コレステロール分画	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵 (7日)	2～4	57 ※3	アガロース電気泳動法	HDLコレステロール 23～48 LDLコレステロール 47～69 VLDLコレステロール 2～15 (%)	凍 凍結保存は避けてください。 &ヤ
	K222 4 (3F087)	酸化LDL (MDA-LDL)	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (21日)	3～7	❷ 194 ※3	ELISA	男性 45才未満:46～82 45才以上:61～105 女性 55才未満:46～82 55才以上:61～105 (U/L)	採血後，冷蔵保存にて6時間以内に血清分離し，速やかに凍結保存してください。 &I

❶「尿中硫酸抱合型胆汁酸測定」,「胆汁酸」を同時に測定した場合には，いずれか一方の所定点数のみを算定する。
❷冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で，冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合3月に1回に限り算定できる。糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合，上記とは別に術前1回に限り算定できる。

リポ蛋白脂質分画定量基準値

(単位:mg/dL)

検査項目	性別	Total	HDL	LDL	VLDL
リポ蛋白コレステロール分画定量	男性	134～223	31.0～ 80.0	61.0～153.0	50.0以下
	女性	134～225	35.0～ 85.0	62.0～153.0	25.0以下
リポ蛋白トリグリセライド分画定量	男性	30～147	7.0～ 25.0	12.0～ 53.0	2.0～93.0
	女性	31～141	7.0～ 26.0	12.0～ 47.0	8.0～87.0
リポ蛋白リン脂質分画定量	男性	166～294	77.0～165.0	49.0～114.0	48.0以下
	女性	172～280	86.0～163.0	50.0～107.0	46.0以下

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質関連物質	3233 9 (3F156)	リポプロテイン(a)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❶ 107 ※3	LA(ラテックス凝集比濁法)	40以下(参考値) (mg/dL)	&ヤ
	(3F160)	リポ蛋白リパーゼ(LPL)	速やかに 冷却遠心 血漿 0.3	G ⬇ X	凍結 (1ヵ月)	2～8	223 ※3	ELISA	164～284 (ng/mL)	早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し15分後に指定の容器(G)に採取し,4℃で遠心分離後,上清の血漿を凍結保存にてご提出ください。EDTA血漿は避けてください。 基準値につきましては上記採取条件に基づき設定しております。 &ヨ
	3234 8 (3F180)	アポリポ蛋白 A-Ⅰ	血清 各0.3	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	❷ 各31 ※3 3項目以上測定した場合 94 ※3	免疫比濁法	M 119～155 F 126～165 (mg/dL)	アポリポ蛋白Bと重複依頼する場合は凍結保存を避けてください。 &ヤ
	3235 7 (3F185)	アポリポ蛋白 A-Ⅱ							M 25.9～35.7 F 24.6～33.3 (mg/dL)	
	3236 6 (3F190)	アポリポ蛋白 B							M 73～109 F 66～101 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 &ヤ
	3237 5 (3F195)	アポリポ蛋白 C-Ⅱ							M 1.8～4.6 F 1.5～3.8 (mg/dL)	アポリポ蛋白Bと重複依頼する場合は凍結保存を避けてください。 &ヤ
	3238 4 (3F200)	アポリポ蛋白 C-Ⅲ							M 5.8～10.0 F 5.4～9.0 (mg/dL)	
	3239 3 (3F205)	アポリポ蛋白 E							M 2.7～4.3 F 2.8～4.6 (mg/dL)	
	(3F206)	アポリポ蛋白E フェノタイプ	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵 (7日)	4～20		等電点電気泳動法によるイムノブロット法		凍 凍結保存は避けてください。 &ヤ

❶3月に1回を限度として算定できる。
❷アポリポ蛋白は，AⅠ，AⅡ，B，CⅡ，CⅢ及びEのうち，測定した項目数に応じて所定点数を算定する。

ビタミン

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ビタミン	(3G015)	ビタミンA	血清 0.4	01 ⬇ i	冷蔵 遮光	3～5		HPLC	97～316 (IU/dL)	遮光してください。 &ヤ
	3619 1 (3G011)	β-カロチン	血清 0.6	01 ⬇ i	凍結 (1ヵ月) 遮光	5～11		HPLC	M 6.6～47.6 F 20.4～105.2 (μg/dL)	
	(5C030)	レチノール結合蛋白 (RBP)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	136 ※5	ラテックス凝集比濁法	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6 (mg/dL)	&ヨ
	3725 3 (3G025)	ビタミンB1	血液 0.5 (EDTA-2K加)	g1	凍結 (6ヵ月)	3～5	246 ※3	LC/MS/MS	24～66 (ng/mL)	指定の容器に採血しすぐ混和させ凍結保存してください。 &ヤ
	4329 2 (3G030)	ビタミンB2	血液 0.5 (EDTA-2K加)	g1 ⬇ i	凍結 (1ヵ月) 遮光	3～5	249 ※3	HPLC	66.1～111.4 (ng/mL)	(検体のご提出について) 血液は必ず遮光ポリスピッツ (i) に移し替え，凍結してご提出ください。 &ヤ
	3731 6 (3G036)	ビタミンB6	血清 0.5	01 ⬇ i	冷蔵 遮光	3～5		HPLC	ピリドキサミン M 0.6以下 F 0.6以下 ピリドキサール M 6.0～40.0 F 4.0～19.0 ピリドキシン M 3.0以下 F 3.0以下 (ng/mL)	遮光してください。 &ヤ
	3737 0 (3G040)	ビタミンB_{12}	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	144 ※3	CLEIA	180～914 (pg/mL)	血清材料以外でのご依頼は避けてください。(特に，EDTA 血漿はデータ上昇傾向がみられます。) &エ
	3735 2 (3G060)	ビタミンC (アスコルビン酸)	(血清中) 除蛋白上清 0.5	r5 ↓ i	凍結 (7日) 遮光	3～5	314 ※3	HPLC	5.5～16.8(血清中) (μg/mL)	正確に血清 0.5mL を専用容器 (r5) に加え，混和後遠心分離し，その上清を遮光ポリスピッツ (i) にてご提出ください。 &ヤ

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ビタミン	3794 7 (3G070)	1,25-$(OH)_2$ ビタミンD	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	3~7	❶ 388 ※3	RIA2抗体法	成人 20.0~60.0 小児 20.0~70.0 (pg/mL)	
	A228 8 (3G065)	25-OHビタミンD 〔RIA〕	血清 0.2	01 ⬇ X	冷蔵	5~11		RIA固相法	(ng/mL)	&I
	A099 2	25OHビタミンD 〔ECLIA〕 3G065-0000-023-053	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	2~4	117 ※3	ECLIA	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足20.0~29.9(ng/mL)	&I
	(3G080)	ビタミンE	血清 0.5	01 ⬇ i	凍結 遮光	7~13		蛍光法	0.75~1.41 (mg/dL)	遮光してください。 &M
	(3G085)	ビタミンE分画	血清 0.5	01 ⬇ i	冷蔵 遮光	依頼時にご確認ください。		HPLC	α-トコフェロール 0.49~1.09 β-トコフェロール 0.02以下 γ-トコフェロール 0.05~0.17 δ-トコフェロール 0.01以下 (mg/dL)	遮光してください。 &ヤ
	3738 9 (3G105)	葉酸	血清 0.6	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	154 ※3	CLEIA	4.0以上 (ng/mL)	溶 溶血および血清材料以外でのご依頼は避けてください。(溶血の場合，赤血球中葉酸の影響で高値となります。特に，EDTA 血漿はデータ上昇傾向がみられます。) &I
	(3G090)	ビタミンK分画	速やかに遠心 血漿 2.0	L ⬇ i	凍結 (17日) 遮光	3~9		HPLC	ビタミンK1 0.15~1.25 ビタミン K2(MK-4) 0.10以下 (ng/mL)	採血後，速やかに血漿分離してください。血漿は必ず遮光ポリスピッツ (i) で凍結してご提出ください。 &ヤ
	3744 2 (3G110)	ニコチン酸 (ナイアシン)	血液 1.5 (ヘパリン加)	G	冷蔵	7~13		Bioassay	4.7~7.9 (μg/mL)	&I
	8712 2 (3G055)	カルニチン分画	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵	2~4	❷❸❹ 95 + 95 ※3	酵素サイクリング法	総カルニチン 45~91 遊離カルニチン 36~74 アシルカルニチン 6~23 (μmol/L)	&ヨ

❶活性型ビタミンD_3剤による治療開始後1月内においては2回を限度とし，その後は3月に1回を限度として算定する。
❷先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は，月に1回を限度として算定する。
❸静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー，筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者，人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者，バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者，Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために，本検査を実施する場合は，6月に1回を限度として算定する。
❹「カルニチン分画」と「先天性代謝異常症検査」を併せて行った場合は，主たるもののみ算定する。

電解質

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
電解質	0033 4 (3H010)	緊急 Na(ナトリウム)	速やかに遠心 血清0.5	01 ⬇ X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※3	電極法	136～147 (mEq/L)	採血後は，血液凝固を確認後，速やかに血清分離してください。血液のまま放置，冷却保存はナトリウムが低値を示しますので避けてください。
	L118 9 (3H010)		蓄尿 5	Y	冷蔵		❶ 11 ※3		1.60～5.80 (g/day)	
	0035 2 (3H020)	Cl(クロール)	血清0.5	01 ⬇ X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※3	電極法	98～109 (mEq/L)	
	L120 6 (3H020)		蓄尿 5	Y	冷蔵		❶ 11 ※3		2.50～8.90 (g/day)	
	0034 3 (3H015)	緊急 K(カリウム)	速やかに遠心 血清0.5	01 ⬇ X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※3	電極法	3.60～5.00 (mEq/L)	溶 採血後は，血液凝固を確認後，速やかに血清分離してください。血液のまま放置，冷却保存又は溶血は，カリウムが高値を示しますので避けてください。
	L119 8 (3H015)		蓄尿 5	Y	冷蔵		11 ※3		1.00～3.90 (g/day)	
	0008 2 (3H030)	緊急 Ca(カルシウム)	血清0.5	01 ⬇ X	冷蔵(28日)	1～2	❷ 11 ※3	アルセナゾⅢ法	8.5～10.2 (mg/dL)	重 (蓄尿) 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。凍結保存は避けてください。
	L122 4 (3H030)		蓄尿 5	Y	冷蔵		❷ 11 ※3		0.1～0.3 (g/day)	
	3641 6 (3H035)	イオン化カルシウム	速やかに遠心 血清0.9	01 ⬇ X	凍結	3～5	❷ 26 ※3	イオン電極法	2.41～2.72 (mEq/L)	pH＝7.4，37℃にて測定。 &I
	0005 5 (3H040)	P(無機リン)	血清0.5	01 ⬇ X	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❸ 17 ※3	モリブデン酸直接法	2.4～4.3 (mg/dL)	
	L123 3 (3H040)		蓄尿 5	Y	冷蔵		❸ 17 ※3		0.5～1.0 (g/day)	
	0030 7 (3H025)	Mg(マグネシウム)	血清0.5	01 ⬇ X	冷蔵(1ヵ月)	2～4	11 ※3	キシリジルブルー法	1.8～2.6 (mg/dL)	重 (蓄尿) 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。凍結保存は避けてください。 &E
	(3H025)		蓄尿 0.5	Y	冷蔵		11 ※3		0.02～0.13 (g/day)	
	3771 2 (3H045)	浸透圧	血清0.7	01 ⬇ X	冷蔵	2～4	15 ※2	氷点降下法	276～292 (mOsm/Kg･H2O)	凍 凍結保存は避けてください。 &I
	(3H045)		部分尿 1	Y			16 ※1		濃縮時 850以上 希釈時 40～85 (Fishberg試験時) (mOsm/Kg･H2O)	

❶「ナトリウム」及び「クロール」については，両方を測定した場合も，いずれか一方のみを測定した場合も，同一の所定点数により算定する。
❷「カルシウム」及び「イオン化カルシウム」を同時に測定した場合には，いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。
❸「無機リン」及び「リン酸」については，両方を測定した場合も，いずれか一方のみを測定した場合も，同一の所定点数により算定する。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
生体微量金属	0028 0 (31010)	鉄(Fe)	血清 0.5	01 ⬇ Z	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※3	ニトロソ-PSAP法	M 54～200 F 48～154 (μg/dL)	
	(31010)		蓄尿 10	Z	冷蔵	6～11	11 ※3	原子吸光法	0.10～0.20 (mg/day)	&ミ
	0038 9 (31015)	総鉄結合能(TIBC)	血清 0.5	01 ⬇ Z	冷蔵 (28日)	1～2	11 ※3	ニトロソ-PSAP法(計算法)	M 253～365 F 246～410 (μg/dL)	
	0031 6 (31020)	不飽和鉄結合能(UIBC)	血清 0.5	01 ⬇ Z	冷蔵 (28日)	1～2	11 ※3	ニトロソ-PSAP法	M 104～259 F 108～325 (μg/dL)	
	3653 3 (31025)	Cu(銅)	血清 0.5	01 ⬇ Z	冷蔵 (28日)	2～4	23 ※3	比色法	68～128 (μg/dL)	&ヨ
	(31025)		蓄尿 5	Z	冷蔵	2～5	23 ※3	原子吸光分析法	M 4.2～33.0 F 2.5～20.0 (μg/day)	&エ
	3654 2 (31030)	Zn(亜鉛)	速やかに遠心 血清 0.5	01 ⬇ Z	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	140 ※3	比色法	80～130 (μg/dL)	採血後は速やかに血清分離をしてください。 &ヨ
	4672 1 (31030)		蓄尿 5	Z	冷蔵	2～5	140 ※3	原子吸光分析法	M 260～1000 F 160～620 (μg/day)	&エ
	3807 2 (3L320)	緊急 リチウム	血清 0.3	02 ⬇ Z	冷蔵	2～4	❶ ㊥	比色法	治療濃度範囲 0.3～1.2 (mEq/L)	採血時刻および採血容器についての注意事項は下記をご参照ください。リーマス，リチオマール &ヨ
生体色素	0011 8 (3J010)	緊急 総ビリルビン(T-Bil)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※3	化学酸化法	0.3～1.2 (mg/dL)	
	0012 7 (3J015)	直接ビリルビン(D-Bil)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※3	化学酸化法	0.4以下 (mg/dL)	
		ビリルビン分画(直接・間接)	血清 0.5	01 ⬇ X	冷蔵 (1ヵ月)	2～4	11 ※3	化学酸化法	直接ビリルビン 0.4以下 間接ビリルビン 0.8以下 (mg/dL)	&ヨ

㊥:特定薬剤治療管理料（126ページ参照）

❶投与薬剤の血中濃度を測定し，その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合，月1回に限り算定する。

[3807]リチウム採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後，採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり，患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

[3807]リチウム採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において，測定値に影響を及ぼす場合があります。

ポルフィリン

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ポルフィリン	2625 5 (3J040)	コプロポルフィリン定性	部分尿 2 蓄尿 2	Y	冷蔵 遮光	3~6		HPLC	(−)	遮光してください。 &ヤ
	2627 3 (3J040)	コプロポルフィリン	部分尿 2 蓄尿 2	Y	冷蔵 遮光	3~6	135 ※1	HPLC	170以下 (μg/g・CRE)	
	4629 9 (3J050)	ウロポルフィリン	部分尿 2 蓄尿 2	Y	冷蔵 遮光	3~6	105 ※1	HPLC	36以下 (μg/g・CRE)	
	(3J065)	ポルフォビリノーゲン	蓄尿 3	Y	冷蔵 遮光	3~6	191 ※1	比色法 (M・G変法)	2.0以下 (mg/day)	遮光してください。 &I
	2610 1 (3J075)	δ-アミノレブリン酸 (δALA)	部分尿 1 蓄尿 1	Y	冷蔵 遮光	3~5	109 ※1	HPLC	(mg/L)	遮光してください。 102ページをご参照ください。 &ヤ
	(3J040)	コプロポルフィリン	血液 1.5 (ヘパリン加)	G3	冷蔵 遮光	7~11	210 ※3	HPLC	1以下 (μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。 遮光してください。 &N
	(3J050)	ウロポルフィリン	血液 1.5 (ヘパリン加)	G3	冷蔵 遮光	7~11		HPLC	1以下 (μg/dL RBC)	
	(3J055)	プロトポルフィリン	血液 1.5 (ヘパリン加)	G3	冷蔵 遮光	7~11	272 ※3	HPLC	30~86 (μg/dL RBC)	
	(3J055)	赤血球遊離プロトポルフィリン	血液 1.0 (ヘパリン加)	G3	冷蔵 遮光	3~6		蛍光法 (Piomelli法)	(μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。 遮光してください。 &I

	項目コード(統一コード)	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
毒物・産業医学	4697 4 (3K025)	尿中馬尿酸		部分尿 2	Y	冷蔵	4~10		HPLC	(g/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし，採尿2時間前に一度排尿してください。102ページをご参照ください。 &ヤ
	4698 3 (3K030)	尿中メチル馬尿酸		部分尿 2	Y	冷蔵	4~10		HPLC	(g/L)	
	4699 2 (3K040)	尿中マンデル酸		部分尿 2	Y	冷蔵	4~10		HPLC	(g/L)	
	4721 6 (3K011)	尿中総三塩化物	トリクロルエチレン	部分尿各2	Y	冷蔵	4~10		Gas-chromatograph法	(mg/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし，採尿2時間前に一度排尿してください。102ページをご参照ください。 &ヤ
	4722 5 (3K012)		1・1・1-トリクロルエタン								
	(3K013)		テトラクロルエチレン								
	4724 3 (3K016)	尿中トリクロル酢酸	トリクロルエチレン	部分尿各2	Y	冷蔵	4~10		Gas-chromatograph法	(mg/L)	
	4725 2 (3K017)		1・1・1-トリクロルエタン								
	(3K018)		テトラクロルエチレン								
	(3K020)	尿中トリクロルエタノール		部分尿 2	Y	冷蔵	4~10		Gas-chromatograph法	(mg/L)	週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし，採尿2時間前に一度排尿してください。 &ヤ
	4703 6 (3K045)	尿中N-メチルホルムアミド		部分尿 5	Y	冷蔵	4~10		Gas-chromatograph法 (GC-MSD)	(mg/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし，採尿2時間前に一度排尿してください。102ページをご参照ください。 &ヤ
	4704 5 (3K050)	尿中2,5-ヘキサンジオン		部分尿 5	Y	冷蔵	4~10		Gas-chromatograph法 (GC-MSD)	(mg/L)	
	2620 0 (3K110)	鉛(Pb)		血液 3.0 (ヘパリン加)	G	冷蔵	3~5		原子吸光分析法	(μg/dL)	102ページをご参照ください。 &I

毒物・産業医学／その他

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
毒物・産業医学	3656 0 (3K105)	アルミニウム(Al)	血清 0.6	e	冷蔵	3～5	115 ※3	原子吸光分析法	10以下 (μg/L)	重 凍 e容器は凍結保存を避けてください。 &I
	(3K115)	クロム	血液 0.7 (ヘパリン加)	G	冷蔵	6～19		原子吸光分光光度法	1.0以下 (μg/dL)	血液：凍結保存は避けてください。 &N
	(3K115)		部分尿 1	Z					2以下 (μg/L)	
	9520 4 (3K125)	マンガン	血液 0.7 (ヘパリン加)	G	冷蔵	7～20	❶ 27 ※3	原子吸光分光光度法	0.8～2.5 (μg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 &N
	3662 3 (3K120)	カドミウム	血液 0.5 (ヘパリン加)	G	冷蔵	9～14		原子吸光法	0.5以下 (μg/dL)	血液：凍結保存は避けてください。 &M
	4992 6 (3K120)		部分尿 1	Z		8～14			3.8以下 (μg/L)	
その他	(3Z050)	イヌリン定量〔酵素法〕	血清 0.7	01 ⬇ X	冷蔵 (21日)	2～8	❷ 120 ※3	酵素法	(mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。依頼書に臨床診断名をご記入ください。 &ヨ
	(3Z050)		部分尿 1	Y						
	4899 0 (3Z065)	結石分析〔成分比率〕	結石 10mg	L2	室温	4～6	120 ※4	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	(%)	サンプルは乾燥させ結石専用容器にてご提出ください。血液などの付いたサンプルは蒸留水で洗浄後，乾燥させてご提出ください。 &ヤ
	3785 7 (3Z040)	エタノール	血液 1.0 (ヘパリン加)	G ⬇ X	凍結	3～6	111 ※3	Gas-chromatograph法	0.1未満 (mg/mL)	血液はポリスピッツに移し替え，必ず凍結保存にてご提出ください。 &ヤ
	(3Z024)	ネオプテリン	血清 0.3	01 ⬇ i	冷蔵 遮光	6～12		HPLC	2～8 (pmol/mL)	遮光してください。 &ヤ

❶1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して，3月に1回に限り算定することができる。
❷尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に，6月に1回に限り算定できる。ただし,「クレアチニン(腎クリアランス測定の目的で行い，血清及び尿を同時に測定する場合に限る。)」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。

産業医学(有機溶剤，鉛)関連検査

産業医学関連検査は，有機溶剤作業者，鉛作業者を対象として，体内に有機溶剤や鉛がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため，結果の評価については，正常・異常の鑑別を目的としたものではなく，作業環境を含めた総合的な判断が必要とされています。

また，労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では，各健康診断結果報告書を，所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

有機溶剤等健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則，様式第3号の2)
鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則，様式第3号)より

有機溶剤，鉛関連検査結果分布表

対象物質	測定項目	単位	分布 1	分布 2		分布 3
トルエン	** 尿中馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超
キシレン	** 尿中メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超
スチレン	** 尿中マンデル酸	g/L	0.3以下	0.3超	1以下	1超
トリクロルエチレン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超
	*** 尿中トリクロル酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超
1・1・1-トリクロルエタン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
	*** 尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
テトラクロルエチレン	*** 尿中総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
	*** 尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
N・N-ジメチルホルムアミド	** 尿中N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
ノルマルヘキサン	** 尿中2,5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超
鉛	血中鉛	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超
	* 尿中δ-アミノレブリン酸	mg/L	5以下	5超	10以下	10超
	* 赤血球遊離プロトポルフィリン	μg/dLRBC	100以下	100超	250以下	250超

検体取り扱い方法

* 遮光保存してください。
** 連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし，採尿2時間前に一度排尿してください。
*** 週末の作業日の作業終了時に採尿してください。ただし，採尿2時間前に一度排尿してください。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
その他	K128 9 (3B222)	骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	血清 0.5	01 ⬇ X	凍結	2〜4	❶❷ 156 ※4 腫2	EIA	男性 170〜590 女性(YAM) 120〜420 (mU/dL)	YAM：若年者成人平均値 女性の基準値は，健常閉経前女性（30〜44歳）で確立された平均±1.96標準偏差の範囲としております。なお，閉経後女性にも適用されます。 &I
	4753 1 (5C123)	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	部分尿 3	Y	冷蔵	2〜4	❶❻ 156 ※4 腫2	ELISA	(クレアチニン換算値) 男性 13.0〜66.2 閉経前女性 9.3〜54.3 閉経後女性 14.3〜89.0 (参考値) (nmol BCE/mmol・CRE) 判定基準：下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。
	4742 3 (5C146)	デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	部分尿 3	Y	冷蔵	2〜4	❶❻ 191 ※4	EIA	M 2.1〜5.4 F 2.8〜7.6 (nmol BCE/mmol・CRE) 判定基準：下記参照	&I
	3345 5 (3B072)	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	血清 0.8	01 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❸❹❺ 161 ※4	CLEIA	男性 3.7〜20.9 閉経前女性 2.9〜14.5 閉経後女性 3.8〜22.6 (μg/L)	&I
	A197 3 (5C120)	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P 1 NP)	血清 0.4	01 ⬇ X	冷蔵 (28日)	2〜4	169 ※4	ECLIA	男性(30〜83歳) 18.1〜74.1 閉経前女性(30〜44歳) 16.8〜70.1 閉経後女性(45〜79歳) 26.4〜98.2 (ng/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください（溶血の場合，データが低値傾向となります。） &I

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料（40ページ参照）

❶「NTx」,「オステオカルシン」,「尿中DPD」,「TRACP-5b」を併せて実施した場合は，いずれか1つのみ算定する。
❷代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌，乳癌，前立腺癌に限る。）の診断補助として実施した場合に1回，その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
❸「ALPアイソザイム（PAG電気泳動法）」,「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」,「骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」を併せて実施した場合は，主たるもののみ算定する。
❹「ALPアイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」,「骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）」と併せて実施した場合には，いずれか主たるもののみ算定する。
❺「骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）,「インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（Intact PⅠ NP）」,「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠ NP）及び「ALP・アイソザイム（PAG電気泳動法）」のうち2項目以上を併せて実施した場合は，主たるもののに算定する。
❻骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回，その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り，また，薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。

[4753] Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)
[4742] デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症) の判定基準

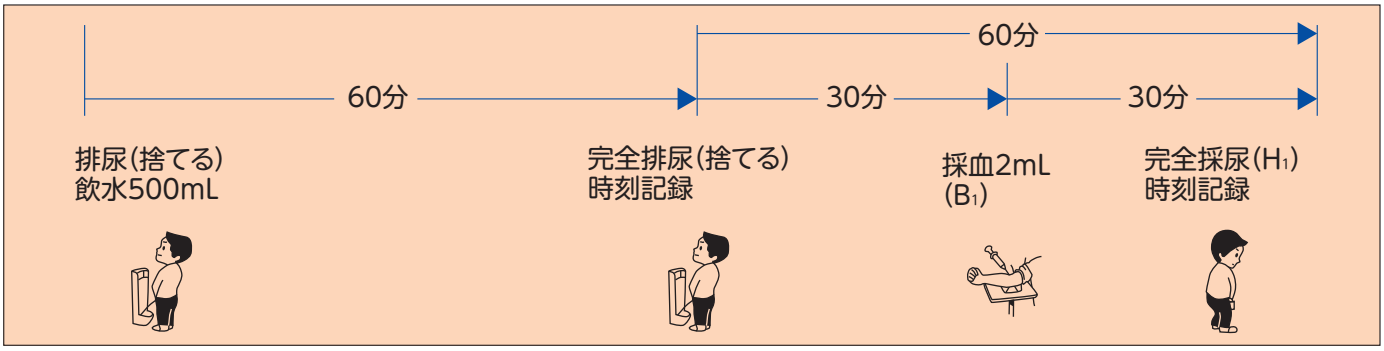
検査項目	骨粗鬆症薬剤治療の指標		単位
	骨折リスク カットオフ値	骨量減少 カットオフ値	
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	54.3	35.3	nmolBCE/mmol・CRE
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	7.6	5.9	nmol/mmol・CRE

クリアランス・機能試験

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
クリアランス・機能試験	0043 3 (8A020)	クレアチニンクリアランス	血清 0.5 と 時間蓄尿 5	(血清) 01 と (蓄尿) Y	冷蔵	1～2		酵素法	80.0～200.0 (mL/min)	年齢，身長，体重，採尿時間，尿量を必ず明記してください。採取方法は下記をご参照ください。平均体表面積（補正係数）は，1.73㎡を使用しています。
	0044 2 (8A025)	クレアチニンクリアランス (24時間法)	血清 0.5 と 蓄尿 5						93.0～238.0 (L/day)	年齢，身長，体重，採尿時間，尿量を必ず明記してください。採取方法は下記をご参照ください。平均体表面積（補正係数）は，1.73㎡を使用しています。
	(8A090)	PFD(PABA排泄率)	投与前尿 3 と 6時間蓄尿 3	Y	冷蔵	2～6	100	DACA法 (P-Dimethylamino cinnamaldehyde)	6時間蓄尿 73.4～90.4 (%)	1) PFD内服液を服用する前に採尿してください。(投与前尿5mL提出) 2) PFD内服液を水200mLとともに飲水し，6時間目までの尿を全て蓄尿してください。(6時間蓄尿5mL提出) 3) 6時間後に蓄尿時間と蓄尿量を明記し，投与前尿と6時間蓄尿をペアでご提出ください。 ＊ 年齢，蓄尿量および小児の場合は服用量を必ず明記してください。 &I

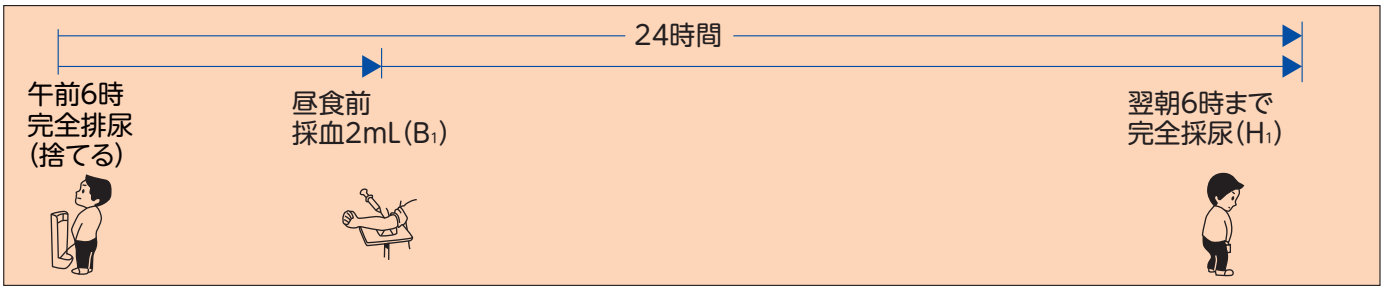
[0043]クレアチニンクリアランスの採取方法

(1)排尿後，微温水500mLを飲ませる。
(2)飲水後，60分後に放尿させ，完全に排尿し終わったとき時刻を正確に(1分以内の誤差で)記録する。
(3)開始30分後に2mL採血する。溶血をさけて血清分離する(B_1)。
(4)開始1時間後，完全採尿し，正確に尿量及び終了時刻を記録する(H_1)。
以上のようにして得た血清(B_1)，尿(H_1)を冷蔵保存し，提出してください。
年齢，身長，体重，採尿時間，尿量を必ず明記してください。



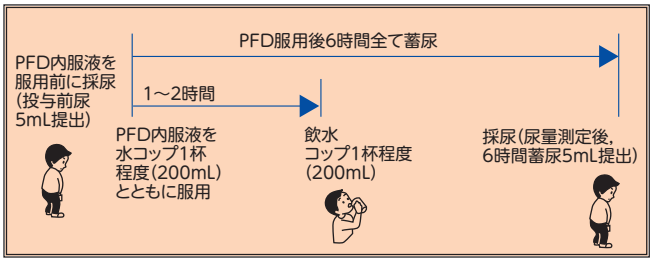
[0044]クレアチニンクリアランス(24時間法)の採取方法

(1)朝6時に完全排尿させてこれを捨て，以後の尿を翌朝6時まで蓄尿する。
(2)混和後，蓄尿量を測定し，その一部(5mL)を提出する(H_1)。
(3)昼食前に2mL採血する。溶血を避けて血清分離する(B_1)。
以上のようにして得た血清(B_1)，尿(H_1)を冷蔵保存し，ご提出ください。
年齢，身長，体重，採尿時間，尿量を必ず明記してください。



PFD(PABA排泄率)の採取方法

(1)PFD内服液を服用する前に採尿する。(投薬前尿5mL提出)
(2)PFD内服液を水200mLとともに飲水させ，6時間目までの尿を全て蓄尿する。(6時間蓄尿5mL提出)
(3)1～2時間後に尿を出しやすくするために水200mL程度を飲ませる。
(4)6時間目に蓄尿時間と蓄尿量を明記し，投薬前尿と6時間蓄尿をペアでご提出ください。
(小児の場合は服用量を明記してください。)



	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血液一般・形態検査		末梢血液一般検査 WBC, RBC, Hb, Ht, PLT	血液 2.0 (EDTA-2K加)	g	冷蔵	1～2	❶ 21 ※2	下記各項目の検査方法をご参照ください。	下記各項目の基準値欄をご参照ください。	溶 凍 凍結保存は避けてください。・EDTA-2K 入り専用容器に採取してください。・採取後，直ちに5回以上軽く転倒混和してください。・検体は採取後，当日中にご提出ください。・溶血，凝固および凍結検体は測定できません。
		末梢血液一般検査 MCV, MCH, MCHC								
	0801 1	緊急 白血球数(WBC)						半導体レーザーFCM方式(自動化法)	M 3900～9800 F 3500～9100 (/μL)	
	0802 0	赤血球数(RBC)						シースフローDC方式(自動化法)	M 427～570 F 376～500 (×10⁴/μL)	
	0803 9	緊急 血色素量(Hb)						SLS-Hb法(自動化法)	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2 (g/dL)	
	0804 8	ヘマトクリット値(Ht)						シースフローDC方式(自動化法)	M 39.8～51.8 F 33.4～44.9 (%)	
	0805 7	平均赤血球容積(MCV)						演算法(自動化法)	M 82.7～101.6 F 79.0～100.0 (fL)	
	0806 6	平均赤血球血色素量(MCH)						演算法(自動化法)	M 28.0～34.6 F 26.3～34.3 (pg)	
	0807 5	平均赤血球血色素濃度(MCHC)						演算法(自動化法)	M 31.6～36.6 F 30.7～36.6 (g/dL)	
	0808 4	緊急 血小板数(PLT)						シースフローDC方式(自動化法)	M 13.1～36.2 F 13.0～36.9 (×10⁴/μL)	
	0809 3 (2A110)	網状赤血球数(RET)					12 ※2	半導体レーザーFCM方式(自動化法)	M 2～27 F 2～26 (‰)	
	0852 5 (2A090)	好酸球数					❷ 17 ※2	半導体レーザーFCM方式(自動化法)	70～440 (/μL)	

❶「血小板凝集能」,「末梢血液一般検査」を同時に測定する場合は,「末梢血液一般検査」の所定点数を別に算定することはできない。
❷「好酸球数」及び「末梢血液像(自動機械法)」又は「末梢血液像(鏡検法)」を行った場合は，主たる検査の所定点数のみを算定する。

血液一般・形態検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血液一般・形態検査	L101 7	末梢血液像(白血球像)	血液 2.0	g	冷蔵	1～2	❶15 ※2	シースフロー電気抵抗方式SLS-Hb法 赤血球パルス波高値検出方式 半導体レーザーを用いたフローサイトメトリー法	＊桿状核球(Stab)：0.0～6.0% ＊分葉核球(Seg)：32.0～73.0% 好中球(Neut)：40.0～74.0% 好酸球(Eosino)：0.0～6.0% 好塩基球(Baso)：0.0～2.0% 単球(Mono)：0.0～8.0% リンパ球(Lym)：18.0～59.0%	溶 凍 凍結保存は避けてください。 ・EDTA-2K入り専用容器に採取してください。採取後，直ちに5回以上軽く転倒混和してください。 ・検体は採取後，当日中にご提出ください。 ・溶血，凝固および凍結検体は測定できません。 ＊（注）幼若細胞または明らかな左方移動が認められた場合は，桿状核球及び分葉核球をご報告します。
	M314 0	赤血球形態							大小不同(－) 奇形 (－) 多染性 (－) 有核 (－)	
	(2A170)	骨髄像	骨髄塗抹標本2枚	t	室温	7～12	812 ※2	ギムザ染色による鏡検法	下記参照	検査ご依頼の際は，添付資料が必要となりますので，当社営業担当員へお申し付けください。(記入事項一年齢，性別，血球計算の検査結果値など) &H
	0853 4 (2A300)	鼻汁中好酸球	鼻汁塗抹標本2～3枚	t	室温	1～2	15 ※2	ライト染色による鏡検法	(－)	

❶「好酸球数」及び「末梢血液像(自動機械法)」又は「末梢血液像(鏡検法)」を行った場合は，主たる検査の所定点数のみを算定する。

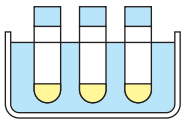
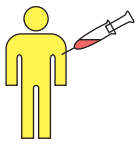
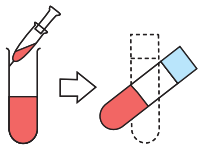
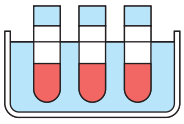
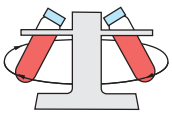
骨髄像基準値

Myelogram			基準値(%)
顆粒球系	骨髄芽球		0.2 ～ 2.9
	好中球	前骨髄球	1.5 ～ 8.4
		骨髄球	1.0 ～ 9.7
		後骨髄球	3.6 ～ 14.6
		桿状核球	10.6 ～ 24.6
		分葉核球	8.5 ～ 33.2
	好酸球	前骨髄球	0.1 ～ 0.8
		骨髄球	0.3 ～ 0.9
		後骨髄球	0.1 ～ 1.1
		桿状核球	0.1 ～ 0.8
		分葉核球	0.3 ～ 3.1
	好塩基球		0 ～ 0.8

Myelogram			基準値(%)
赤芽球系	前赤芽球		0.14
	巨赤芽球		—
	大赤芽球	塩基性	—
		多染性	—
		正染性	—
	正赤芽球	塩基性	0.8 ～ 6.7
		多染性	4.1 ～ 29.1
		正染性	0.1 ～ 5.7

Myelogram		基準値(%)
その他	リンパ芽球	—
	リンパ球	5.0 ～ 32.6
	単芽球	—
	単 球	0.7 ～ 6.0
	形質細胞	0.2 ～ 1.7
	細網細胞	0 ～ 3.9
	巨核球	0 ～ 0.1
	組織肥満細胞	—

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血小板活性化検査	(2B600)	β-トロンボグロブリン(β-TG)	速やかに 冷却遠心 乏血小板血漿 0.3	Q ⬇ X	凍結(1ヵ月)	2~6	177 ※2	EIA	50以下 (ng/mL)	検体採取方法は下記をご参照ください。 &ヤ
	(2B620)	血小板第4因子(PF-4)	速やかに 冷却遠心 乏血小板血漿 0.3	Q ⬇ X	凍結(1ヵ月)	2~6	178 ※2	EIA	20以下 (ng/mL)	
	K593 3 (5G530)	HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結	2~6	390 ※5	ラテックス比濁法	1.0未満 陰性 (U/mL)	採血後，速やかに血漿分離してください。血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体(IgG・IgM・IgA)を測定しております。なお，検査結果はグロブリンクラス別での報告ではありません。 &ヤ

容器形態	検査項目	保存	採取方法		注意事項
Q (真空採血禁止) 抗血小板剤入り 内容 テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 1年	β-トロンボグロブリン(β-TG)	凍結		あらかじめ専用容器(Q)を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。
				できるだけ20ゲージ(19~21ゲージでも可)の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって，専用容器(Q)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)	真空採血管，カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また，止血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け，出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。
				針を取って静かに専用容器(Q)のフタを開け，血液2.7mLを静かに移し，ゆっくり2~3回反転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。専用容器は振とうさせないでください。
				専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。
			以上の操作を2分以内に行ってください。		
	血小板第4因子(PF-4)	凍結		砕氷水に15~30分間放置後，採取血液を2,000Gで30分間，2~4℃で遠心分離してください。(右表は2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) ＊遠心器回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心器のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。 換算表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4,200 / 22 / 2,800 12 / 3,800 / 24 / 2,700 14 / 3,500 / 26 / 2,600 16 / 3,300 / 28 / 2,500 18 / 3,100 / 30 / 2,400 20 / 3,000
				上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取してください。 血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。 (血漿の全量採取は避けてください。) 検体は必ず凍結保存してください。(1カ月安定)	

K1
p169
3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量1.8mL)
内容 3.2%クエン酸Na 0.2mL
貯蔵方法 室温
有効期間 1年

t
p175
[オブジェクトケース]
プレパラート(スライドグラス)
貯蔵方法 室温

凝固系一般検査／凝固因子検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固系一般検査	K801 1 (2B030)	緊急 プロトロンビン時間(PT)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結	1～2	❶ 18 ※2	凝固時間法	秒 10.5～13.5 (秒) % 70～130 (%) 比 設定せず	採血後，速やかに血漿分離してください。 抗凝固療法の治療管理指標である国際標準化比（INR）もご報告いたします。
	0842 6 (2B020)	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結	1～2	29 ※2	凝固時間法	24.3～36.0 (秒)	採血後，速やかに血漿分離してください。
凝固因子検査	0848 0 (2B100)	フィブリノーゲン(FIB)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結	1～2	23 ※2	トロンビン凝固時間法	150～400 (mg/dL)	採血後，速やかに血漿分離してください。
	4104 1 (2B350)	凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2)	速やかに遠心 血漿 各0.4	K1 ⬇ X	凍結 (21日)	2～4	223 ※2	凝固時間法	75～135 (%)	採血後，速やかに血漿分離してください。
	4105 0 (2B370)	第Ⅴ因子(F5)					223 ※2		70～135 (%)	
	4107 8 (2B380)	第Ⅶ因子(F7)					223 ※2		75～140 (%)	
	4108 7 (2B390)	第Ⅷ因子(F8)					223 ※2		60～150 (%)	
	4109 6 (2B400)	第Ⅸ因子(F9)					223 ※2		70～130 (%)	
	4110 4 (2B410)	第Ⅹ因子(F10)					223 ※2			
	4111 3 (2B420)	第ⅩⅠ因子(F11)					223 ※2		75～145 (%)	
	4112 2 (2B430)	第ⅩⅡ因子(F12)					223 ※2		50～150 (%)	
	4113 1 (2B440)	第ⅩⅢ因子(F13)	速やかに遠心 血漿 0.4				223 ※2	合成基質法	70～140 (%)	
	4114 0 (2B460)	凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子	速やかに遠心 血漿 各1.0	L ⬇ X	凍結	2～4	148 ※2	ベセスダ法	検出せず (ベセスダU/mL)	
	4115 9 (2B470)	第Ⅸ(9)因子			凍結 (21日)		148 ※2			&ヤ

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固因子検査	(2B450)	フォン・ウィルブランド因子抗原定量	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ⬇ X	凍結(21日)	2～4	151 ※2	ラテックス凝集反応	50～155 (%)	採血後，速やかに血漿分離してください。
	4117 7 (2B480)	フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結(20日)	2～4	132 ※2	固定血小板凝集法	60～170 (%)	
	(2B490)	フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結(1ヵ月)	7～13		SDS アガロースゲル電気泳動法	NORMALパターン	&ヤ
凝固・線溶系検査	(2B260)	プラスミノーゲン	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結	2～4	100 ※2	発色性合成基質法	75～125 (%)	採血後，速やかに血漿分離してください。
	(2B270)	アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結(1ヵ月)	2～4	128 ※2	発色性合成基質法	85～115 (%)	
	4122 1 (2B200)	アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結(1ヵ月)	2～4	70 ※2	発色性合成基質法	79～121 (%)	
	4123 0 (5B045)	C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビダー活性)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ⬇ X	凍結(16日)	2～8	268 ※5	発色性合成基質法	70～130 (%)	
	(3M415)	ヘパリン	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ⬇ X	凍結(1ヵ月)	4～8	❶ 108 ※3	発色性合成基質法	(IU/mL)	
	4099 8 (2B120)	FDP定量	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ⬇ X	凍結(21日)	2～4	80 ※2	ラテックス免疫比濁法	4以下 (μg/mL)	&ヤ
	4738 8 (2B120)	FDP定量-尿	部分尿 0.5	b2 ⬇ X		2～6	72 ※1	LPIA	100以下 (ng/mL)	新鮮尿を専用容器（b2）に注入し，よく混和後，3000rpm5～10分間遠心分離してください。 &ヤ
	4131 1 (2B110)	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ⬇ X	凍結(21日)	2～4	93 ※2	凝集反応	陰性	採血後，速やかに血漿分離してください。
	8558 4 (2B110)	フィブリンモノマー複合体定量	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結(21日)	2～4	❷ 227 ※2	ラテックス免疫比濁法	6.1以下 (μg/mL)	&ヤ
	4132 0 (2B140)	Dダイマー	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結(21日)	1～2	133 ※2	ラテックス免疫比濁法	1.0以下 (μg/mL)	採血後，速やかに血漿分離してください。
	4133 9 (2B280)	α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ⬇ X	凍結(21日)	2～4	158 ※2	LPIA	0.8以下 (μg/mL)	採血後，速やかに血漿分離してください。
	A258 5 (2B210)	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	速やかに遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結(21日)	2～4	❷ 181 ※2	CLEIA	3.0以下 (ng/mL)	
	(2B170)	プロトロンビンフラグメントF1＋2	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ⬇ X	凍結	2～4	❷ 193 ※2	ELISA	69～229 (pmol/L)	&ヤ

❶同一の患者につき1月以内に該当検査を2回以上行った場合においては，算定は1回とし第1回目の測定を行ったときに算定する
❷「フィブリンモノマー複合体」，「TAT」，「プロトロンビンフラグメントF1＋2」のうちいずれか複数を同時に測定した場合は，主たるもののみ算定する。

凝固・線溶系検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固・線溶系検査	(2B700)	プロテインC(抗原量)	速やかに遠心 血漿 0.3	K1 ⬇ X	凍結	2〜5	239 ※2	LPIA	70〜150 (%)	採血後，速やかに血漿分離してください。 &ヤ
	4139 3 (2B700)	プロテインC活性	速やかに遠心 血漿 0.4	K1 ⬇ X	凍結 (21日)	2〜4	241 ※2	凝固時間法	64〜146 (%)	
	4875 6 (2B710)	プロテインS(抗原量)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ⬇ X	凍結 (21日)	2〜6	162 ※2	EIA	65〜135 (%)	採血後，速やかに血漿分離してください。測定対象はトータル（遊離型および複合体型）です。 &ヤ
	4152 8 (2B710)	プロテインS活性	速やかに遠心 血漿 0.4	K1 ⬇ X	凍結 (21日)	2〜4	168 ※2	凝固時間法	M 67〜164 F 56〜126 (%)	採血後，速やかに血漿分離してください。 &ヤ
	9767 1 (2B711)	プロテインS (遊離型抗原量)	速やかに遠心 血漿 0.2	K1 ⬇ X	凍結 (21日)	2〜6	162 ※2	ラテックス凝集反応	60〜150 (%)	
	(2B310)	トータルPAI-1 (tPA・PAI-1複合体)	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	K1 ⬇ X	凍結 (21日)	2〜5	240 ※2	LPIA	50以下 (ng/mL)	採血後，速やかに低温（4℃）で血漿分離してください。室温遠心や専用容器（L）での採血はデータが高値となるため避けてください。速やかに分離できない場合は，氷水中に保存し，1時間以内に血漿分離してください。測定対象はトータルPAI-1（tPA・PAI-1複合体および活性型，潜在型PAI-1）です。 &ヤ
	(3G090)	ビタミンK分画	速やかに遠心 血漿 2.5	L ⬇ i	凍結 (17日) 遮光	3〜9		HPLC	ビタミンK1 0.15〜1.25 ビタミンK2(MK-4) 0.10以下 (ng/mL)	採血後，速やかに血漿分離してください。血漿は必ず遮光ポリスピッツ(i)で凍結してご提出ください。 &ヤ
	(2B730)	トロンボモジュリン	血清 0.3	01 ⬇ X	凍結 (21日)	2〜4	204 ※2	EIA	M 2.1〜4.1 F 1.8〜3.9 (FU/mL)	&ヤ
	4158 2 (5G500)	ループスアンチコアグラント	速やかに遠心 血漿 各1.0	L ⬇ X	凍結 (21日)	2〜4		APTT凝固時間法	46.5以下 (秒)	採血後，速やかに室温で1500G以上15分間遠心後，バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は，測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n2$ r：遠心器のローター半径（cm） n：1分間あたりの回転数（rpm） &ヤ
	A049 7 (5G500)						281 ※5	リン脂質中和法	1.16以下 (秒)	
	4167 2 (5G501)					2〜4		希釈ラッセル蛇毒時間法	1.3未満	

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
尿一般検査		尿一般定性検査 pH，蛋白，糖，ウロビリノーゲン，ビリルビン，ケトン体，潜血，比重(部分尿)	部分尿 10	X	冷蔵	1～2	❶	下記 各項目の検査方法欄をご参照下さい。	下記 各項目の基準値欄をご参照下さい。	凍 凍結保存は避けてください。
	1001 8 (1A035)	pH	部分尿 10	X	冷蔵	1～2	❶	試験紙法	5.0～7.5	
	1003 6 (1A010)	蛋白							(－)	
	1004 5 (1A020)	糖							(－)	
	1005 4 (1A040)	ウロビリノーゲン							(±)	
	1007 2 (1A055)	ビリルビン							(－)	
	1008 1 (1A060)	ケトン体							(－)	
	1006 3 (1A100)	潜血							(－)	
	1002 7 (1A030)	比重(部分尿)							1.005～1.030	
	1115 2 (1A105)	尿沈渣	部分尿 10	X	冷蔵	1～2	❶	フローサイトメトリー 又は 鏡検法	赤血球:4個以下 白血球:4個以下 (/HPF)	凍 凍結保存は避けてください。 (JCCLS GP1-P4「尿沈渣検査法」準拠) 採尿後，当日中にご提出ください。 凍結検体は測定できません。 ・HPF (HF)は強拡大視野 (400倍)にて鏡検
	L138 7 (1A015)	尿蛋白定量	蓄尿 1	X	冷蔵	1～2	7 ※1	ピロガロールレッド法	31.2～120.0 (mg/day)	
	1011 7 (1A015)		部分尿 1	X					10以下 (mg/dL)	
	L139 6 (1A025)	尿糖定量	蓄尿 1	X	冷蔵	1～2	9 ※1	電極法	40～85 (mg/day)	
	1012 6 (1A025)		部分尿 1	X					20以下 (mg/dL)	

❶★当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。(尿中一般検査26点，尿沈渣(鏡検法27点、フローサイトメトリー法24点))

採尿にあたっての注意事項

・採尿時は，早朝尿かつ中間尿が適しています。
・採尿前に尿道口を清拭することが望ましい。

糞便検査

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
糞便検査	1043 2 (1B025)	虫卵(セロテープ)	粘着標本	セロテープ	室温	1～2	20 ※1	セロテープ法	(－)	凍 凍結保存は避けてください。
	1050 4	便中ヘモグロビン定性 1日目	糞便	d5	冷蔵	1～2	37 ※1	ラテックス凝集法	(－)	凍 凍結保存は避けてください。専用採便容器に採取してご提出ください。
	1051 3	便中ヘモグロビン定性 2日目								
	1052 2	便中ヘモグロビン定性 3日目								
	E776 6 (1B042)	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	糞便(専用スティック)	d8	冷蔵	2～4	56 ※1	金コロイド法	ヘモグロビン 100未満 トランスフェリン 50未満 (ng/mL)	凍 凍結保存は避けてください。専用採便容器に採取してご提出ください。 &ヨ

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
髄液検査		髄液一般検査 外見，比重，反応，ノンネアペルト反応，パンデイ反応，細胞数，細胞種類，トリプトファン反応	髄液 5～10	X	冷蔵	1～2	62 ※1	下記各項目の検査方法欄をご参照ください。	下記各項目の基準値欄をご参照ください。	凍 凍結保存は避けてください。
	L151 2 (1C055)	外見(キサントクロミー)	髄液 5～10	X	冷蔵	1～2	62 ※1	肉眼的観察	(－)	
	L152 1 (1C020)	比重						屈折計法	1.005～1.007	
	L153 0 (1C025)	反応(pH)						pH試験紙法	7.0～7.5	
	1061 2 (1C045)	ノンネアペルト反応(グロブリン反応)						Nonne-Apelt反応(重層法+混合法)	(－)	
	1062 1 (1C040)	パンディ反応(グロブリン反応)						Pandy反応	(－)～(＋)	
	M019 8 (1C030)	細胞数						視算法F-R計算板法	0/3～15/3 (/mm³)	
	1065 8 (1C035)	細胞種類						鏡検法		
	1063 0 (1C050)	トリプトファン反応						里見変法	(－)	
	M014 3 (1C010)	蛋白定量					11 ※3	ピロガロールレッド法	10.0～40.0 (mg/dL)	
	1069 4 (1C015)	糖定量					11 ※3	電極法	50.0～75.0 (mg/dL)	
	1070 2 (1C060)	クロール定量					11 ※3	電極法	120～125 (mEq/L)	
精液検査		精液一般検査　反応，精子数，奇形精子率	精液 0.5	X	常温	1～2	70 ※1	下記各項目の検査方法欄をご参照ください。	下記各項目の基準値欄をご参照ください。	凍 凍結保存は避けてください。遠隔地不可。避妊具での提出不可。
	1091 9 (1Z610)	反応(pH)	精液 0.3	X	常温	1～2		pH試験紙法	pH 7.0～8.0	
	1092 8 (1C615)	精子数	精液 0.3				70 ※1	視算法	5000万以上 (/mL)	
	1093 7 (1C620)	奇形精子率	精液 0.3					鏡検法	15以下 (%)	
	1094 6	運動率	精液 0.3				70 ※1	鏡検法	(%)	
その他	0090	関節液検査	関節液 10.0	X	冷蔵	3～6		鏡検法		凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。ただし、祝祭日の前日は受託不可です。検体は採取後、当日中にご提出ください。測定項目 ： 尿酸ナトリウム結晶。ピロリン酸カルシウム結晶。コレステロール結晶

専用輸送容器・輸送培地一覧

	専用容器 ＼ 材料	喀痰	咽頭・鼻腔・口腔分泌物	糞便	胆汁・胃液	尿	尿道分泌物	子宮・膣分泌物	精液	胸水・腹水・関節液・穿刺液	髄液	血液	膿(開放性・非開放性)	耳分泌物	眼分泌物	皮膚・爪	環境検査	胃生検組織
輸送容器	ℓ 滅菌喀痰採取容器 貯蔵方法　室温	●																
輸送容器	U1 キャリーブレア採便管 貯蔵方法　室温 有効期間:6カ月			●														
輸送容器	U 糞便容器 (CDトキシンA) 貯蔵方法　室温			●														
輸送容器	r1 滅菌ポリスピッツ 貯蔵方法　室温				●	●			●	●	●		●			●		
輸送培地	k シードスワブγ1号 キャリーブレア培地5mL 貯蔵方法　室温 有効期間:1年8カ月		●	●			●	●	●				●	●	●		●	
輸送培地	k1 シードスワブγ2号 変法アミーズ培地5mL 貯蔵方法　室温 有効期間:1年8ヵ月		●											●				
輸送培地	m1 カルチャーボトル(ゴールドラベル) (嫌気性菌用) トリプトソイ培地25mL 貯蔵方法　室温 有効期間:1年											●						
輸送培地	q1 カルチャーボトル(シルバーラベル) (好気性菌用) トリプトソイ培地30mL 貯蔵方法　室温 有効期間:9カ月											●						
輸送培地	n 嫌気ポーター 寒天培地1.2mL ブドウ糖 CO_2ガス充填 貯蔵方法　室温　有効期間:2年	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●			
輸送培地	n2 ヘリコバクター培養同定 (シードチューブHP) 貯蔵方法　冷蔵 有効期間:3カ月																	●

目的菌

目的菌名	目的菌名	目的菌名	目的菌名	目的菌名	備　考(全目的菌共通)
A群溶連菌	サルモネラ菌(腸チフス・パラチフス菌を含む)	淋菌 室温	髄膜炎菌 室温	カンピロバクター	●目的菌のみのご依頼はできません。一般細菌培養同定も同時にご依頼ください。 ●クロストリジウムデフシール・ウエルシェ菌は嫌気性培養を同時にご依頼ください。便の嫌気性培養で目的菌のご依頼がない場合はクロストリジウムデフシールを対象として検査します。 ●病原大腸菌は，培養同定(便)と同時にご依頼ください。 (注)チェックがない場合は検査を実施いたしませんのでご注意ください。 ●MRSAは薬剤感受性の結果から判定されます。薬剤感受性のご依頼がない場合，スクリーニング培地の結果から判定しますので，より確実な判定のため薬剤感受性検査の同時依頼をお勧めします。 ●百日咳菌，レジオネラなどはチェックをいただいた場合のみ検査を実施いたします。 ●目的菌の指定は５項目までにお願いします。それ以上のご依頼は，報告書には反映できません。
ウエルシュ菌(嫌)	肺炎球菌	赤痢菌	カンジダ	クリプトコッカス	
C.ディフィシル(嫌)	セレウス菌	ヘモフィルスインフルエンザ	コレラ菌	B群溶連菌(GBS)	
アスペルギルス	チフス菌	エルシニア	緑膿菌	腸炎ビブリオ	
トリコモナス 室温	パラチフス菌	レジオネラ菌	MRSA	ウレアプラズマ	
マイコプラズマ(泌)	黄色ブドウ球菌	O-157	百日咳菌		

	項目コード(統一コード)	検査項目	検査方法	所要日数	実施料判断料	備　考
一般細菌特殊	7622 3 (5E115)	大腸菌ベロトキシン	RPLA	3～6	194 ※6	菌株にてご依頼ください。 &ヤ
	9541 1 (6B575)	ヘリコバクター培養同定	培養同定	9～11	❶ 180 ※6	胃生検組織・専用容器（シードチューブ HP：117ページ参照） &ヤ
	9551 0 (6C205)	ヘリコバクター感受性	寒天平板希釈法	14～20	170 ※6	薬剤名：アモキシリン，クラリスロマイシン，メトロニダゾール &ヤ

	項目コード(統一コード)	検査項目		検査方法	所要日数	材　料	備　考
検診・環境	M811 8	便培養	2菌種	培養同定	3～5	便	赤痢菌，サルモネラ菌(チフス，パラチフスを含む)
	M814 5		3菌種		3～8		上記２菌種＋病原大腸菌 O157
	M818 1		4菌種		3～8		上記３菌種＋ビブリオ
	M805 5		5菌種		3～8		2菌種＋病原大腸菌 O26，O111，O157
	M860 4		カンピロバクター		4～6		
	I794 9	MRSAスクリーニング		培養同定	3～5	咽頭ぬぐい液など	病院職員等健常者のスクリーニング(咽頭，鼻腔など)
		MRSA		培養同定	3～5	ふきとり材料など	ふきとり等の非臨床材料
		環境スクリーニング		培養同定	5～9	ふきとり材料など	ブドウ球菌，腸内細菌，緑膿菌，酵母様真菌，糸状菌等の一般細菌を目的とします。

❶「大腸菌O157抗原定性」,「大腸菌O157抗体定性」,「消化管からの検体によるもの」を複数測定した場合は主たるもののみ算定する。

抗酸菌同定(質量分析)で同定が可能な156菌種抗酸菌名

菌種名	菌種名	菌種名	菌種名	菌種名
M. abscessus※※	*M. conspicuum*	*M. hodleri*	*M. nebraskense*	*M. sediminis*
M. agri	*M. cookii*	*M. holsaticum*	*M. neoaurum*	*M. senegalense*
M. aichiense	*M. cosmeticum*	*M. houstonense*	*M. neworleansense*	*M. senuense*
M. algericum	*M. crocinum*	*M. immunogenum*	*M. nonchromogenicum*※※	*M. seoulense*
M. alvei	*M. diernhoferi*	*M. insubricum*	*M. noviomagense*	*M. septicum*
M. arabiense	*M. doricum*	*M. interjectum*	*M. novocastrense*	*M. setense*
M. aromaticivorans	*M. duvalii*	*M. intermedium*	*M. obuense*	*M. sherrisii*
M. arosiense	*M. elephantis*	*M. intracellulare / chimaera*※、※※	*M. pallens*	*M. shimoidei*
M. arupense	*M. engbaekii*	*M. iranicum*	*M. palustre*	*M. shinjukuense*
M. asiaticum	*M. europaeum*	*M. kansasii*※※	*M. paraense*	*M. shottsii*
M. aubagnense	*M. fallax*	*M. komossense*	*M. paraffinicum*	*M. simiae*※※
M. aurum	*M. farcinogenes*	*M. koreense*	*M. parafortuitum*	*M. smegmatis*
M. austroafricanum	*M. flavescens*	*M. kubicae*	*M. paragordonae*	*M. sphagni*
M. avium※、※※	*M. florentinum*	*M. kumamotonense*	*M. parakoreense*	*M. stomatepiae*
M. bacteremicum	*M. fluoranthenivorans*	*M. kyorinense*	*M. parascrofulaceum*	*M. szulgai*※※
M. boenickei	*M. fortuitum*※※	*M. lacus*	*M. paraseoulense*	*M. terrae*※※
M. bohemicum	*M. fragae*	*M. lentiflavum*	*M. parmense*	*M. thermoresistibile*
M. botniense	*M. franklinii*	*M. litorale*	*M. peregrinum*※※	*M. tuberculosis complex*※、※※
M. bourgelatii	*M. frederiksbergense*	*M. llatzerense*	*M. phlei*	*M. tokaiense*
M. branderi	*M. gadium*	*M. longobardum*	*M. porcinum*	*M. triplex*
M. brisbanense	*M. gastri*※※	*M. madagascariense*	*M. poriferae*	*M. triviale*※※
M. brumae	*M. genavense*	*M, mageritense*	*M. pseudoshottsii*	*M. tusciae*
M. canariasense	*M. gilvum*	*M. malmoense*	*M. psychrotolerans*	*M. vaccae*
M. celatum	*M. goodii*	*M. mantenii*	*M. pulveris*	*M. vanbaalenii*
M. celeriflavum	*M. gordonae*※※	*M. marinum*※※	*M. pyrenivorans*	*M. vulneris*
M. chelonae※※	*M. haemophilum*	*M. marseillense*	*M. rhodesiae*	*M. wolinskyi*
M. chitae	*M. hassiacum*	*M. minnesotense*	*M. riyadhense*	*M. xenopi*※※
M. chlorophenolicum	*M. heckeshornense*	*M. monacense*	*M. rufum*	*Mycobacterium sp.*
M. chubuense	*M. heidelbergense*	*M. montefiorense*	*M. rutilum*	
M. colombiense	*M. heraklionense*	*M. moriokaense*	*M. salmoniphilum*	
M. conceptionense	*M. hiberniae*	*M. mucogenicum/phocaicum*	*M. saskatchewanense*	
M. confluentis	*M. hippocampi*	*M. murale*	*M. scrofulaceum*※※	

※PCR法　同定可能菌種
※※DDH法　同定可能菌種

一般細菌・真菌・抗酸菌・抗酸菌核酸同定

●容器については156ページ(専用容器の取り扱い方法)をご参照ください。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検査方法	所要日数	実施料判断料	備考
一般細菌	1731 8 (6A010)	塗抹鏡検	グラム染色	2～4	各61 ※6	凍 凍結保存は避けてください。便の塗抹鏡検は実施しておりません。
	1732 7	培養同定 口腔，気道，呼吸器	培養同定	3～5	160 ※6	凍 凍結保存は避けてください。〔目的菌のチェックについて〕培地選択のため，目的菌の有無につきましては，依頼書の目的菌チェック欄に必ず明記してください。ウエルシュ菌，C.ディフィシルの検出を目的とする場合は，培養同定の他に嫌気性培養を加算させていただきます。
	1742 6	培養同定 消化器			180 ※6	
	1752 5 (6B010)	培養同定 泌尿器，生殖器			170 ※6	
	1762 4	培養同定 血液，穿刺液		3～10	215 ※6	
	1795 8	培養同定 下痢原性大腸菌	大腸菌血清型別	5～8	175 ※5	大腸菌血清型別は、細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、及び大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。
	1772 3	培養同定 その他の部位	培養同定	3～7	160 ※6	
	1733 6 (6B010)	嫌気性菌培養	嫌気培養同定	6～14	112 ※6	凍 凍結保存は避けてください。必ず培養同定と同時にご依頼ください。嫌気性菌の検索を目的とする場合は，嫌気ポーターを使用してください。※同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は，112点を加算する。 &ヤ
	1704 8	感受性検査	微量液体希釈法 ディスク拡散法	3～5	1菌種 170 ※6 2菌種 220 ※6 3菌種以上 280 ※6	凍 凍結保存は避けてください。必ず培養同定と同時にご依頼ください。〔感受性検査のご依頼について〕①培養同定で検出された菌種に対して有効とされる薬剤パターンで実施しますので，ご依頼時に薬剤の選択は不要です。標準薬剤パターンは118ページをご参照ください。②検出された菌種によっては，標準薬剤パターンで検査できない場合もありますので，予めご了承ください。③真菌の感受性検査は実施しておりません。④常在菌・非病原性と考えられる菌種の感受性は実施しておりません。
真菌	1791 2 (6A105)	塗抹鏡検	グラム染色，KOH法墨汁染色	2～4	61 ※6	凍 凍結保存は避けてください。KOH法は材料が皮膚，爪の場合に実施いたします。墨汁染色は材料が髄液の場合に実施いたします。
	1792 1 (6B105)	培養同定 口腔，気道，呼吸器	培養同定	3～28	160 ※6	凍 凍結保存は避けてください。糸状様真菌（カビ）を疑いの場合は，真菌単独でご依頼ください。真菌単独でご依頼の場合は14日～1ヶ月間培養した後同定となります。
		培養同定 消化器			180 ※6	
		培養同定 泌尿器，生殖器			170 ※6	
		培養同定 血液，穿刺液			215 ※6	
		培養同定 その他の部位			160 ※6	
抗酸菌	1781 3 (6A205)	塗抹鏡検	チールネルゼン染色法	2～4	61 ※6	凍 凍結保存は避けてください。①検査材料及び採取方法等につきましては，117ページを参照してください。②蛍光法で発光する細菌を認めた場合，抗酸性・形態の確認は，チールネルゼン法(Ziehl Neelsen)にて実施しております。(便の塗抹鏡検は実施しておりません。)
	1782 2 (6A205)	塗抹鏡検	蛍光法		50 ※6	
	1391 6 (6B305)	分離培養 [液体法]	液体法	～6週	❷ 280 ※6	凍 凍結保存は避けてください。感受性検査をご依頼の場合には，下記10薬剤をすべて報告いたします。SM(ストレプトマイシン) KM(カナマイシン) PAS(パラアミノサリチル酸) EVM(エンビオマイシン) INH(イソニコチン酸ヒドラジド) REP(リファンピシン) EB(エタンブトール) TH(エチオナミド) CS(サイクロセリン) LVFX(レボフロキサシン) &ヤ
	M044 0 (6B305)	分離培養 [小川法]	変法小川法	4～8週	❷ 210 ※6	
	1786 8 (6C105)	感受性検査(間接法) 4薬剤以上	一濃度比率法	4～10週	380 ※6	

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
抗酸菌核酸同定	(6B619)	抗酸菌同定[質量分析]	菌株		室温	2～5	410 ※6	MALD1-TOF-MS		同定可能な菌種は115ページをご参照ください。 &ヤ
	A275 6 (6B620)	結核菌群核酸同定(TRC)	喀痰2.0	ℓ	冷蔵	2～4	410 ※6	TRC	陰性	検体は十分量をご提出願います。(検体量が少ない場合は検出感度が低下します) スワブで提出された場合，きわめて検体量が少ないために偽陰性となることがありますので，ご提出はお避けください。 &ヤ
	A276 5 (6B621)	MAC核酸同定(マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー)(TRC)	喀痰2.0	ℓ	冷蔵	2～4	❶ 421 ※6	TRC	M.アビウム 陰性 M.イントラセルラー 陰性	

❶他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。抗酸菌同定検査が併せて実施された場合にあっては，主たるもののみ算定する。
❷抗酸菌分離培養検査は,検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は1回のみ所定点数を算定する。

	分類(由来)	材料	検体量	容　器	保存	採取方法
一般細菌	口腔・気道・呼吸器	喀痰	5～7mL	ⓔ 滅菌喀痰採取容器	冷蔵	上気道・口腔内常在菌により，できる限り汚染されないように滅菌喀痰容器に採取し，直ちに冷蔵保存してください。(患者に十分説明し，うがいにより清潔にした後に，咳によって深部から喀出された，しかも唾液混入の少ない喀痰を採取する。)
		咽頭ぬぐい液	適量	ⓚ シードスワブγ1号	冷蔵	シードスワブγ1号の綿棒で咽頭をこすって，ぬぐい液を採取し，直ちに付属のキャリーブレア培地に無菌的に入れ，速やかに冷蔵保存してください。
	消化器	便	適量	ⓚ シードスワブγ1号 または Ⓤ キャリーブレア採便管	冷蔵	シードスワブγ1号または，キャリーブレア採便管を用い適量の便を採取し付属のキャリーブレア培地に無菌的に入れてください。 ・嫌気性菌の検出には，栂指頭大の便を採取し，嫌気ポーターを使用してください。 ・便での塗抹鏡検は実施しておりません。
		胆汁(A・B・C) 胃液 十二指腸液	各5～10mL	ⓡ 滅菌ポリスピッツ または ⓝ 嫌気ポーター	冷蔵	5～10mL のサンプルを無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツまたは嫌気ポーターに速やかに注入し，直ちに冷蔵保存してください。
	泌尿器・生殖器	部分尿 尿管カテーテル 膀胱カテーテル	各5～10mL	ⓡ 滅菌ポリスピッツ	冷蔵	5～10mL のサンプルを無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツに入れ，直ちに冷蔵保存してください。
		前立腺液 膣分泌物 膿	適量	ⓚ シードスワブγ1号	冷蔵	シードスワブγ1号の綿棒で適量を採取し，付属のキャリーブレア培地に入れ，直ちに冷蔵保存してください。
	血液・穿刺液	動脈血 静脈血	各3～10mL (最適量8～10mL)	ⓜ ⓠ カルチャーボトル	室温	カルチャーボトル好気性菌用，嫌気性菌用の2本に各3～10mL（最適量8～10mL）の血液を無菌的に注入し，緩やかに転倒混和し，室温保存してください。
		髄液 腰椎穿刺液	各3～5mL	ⓡ 滅菌ポリスピッツ または ⓝ 嫌気ポーター	室温	3～5mL のサンプルを無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツまたは嫌気ポーターに速やかに注入し，室温保存してください。
		胸水 腹水 関節液	各5～10mL	ⓡ 滅菌ポリスピッツ または ⓝ 嫌気ポーター	冷蔵	5～10mL のサンプルを無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツまたは嫌気ポーターに速やかに注入し，直ちに冷蔵保存してください。
	その他	耳漏	適量	ⓚ シードスワブγ2号	冷蔵	シードスワブγ2号の綿棒で適量を無菌的に採取し，付属の変法アミーズ培地に入れ，直ちに冷蔵保存してください。
		組織 膿	各適量	ⓡ 滅菌ポリスピッツ または ⓝ 嫌気ポーター	冷蔵	各サンプルを綿棒で無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツまたは嫌気ポーターに速やかに入れ，直ちに冷蔵保存してください。

●淋菌あるいは髄膜炎菌の検索を目的とする場合は，室温 保存してください。
●検査材料は乾燥をさけ，明記してあります保存をお守りください。(乾燥，凍結された材料では検査できません。)

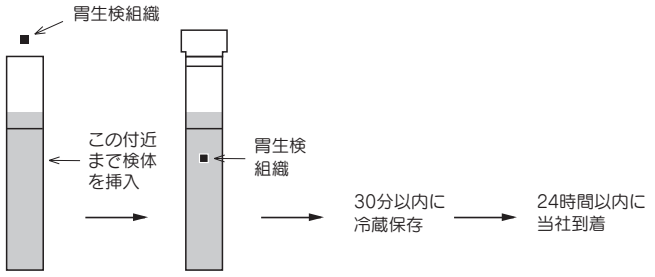
	材　料	検体量	容　器	保存	採取方法
抗酸菌	喀痰	5～7mL	ⓔ 滅菌喀痰採取容器	冷蔵	上気道・口腔内常在菌により，できる限り汚染されないように滅菌喀痰容器に採取し，直ちに冷蔵保存してください。(患者に十分説明し，うがいにより清潔にした後に，咳によって深部から喀出された，しかも唾液混入の少ない喀痰を採取する。)
	便	小指頭大	ⓡ 滅菌ポリスピッツ	冷蔵	適量を無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツに冷蔵保存してください。
	胸水 腹水 関節液	各5～10mL	ⓡ 滅菌ポリスピッツ	冷蔵	5～10mLのサンプルを無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツに入れ，直ちに冷蔵保存してください。
	部分尿	5～10mL	ⓡ 滅菌ポリスピッツ	冷蔵	5～10mLのサンプルを無菌的に採取し，滅菌ポリスピッツに入れ，直ちに冷蔵保存してください。
核酸同定検査	喀痰	2.0mL	ⓔ 滅菌喀痰採取容器	冷蔵	検体は十分量をご提出願います（検体量が少ない場合は検出感度が低下します)スワブで提出された場合、きわめて検体量が少ないために偽陰性となることがありますのでご提出はお避けください。

●菌株でご依頼の場合は，検体輸送用に専用容器を当社で準備しておりますので，あらかじめ担当営業員にお申し付けください。

〔留意事項〕
1．検査材料は，外部に漏れないよう完全に密封して提出してください。
2．採取容器は157ページをご参照ください。(カルチャーボトルは２種類ありますので注意してください。また，バーコードは検査に使用しますので汚したり破いたりしないようお願いします。)
3．呼吸器の材料でマイコプラズマの検出には検体を凍結してください。
4．嫌気性菌の検索を目的とする場合は嫌気ポーターを使用して，できるだけ空気に触れないように速やかに採取してください。
5．抗酸菌検査において，カルチャーボトルでのご提出はお受けしておりません。

シードチューブHPの取り扱い方法

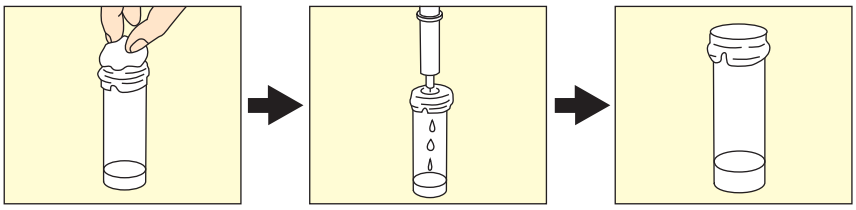
1．採取した「胃生検組織」を直ちに採取容器(n２)に入れ、黒線より下へ挿入してください。
2．検体は30分以内に冷蔵保存し、当日中にご依頼ください。



標準薬剤パターン

嫌気ポーターの取り扱い方法

Ⓐ 液状検体の場合(胸水，腹水，尿，穿刺液など)

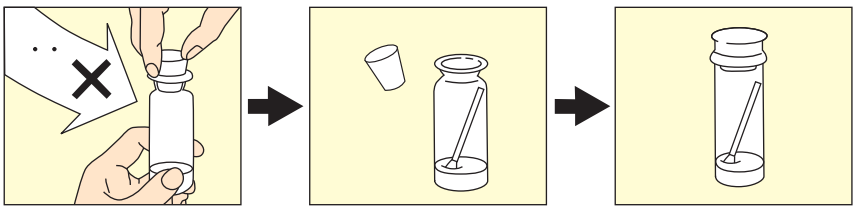


消毒用アルコール綿などを用いて穿刺部を消毒する。

消毒液が完全に乾燥してから注射針を刺し、検体を注入する。

冷蔵保存する。

Ⓑ 固形状検体の場合(便，膿，組織など)



容器は立てたままの状態で注意深くゴムキャップを外す。
（無風状態が理想）

速やかに（5秒以内）検体を入れる。

直ちにゴムキャップをかぶせて栓をする。

標準薬剤パターン(8034 群馬臨床セット)

抗菌剤 ＼ 菌群			グラム陰性桿菌	緑膿菌	ブドウ球菌	腸球菌	肺炎球菌	連鎖球菌	ヘモフィルス	グラム陽性桿菌	ビブリオ	モラクセラ カタラーリス	淋菌	嫌気性菌	カンピロバクター
系統名	略　号	一般名													
ペニシリン系(penicillins)	PCG	ベンジルペニシリン			●	●	●	●		●			●	●	
	ABPC	アンピシリン	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
	PIPC	ピペラシリン	●	●							●			●	
	MPIPC	オキサシリン			●										
セフェム系(cephems)	CEZ	セファゾリン	●		●					●					
	CTM	セフォチアム	●		●		●	●	●	●		●		●	
	CTX	セフォタキシム	●				●	●	●	●		●			
	CTRX	セフトリアキソン					●	●	●				●		
	CAZ	セフタジジム	●	●							●				
	CPR	セフピロム	●												
	CZOP	セフォゾプラン		●			●	●							
	CFPM	セフェピム		●			●	●	●						
	CCL	セファクロル	●						●			●			
	CFIX	セフィキシム											●		
	CPDX	セフポドキシム	●												
	CDTR-PI	セフジトレン－ピボキシル					●	●	●			●			
	CMZ	セフメタゾール	●											●	
	FMOX	フロモキセフ	●		●									●	
カルバペネム系(carbapenems)	IPM/CS	イミペネム／シラスタチン	●	●	●	●				●	●	●		●	●
	MEPM	メロペネム	●	●			●	●	●						
モノバクタム系(monobactams)	AZT	アズトレオナム	●	●											
β-ラクタマーゼ阻害剤 (β-lactamase inhibitors)	SBT/ABPC	スルバクタム／アンピシリン			●					●				●	
	SBT/CPZ	スルバクタム／セフォペラゾン	●	●											
	CVA/AMPC	クラブラン酸／アモキシシリン	●				●		●		●	●			
	TAZ/PIPC	タゾバクタム／ピペラシリン		●											
アミノグリコシド系 (aminoglycosides)	GM	ゲンタマイシン	●	●	●					●	●				●
	AMK	アミカシン	●	●								●			
	TOB	トブラマイシン		●											
	ABK	アルベカシン			●										
	SPCM	スペクチノマイシン											●		
マクロライド系(macrolides)	EM	エリスロマイシン			●	●	●	●		●		●			●
	AZM	アジスロマイシン					●	●							
	CAM	クラリスロマイシン							●						
リンコマイシン系(lincosamides)	CLDM	クリンダマイシン			●		●	●		●				●	
テトラサイクリン系(tetracyclines)	TC	テトラサイクリン							●		●	●	●		
	MINO	ミノサイクリン	●	●	●	●	●	●		●	●			●	●
ニューキノロン系(new quinolones)	LVFX	レボフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	
	CPFX	シプロキサシン		●					●				●		●
グリコペプチド系(glycopeptides)	VCM	バンコマイシン			●	●								▲	
	TEIC	テイコプラニン			●	●									
その他の系(others)	ST	スルファメトキサゾール／トリメトプリム	●		●		●		●		●				
	FOM	ホスホマイシン	●	●	●	●					●				●
	CP	クロラムフェニコール					●	●	●		●	●		●	●

▲:VCMはC.Difficile　検出時報告いたします。

・検出された菌種に対して，効力の高い薬剤の組み合わせが自動的に検査されます。
・検出された菌種によっては，標準薬剤パターンで検査できない場合もありますので，あらかじめご了承ください。
・真菌および常在細菌(Normal flora)の感受性検査は実施しておりません。
・感受性検査の報告は3段階でご報告いたします。　S：感受性(Susceptible)
　I：中　間(Intermediate)
　R：耐　性(Resistant)

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名，薬剤名等)
抗てんかん剤	0061 3 (3L175)	緊急 フェノバルビタール	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	10～40 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	フェノバール，ワコビタール，ルミナール &ヨ
	3801 8 (3L175)		血漿 0.5	G ⬇ X							
	3802 7 (3L190)	緊急 プリミドン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	5.0～12.0 (μg/mL)		プリミドン，プリムロン &ヨ
	(3L190)		血漿 0.3	G ⬇ X							
	0063 1 (3L185)	緊急 フェニトイン	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	10.0～20.0 (μg/mL)	経口：次回投与直前(Trough濃度) 静注：投与後2～4時間	アレビアチン，ヒダントール，ジフェニルヒダントイン &ヨ
	(3L185)		血漿 0.5	G ⬇ X							
	(3L187)	遊離フェニトイン	血清 1.0	02 ⬇ X	凍結(14日)	4～10	❶ ㊥	限外ろ過法 EIA	(μg/mL)		アレビアチン，ヒダントール，ジフェニルヒダントイン &ヨ
	0064 0 (3L115)	緊急 カルバマゼピン	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	4～12 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	テグレトール，テレスミン，レキシン &ヨ
	(3L115)		血漿 0.5	G ⬇ X							
	3809 0 (3L135)	緊急 エトスクシミド	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	40.0～100.0 (μg/mL)		ザロンチン，エピレオプチマル &ヨ
	(3L135)		血漿 0.5	G ⬇ X							
	0066 8 (3L195)	緊急 バルプロ酸	血清 0.2	02 ⬇ X	冷蔵	1～2	❶ ㊥	酵素法	50～100 (μg/mL)		デパケン，セレニカ R，バレリン，ハイセレニン
	(3L196)	遊離バルプロ酸	血清 1.0	02 ⬇ X	凍結(14日)	4～10	❶ ㊥	限外ろ過法 EIA	(μg/mL)		デパケン，セレニカ R，バレリン，ハイセレニン &ヨ

㊥：特定薬剤治療管理料（126ページ参照）

❶投与薬剤の血中濃度を測定し，その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合，月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において，測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後，採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり，患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

抗てんかん剤

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名，薬剤名等)
抗てんかん剤	A257 6 (3L210)	ゾニサミド	血清 0.2	02 ⬇ X	冷蔵	2〜4	❶ 特	ラテックス凝集法	10〜30 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	エクセグラン &ヨ
	(3L205)	トリメタジオン	血清 0.5	02 ⬇ X	凍結 (12日)	7〜13	❶ 特	LC-MS/MS	300〜500 (μg/mL)		ミノアレ(活性代謝物であるジメタジオンを測定) &M
	3814 4 (3L125)	クロナゼパム	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	20〜70 (ng/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	リボトリール，ランドセン &ヤ
	3815 3 (3L165)	ニトラゼパム	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	20〜200 (ng/mL)	次回投与直前(Trough濃度)ただし，抗てんかん剤として用いる場合	ベンザリン，ネルボン &ヤ
	3816 2 (3L130)	ジアゼパム	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 特	HPLC	ジアゼパム 600〜1000 (ng/mL)		N-デスメチルジアゼパムも同時報告いたします。セルシン，ホリゾン，ジアパックス &ヤ
	3085 4 (3L145)	クロバザム	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	(ng/mL)		デスメチルクロバザムも同時報告いたします。マイスタン &ヤ
	K598 8 (3L230)	レベチラセタム	血漿(ヘパリン加) 0.3	G ⬇ X	冷蔵 (21日)	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	(μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	イーケプラ &ヤ
	K599 7 (3L225)	トピラマート	血漿(ヘパリン加) 0.3	G ⬇ X	冷蔵 (21日)	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	(μg/mL)		トピナ &ヤ
	K218 9 (3L220)	ラモトリギン	血漿 0.3	G ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	(μg/mL)		ラミクタール &ヤ
	E948 5 (3L215)	ガバペンチン	血漿 0.3	G ⬇ X	冷蔵	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	(μg/mL)		ガバペン錠 &ヤ
	(3L950)	アセタゾラミド	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3〜9	❶ 特	HPLC	(μg/mL)		ダイアモックス &ヤ
	A231 4	ラコサミド	血漿 0.3	G ⬇ X	冷蔵 (28日)	3〜5	❶ 特	LC/MS/MS	(μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	ビムパット &ヤ

特：特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

❶投与薬剤の血中濃度を測定し，その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合，月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において，測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後，採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり，患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

G
p166

ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名，薬剤名等)
精神神経用剤	3807 2 (3L320)	緊急 リチウム	血清 0.3	02 ⬇ Z	冷蔵	2～4	❶ ㊥	比色法	治療濃度範囲 0.3～1.2 (mEq/L)	最終投与後12時間または早朝投与前(Trough濃度)	リーマス，リチオマール &ヨ
	3818 0 (3L300)	ハロペリドール	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	金コロイド凝集法	3～17 (ng/mL)	随時(ただし，採血時刻を一定とする)	ハロペリドール・ブロムペリドールは，ほぼ同等の交差反応を示すため，双方を併用されている患者検体の測定値は，各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので，ご注意ください。セレネース，ハロマンス，リントン，ネオペリドール，ハロステン &ヨ
	3843 2 (3L302)	ブロムペリドール	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	金コロイド凝集法	至適血中濃度 15以下 (ng/mL)		ハロペリドール・ブロムペリドールは，ほぼ同等の交差反応を示すため双方を併用されている患者検体の測定値は，各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので，ご注意ください。インプロメン，ルナプロン &ヨ
強心剤	0068 6 (3L765)	緊急 ジゴキシン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	1～2	❶ ㊥	酵素法	消失相濃度 0.8～2.0 (ng/mL)	投与後6時間～次回投与直前(消失相)	ジゴシン，ジコキシン

㊥:特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

❶投与薬剤の血中濃度を測定し，その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合，月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において，測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後，採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり，患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

不整脈用剤

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名，薬剤名等)
不整脈用剤	(3L875)	緊急 リドカイン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	1.2～5.0 (μg/mL)	静注：投与後2時間 点滴静注：6～12時間	キシロカイン &ヨ
	(3L900)	キニジン	血清 0.4	02 ⬇ X	冷蔵	2～8	❶ ㊥	EIA	2.0～6.0 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	硫酸キニジン &ヨ
	(3L900)		血漿 0.4	G ⬇ X							
	3836 0 (3L865)	ジソピラミド	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	2.0～5.0 (μg/mL)		ノルペース，リスモダン，カフィール，リスラミドR &ヨ
	(3L865)		血漿 0.3	G ⬇ X							
	3837 9 (3L890)	緊急 プロカインアミド	血清 0.4	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ ㊥	EIA	4.0～10.0 (μg/mL)		アミサリン &ヨ
	(3L890)		血漿 0.4	G ⬇ X							
	3822 5 (3L897)	プロパフェノン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	(ng/mL)		プロノン &ヤ
	3841 4 (3L880)	メキシレチン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	0.5～2.0 (μg/mL)	経口：次回投与直前 (Trough濃度) 静注：随時	メキシチール &ヤ
	3877 5 (3L896)	ピルシカイニド	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	0.2～0.9 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	サンリズム &ヤ
	(3L896)		血漿 0.3	G ⬇ X							
	8748 3 (3L898)	シベンゾリン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	Trough濃度 70～250 (ng/mL)	朝投与直前 (Troug濃度)	シベノール &ヤ
	(3L898)		血漿 0.3	G ⬇ X							
	8756 4 (3L905)	フレカイニド	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3～5	❶ ㊥	LC/MS/MS	200～1000 (ng/mL)	次回投与直前 (Troug濃度)	タンボコール &ヤ
	(3L905)		血漿 0.3	G ⬇ X							

㊥：特定薬剤治療管理料（126ページ参照）

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名，薬剤名等)
不整脈用剤	3848 7 (3L899)	ピルメノール	血漿 1.3	G ⬇ X	冷蔵	3~6	❶ ㊥	HPLC	400.0以上 (ng/mL)	随時	ピメノール &ヤ
	3839 7 (3L855)	アプリンジン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	3~5	❶ ㊥	LC/MS/MS	0.25~1.25 (μg/mL)	経口 次回投与直前:(Trough濃度) 投与後2~4時間(Peak濃度) 静注:次回投与直前(Trough濃度)	アスペノン &ヤ
	(3L855)		血漿 0.3	G ⬇ X							
	K588 9 (3L802)	ベプリジル	血漿 0.3	G ⬇ X	冷蔵 (21日)	3~5	❶ ㊥	LC/MS/MS	250~800 (ng/mL)	投与後3時間(Peak濃度)	ベプリコール &ヤ
	4227 5 (3L800)	アミオダロン	血漿 0.3	G ⬇ X	冷蔵	3~5	❶ ㊥	LC/MS/MS	(ng/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	アミオダロン 有効血中濃度：500~1000ng/mL (200mg/日投与，定常状態，トラフ値) Desethylamiodarone/Amiodarone＝0.8(定常状態)。アンカロン &ヤ
	(3L895)	プロプラノロール	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	4~10		HPLC	50~100 (ng/mL)		インデラル &ヤ
	(3L895)		血漿 0.3	G ⬇ X							

㊥:特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

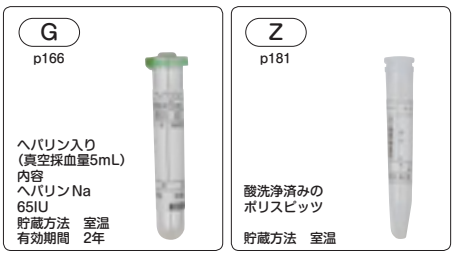
❶投与薬剤の血中濃度を測定し，その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合，月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において，測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後，採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり，患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。



抗生物質製剤／抗真菌剤

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名，薬剤名等)
抗生物質製剤	(3M606)	ゲンタマイシン	血清 0.4	02 ⬇ X	凍結	2～4	❶ 特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(Peak濃度) 投与前30分以内(Trough濃度)	ゲンタシン，エルタシン，ルイネシン &ヨ
	(3M602)	トブラマイシン	血清 0.4	02 ⬇ X	凍結	2～4	❶ 特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(Peak濃度) 投与前30分以内(Trough濃度)	トブラシン &ヨ
	(3M601)	アミカシン	血清 0.4	02 ⬇ X	凍結	2～4	❶ 特	EIA	Peak 50～60 Trough 4未満 (μg/mL)		アルベカシンとの交差反応があるのでご注意ください。 アミカマイシン，ビクリン &ヨ
	3830 6 (3M613)	アルベカシン	血清 0.3	02 ⬇ X	凍結 (21日)	2～4	❶ 特	ラテックス凝集比濁法	Peak 15～20 Trough 1～2未満 (μg/mL)	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(Peak濃度) 投与前30分以内(Trough濃度)	ハベカシン &ヨ
	3859 5 (3M530)	緊急 バンコマイシン	血清 0.4	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 特	EIA	Trough 10～15 (μg/mL)	投与前30分以内(Trough濃度)	塩酸バンコマイシン &ヨ
	3846 9 (3M532)	緊急 テイコプラニン	血清 0.3	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 特	ラテックス凝集比濁法	Trough 15～30 (μg/mL)	投与前30分以内(Trough濃度)	タゴシッド &ヨ
抗真菌剤	(3M698)	ボリコナゾール	血漿 0.3	G ⬇ X	冷蔵	3～5	❶ 特	LC/MS/MS	(μg/mL)		ブイフェンド &ヤ

㊖：特定薬剤治療管理料（126ページ参照）

❶投与薬剤の血中濃度を測定し，その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合，月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において，測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後，採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり，患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

テイコプラニン検査について

医薬品添付文書には,「テイコプラニンのトラフレベルの血中濃度は，敗血症などの重症感染症においては確実な臨床効果を得るために10μg/mL以上を保つこと。ただし，トラフレベルの血中濃度が60μg/mL以上になった場合には腎障害，聴覚障害等の副作用の発現に注意すること。また，トラフレベルの血中濃度が20μg/mL以上で一過性に肝機能検査値が軽度上昇したとの報告がある。（医薬品添付文書・2003年1月改訂第8版より）」の内容が記載されております。

G
p166

ヘパリン入り
（真空採血量5mL）
内容
ヘパリンNa
65IU
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名，薬剤名等)
その他	(3M205)	緊急 サリチル酸	血清 0.4	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 特	酵素法	抗炎症作用として 100～250 (μg/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	アスピリン，バファリン &ヨ
	(3L005)	アセトアミノフェン	血清 0.4	02 ⬇ X	冷蔵	2～8	❷ 185 ※3	EIA	中毒域 200.1以上(4時間) 100.1以上(8時間) 50.1以上(12時間) (μg/mL)		溶 アセトアミノフェン，ピリナジン，ナパ &ヨ
	3873 9 (3M805)	シクロスポリン	血液 0.7 (EDTA-2K加)	g 1	凍結	2～4	❶ 特	ECLIA	(ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。ネオーラル，サンディミュン &ヨ
	8741 0 (3M810)	タクロリムス	血液 0.7 (EDTA-2K加)	g 1	凍結	2～4	❶ 特	ECLIA	(ng/mL)		重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。プログラフ，グラセプター &ヨ
		エベロリムス 3M815-0000-019-053	血液 1.0 (EDTA-2K加)	g 1	凍結	2～4	❶ 特	ECLIA	免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合 Trough濃度 3.0～8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合 Trough濃度 5～15 (ng/mL)	次回投与直前 (Trough濃度)	重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。サーティカン アフィニトール &ヨ
	3871 1 (3M725)	緊急 メトトレキサート	血清 0.5	02 ⬇ X	冷蔵	2～4	❶ 特	EIA	危険限界濃度 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上 (μmol/L)	メトトレキサート ロイコボリン救援療法時 24, 48, 72時間	メソトレキセート &ヨ
	(3L725)		血漿 0.5	G ⬇ X							
	0067 7 (3M070)	緊急 テオフィリン	血清 0.2	02 ⬇ X	冷蔵	1～2	❶ 特	酵素法	10.0～20.0 (μg/mL)	☆下記参照	テオドール，テオロング，ユニフィル
	(3M750)	イマチニブ	血漿 (EDTA-2Na加) 0.3	C ⬇ X	冷蔵 (21日)	3～16	❶ 特	LC/MS/MS	(ng/mL)	服用後24時間±2時間後 (Trough濃度)	グリベック &ヤ

㊖:特定薬剤治療管理料(126ページ参照)

❶投与薬剤の血中濃度を測定し，その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合，月1回に限り算定する。
❷同一患者につき1月以内に2回以上行った場合は，第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において，測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1. TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後，採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり，患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

☆経口・静注

徐放性製剤では投与後4時間，裸錠では投与後2時間(Peak濃度)，次回投与直前(Trough濃度)静注:負荷投与後30分，点滴開始後4～6，および12～18時間

C
p160
EDTA-2Na入り
(真空採血量2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

G
p166
ヘパリン入り
(真空採血量5mL)
内容
ヘパリンNa 65IU
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

g1
p168
EDTA-2K入り
(真空採血量2mL)
内容
EDTA-2K　3.6mg
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

特定薬剤治療管理料

薬剤名	検査項目	特定薬剤治療管理料（同一患者月1回）		加算点（初回月）	備考
		1～3ヵ月	4ヵ月以降		
ジギタリス製剤（心疾患）	ジゴキシン	470点	235点	280点（薬剤の投与を行った初回月のみ加算）	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合所定点数（470点）にかかわらず，1回に限り740点を算定する。
テオフィリン製剤（気管支喘息，喘息性（様）気管支炎，慢性気管支炎，肺気腫又は未熟児無呼吸発作）	テオフィリン	470点	235点		
不整脈用剤（不整脈）	プロカインアミド，N-アセチルプロカインアミド，ジソピラミド，キニジン，アプリンジン，リドカイン，ピルシカイニド，プロパフェノン，メキシレチン，フレカイニド，シベンゾリン，ピルメノール，アミオダロン，ベプリジル，ソタロール塩酸塩	470点	235点		
抗てんかん剤（てんかん）	フェノバルビタール，プリミドン，フェニトイン，遊離フェニトイン，カルバマゼピン，エトスクシミド，バルプロ酸，遊離バルプロ酸，ゾニサミド，トリメタジオン，クロナゼパム，ニトラゼパム，ジアゼパム，クロバザム，ガバペンチン，アセタゾラミド，ラモトリギン，レベチラセタム，トピラマート	470点	470点		てんかんの患者であって，2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて，同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し，その測定結果に基づき，個々の投与量を精密に管理した場合は，当該管理を行った月において，2回に限り所定点数を算定できる。 てんかん重積状態の患者に対して，抗てんかん剤の注射等を行った場合は，所定点数（470点）にかかわらず，1回に限り740点を算定する。
アミノ配糖体抗生物質［入院中］	ゲンタマイシン，トブラマイシン，アミカシン，アルベカシン	470点	235点		
グリコペプチド系抗生物質［入院中］	バンコマイシン，テイコプラニン				
トリアゾール系抗真菌剤［入院中］（重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植）	ボリコナゾール	470点	235点		
免疫抑制剤（臓器移植後）	シクロスポリン，タクロリムス，エベロリムス，ミコフェノール酸	470点	470点	2740点（臓器移植を行った日の属する月を含め3月に限り加算）	
シクロスポリン（免疫制御剤）ベーチェット病（活動性・難治性眼症状を有するもの），その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で，視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る），重度の再生不良性貧血，赤芽球癆，尋常性乾癬，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症，関節症性乾癬，全身型重症筋無力症，アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る），ネフローゼ症候群	シクロスポリン	470点	470点	280点（薬剤の投与を行った初回月のみ加算）	
ハロペリドール製剤（統合失調症）	ハロペリドール	470点	235点		
ブロムペリドール製剤（統合失調症）	ブロムペリドール				
リチウム製剤（双極性障害）	リチウム	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム（双極性障害又は躁病）	バルプロ酸，遊離バルプロ酸	470点	470点		
カルバマゼピン（双極性障害又は躁病）	カルバマゼピン				
サリチル酸系製剤（若年性関節リウマチ，リウマチ熱，慢性関節リウマチ）	サリチル酸	470点	235点		
メトトレキサート（悪性腫瘍）	メトトレキサート	470点	235点		
タクロリムス水和物（免疫制御剤）（全身型重症筋無力症，関節リウマチ，ループス腎炎，潰瘍性大腸炎）	タクロリムス	470点	470点		
イマチニブ	イマチニブ	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム（片頭痛）	バルプロ酸，遊離バルプロ酸	470点	235点		

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備　考
細胞性免疫検査	3929 7	曜日指定 PHAによるリンパ球幼若化検査	血液 各5.0 (ヘパリン加) 同時依頼の場合は8.0mL	PH9	室温	7～8	345 ※5	^{3}H- サイミジン取り込み能	PHA+ 20500～56800 CONTROL 127～456 (cpm)	受託可能日は月～金曜日です。 &I
		曜日指定 Con-Aによるリンパ球幼若化検査		PH9	室温	7～8	345 ※5	^{3}H- サイミジン取り込み能	Con-A+ 20300～65700 CONTROL 127～456 (cpm)	受託可能日は月～金曜日です。 &I
	3935 0 3936 9 3937 8 3938 7 3939 6	曜日指定 薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	1薬剤 血液12.0 (ヘパリン加)	PH9	室温	8～10	❶	^{3}H- サイミジン取り込み能	陰性	受託可能日は月～金曜日です。1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。(原則として皮内反応注射薬は検査できません。) ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は(PNK)の容器を使用してください。 &I

❶Con-A，PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである場合算定できる。(リンパ球刺激試験(LST)1薬剤345点，2薬剤425点，3薬剤以上515点))

薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)の検体について

1. 1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
2. 1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず,検査不能となる場合があります。
3. 目安として白血球数が3,000mm^{3}以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお,詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は,担当営業員までお問い合わせください。
4. 2項目以上ご依頼の場合は,必ず優先順位をご指示ください。
5. 血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
   錠剤(1錠),カプセル(1カプセル),粉末(1回投与量程度1包),リキッドタイプの飲み薬(0.5mL程度),注射薬(1バイアル【アンプル】)。皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は,担当営業員までご連絡ください。
6. ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は専用容器(PNK)を使用してください。
7. 「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」第三章および別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
8. ご依頼の際は,麻薬,覚醒剤が含まれていないことをご確認いただき,依頼書等へご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は,受領致しかねます。

PH9

ヘパリン入り
(真空採血量10mL)
内容
ヘパリンNa
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

病理学的検査

病理組織検査／病理標本作製

下記検査項目は東京セントラルパソロジーへ委託外注しております。

	項目コード(統一コード)	検査項目	提出材料	検体量	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法
病理組織検査	(7B010)	病理組織検査(1臓器)	ホルマリン固定組織		u5	室温	＊5～7	1臓器につき860 ※7	ヘマトキシリン・エオジン染色 &T
	(7B010)	病理組織検査(2臓器)							
	(7B010)	病理組織検査(3臓器)							
病理標本作製		ブロック作製	ホルマリン固定組織	1×1×1mm以上 10×10×5mm以下	u5	室温	＊5～7		&T
		未染標本作製	パラフィンブロック			室温	＊5～7		
		染色標本作製	未染標本スライド	未染標本スライド2枚	u5	室温	＊5～7		
		酵素抗体染色 [ホルマリン固定組織]	ホルマリン固定組織 (パラフィンブロック・未染色標本スライドでも可)		u5	室温	＊5～8	❶❷ 1臓器につき400 ※7	

❶「酵素抗体染色」は，方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず，1臓器につき1回のみ算定する。

❷確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して，標本作製を実施した場合には，1,600点を所定点数に加算する。「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは,悪性リンパ腫,悪性中皮腫，肺悪性腫瘍(腺癌，扁平上皮癌)，消化管間質腫瘍(GIST)，慢性腎炎，内分泌腫瘍，軟部腫瘍，皮膚の血管炎，水疱症（天疱瘡，類天疱瘡等)，悪性黒色腫，筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は，当該加算は算定できない。肺悪性腫瘍(腺癌，扁平上皮癌) が疑われる患者に対して加算を算定する場合は，腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌または扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定する。既に悪性腫瘍遺伝子検査のEGFR遺伝子検査「ROS1融合遺伝子検査」又は「ALK融合遺伝子標本作製」を算定している場合には，当該加算は算定できない。

＊所要日数
- 酵素抗体染色，脱脂処理，脱灰処理が必要な場合は所要日数が7～12日となります。
- 切り出しが必要な臓器は所要日数が2～3週間となります。
- 特殊なご依頼の場合，まとまった件数(処理内容により異なりますがおおむね30件以上) の場合は通常より所要日数が遅れますので，事前に営業員へお問い合わせください。

●病理組織検査におけるHE染色標本は委託先で5年間保管させていただきます。
●診断を実施する上で，HE染色および上記特殊染色以外に各種染色・酵素抗体染色等が必要となった場合は，追加オーダーさせていただくことがありますので，あらかじめご了承ください。
●ブロック作製をご依頼される際，摘出臓器のままご提出される場合は，その切り出し図と包埋の方向について依頼書に必ず記載してください。
●パラフィンブロックで染色標本作製をご依頼される場合は，未染標本作製の料金もご請求申し上げます。
●未染標本スライドで染色標本作製をご依頼される場合は，1染色2枚をご提出ください。
●病理診断は凍結組織ではできません。

病理専用容器(u5)容器について

病理専用容器(u5)に10%ホルマリン液を充填し，組織を固定してご提出ください。

依頼書およびラベルへの記入方法

病理組織検査をご依頼の際は専用の「病理検査依頼書」および容器をご使用ください。なお，依頼書およびラベルには下記事項を必ずご記入下さい。

■依頼書
1)氏名，性別，年齢
2)切除(採取)日，切除臓器名，切除数
3)臨床診断名，臨床経過，治療，臨床検査諸事項
4)旋回実施の登録標本No.
5)婦人科疾患，女性乳腺疾患などの場合は月経，妊娠の状態等をご記入ください。

■容器ラベルおよび凍結組織ラベル
1)施設名，氏名，性別，年齢
2)依頼書における容器No.とのひも付けのため，必ず容器No.(1，2，3……)をご記入ください。
また，併せて臓器名，切除数もご記入ください。
(容器No.と臓器名称が不明確な場合には，診断結果をお返しできないこともございます。)

検査結果の報告

■病理組織検査報告
「病理組織検査報告書」に病理組織学的診断および所見を記入しご報告いたします。

下記検査項目は東京セントラルパソロジーへ委託外注しております。

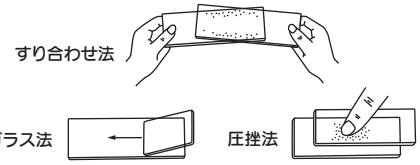
	項目コード(統一コード)	検査項目	検 査 材 料	検体量	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法
細胞診検査	(7A020)	細胞診(婦人科)	膣内容・子宮膣部・子宮頸部・子宮内膜	塗抹標本(湿固定)1枚	t	室温	4〜7	1部位につき 150 ※7	パパニコロウ染色 &T
	(7A010)	一般細胞診	喀痰	塗抹標本(湿固定)2枚	t	室温	4〜7	1部位につき 190 ※7	(喀痰) パパニコロウ染色 (その他) パパニコロウ染色と PAS染色またはギムザ染色 &T
			擦過物・洗浄液・針穿刺吸引液状検体(胸水・腹水・尿・髄液・胆汁等)・捺印標本(リンパ節等)・圧挫標本・その他	塗抹標本2枚(湿固定1枚 乾燥固定1枚)					
	(7A030)	細胞診〔喀痰集細胞法〕(Class判定)	喀痰(3〜5日蓄痰)	容器ごと提出	f	室温	4〜7		パパニコロウ染色 &T

＊専門医の判定が必要な場合(原則的にASC-US，ClassⅢaまたは判定D以上)は通常日数より遅れる場合があります。

細胞診検査の注意事項

細胞診検査は，必ずしも確定診断ではありません。診断はご提出いただいた標本において下されたもので，病変全体を反映するものではないことを，あらかじめご承知おきください。組織診検査等による総合的な診断をお勧めします。

検査材料の提出方法



■各種材料の塗抹

塗抹の仕方は検査材料の種類，性状などに応じて異なります。眺下記の要領で塗抹してください。

【一般細胞診】

1) 喀痰

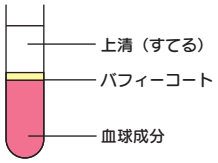
「小豆」大の喀痰を2枚のスライドガラスの間にはさみ，前後左右に押しつぶすように満遍なくのばしてください(すり合わせ法)。癌細胞は血痰部や不透明白濁部，ゼリー状粘液部に多く含まれるので，その部分を塗抹してください。

2) 擦過材料(気管支，消化管，胸膜・腹膜等)

ブラシ，綿棒等により病巣などを擦過しスライドガラスに塗抹してください。擦過物は非常に乾燥しやすいので塗抹固定を迅速に行うことが必要です。

3) 液状材料(尿，胸水，腹水，心嚢液，陰嚢水腫液，各種洗浄液等)

1500rpm5分間遠心後，沈渣をすり合わせ法または引きガラス法によって塗抹してください。血性検体の場合は有核成分が多いバフィーコート部分を塗抹してください。



4) 針穿刺吸引材料(乳腺，甲状腺，肺，リンパ節，前立腺，睾丸，軟部腫瘍，肝等)

穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス中央に静かに吹きだし塗抹します。検体が微量なときはもう1枚のスライドガラスを合わせてからはがし2枚作製してください。多めに得られたときや多量の場合は引きガラス法で塗抹してください。

5) 捺印標本(各種固形腫瘍，リンパ節等)

メスやカミソリで切った新しい組織割面をスライドガラスに軽く捺印してください。

6) 圧挫標本(中枢神経腫瘍，甲状腺腫瘍等)

組織の小塊(直径1-2mm)を2枚のスライドガラスの間にはさみ，軽く押しつぶして組織が伸展したらスライドガラスをはなし，厚い方を湿固定，薄い方を乾燥固定してください。

〈注意〉 検体採取から塗抹固定までの許容時間(室温)

喀痰・胸水・腹水・心嚢液…12時間以内　　胆汁・膵液・十二指腸液…氷冷中の容器に採取し，1時間以内

尿・穿刺液・洗浄液・髄液…1時間以内　　擦過材料・捺印材料・圧挫材料…5秒以内

【婦人科細胞診】

1) 婦人科材料

乾燥しやすいので塗抹後直ちに湿固定してください。

■標本の固定

固定は細胞の変性・融解などの変化を停止させる作業ですので，塗抹後直ちに固定する必要があります。湿固定はパパニコロウ染色，PAS染色などのための固定法で，乾燥固定はギムザ染色などのための固定法です。

固定の良否は採取部位・方法とともに細胞診判定内容を左右する重要な因子の一つです。迅速な固定をお願いいたします。

1)湿固定【婦人科細胞診・一般細胞診】

塗抹したスライドガラスを95%エタノールに30分以上浸漬して固定してください。湿固定にはサイトタック等を用いたコーティング固定法もあります。コーティング固定剤を使用する場合は，ムラが生じないよう固定液を塗抹全面に十分に噴霧または滴下してください。

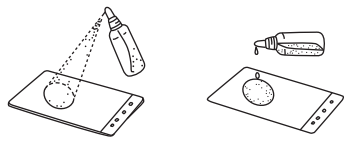
2)乾燥固定【一般細胞診】

塗抹後直ちに，塗抹面を扇風機や冷風ドライヤーなどで急速に乾燥させます。

自然乾燥は乾燥むらを生じるので不十分です。

コーティング固定剤の使用法

噴霧式　　滴下式



依頼書，スライド　ガラスおよびオブジェクトケースへの記入方法

■依頼書

細胞診検査は各種の臨床情報を参考にして行う形態学的検査です。細胞診検査のご依頼にあたっては専用の細胞診検査依頼書に下記の内容を記載してください。細胞診の判定内容を左右する因子ですので記載もれがないようお願いいたします。

a)氏名，性別，年齢，科名等
b)検査材料，採取方法
c)臨床診断，臨床経過，検査，治療諸事項
d)病変の大きさ，性状
e)婦人科材料や乳腺材料の場合月経等諸事項
f)前回の登録標本番号
g)ご提出のスライドガラス枚数

■スライドガラス

a)スリガラス部に氏名をご記入ください。
b)乾燥固定の場合は「乾燥」または「ドライ」とご記入ください。

■オブジェクトケース

a)氏名，性別，年齢　b)標本枚数(湿固定枚数と乾燥固定枚数)

アミノ酸解析サービス

AIRS・AICS

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
AIRS®・AICS®	5961 9	男性AIRS	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結	9~12		LC/MS	検体取扱い方法は次のページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより、AICS®及びAILS®を報告する検査です。なお、本検査結果はその他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。 &I
	5963 7	女性AIRS	血漿 0.5	C ⬇ X	凍結	9~12		LC/MS	
	5957 4	男性AICS(5種)	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結	9~12		LC/MS	検体取扱い方法は次のページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより現在、がんである可能性を評価する検査です。 なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。 &I
	5958 3	女性AICS(6種)	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	C ⬇ X	凍結	9~12		LC/MS	検体取扱い方法は次のページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより現在、がんである可能性を評価する検査です。 なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。 &I

AIRS® (AminoIndex® Risk Screening)とは

アミノインデックス®を用いて1回の採血で，血液中のアミノ酸バランスから，現在・将来のさまざまな疾患リスクを一度に評価する検査です。

AICS® (AminoIndex® Cancer Screening)とは

アミノインデックス®を用いて，現在がんである可能性を評価する検査です。
男性AICS5種：胃がん，肺がん，大腸がん，膵臓がん，前立腺がん
女性AICS6種：胃がん，肺がん，大腸がん，膵臓がん，乳がん，子宮がん(子宮頸がん，子宮体がん)・卵巣がん

AILS®(エーアイエルエス) (Aminoindex® LifeStyle diseases)とは

4年以内に糖尿病になるリスク(AILS(糖尿病リスク))と必須・準必須アミノ酸が血液中で現在，低下していないか(AILS(アミノ酸レベル))を評価し，二つの検査結果に基づくⅠ～Ⅳのタイプを報告します。また，このタイプをもとに，生活改善評価情報が提供できます。なお，AILS®(エーアイエルエス)単独での受託はできません。

アミノインデックス® とは

アミノインデックス®は，血液中の各種アミノ酸濃度のバランスから，現在の健康状態や病気の可能性を明らかにする検査です。アミノインデックス®の解析は味の素㈱に委託して解析されています。

AIRS® の受託における注意点

・AIRSは下記年齢の日本人(妊娠されている方を除く)を対象として開発された検査です。これらの方以外は評価対象外となります。

	評価対象	対象年齢
AICS®	胃がん，肺がん，大腸がん，膵臓がん，乳がん	25歳～90歳
	前立腺がん	40歳～90歳
	子宮がん(子宮頸がん，子宮体がん)・卵巣がん	20歳～80歳
AILS®(エーアイエルエス)	AILS(糖尿病リスク)，AILS(アミノ酸レベル)	20歳～80歳

・検査前8時間以内に，水以外(食事，サプリメント等)は摂らないで，午前中に採血してください。
・検査時に妊娠されている方，授乳中の方，がん患者(治療中を含む)の方，先天性代謝異常の方，透析患者の方，糖尿病の方は，検査結果に影響がありますので検査は受けられません。
・強溶血検体や，血漿(EDTA-2Na)以外の材料での，受託はできません。
・ご依頼の際は性別・年齢を必ず明記してください。

AICS® の受託における注意点

・AICS®は下記年齢の日本人(妊娠されている方を除く)を対象として開発された検査です。これらの方以外のAICS値は評価対象外となります。

対象がん	対象年齢
胃がん，肺がん，大腸がん，膵臓がん，乳がん	25歳～90歳
前立腺がん	40歳～90歳
子宮がん(子宮頸がん，子宮体がん)・卵巣がん	20歳～80歳

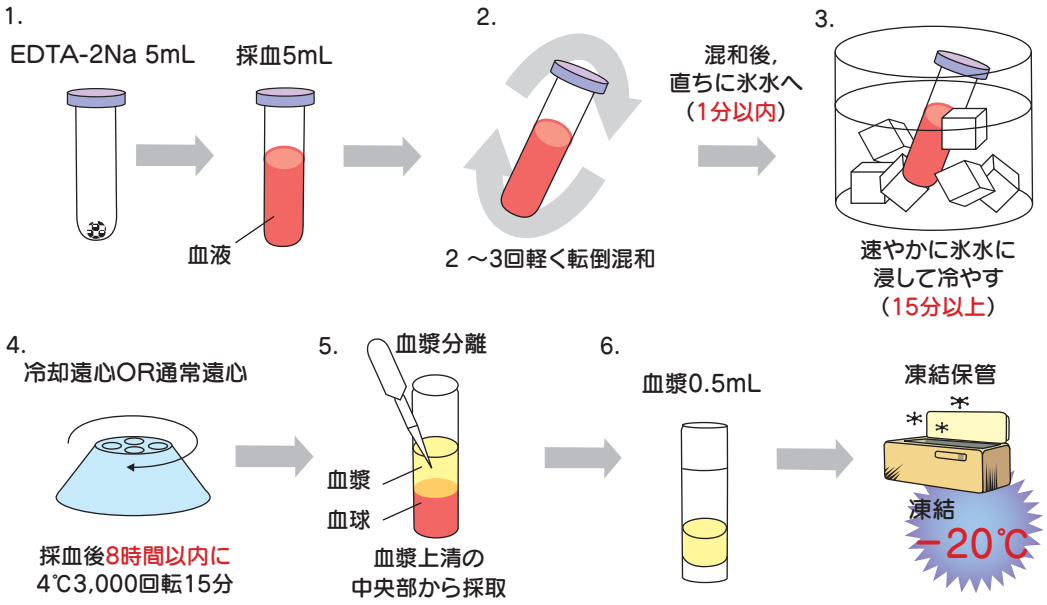
・検査前8時間以内に，水以外(食事，サプリメント等)は摂らないで，午前中に採血してください。
・検査時に妊娠されている方，授乳中の方，がん患者(治療中を含む)の方，先天性代謝異常の方，透析患者の方は，検査結果に影響がありますので検査は受けられません。
・強溶血検体や，血漿(EDTA-2Na)以外の材料は，受託はできません。
・ご依頼の際は性別・年齢を必ず明記してください。

C
p160

EDTA-2Na入り
(真空採血量
2mLまたは5mL)
内容
EDTA-2Na
3.0mgまたは
7.5mg
貯蔵方法　室温
有効期間　2年

検体のお取り扱いについて

1. EDTA-2Na入り採血チューブにて血液約5mLを採取してください
2. 採血直後，血液を2～3回軽く転倒混和してください(ローラでの混和は行わないでください)
3. 混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分間以上，遠心操作まで冷却)してください
4. 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃，3,000回転，15分)または通常遠心分離(3,000回転，15分，ローターが昇温してないこと)してください
5. 遠心後，直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し，分注してください
6. 分注後，血漿を4時間以内に凍結保存してください



緊急報告検査値範囲

検査項目	基準値	緊急報告検査値範囲
免疫学的検査		
直接クームス試験	陰性	陽性(Baby)
生化学的検査		
アミラーゼ(AMY)(血清)	37～125	1000U/L以上
AST(GOT)	10～40	500U/L以上
ALT(GPT)	5～40	500U/L以上
LD(LDH)	115～245	1000U/L以上
尿素窒素(UN)(血清)	8.0～22.0	80mg/dL以上
グルコース	70～109	(空腹時)50mg/dL以下，500mg/dL以上
Na(ナトリウム)(血清)	136～147	110mEq/L以下，170mEq/L以上
K(カリウム)(血清)	3.6～5.0	2.5mEq/L以下，6.5mEq/L以上
Ca(カルシウム)(血清)	8.5～10.2	6.0mg/dL以下，14.0mg/dL以上
総ビリルビン(T-Bil)	0.3～1.2	12.0mg/dL以上
血液学的検査		
白血球数(WBC)	M 3900～9800 F 3500～9100	1000/μL以下，25000/μL以上
血色素量(Hb)	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2	5.0g/dL以下
血小板数	M 13.1～36.2 F 13.0～36.9	3.0×10^4/μL以下，100×10^4/μL以上
血液像	白血球分類 Stab 0～6 Seg 32～73 Eosino 0～6 Baso 0～2 Mono 0～8 Lympho 18～59 赤血球形態 大小不同(－)，多染性(－)，奇形(－)，有核(－)	芽球出現時
プロトロンビン時間(PT)	INR：設定せず	INR 4.0以上
薬物検査		
フェノバルビタール	10～25	60μg/mL以上
プリミドン	5.0～12.0	15μg/mL以上
フェニトイン	10.0～20.0	30μg/mL以上
カルバマゼピン	4～12	12μg/mL以上
エトスクシミド	40.0～100.0	120μg/mL以上
バルプロ酸	50～100	150μg/mL以上
リチウム	治療濃度範囲 0.60～1.20	2.0mEq/L以上
ジゴキシン	消失相濃度0.8～2.0	2.5ng/mL以上
リドカイン	1.2～5.0	6.0μg/mL以上
プロカインアミド	4.0～10.0	12μg/mL以上
バンコマイシン	Trough 10～15	60μg/mL以上
テイコプラニン	Trough 15～30	(Trough濃度) 60μg/mL以上
サリチル酸	抗炎症作用として 100～250	300μg/mL以上
メトトレキサート	危険限界濃度 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上	48時間後　1.0μmol/L以上
テオフィリン	10.0～20.0	25μg/mL以上
微生物学的検査		
細菌培養，同定	検出せず	塗抹からの抗酸菌，二類感染症，三類感染症，髄液・血液からの菌検出

RIA(Radio immunoassay)
放射性免疫測定法

抗体に対して放射性同位元素（RI）で標識した抗原と検体中の抗原を競合的に抗原抗体反応を行い，抗体と結合した標識抗原（結合型：Bound）と抗体と結合していない標識抗原（遊離型：Free）を分離し，その割合を放射活性から抗原の濃度として測定する方法。

結合型と遊離型の分離方法（B/F分離）として，抗体を固相化しておく固相法，抗原抗体複合体に第2抗体を結合させて沈澱させる2抗体法，抗原抗体複合体を硫酸アンモニウム（硫安）で沈澱させる硫安塩析法，抗原抗体複合体を沈澱試薬で沈澱させるPEG法などがある。

IRMA(Immuno radio metric assay)
免疫放射定量法

RIAの1つで，固相化した抗体に対して抗原を反応させた後，放射性同位元素(RI)で標識した抗体を抗原に2次反応させる方法。

固相化抗体と標識抗体が抗原を挟む形で結合することから，サンドイッチ法とも呼ばれる。

CPBA(Competitive protein binding analysis)
競合性蛋白結合分析法

測定原理はRIAと同様で，結合体として測定物質に特異的に結合する蛋白を用いる方法。

RRA(Radio receptor assay)
ラジオレセプターアッセイ

測定原理はRIAと同様で，抗体の代わりにレセプター（受容体）を用いて，その反応性から生物活性を求める方法。

EIA(Enzyme immunoassay)
酵素免疫測定法

測定原理はRIAと同様で，標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い，発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

FEIA(Fluorescence enzyme immunoassay)
蛍光酵素免疫測定法

EIAの1つで，標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い，蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する方法。

ELISA(Enzyme-Linked immunosorbent assay)
酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後，酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ，発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

FPIA(Fluorescence polarization immunoassay)
蛍光偏光免疫測定法

蛍光標識した抗原は分子量が小さい場合には液相中で活発に回転運動しており，偏光励起光をあてても蛍光の偏光度が小さいが，抗体と結合し分子量が大きくなると回転運動が抑制され，蛍光の偏光度が増大することを利用して，蛍光の偏光強度を測定する方法。

ECLIA(Electro chemiluminescence immunoassay)
電気化学発光免疫測定法

抗体を結合したビーズを用いて抗原と反応させた後，ルテニウムピリジン錯体で標識した抗体を抗原に2次反応させ，電気化学反応によりルテニウムピリジン錯体の発光強度を測定する方法。

CLEIA(Chemiluminescent enzyme immunoassay)
化学発光酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後，酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ，化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。

CLIA(Chemiluminescent immunoassay)
化学発光免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後，化学発光性物質で標識した抗体を抗原に2次反応させ，化学発光性物質の発光強度を測定する方法。

TIA(Turbidimetric immnoassay)
免疫比濁法

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ，透過率を測定する方法。

LA(Latex agglutination immunoassay)
ラテックス凝集比濁法

抗原または抗体を吸着（結合）させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い，抗原抗体反応による凝集の濁度を，光を照射させて透過率または光の散乱強度から測定する方法。

ネフェロメトリー(Nephelometry)

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ，光の散乱強度を測定する方法。

LPIA(Latex photometric immunoassay)
ラテックス近赤外免疫比濁法

抗原または抗体を結合させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い，抗原抗体反応による凝集の濁度を，近赤外光を照射させて透過率を測定する方法。

オクタロニー法(Ouchterlony method)
平板内二重免疫拡散法

平板内二重免疫拡散法と呼ばれるゲル内拡散法の1つ。ゲル内で抗体と抗原を拡散させ，抗原抗体反応により形成された沈降線の数や反応性の有無から，抗原と抗体の反応を確認する方法。

HA(Hemagglutination)
赤血球凝集反応

赤血球の表面抗原と抗体を反応させ，抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

PHA(Passive hemagglutination)
受身赤血球凝集反応

赤血球の表面に抗原を吸着（結合）させた感作赤血球を用いて抗体を反応させ，抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

HI(Hemagglutination inhibition)
赤血球凝集抑制反応

ウイルスのもつ赤血球凝集能が，ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法。抗原抗体複合体と赤血球を反応させ，凝集抑制の有無によりウイルスに対する抗体の存在を判定する。

PA(Particle agglutination)
粒子凝集反応

抗原または抗体を吸着（結合）させたゼラチン粒子など(感作粒子）を用いて抗原抗体反応を行い，抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

LA(Latex agglutination)
ラテックス凝集反応

抗原または抗体を吸着（結合）させたラテックス粒子（感作ラテックス粒子）を用いて抗原抗体反応を行い，抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

CF(Complement fixation)
補体結合反応

補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。
赤血球に溶血素を結合した感作赤血球は補体が結合すると溶血を起こすが，抗原抗体複合体が存在すると補体が消費され溶血が阻止されることから，溶血の程度から抗体の存在を判定する。

NT(Neutralization test)
中和反応

ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる(中和)ことを利用した方法。
ウイルスと抗体を反応させた後，ウイルスに感受性のある培養細胞に接種し，細胞変性効果(cytopathogenic effect：CPE) の有無により中和抗体の存在を判定する。

FA(Fluorescent antibody method)
蛍光抗体法

IFA(Indirect Fluorescent antibody method)
間接蛍光抗体法

目的とする抗原に対して，蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い，蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。
蛍光色素で標識した抗体を直接反応させる直接法と，抗原に対して抗体を反応させた後，蛍光色素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

酵素抗体法

目的とする抗原に対して，酵素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い，発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。
酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と，抗原に対して未標識の抗体を反応させた後，酵素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

クロマトグラフィー(Chromatography)

固定相（固体または液体）と接して流れる移動相（液体または気体）の間に物質を通し，両相への親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分離する方法。
移動相が液体の場合には液体クロマトグラフィー，気体の場合にはガスクロマトグラフィーと呼ばれる。

HPLC(High performance liquid chromatography)
高速液体クロマトグラフィー

移動相に液体を用いる液体クロマトグラフィーで，高密度充填カラムと高圧ポンプを用いて高速かつ高精度に分離する方法。

超遠心法

超遠心器を用いて蛋白質の比重の差により分離し測定する方法。

電気泳動法

荷電粒子の浮遊する電解質溶液に通電すると，粒子は各粒子の荷電と逆の極側に移動する現象を利用し，移動度から目的の物質を測定する方法。
水溶液支持体にはセルロースアセテート膜，アガロースゲル，ポリアクリルアミドゲルなどが用いられる。

電極法

電極と溶液界面における電荷移行反応を利用した方法。
イオン選択電極は特定のイオンに応答し，イオンの活量の対数に比例して生じる電位差からイオンの濃度を測定する。

比色法(Colorimetry)

測定物質を着色物質に変換後，可視部波長を照射して吸光度を測定して色調を標準液と比較する方法。

酵素法

測定原理は比色法と同様で，測定物質を酵素を用いて特異的に測定する方法。

UV法(Ultraviolet absorption spectrophotometry)
紫外部吸光光度分析

測定原理は比色法と同様で，紫外部波長を用いて測定する方法。通常は200～400nmの近紫外部の波長が使われる。

原子吸光分析法

元素試料を化学炎中や加熱グラファイト管中などで元素の原子化を行い，この原子蒸気に元素固有の共鳴線をあてると原子蒸気中の原子の数に応じて吸収されることを利用して，吸光度から元素量を定量する方法。

SBPA(Sandwich binding protein assay)
結合蛋白サンドイッチ測定法

固相化した測定物質に結合する蛋白と測定物質を結合させた後，酵素で標識した結合蛋白を2次反応させ，発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

凝固時間法

測定対象となる因子の欠乏血漿とトロンボプラスチン，アクチン，塩化カルシウムを加え，凝固するまでの時間を測定する方法。

発色性合成基質法

ヘパリンを加えてAT-Ⅲ-ヘパリン複合体を形成させ，そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

KIMS(Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution)

抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行い，抗原抗体反応による凝集の濁度を，光を照射させて透過率から測定する方法。

LC/MS/MS(Liquid chromatography tandem mass spectrometry)
液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法

液体クロマトグラフで親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分離し，質量分析計でさらに質量ごとに分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ，それらのイオンを検出する方法。

各種band

リンパ球または骨髄細胞を培養し，分裂中期の細胞を固定する。その後，色素で染色体上に縞模様（バンド）を染め出し，その分布と濃淡から分析を行う方法。

トリプシン溶液で処理後ギムザ染色を行うG-Banding，HCl，Ba(OH)2，2×SCCで処理後ギムザ染色するC-Banding，キナクリン・マスタードで染色後，蛍光顕微鏡で観察するQ-Banding，アクリジン・オレンジで染色後，蛍光顕微鏡で観察するR-Banding，分裂前期の終わりから分裂中期の始めの分裂像を用い，通常よりバンド数を増やして観察する高精度分染法などがある。

フローサイトメトリー(Flow cytometry)

蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速度で流しながらレーザー光を照射し，前方散乱光（細胞の大きさ）や90°散乱光（細胞の内部構造）と蛍光強度（細胞表面の対応抗原）から個々の細胞を解析する方法。

2種類の蛍光色素を用いて二重染色を行い解析する場合はTwo-colorフローサイトメトリーと呼ばれる。

^{3}H-サイミジン取り込み能(^{3}H-TdR uptake)

リンパ球が非自己抗原による刺激に反応して芽球化する現象を利用した方法。

リンパ球に刺激物質と3H-サイミジンを加えて培養し，DNA合成により3H-サイミジンが細胞に取り込まれる量を放射活性として測定する。刺激物質にはPHA，ConA，薬剤などが用いられる。

サザンブロットハイブリダイゼーション(Southern blot hybridization)

制限酵素で消化したDNAを電気泳動により分画し，1本鎖DNAに変性後，毛細管現象を利用してナイロンメンブレンに転写して，標的プローブとハイブリダイゼーションを行い，目的の遺伝子を検出する方法。DNAの量的，質的変化の異常を解析する場合に用いられる。

ウエスタンブロット法(Western blot)

目的とする蛋白質を電気泳動により分画し，電気的にニトロセルロース膜に転写して，目的の蛋白質に対する抗体を反応させた後，放射性同位元素または酵素で標識した抗体を2次反応させ，目的の蛋白質を検出する方法。イムノブロット法とも呼ばれる。

FISH(Fluorescence in situ hybridization)

蛍光insituハイブリダイゼーション

蛍光色素で標識したプローブを用いて標的DNAとハイブリダイゼーションを行い，特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。

蛍光色素で標識したプローブと標的DNAを直接結合させる直接法と，標識物質で標識したプローブと標的DNAを結合させた後に，標識プローブと蛍光物質を結合させて発色させる間接法がある。

液相(核酸)ハイブリダイゼーション

液相中でrRNAを遊離させ，化学発光物質で標識したDNAプローブを用いてハイブリダイゼーションを行い，ハイブリッドを分離剤に吸着させた後，化学発光により検出する方法。

PCR(Polymerase chain reaction)

DNAが加熱により2本鎖から1本鎖に解離し，冷却することで2本鎖に戻ることを利用し，1本鎖DNAを鋳型として目的のプライマーを結合させ，DNAポリメラーゼの転写反応によりDNA合成を行うことを繰り返し，目的とするDNA領域を指数関数的に増幅させる方法。

RT-PCR(Reverse transcriptase-polymerase chain reaction)

RNAが増幅対象の場合に，RNAを鋳型として逆転写酵素(reversetranscriptase：RT)により相補的なcDNAを合成してPCRを行う方法。

リアルタイムPCR

PCR法を基本原理とする核酸増幅法の一種であり，分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより，PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

TMA(Transcription mediated amplification)

2種類の酵素と2種類のプライマーおよび基質を用いてRNAを増幅する方法。

抽出したRNAから逆転写酵素により2本鎖DNAを合成し，この2本鎖DNAを鋳型としてRNAポリメラーゼの転写反応によりRNAを合成することを繰り返し，目的とするRNA領域を増幅させる。

MLPA(Multiplex ligation-dependent probe amplification)

共通PCRプライマー配列を融合させた特異プローブを標識領域にハイブリダイズ後，PCRを行い，その増幅産物の量的変化について，比較的大規模なゲノム欠失もしくは重複を検出する方法。

gFCS(Gene analysis by Fluorescence Correlation Spectroscopy)

蛍光物質で標識したプライマーを用いてPCRを行い、プライマー分子の大きさの違いを蛍光強度の時間変化の差(蛍光ゆらぎ)として1分子蛍光分析システムで測定し、蛍光相関分光法(FCS）を用いて解析する遺伝子解析法。

インベーダー法

DNAの三重鎖構造を特異的に認識して切断するクリベース（エンドヌクレアーゼの一種）を利用した，二段階のホモジニアスな等温反応からなる遺伝子多型の判定法。

Scorpion-ARMS法

変異を特異的に増幅する「ARMS」と増幅された変異をシグナルに変える「Scorpions」の2種類の技術を組み合わせた新しい高感度リアルタイムPCRです。

MALDI-TOF-MS

レーザー光を吸収するマトリックスと分析物の混合物にレーザー照射し，タンパク質を分解させずにイオン化する方法(MALDI）と，生成されたイオンの質量電荷比によりイオンの飛行時間が異なることを利用して質量分析を行う方法(TOF-MS)を組み合わせた方法。

MALDI　：Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization マトリックス支援レーザー脱離イオン化

TOF-MS：Time-of-Flight Mass Spectrometry 飛行時間型質量分析法

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
内分泌学的検査	
甲状腺刺激ホルモン(TSH)	楚南　盛正，他：医学と薬学46(5)：759～771，2001.
成長ホルモン(GH)	小山　沙世，他：医学と薬学68(5)：899～910，2012.
IGF-Ⅰ(ソマトメジンC)	高須　重人，他：ホルモンと臨床44(4)：383～391，1996.
黄体形成ホルモン(LH)	皆方　良介，他：臨床検査機器・試薬22(5)：429～438，1999.
卵胞刺激ホルモン(FSH)	皆方　良介，他：臨床検査機器・試薬22(5)：429～438，1999.
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	阿部　正樹，他：医学と薬学57(2)：239～244，2007.
プロラクチン	高加　国夫，他：医学と薬学56(4)：577～586，2006.
トリヨードサイロニン(T_3)	楚南　盛正，他：医学と薬学46(5)：759～771，2001.
遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)	楚南　盛正，他：医学と薬学46(5)：759～771，2001.
血清総サイロキシン(T_4)	楚南　盛正，他：医学と薬学46(5)：759～771，2001.
遊離サイロキシン(Free T_4)	楚南　盛正，他：医学と薬学46(5)：759～771，2001.
TBG定量	海瀬　信子，他：核医学16(5)：777～783，1979.
サイログロブリン	北川　亘，他：医学と薬学71(9)：1655～1666，2014.
抗甲状腺 サイログロブリン抗体(サイロイドテスト)	土屋　彦治，他：臨床検査機器・試薬6(4)：1007～1010，1983.
抗サイログロブリン抗体	森田　新二，他：医学と薬学55(5)：775～782，2006.
抗甲状腺 マイクロゾーム抗体(マイクロゾームテスト)	土屋　彦治，他：臨床検査28(1)：99～101，1984.
抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	森田　新二，他：医学と薬学55(5)：775～782，2006.
TSHレセプター抗体	西　功，他：医学と薬学39(5)：1031～1039，1998.
TSHレセプター抗体(定量)	小森　明日香，他：医学と薬学46(4)：563～570，2001.
TSHレセプター抗体(第3世代)	吉村　弘，他：医学と薬学59(6)：1111～1120，2008.
TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)	上條　桂一，他：医学と薬学71(5)：903～911，2014.
副甲状腺ホルモン(PTH)(高感度)	福永　仁夫，他：核医学24(3)：319～325，1987.
副甲状腺ホルモン(PTH)(高濃度測定)	深瀬　正晃，他：日本内分泌学会雑誌65(8)：807～827，1989.
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	山岡　美穂，他：医学と薬学46(5)：753～758，2001.
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	森山　和重，他：医学と薬学70(4)：829～836，2013.
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	福本　誠二，他：ホルモンと臨床40(12)：1309～1314，1992.
カルシトニン	北川　亘，他：医学と薬学72(1)：97～108，2015.
オステオカルシン	吉村　典子，他：Osteoporosis Japan 13(3)：759～765，2005.
カテコールアミン総	Honda S et al：Analytica Chimica Acta 149：297～303，1983.
カテコールアミン3分画	辻　潮，他：臨床検査機器・試薬11(4)：635～641，1988.
カテコールアミン3分画	Honda S et al：Analytica Chimica Acta 149：297～303，1983.
ドーパミン総	守　和子：産業医学17：170～171，1975.
L-ドーパ	守　和子：産業医学17：170～171，1975.
VMA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34(12)：2504～2506，1988.
VMA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34(12)：2504～2506，1988.
HVA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34(12)：2504～2506，1988.
HVA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34(12)：2504～2506，1988.
メタネフリン総	Shoup RE et al：Clinical Chemistry 23(7)：1268～1274，1977.
メタネフリン2分画	Shoup RE et al：Clinical Chemistry 23(7)：1268～1274，1977.
MHPG	宮川　富三雄：蛋白質核酸酵素26(9)：1089～1098，1981.
セロトニン	Anderson GM et al：Gastroenterology 88：86～89，1985.
セロトニン	Nebinger P et al：Journal of Chromatography 427：326～330，1988.
5-HIAA	小島　司，他：臨床化学21(2)：119～126，1992.
5-HIAA	Mailman RB et al：Clinical Chemistry 31(11)：1849～1854，1985.

検査項目	測定参考文献
内分泌学的検査	
17-KS7分画	石田　孝，他：臨床化学15(1)：13～19，1986.
血中11-OHCS	宇田川　美佐子，他：臨床化学5(3)：321～325，1977.
コルチゾール	柿沢　圭亮，他：医学と薬学73(1)：71～76，2016.
コルチゾール	福島　靖恵，他：臨床検査機器・試薬22(6)：509～514，1999.
アルドステロン	塩之入　洋，他：医学と薬学21(2)：293～302，1989.
アルドステロン	塩之入　洋，他：医学と薬学21(2)：293～302，1989.
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	増戸　梨恵，他：医学と薬学56(3)：443～448，2006.
エストラジオール(E_2)	岩佐　武，他：産科と婦人科73(1)：133～140，2006.
エストラジオール(E_2)	牧野　拓雄，他：日本内分泌学会雑誌50(4)：788～796，1974.
IVF-エストラジオール(E_2)	岩佐　武，他：産科と婦人科73(1)：133～140，2006.
プロゲステロン	松﨑　利也，他：医学と薬学73(3)：323～333，2016.
IVF-プロゲステロン	松﨑　利也，他：医学と薬学73(3)：323～333，2016.
プレグナンジオール	平井　利生，他：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA 9(2)：564～567，1984.
プレグナントリオール	平井　利生，他：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA 9(2)：564～567，1984.
テストステロン	木内　理世，他：医学と薬学64(1)：87～93，2010.
フリーテストステロン	石原　静盛，他：核医学技術8(3)：207～212，1988.
絨毛性ゴナドトロピン(HCG)	Cole LA et al：Clinical Chemistry 47(2)：308～315，2001.
HCG-βサブユニット	菅原　由人，他：臨床検査機器・試薬14(3)：467～474，1991.
HCG-βサブユニット	菅原　由人，他：臨床検査機器・試薬14(3)：467～474，1991.
子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	北村　光，他：臨床検査機器・試薬21(4)：357～361，1998.
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	Lockwood CJ et al：The New England Journal of Medicine 325(10)：669～674，1991.
インスリン	唐澤　美佳，他：医療と検査機器・試薬29(5)：479～484，2006.
C-ペプチド(CPR)	唐澤　美佳，他：医療と検査機器・試薬29(5)：485～491，2006.
C-ペプチド(CPR)	唐澤　美佳，他：医療と検査機器・試薬29(5)：485～491，2006.
抗GAD抗体	及川　洋一，他：医学と薬学72(9)：1551～1560，2015.
抗IA-2抗体	松浦　信夫，他：プラクティス16(5)：567～572，1999.
抗インスリン抗体	内潟　安子，他：医学と薬学65(4)：525～530，2011.
ガストリン	飯沼　一茂，他：Radioisotopes 31(7)：350～356，1982.
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	松岡　泰弘，他：医療と検査機器・試薬33(4)：535～540，2010.
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	伊藤　洋子，他：医学と薬学64(6)：931～939，2010.
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	Prontera C et al：Clin Chem Lab Med 42(1)：37～44，2004.
レニン活性(PRA)	廣井　直樹，他：医学と薬学32(1)：81～86，1994.
レニン定量(活性型)	土屋　ますみ，他：医学と薬学32(3)：529～534，1994.
アンギオテンシンⅠ	岩鼻　美佐，他：医学と薬学36(2)：297～303，1996.
アンギオテンシンⅡ	岩鼻　美佐，他：医学と薬学36(2)：297～303，1996.
ペントラキシン3(PTX3)	Inoue et al：Arterioscler Thromb Vasc Biol. 27(1)：161～167，2007.
サイクリックAMP	孫　孝義，他：日本内分泌学会雑誌61(9)：912～923，1985.
肝細胞増殖因子(HGF)	二井谷　好行，他：臨床検査35(13)：1360～1364，1991.
エリスロポエチン	増田　詩織，他：医学と薬学67(2)：297～306，2012.
アディポネクチン(LA)	Nishimura A. et al：Clinica Chimica Acta 371：163～168，2006.
腫瘍関連検査	
癌胎児性抗原(CEA)	鈴木　尚子，他：医学と薬学56(6)：897～907，2006.
血清p53抗体	島田　英昭，他：日本臨床外科学会雑誌64(7)：1551～1559，2003.
TPA	吉川　文雄，他：医学と薬学34(4)：749～757，1995.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
腫瘍関連検査	
α-フェトプロテイン定量	鈴木　尚子，他：医学と薬学56(6)：897～907，2006.
PIVKA-Ⅱ	高津　和子，他：臨床と研究73(11)：2656～2664，1996.
DUPAN-2	櫻林　郁之介，他：臨床病理34(6)：705～710，1986.
CA19-9	鈴木　尚子，他：医学と薬学56(6)：897～907，2006.
SPan-1	梅山　馨，他：膵臓3(4)：528～539，1988.
NCC-ST-439	吉岡　久，他：臨床病理35(11)：1233～1238，1987.
CA15-3	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬29(6)：589～596，2006.
BCA225	石　和久，他：基礎と臨床23(15)：6087～6095，1989.
血清 HER2タンパク	LuftnerD，et al：The International Journal of Biological Markers 19(3)：175～182，2004.
シアリルLe^{X}抗原(CSLEX)	三嶋　芳樹，他：医学と薬学29(5)：1193～1200，1993.
シアリルLe^{X}-i抗原(SLX)	井村　裕夫，他：癌と化学療法14(5)：1315～1321，1987.
PSA F/T比タンデム	野村　朋子，他：医学と薬学51(1)：179～186，2004. 日本臨床検査自動化学会会誌30(5)：738～742，2005.
前立腺特異抗原(PSA)	武田　悟，他：Progress in Medicine 2(9)：149～153，2001.
PSA-ACT	大野　明美，他：医学と薬学49(2)：325～332，2003.
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	佐藤　達郎，他：医学と薬学43(1)：97～106，2000.
CA125	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬29(6)：589～596，2006.
CA602	野澤　志朗，他：癌と化学療法19(12)：2085～2093，1992.
CA54/61	野澤　志朗，他：癌と化学療法19(12)：2085～2093，1992.
CA72-4	青山　昭，他：医学と薬学49(1)：127～135，2003.
シアリルTn抗原(STN)	井村　裕夫，他：癌と化学療法16(9)：3213～3219，1989.
SCC	高木　康，他：医学と薬学52(3)：413～421，2004.
シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬29(6)：597～602，2006.
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	山本　典江，他：医療と検査機器・試薬32(2)：263～267，2009.
NSE(神経特異エノラーゼ)	堀田　多恵子，他：生物試料分析34(5)：345～353，2011.
塩基性フェトプロテイン(BFP)	設楽　光弘，他：臨床病理36(9)：1039～1044，1988.
可溶性IL-2レセプター	丹部　絵梨，他：医療と検査機器・試薬37(5)：649～657，2014.
チミジンキナーゼ活性	鳥住　和民，他：核医学25(6)：561～567，1988.
5-S-システイニルドーパ(5-S-CD)	Wakamatsu K et al：Clinical Chemistry 40(3)：495～496，1994.
ウイルス感染症検査	
アデノウイルス	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886，1988.
アデノウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 8型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
アデノウイルス 37型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.

検査項目	測定参考文献
ウイルス感染症検査	
インフルエンザウイルス A型(H1N1)(H3N2)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
インフルエンザウイルス A型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
インフルエンザウイルス B型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
インフルエンザウイルス B型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
パラインフルエンザウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
パラインフルエンザウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
パラインフルエンザウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
RSウイルス	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
RSウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
ロタウイルス抗原	篠崎　立彦，他：小児科臨床41(2)：397～400，1988.
エコーウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
エコーウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
エコーウイルス 9型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
エコーウイルス 12型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 12型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
エコーウイルス 13型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 14型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 17型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 18型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 22型(パレコウイルス1型)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 24型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 25型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エコーウイルス 30型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群9型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群9型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
コクサッキーウイルス A群10型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス A群16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.

検査項目	測定参考文献
ウイルス感染症検査	
コクサッキーウイルス B群1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス B群1型	北村　元仕，他　臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
コクサッキーウイルス B群2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス B群2型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
コクサッキーウイルス B群3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス B群3型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
コクサッキーウイルス B群4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス B群4型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
コクサッキーウイルス B群5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス B群5型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
コクサッキーウイルス B群6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
コクサッキーウイルス B群6型	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
エンテロウイルス 70型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
エンテロウイルス 71型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
日本脳炎ウイルス(JaGAr株)	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第2分冊：81～97，1987.
日本脳炎ウイルス	北村　元仕，他　臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886，1988.
ムンプスウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
ムンプスウイルス IgG	中山　哲夫　医学と薬学42(2)：303～306，1999.
ムンプスウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
ムンプスウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
ムンプスウイルス	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886，1988.
麻疹ウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
麻疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
麻疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
麻疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
風疹ウイルス IgM	佐藤　俊則，他：臨床とウイルス23(1)：44～47，1995.
風疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
風疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：214～225，1973.
ヒトパルボウイルスB19 IgM	要藤　裕孝，他：感染症学雑誌69(10)：1135～1140，1995.
ヒトパルボウイルスB19 IgG	要藤　裕孝，他：感染症学雑誌69(10)：1135～1140，1995.
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgM	平野　勝，他：医学と薬学42(2)：641～645，1999.
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgG	吉田　晃，他：臨床とウイルス13(4)：490～496，1985.
水痘・帯状ヘルペスウイルス	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886，1988.
水痘・帯状ヘルペスウイルス	井上　栄：臨床検査25(9)：959～965，1981.
単純ヘルペス ウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
単純ヘルペス ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
単純ヘルペス ウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
単純ヘルペス ウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版　(丸善)：260～274，1973.
単純ヘルペス ウイルス	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886，1988.
ヒトヘルペスウイルス6型 IgM	浅野　喜造，他：臨床と微生物16(2)：147～152，1989.
ヒトヘルペスウイルス6型 IgG	浅野　喜造，他：臨床と微生物16(2)：147～152，1989.
サイトメガロウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
サイトメガロウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：48～61，1987.
サイトメガロウイルス	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886，1988.

検査項目	測定参考文献
ウイルス感染症検査	
EBウイルス 抗EA IgG	脇口　宏，他：医学と薬学58(2)：363～369，2007.
EBウイルス 抗VCA IgM	脇口　宏，他：医学と薬学58(2)：363～369，2007.
EBウイルス 抗VCA IgG	脇口　宏，他：医学と薬学58(2)：363～369，2007.
EBウイルス 抗EBNA IgG	脇口　宏，他：医学と薬学58(2)：363～369，2007.
EBウイルス 抗EA-DR IgG	日沼　頼夫，他：臨床病理 特(35)：179～189，1978.
EBウイルス 抗VCA IgM	日沼　頼夫，他：臨床病理 特(35)：179～189，1978.
EBウイルス 抗VCA IgG	日沼　頼夫，他：臨床病理 特(35)：179～189，1978.
EBウイルス 抗EBNA	日沼　頼夫，他：臨床病理 特(35)：179～189，1978.
EBウイルス 抗VCA IgA	日沼　頼夫，他：臨床病理 特(35)：179～189，1978.
EBウイルス 抗EA-DR IgA	日沼　頼夫，他：臨床病理 特(35)：179～189，1978.
単純ヘルペスウイルス IgG	吉田　晃，他：臨床とウイルス14(4)：469～475，1986.
ウイルス分離	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook：3～20，1973.
ウイルス同定	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook：3～20，1973.
アデノウイルス抗原	Espy MJ et al：American Journal of Clinical Pathology 88(3)：358～360，1987.
インフルエンザウイルス抗原	Espy MJ et al：Journal of Clinical Microbiology 24(4)：677～679，1986.
パラインフルエンザウイルス抗原	紺野　謙治，他：臨床とウイルス17(1)：89～95，1989.
水痘・帯状ヘルペス ウイルス抗原	紺野　謙治，他：臨床とウイルス17(1)：89～96，1989.
単純ヘルペスウイルス 抗原	Gleaves CA et al：Journal of Clinical Microbiology 21(1)：29～32，1985.
サイトメガロウイルス 抗原	紺野　謙治，他：臨床とウイルス17(1)：89～96，1989.
アデノウイルスDNA	Hierholzer JC et al：Journal of Clinical Microbiology 31(7)：1886～1891，1993.
アデノウイルス抗原	青木　功喜，他：臨床眼科43(6)：1035～1039，1989.
ロタウイルス抗原	篠崎　立彦，他：小児科臨床41(2)：397～400，1988.
ヒトパルボウイルス B19DNA	Sevall JS：Molecular and Cellular Probes 4：237～246，1990.
エンテロウイルス RNA	川俣　治：新潟医学会雑誌111(10)：633～646，1997.
日本脳炎ウイルス RNA	森田　公一，他：日本臨床50(特別号)：285～289，1992.
ムンプスウイルス RNA	Yamada A et al：Vaccine 8(6)：553～557，1990.
麻疹ウイルスRNA	Godec MS et al：Journal of Medical Virology 30：237～244，1990.
インフルエンザウイルスRNA	Zhang W et al：Diagnostic Molecular Microbiology：373～382，1993.
水痘・帯状ヘルペスウイルスDNA	本藤　良，他：日本臨床50(特別号)：160～165，1992.
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原	新村　眞人，他：感染症学雑誌64(2)：195～201，1990.
単純ヘルペスウイルス DNA定量	Stevens J：実験医学15(7S)：728～733，1997.
単純ヘルペスウイルス DNA	Cao M et al：J Invest Dermatol 82：391～392，1989.
単純ヘルペスウイルス 特異抗原	川名　尚，他：感染症学雑誌61(9)：1030～1037，1987.
ヒトヘルペスウイルス 6型DNA	近藤　一博，他：蛋白質核酸酵素35(17)：3041～3047，1990.
ヒトヘルペスウイルス 7型DNA	Yalcin S et al：Archives of Virology 136：183～190，1994.
サイトメガロウイルス DNA定量	Stevens J：実験医学15(7S)：728～733，1997.
サイトメガロウイルス DNA	Olive DM et al：Journal of Clinical Microbiology 27(6)：1238～1242，1989.
サイトメガロウイルス pp65抗原(C10,C11)	浅井　隆善，他：今日の移植7(6)：553～559，1994.
サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	権藤　久司，他：臨床血液 34(11)：1438～1444，1993.
EBウイルスDNA定量	Stevens J：実験医学15(7S)：728～733，1997.
EBウイルスDNA	Saito I et al：J Exp Med 169：2191～2198，1989.
EBウイルスDNA(クロナリティ)	Raab-Traub N et al：Cell 47：883～889，1986.
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)	Clavel C et al：Diagnostic Molecular Pathology 9(3)：145～150，2000.
ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)	Ko.V et al：Cancer Cytopathology 108(6)：468～467，2006.
ヒトパピローマウイルスDNA(16型，18型，その他ハイリスクグループ)	三浦　俊昭，他：医学と薬学69(1)：157～162，2013.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
ウイルス感染症検査	
ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)	Clavel C et al：Diagnostic Molecular Pathology 9(3)：145～150，2000.
ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)(LBC)	Ko.V et al：Cancer Cytopathology 108(6)：468～467，2006.
ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	尾﨑　聡，他：臨床病理60(7)：621～626，2012.
HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体	堀江　昭伸，他：医学と薬学31(2)：367～374，1994.
HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体	池田　幹雄，他：図説臨床癌シリーズ　9：42～50，1986.
HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体	上平　憲，他：臨床とウイルス21(1)：73～76，1993.
HTLV-Ⅰ核酸検出(妊婦)	Miyazato P.et al：Journal of Virology 80(21)：10683～10691，2006.
HTLV-Ⅰプロウイルス DNA定性	Miyazato P.et al：Journal of Virology 80(21)：10683～10691，2006.
HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)	渡辺　俊樹，他：Meidical Immunology 16(6)：785～791，1988.
HIV抗原・抗体	桜庭　尚哉，他：医学と薬学65(5)：663～672，2011.
HIV-2抗体	菱田　靖，他：医学と薬学27(4)：959～970，1992.
HIV-1RNA定量	目﨑　和久，他：医学と薬学73(6)：705～709，2016.
HA抗体	矢野　公士，他：医学と薬学58(1)：151～161，2007.
IgM-HA抗体	矢野　公士，他：医学と薬学58(1)：151～161，2007.
HBs抗原	志村　嘉彦，他：臨床検査機器・試薬18(3)：553～558，1995.
HBs抗体	蒲池　正次，他：臨床検査機器・試薬17(6)：1173～1180，1994.
HBs抗原〔CLIA〕	関口　仁，他：臨床検査機器・試薬22(4)：283～288，1999.
HBs抗体〔CLIA〕	藤原　拓樹，他：医学と薬学42(4)：623～627，1999.
HBe抗原	熊谷　保之：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA25(1)：70～74，2000.
HBe抗体	熊谷　保之：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA 25(1)：70～74，2000.
HBc抗体	森藤　隆夫，他：臨床病理 特(67)：101～108，1986.
HBc抗体	八橋　弘，他：医学と薬学66(6)：1075～1081，2011.
IgM-HBc抗体	熊谷　保之：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA 25(1)：70～74，2000.
HBVゲノタイプ	田中　靖人，他：臨床病理57(1)：42～47，2009.
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	田中　靖人，他：臨床病理54(7)：692～698，2006.
HBV DNA定量	菅原　昌章，他：医学と薬学73(10)：1329～1339，2016.
HCV抗体(第3世代)	山口　芳子，他：臨床検査機器・試薬17(6)：1161～1166，1994.
HCV群別(グルーピング)	長谷川　瞳，他：医学と薬学70(3)：633～641，2013.
HCV抗原(コア蛋白質)	田原　和子，他：日本臨床検査自動化学会会誌36(2)：267～274，2011.
HCV RNA定量	菅原　昌章，他：医学と薬学73(10)：1329～1339，2016.
HCV RNAコアジェノタイプ	Ohno T et al：Journal of Clinical Microbiology 35(1)：201～207，1997.
HCV RNA 1b(NS5A)	Enomoto N et al：The New England Journal of Medicine 334(2)：77～81，1996.
IgA-HEV抗体(定性)	飯野　四郎，他：医学と薬学53(4)：461～469，2005.
免疫学的検査	
マイコプラズマニューモニエ	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886，1988.
マイコプラズマニューモニエ	大関　トシイ，他：自治医科大学臨床検査技師年報12：62～64，1988.
ツツガムシギリアム IgG	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)：270～274，1984.
ツツガムシギリアム IgM	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)：270～274，1984.
ツツガムシカトー IgG	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)：270～274，1984.
ツツガムシカトー IgM	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)：270～274，1984.
ツツガムシカープ IgG	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)：270～274，1984.
ツツガムシカープ IgM	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)：270～274，1984.
クラミジアトラコマティス IgG	松本　明，他：感染症学雑誌66(5)：584～591，1992.

検査項目	測定参考文献
免疫学的検査	
クラミジアトラコマティス IgA	松本　明，他：感染症学雑誌66(5)：584～591，1992.
クラミジアトラコマティス IgM	松本　明，他：感染症学雑誌66(5)：584～591，1992.
クラミジアシッタシ IgG	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：62～75，1987.
クラミジアシッタシ IgM	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第1分冊：62～75，1987.
オーム病クラミジア(クラミジアシッタシ)	北村　元仕，他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886，1988.
クラミジアニューモニエ IgG	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
クラミジアニューモニエ IgA	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
マイコプラズマニューモニエDNA	山口　惠三，他：医学と薬学58(4)：565～571，2007.
淋菌およびクラミジアトラコマチスrRNA同時測定	松田　静治，他：日本性感染症学会誌15(1)：116～126，2004.
クラミジアトラコマティスDNA	熊本　悦明，他：医学と薬学66(6)：1007～1014，2011.
淋菌DNA	熊本　悦明，他：医学と薬学66(6)：1007～1014，2011.
淋菌およびクラミジアトラコマティスDNA同時測定	熊本　悦明，他：医学と薬学66(6)：1007～1014，2011.
百日咳DNA	Kamachi K, et al：J Clin Microbiol 44(5)：1899～1902，2006.
結核菌特異的IFN-γ	Meier T，et al：European Journal of Clinical Microbiology&Infectious Diseases 24：529～536，2005.
ニューモシスチスカリニDNA	Wakefield AE et al：The Lancet 336：451～453，1990.
寒冷凝集反応	原島　典子，他：衛生検査27(1)：67～71，1978.
抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)	伊藤　忠一：日本臨床39(6)：685～688，1995.
抗ストレプトキナーゼ抗体(ASK)	土屋　彦治，他：臨床検査機器・試薬7(2)：417～722，1984.
ブルセラ凝集反応	Carmichael LE et al：J Am Veterinary Medical Association 152(6)：605～616，1968.
便中ヘリコバクターピロリ抗原	福田　雅之助，他：医学と薬学62(3)：501～506，2009.
抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	乾　正幸，他：日本ヘリコバクター学会誌19(1)：33～42，2017.
プロカルシトニン(PCT)	小林　一三，他：医学と薬学73(4)：459～467，2016.
抗酸菌(抗酸菌塗抹、分離培養、薬剤感受性、結核菌群抗原)	日本結核病学会　抗酸菌検査法検討委員会:抗酸菌ガイド2016. 小栗　豊子，編:臨床微生物検査ハンドブック　第４版.三輪書店，2011.
抗酸菌同定〔質量分析〕	大楠　清文，他:抗酸菌検査ガイド2016:60～65，2016.
結核菌群核酸同定〔TRC〕	田村　卓，他:日本臨床微生物学雑誌18(1):15～19．2008.
MAC核酸同定〔TRC〕	田村　卓，他:日本臨床微生物学雑誌18(1):15～19．2008.
エンドトキシン定量	土谷　正和，他：日本細菌学雑誌45(6)：903～911，1990.
β-D-グルカン	吉田　耕一郎，他：感染症学雑誌79(7)：433～442，2005.
カンジダマンナン抗原	新崎　晃弘，他：臨床検査機器・試薬23(3)：107～2003，2000.
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	篠田　孝子，他：真菌と真菌症30(3)：211～221，1989.
アスペルギルス抗原	見手倉　久治，他：医学と薬学42(1)：207～212，1999.
アスペルギルス抗体	浜本　恒男：臨床と微生物15(3)：352～356，1988.
百日咳抗体[EIA]	医学と薬学65(4)：531～536，2011.
トキソプラズマ IgG抗体	亀井　喜世子，他：臨床病理42(7)：743～747，1994.
トキソプラズマ IgM抗体	亀井　喜世子，他：臨床病理42(7)：743～747，1994.
梅毒定性 RPR(LA)	桜庭　尚哉：医学と薬学63(1)：103～109，2010.
梅毒定性 TP抗体(LA)	高橋　勝幸，他：機器・試薬33(1)：89～95，2010.
FTA-ABS	山屋　駿一：微生物検査必携　細菌・真菌検査　第3版：H83～H91，1995.
梅毒定量 RPR(LA)	桜庭　尚哉：医学と薬学63(1)：103～109，2010.
梅毒定量 RPR法	福岡　良男：新訂臨床検査講座23　臨床免疫学　(医歯薬出版)：361～364，1997.
梅毒定量 TP抗体(LA)	高橋　勝幸，他：機器・試薬33(1)：89～95，2010.
梅毒定量 TPHA	出口　松夫，他：感染症学雑誌68(10)：1271～1277，1994.
抗アニサキスIgG・A抗体	安土　孝則，他：臨床検査機器・試薬15(1)：68～72，1992.
リウマチ因子(RF)定量	向田　直史，他：臨床検査31(6)：603～609，1987.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
免疫学的検査	
抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	山下　里美，他：医学と薬学66(3)：569～576，2011.
抗ガラクトース欠損IgG抗体	平山　吉郎，他：医学と薬学42(5)：817～828，1999.
IgG型リウマチ因子	栗原　夕子，他：リウマチ科22(5)：449～510，1999.
MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	氏家　真二，他：医学と薬学67(5)：741～747，2012.
抗核抗体(ANA)	東條　毅：臨床検査30(7)：687～692，1986.
抗DNA抗体〔RIA〕	鈴木　王洋，他：臨床免疫25(8)：1096～1102，1993.
抗ss-DNA IgG抗体	陣内　記代，他：日本臨床検査自動化学会会誌26(6)：747～753，2001.
抗ss-DNA IgM抗体	山下　雅樹，他：医学と薬学58(5)：763～767，2007.
抗ds-DNA IgG抗体	陣内　記代，他：日本臨床検査自動化学会会誌26(6)：747～753，2001.
抗ds-DNA IgM抗体	山下　雅樹，他：医学と薬学58(5)：763～767，2007.
抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体(抗CL・β2GP Ⅰ抗体)	野島　順三，他：医学と薬学32(6)：1315～1320，1994.
抗カルジオリピン抗体(IgG)	岡田　純，他：医学と薬学36(6)：1389～1394，1996.
抗カルジオリピン抗体(IgM)	鏑木　淳一，他：医学と薬学43(6)：1183～1188，2000.
抗RNP抗体	金井　正光，他：臨床検査法提要　第30版　(金原出版)：973～975，1993.
抗RNP抗体	西山　進，他：医学と薬学68(2)：345～355，2012.
抗Sm抗体	金井　正光，他：臨床検査法提要　第30版　(金原出版)：973～975，1993.
抗Sm抗体	西山　進，他：医学と薬学68(2)：345～355，2012.
抗SS-A/Ro抗体	金井　正光，他：臨床検査法提要　第30版　(金原出版)：973～975，1993.
抗SS-A/Ro抗体	西山　進，他：医学と薬学68(2)：345～355，2012.
抗SS-B/La抗体	金井　正光，他：臨床検査法提要　第30版　(金原出版)：973～975，1993.
抗SS-B/La抗体	西山　進，他：医学と薬学68(2)：345～355，2012.
抗Scl-70抗体	金井　正光，他：臨床検査法提要　第30版　(金原出版)：973～975，1993.
抗Scl-70抗体	松下　雅和，他：医学と薬学70(1)：109～117，2013.
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	桑名　正隆：リウマチ科40(3)：239～245，2008.
抗Jo-1抗体	西海　正彦：臨床検査機器・試薬13(4)：835～838，1990.
抗Jo-1抗体	松下　雅和，他：医学と薬学70(1)：109～117，2013.
抗セントロメア抗体	宮脇　昌二，他：医学と薬学45(1)：129～135，2001.
抗ミトコンドリア抗体	山内　進，他：臨床免疫7(7)：825～830，1975.
抗ミトコンドリア M2抗体	丹野　瑞木，他：医学と薬学67(3)：485～495，2012.
抗LKM-1抗体	竹村　真理，他：医学と薬学46(1)：109～114，2001.
抗平滑筋抗体	山内　進：臨床免疫7(7)：825～830，1975.
抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	松下　雅和，他：医学と薬学66(5)：823～828，2011.
抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	松下　雅和，他：医学と薬学66(5)：823～828，2011.
抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	臼井　丈一，他：医学と薬学68(4)：697～704，2012.
免疫複合体(C1q)	中村　敏男，他：臨床免疫14(S5)：92～100，1982.
免疫複合体(モノクローナルRF)	森　勝志，他：医学と薬学27(2)：347～354，1992.
抗胃壁細胞抗体	山内　進：衛生検査22(12)：1085～1089，1973.
抗内因子抗体	Elizabeth A.Gomez et al：Clinical Chemistry 51(1)：232～235，2005.
抗デスモグレイン1抗体	吉田　かおり，他：医学と薬学70(5.6)：989～1000，2013.
抗デスモグレイン3抗体	吉田　かおり，他：医学と薬学70(5.6)：989～1000，2013.
抗BP180抗体(血清中抗BP180NC16a抗体)	吉田　かおり，他：医学と薬学70(5.6)：989～1000，2013.
抗表皮成分自己抗体(直接法)	川生　明：病理と臨床6(増)：10～13，1988.
抗下垂体抗体1	Sugiura M et al：Diabetes Research 3：111～114，1986.
抗血小板抗体	柴田　洋一：輸血学(中外医学社)：457～470，1978.

検査項目	測定参考文献
免疫学的検査	
PAIgG(血小板関連IgG)	林　悟，他：臨床病理32(11)：1253～1257，1984.
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	阪田　敏幸：医学と薬学68(3)：547～555，2012.
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	太田　光熙，他：ホルモンと臨床48(1)：89～93，2000.
精子不動化抗体	香山　浩二：日本産科婦人科学会雑誌42(11)N209～N212，1990.
精子不動化抗体(SI50)	香山　浩二：日本産科婦人科学会雑誌42(11)N209～N212，1990.
ABO・Rh(D因子)式血液型	長田　広司：医薬ジャーナル32(S1)：215～219，1996.
Rh-Hr式血液型	長田　広司：医薬ジャーナル32(S1)：215～219，1996.
直接クームス試験	浅井　隆善：医学のあゆみ167(9)：700～700，1993.
間接クームス試験	浅井　隆善：医学のあゆみ167(9)：700～700，1993.
不規則性抗体(抗体同定・抗体価測定)	浅井　隆善：医学のあゆみ167(9)：700～700，1993.
血液型不適合妊娠	支倉　逸人：日本臨床26(2)：262～272，1968.
免疫電気泳動〔抗ヒト全血清による同定〕	大谷　英樹，他：日常検査法シリーズ11　免疫電気泳動　2版：8～26，1977.
免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕	大谷　英樹，他：日常検査法シリーズ11　免疫電気泳動　2版：8～26，1977.
尿中免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンス蛋白の同定)	大谷　英樹，他：日常検査法シリーズ11　免疫電気泳動　2版：8～26，1977.
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	伊藤　早織，他：医学と薬学64(1)：111～117，2010.
オリゴクローナルバンド	藤井　英治，他：生物物理化学28(4)：261～266，1984.
IgG	金井　正光，編：臨床検査法提要　第31版(金原出版)：823～827，1998.
IgGサブクラス分画	野田　美穂子，他：臨床検査機器・試薬9(6)：1121～1126，1986.
IgA	金井　正光，編：臨床検査法提要　第31版(金原出版)：823～827，1998.
IgM	金井　正光，編：臨床検査法提要　第31版(金原出版)：823～827，1998.
IgD	伊藤　忠一：臨床検査機器・試薬9(1)：1～5，1986.
クリオグロブリン定性	青木　紀生，他：Medical Technology 6(8)：619～624，1978.
血清補体価	中藤　聡子，他：臨床検査機器・試薬19(4)：609～613，1996.
C1q	櫻林　郁之介，他：臨床病理 特(53)：71～81，1983.
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	Dick W et al：Immun Infekt13：113～118，1985.
C3	金井　正光，編：臨床検査法提要　第31版(金原出版)：833～837，1998.
C4	金井　正光，編：臨床検査法提要　第31版(金原出版)：833～837，1998.
プレアルブミン	古田島　伸雄，他：日本臨床検査自動化学会誌32(1)：84～88，2007.
レチノール結合蛋白(RBP)	古田島　伸雄，他：日本臨床検査自動化学会誌32(1)：84～88，2007.
α1-マイクログロブリン	中野　卓，他：臨床検査機器・試薬11(3)：469～476，1988.
α1アンチトリプシン	櫻林　郁之介，他：臨床病理　特(53)：71～81，1983.
α1アシドグリコプロテイン	櫻林　郁之介，他：臨床病理　特(53)：71～81，1983.
α2-マクログロブリン	櫻林　郁之介，他：臨床病理　特(53)：71～81，1983.
ハプトグロビン	櫻林　郁之介，他：臨床病理　特(53)：71～81，1983.
セルロプラスミン	櫻林　郁之介，他：臨床病理　特(53)：71～81，1983.
フェリチン	唐澤　美佳，他：医療と検査機器・試薬29(5)：493～497，2006.
トランスフエリン	伊藤　忠一：検査と技術16(7)：593～598，1988.
尿中トランスフェリン	齋藤　良一，他：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA 25(5)：687～690，2000.
尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	齋藤　良一，他：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA 25(5)：687～690，2000.
β2-マイクログロブリン	伊藤　浩治，他：医療と検査機器・試薬26(2)：127～134，2003.
β2-マイクログロブリン	伊藤　浩治，他：医療と検査機器・試薬26(2)：127～134，2003.
シスタチンC	Tanaka M，et al：Clinical Biochemistry 37：27～35，2004.
C反応性蛋白(CRP)定量	河合　忠，他：臨床検査機器・試薬20(4)：503～517，1997.
血清アミロイドA蛋白(SAA)	永徳　広美，他：生物物理化学37(1)：19～23，1993.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
免疫学的検査	
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	藤田　孝，他：臨床検査機器・試薬33(5)：629～632，2010.
ミオグロビン	吉川　文雄，他：医学と薬学37(5)：1243～1253，1997.
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	宮崎　修一，他：医学と薬学52(3)：443～449，2004.
心筋トロポニンT	戸田　圭三，他：医学と薬学62(2)：331～340，2009.
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)	北原　志穂，他：医学と薬学72(9)：1579～1590，2015.
Ⅳ型コラーゲン・7S	長田　篤雄，他：医学と薬学20(6)：1507～1515，1988.
尿中Ⅳ型コラーゲン	小幡　賢一，他：臨床検査機器・試薬18(3)：439～444，1995.
KL-6	西村　順，他：医学と薬学41(6)：1159～1172，1999.
肺サーファクタント プロテインD(SP-D)	田中　誠仁，佐藤　高明，他：医学と薬学59(3)：439～446，2008.
Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)	Hanson DA et al：Journal of Bone and Mineral Research 7(11)：1251～1258，1992.
デオキシピリジノリン	山本　逸雄，他：ホルモンと臨床44(7)：747～757，1996.
Ⅰ型コラーゲンC末端 テロペプチド(ICTP)	清原　剛，他：ホルモンと臨床42(12)：1189～1193，1994.
ECP	栗原　和幸，他：アレルギー41(4)：512～518，1992.
アレルギー検査	
IgE(非特異的IgE)	榎本　雅夫，他：アレルギーの臨床23(1)：62～66，2003.
アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	奥田　勲，他：医学検査46(10)：1525～1530，1997.
特異的IgE(MAST36アレルゲン)	中川　武正，他：アレルギーの臨床26(3)：238～242，2006.
特異的IgE(シングルアレルゲン)CLEIA	右田　忍，他：医学と薬学48(1)：101～107，2002.
特異的IgE(ミックスアレルゲン)	右田　忍，他：医学と薬学48(1)：101～107，2002.
特異的IgE(シングルアレルゲン)FEIA	奥田　勲，他：医学検査46(10)：1525～1530，1997.
TARC(Th2ケモカイン)	石田　俊雄，他：医学と薬学58(6)：901～907，2007.
生化学的検査	
総蛋白(TP)	Gornall AG et al：J Biol Chem：177：751～766，1949.
総蛋白(TP)	田中　雅美，他：機器・試薬33：393～397，2010.
総蛋白(TP)	田中　雅美，他：機器・試薬33：393～397，2010.
アルブミン定量	斎藤　憲祐：臨床病理 特(101)：38～47，1996.
アルブミン(Alb)	佐々木　真弓，他：機器・試薬26(4)：335～338，2003.
尿中アルブミン	舛方　栄二　：検査と技術3(7)：625～630，2005.
尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	舛方　栄二　：検査と技術3(7)：625～630，2005.
A/G比	浅井　孝道：検査と技術7(10)：815～820，1979.
蛋白分画	伊藤　喜久：Medical Technology 39(3)：278～248，2011.
クンケル反応(ZTT)	北村　元仕：実践臨床化学　1版：224～231，1974.
リパーゼ	松井　静代，他：医学と薬学41(3)：489～496，1999.
アミラーゼ(AMY)	高笠　信之：The Chemical Times：201(3)：9～11，2006.
アミラーゼアイソザイム	星野　忠：JJCLA VOL.37 No.3：293～297，2012.
P型アミラーゼ定量	高笠　信之：The Chemical Times：201(3)：9～11，2006.
トリプシン	河野　幹彦，他：医学と薬学53(5)：635～641，2005.
膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	竹田　昌弘，他：ホルモンと臨床38(7)：729～734，1990.
エラスターゼ1	大出　勝也，他：肝と膵23(6)：477～480，2002.
リゾチーム	北村　元仕：実践臨床化学　増補：432～436，1982.
CK(CPK)	日本臨床化学会：臨床化学19(2)：184～208，1990.
CK-MB(CPK-MB)	Wurzburg U et al：Klinische Wochenschrift 54：357～360，1976.
CK-MB(CPK-MB)	Plran U et al：Clinical Chemistry：33(9)：1517～1520，1987.

検査項目	測定参考文献
生化学的検査	
CK(CPK)アイソザイム	高木　康，他：臨床検査32(11)：1309～1315，1988.
アルドラーゼ	三浦　雅一，他：臨床検査機器・試薬12(5)：1005～1009，1989.
AST(GOT)	日本臨床化学会：臨床化学18(4)：226～230，1989.
ミトコンドリア-AST(m-AST)(m-GOT)	白波瀬　泰史，他：第7回日本臨床化学会分析部会関東支部学術集会　講演会抄録集：40～44，1989.
ALT(GPT)	日本臨床化学会：臨床化学18(4)：250～254，1989.
LD(LDH)	日本臨床化学会：臨床化学19(2)：228～246，1990.
LD(LDH)アイソザイム	森山　隆則，他：Medical Technology：25(1)：45～51，1997.
アルカリフォスファターゼ(ALP)	桑　克彦：臨床検査37(5)：473～478，1993.
骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	倉澤　健太郎，他：医学と薬学55(2)：279～285，2006.
ALPアイソザイム	芝　紀代子：目でみる電気泳動法2(医歯薬出版)：55～71，1989.
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	小林　照明，他：機器・試薬14(6)：929～935，1991.
γ-GT(γ-GTP)	日本臨床化学会酵素専門委員会：臨床化学24(2)：106～121，1995.
コリンエステラーゼ(ChE)	大澤　進，他：臨床化学24：138～145，1995.
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	Kasahara Y et al：Clinical Chemistry 27(11)：1922～1925，1981.
N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	進藤　聡子，他：医学と薬学21(5)：967～977，1989.
グアナーゼ	手登根　稔，他：検査と技術13(10)：901～905，1985.
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	佐野　史良，他：臨床検査機器・試薬9(4)：715～720，1986.
ペプシノゲン	三木　一正，他：医学と薬学56(6)：889～896，2006.
アンモニア	奥田　拓道，他：最新医学21(3)：622～627，1966.
尿素窒素(UN)	森下　芳孝：Medical Technology 26(6)：695～700，1998.
クレアチニン	安原　正喜，他：臨床検査機器・試薬17(1)：59～67，1994.
推算GFR	堀尾　勝：医学のあゆみ222(10)：785～788，2007.
クレアチン	今野　稔：Medical Technology 12(3)：270～276，1984.
尿酸(UA)	金井　泉，他：臨床検査提要　第32版：503～507，2005.
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)	富田　健一郎，他：医学と薬学72(8)：1389～1395，2015.
アミノ酸分析(39種類)[LC/MS]	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691，2010.
アミノ酸分析(41種類)	日本生化学会：生化学実験講座11　アミノ酸代謝と生体アミン　1版：53～67，1976.
アミノ酸分析(9種類)[LC/MS]	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691，2010.
アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)[LC/MS]	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691，2010.
総ホモシステイン	Araki A et al：Journal of Chromatography 422：43～52，1987.
ハイドロキシプロリン-総	鈴木　隆夫，他：日本臨床化学会年会記録28：118～118，1988.
γ-アミノ酪酸(GABA)	Fujiwara M et al：Analytical Biochemistry 166：72～78，1987.
グルコース	日本臨床化学会試薬専門委員会:臨床化学20(4)：247～254，1991.
ヘモグロビンA_1c(HbA_1c)	平田　稔，他：医学と薬学34(1)：125～136，1995.
グリコアルブミン	石橋　みどり，他：医学と薬学52(3)：403～412，2004.
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)	遠藤　輝夫，他：医療と検査機器・試薬26(1)：45～50，2003.
糖代謝解析	張　春花，他：金医大誌21：399～410，1996.
ヒアルロン酸	島村　朗，他：医学と薬学44(6)：1141～1146，2000.
ヒアルロン酸	島村　朗，他：医学と薬学44(6)：1141～1146，2000.
シアル酸	水田　亘，他：臨床病理 特(54)：128～134，1983.
乳酸	浅沼　和子，他：生物試料分析8(3)：16～24，1985.
ピルビン酸	浅沼　和子，他：生物試料分析8(3)：16～24，1985.
尿中シュウ酸	小川　由英，他：腎と透析　臨増：151～157，1997.
クエン酸	Warty VS et al：Clinical Chemistry 30(7)：1231～1233，1984.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
生化学的検査	
血中ケトン体分画	西ヶ谷　晴美，他：医学検査45(3)：353，1996.
血中ケトン体分画	西ヶ谷　晴美，他：医学検査45(3)：353，1996.
アセトン定量	深掘　すみ江，他：労働科学59(12)：555～562，1983.
有機酸スクリーニング検査	河野　芳功，他：日本小児科学会雑誌89(10)：2327～2334，1985.
中性脂肪(TG)	Tamaoku K et al：Chem Pharm Bull 30(7)：2492～2497，1982.
リン脂質	Takayama M et al：Clinica Chimica Acta 79：93～98，1977.
総コレステロール(T-Cho)	桜井　強：医学検査47(4)：747～752，1998.
エステル型コレステロール(Echo)	Richmond W：Clinical Chemistry 19(12)：1350～1356，1973.
遊離コレステロール(F-Cho)	Richmond W：Clinical Chemistry 19(12)：1350～1356，1973.
コレステロールエステル比	Richmond W：Clinical Chemistry 19(12)：1350～1356，1973.
HDL-コレステロール	田口　隆由，他：臨床検査機器・試薬24(1)：35～41，2001.
$HDL_{2,3}$コレステロール	Bronzert TJ et al：Clinical Chemistry 23(11)：2089～2098，1977.
LDL-コレステロール	菅野　剛史，他：医学と薬学37(3)：635～644，1997.
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	大石　千早，他：日本臨床検査自動化学学会会誌35(1)：83～87，2010.
全脂質中脂肪酸分画	小沢　昭夫，他：分析化学31：87～91，1982.
血中脂肪酸分画	小沢　昭夫，他：分析化学31：87～91，1982.
極長鎖脂肪酸	小池　亮子：小児科診療53(増)：394～397，1990.
総胆汁酸	今野　稔：臨床検査機器・試薬16(3)：472～479，1993.
グリココール酸(CG)	金森　勇雄，他：日本放射線技師会雑誌26(4)：17～22，1978.
β-リポ蛋白	金井　正光，他：臨床検査法提要　第30版(金原出版)：574～575，1993.
リポ蛋白分画	芝　紀代子：目でみる電気泳動法2：91～99，1989.
リポ蛋白分画	菅原　和行，他：衛生検査27(5)：624～627，1978.
リポ蛋白脂質分画定量	Bronzert TJ et al：Clinical Chemistry 23(11)：2089～2098，1977.
リポ蛋白コレステロール(LP-C)分画定量	Bronzert TJ et al：Clinical Chemistry 23(11)：2089～2098，1977.
コレステロール分画	櫻林　郁之介，他：HDL-コレステロール基礎と臨床　(株)テクノ：207～220，1980.
酸化LDL(MDA-LDL)	小谷　一夫：酸化ストレスマーカー　学術出版センター：243～246，2005.
リポプロテイン(a)	岡野　芳幸，他：日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA 21(5)：705～709，1996.
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	Kobayashi J et al：Clinica Chimica Acta 216：113～123，1993.
アポリポ蛋白 A-Ⅰ	岡崎　伸次，他：日本臨床検査自動化学会会誌12(4)：334～334，1987.
アポリポ蛋白 A-Ⅱ	岡崎　伸次，他：日本臨床検査自動化学会会誌12(4)：334～334，1987.
アポリポ蛋白 B	岡崎　伸次，他：日本臨床検査自動化学会会誌12(4)：334～334，1987.
アポリポ蛋白 C-Ⅱ	岡崎　伸次，他：日本臨床検査自動化学会会誌12(4)：334～334，1987.
アポリポ蛋白 C-Ⅲ	岡崎　伸次，他：日本臨床検査自動化学会会誌12(4)：334～334，1987.
アポリポ蛋白 E	岡崎　伸次，他：日本臨床検査自動化学会会誌12(4)：334～334，1987.
アポリポ蛋白Eフェノタイプ	片岡　伸久朗，他：臨床検査37(12)：1267～1271，1993.
ビタミンA	須原　聡，他：臨床検査36(3)：235～239，1992.
β-カロチン	加美山　茂利，他：臨床検査31(3)：268～274，1987.
ビタミンB_1	富川　秀則，他：生物試料分析36(4)：327～330，2013.
ビタミンB_2	大石　誠子：ビタミンハンドブック3　ビタミン分析法(化学同人)：71～80，1989.
ビタミンB_6	吉田　継親，他：薬学雑誌98(10)：1319～1326，1978.
ビタミンB_{12}	中森　誠，他：医療と検査機器・試薬27(3)：215～221，2004.
ビタミンC(アスコルビン酸)	Lykkesfeldt J et al Analytical Biochemistry 229：329～335，1995.
1,25-$(OH)_2$ビタミンD	Fraser WD et al：Ann Clin Biochem 34：632～637，1997.
25-OHビタミンD	Hollis BW et al：Clinical Chemistry 39(3)：529～533，1993.

検査項目	測定参考文献
生化学的検査	
ビタミンE	阿部　皓一，他：栄養と食糧28(5)：277～280，1975.
ビタミンE分画	阿部　皓一，他：ビタミン49(7)：259～263，1975.
葉酸	西村　和子，他：生物試料分析35(4)：300～309，2012.
ビタミンK分画	langenberg JP et al：Journal of Chromatography 305：61～72，1984.
ニコチン酸(ナイアシン)	宮沢　滋：ビタミン56(9・10)：487～499，1982.
カルニチン分画	伊丹　儀友，他:臨床検査58(5)：651～658，2014.
Na(ナトリウム)	桑　克彦;臨床検査34(11)：1353～1358，1990.
Cl(クロール)	関口　光夫：検査と技術17(9)：1167～1172，1989. と桑　克彦：臨床検査34(11)：1353～1358，1990.
K(カリウム)	桑　克彦：臨床検査34(11)：1353～1358，1990. と高橋　勝幸：検査と技術20(6)：106～110，1992.
Ca(カルシウム)	根占　哲也：都臨技会誌34(5)：270～281，2006.
イオン化カルシウム	桑　克彦：検査と技術19(2)：119～124，1991.
P(無機リン)	Drewes PA：Clinica Chimica Acta 39：81～88，1972.
Mg(マグネシウム)	北村　元仕：実践臨床化学　1版：166～171，1974.
浸透圧	鈴木　明，他：検査と技術6(9)：759～762，1978.
浸透圧	鈴木　明，他：検査と技術6(9)：759～762，1978.
鉄(Fe)	荒明　洋，他：臨床検査機器・試薬6(2)：359～366，1983.
鉄(Fe)	溝口　秀昭：臨床医8(10)：1624～1626，1982.
総鉄結合能(TIBC)	荒明　洋，他：臨床検査機器・試薬6(2)：359～366，1983.
不飽和鉄結合能(UIBC)	荒明　洋，他：臨床検査機器・試薬6(2)：359～366，1983.
Cu(銅)	Abe A et al：Clinical Chemistry 35(4)：552～554，1989.
Cu(銅)	Ichida T et al：Clinica Chimica Acta 24：299～303，1969.
Zn(亜鉛)	Meret S et al：Clinical Chemistry 17(5)：369～373，1971.
Zn(亜鉛)	Meret S et al：Clinical Chemistry 17(5)：369～373，1971.
総ビリルビン(T-Bil)	徳田　邦明，他：臨床化学22(2)：116～122，1993.
ビリルビン分画(直接，間接)	徳田　邦明，他：臨床化学22(2)：116～122，1993.
コプロポルフィリン 定性	近藤　雅雄：日本臨床53(6)：1377～1382，1995.
コプロポルフィリン	近藤　雅雄：日本臨床53(6)：1377～1382，1995.
ウロポルフィリン	近藤　雅雄：日本臨床53(6)：65～70，1995.
δ-アミノレブリン酸(δALA)	園藤　陽子，他：産業医学35：126～127，1993.
コプロポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26(13)：1832～1835，1980.
ウロポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26(13)：1832～1835，1980.
プロトポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26(13)：1832～1835，1980.
赤血球遊離プロトポルフィリン	新沼　幸子，他：産業医学23：254～259，1981.
尿中馬尿酸	岸浪　菊江子，他：臨床化学17(3)：128～135，1988.
尿中メチル馬尿酸	岸浪　菊江子，他：臨床化学17(3)：128～135，1988.
尿中マンデル酸	岸浪　菊江子，他：臨床化学17(3)：128～135，1988.
尿中総三塩化物 トリクロルエチレン	城山　康，他：松仁会医誌25(2)：225～231，1986.
尿中総三塩化物 1・1・1-トリクロルエタン	城山　康，他：松仁会医誌25(2)：225～231，1986.
尿中総三塩化物 テトラクロルエチレン	城山　康，他：松仁会医誌25(2)：225～231，1986.
尿中トリクロル酢酸 トリクロルエチレン	城山　康，他：松仁会医誌25(2)：225～231，1986.
尿中トリクロル酢酸 1・1・1-トリクロルエタン	城山　康，他：松仁会医誌25(2)：225～231，1986.
尿中トリクロル酢酸 テトラクロルエチレン	城山　康，他：松仁会医誌25(2)：225～231，1986.
尿中トリクロルエタノール	城山　康，他：松仁会医誌25(2)：225～231，1986.
尿中N-メチルホルムアミド	Mraz J et al：Journal of Chromatography 414：399～404，1987.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
生化学的検査	
尿中2,5-ヘキサンジオン	Iwata M et al：Int Arch Occup Environ Health 51：253～260，1983.
アルミニウム(Al)	Oster O：Clinica Chimica Acta 114：53～60，1981.
クロム	松岡　澄：産業医学13(6)：525～537，1971. と田中　俊行，他：医学と生物学101(5)：277～281，1980.
マンガン	Tsalev DL et al：Bulletin of Environmental Contamination & Toxicology 17(6)：660～666，1977.
カドミウム	Lagesson V et al：Clinical Chemistry 25(11)：1948～1953，1979.
イヌリン定量〔酵素法〕	木全　伸介，他：医療と検査機器・試薬28(2)：143～149，2005.
結石分析〔成分比率〕	神　ちひろ，他：分析化学53(7)：735～741，2004.
エタノール	馬嶋　正隆，他：北里医学14：424～430，1984.
ネオプテリン	Hausen A et al：Journal of Chromatography 227：61～70，1982.
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	西沢　良記，他：医学と薬学54(5)：709～717，2005.
Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	Hanson DA et al：Journal of Bone and Mineral Research 7(11)：1251～1258，1992.
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗髪症)	山本　逸雄，他：ホルモンと臨床44(7)：747～757，1996.
インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total PINP)	日高　好博，他：医学と薬学70(2)：357～365，2013.
PFD(PABA排泄率)	Yamato C et al：Analytical Biochemistry 98：13～17，1979.
血液学的検査	
鼻汁中好酸球	奥田　稔：臨床検査29(3)：267～272，1985.
β-トロンボグロブリン(β-TG)	高橋　芳右，他：血液と脈管18(4)：326～335，1987.
血小板第4因子(PF-4)	高橋　芳右，他：血液と脈管18(4)：326～335，1987.
プロトロンビン時間(PT)	高宮　脩：臨床検査機器・試薬17(6)：1079～1085，1994.
活性化部分 トロンボプラスチン時間(APTT)	日野　志郎：臨床検査講座15　血液学：244～250，1984.
フィブリノーゲン	金井　正光，他：臨床検査法提要33：358～360，2010.
凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第Ⅴ因子(F5)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第Ⅶ因子(F7)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第Ⅷ因子(F8)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第Ⅸ因子(F9)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第Ⅹ因子(F10)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第ⅩⅠ因子(F11)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第ⅩⅡ因子(F12)	安達　眞二：Medical Technology 24(6)：629～633，1996.
凝固因子活性検査 第ⅩⅢ因子(F13)	Fickenscher K et al：Thrombosis and Haemostasis 65(5)：535～540，1991.
凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196～198，1983.
凝固抑制因子検査 第Ⅸ(9)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196～198，1983.
フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	Macfarlane DE et al：Thrombos Diathes Haemorth 34：306～308，1975.
フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	高橋　芳右，他：臨床検査31(6)：665～668，1987.
プラスミノーゲン	Friberger P et al：Haemostasis 7：138～145，1978.
アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター)	Friberger P et al：Haemostasis 7：138～145，1978.
アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)	Scully MF et al：Clinica Chimica Acta 79：595～602，1977.
ヘパリン	Teien A et al：Thrombosis Reseach 8(3)：413～416，1976.
FDP定量	長野　美恵子，他：医療と検査機器・試薬27(1)：23～29，2004.
FDP定量	堀内　伸純，他：臨床検査機器・試薬14(2)：267～270，1991.
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	Largo R et al Blood 47(6)：991～1002，1976.
フィブリンモノマー複合体定量	内藤　澄悦，他：医学と薬学48(4)：595～599，2002.
Dダイマー	佐野　將也，他：臨床検査機器・試薬20(2)：301～308，1997.
α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)	徐　吉夫，他：臨床検査機器・試薬16(6)：1107～1113，1993.

検査項目	測定参考文献
血液学的検査	
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	田中　朝志，他：医学と薬学31(1)：203～208，1994.
プロテインC(抗原量)	筒井　聰明，他：検査と技術12(7)：581～587，1984.
プロテインC活性	高橋　芳右，他：血液と脈管18(6)：548～556，1987.
プロテインS(抗原量)	鬼沢　実：臨床検査機器・試薬13(4)：579～583，1990.
プロテインS活性	鬼沢　実，他：臨床検査機器・試薬15(2)：166～171，1992.
トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)	曽我部　万紀，他：医学のあゆみ173(12)：997～998，1995.
トロンボモジュリン	横内　敬二，他：医学と薬学44(4)：795～802，2000.
ループスアンチコアグラント	後藤　守孝，他：Modern Physician 15(12)：1545～1550，1995.
ループスアンチコアグラント	後藤　守孝，他：Modern Physician 15(12)：1545～1550，1995.
ループスアンチコアグラント	佐藤　久美子，他：臨床病理43(3)：263～268，1995.
一般検査	
尿中一般検査	金井　泉，他：臨床検査法提要　第30版(金原出版)：99～105，1993.
虫卵(セロテープ)	金井　泉，他：臨床検査法提要　第30版(金原出版)：192～208，1993.
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	加藤　節子，他：機器・試薬29(5)：473～478，2006.
便中ヘモグロビン	加藤　節子，他：機器・試薬29(5)：473～478，2006.
薬物検査	
フェノバルビタール	石橋　みどり，他：医学と薬学42(6)：1061～1074，1999.
プリミドン	宮本　侃治：臨床化学6(3)：202～211，1978.
フェニトイン	石橋　みどり，他：医学と薬学42(6)：1061～1074，1999.
遊離フェニトイン	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
カルバマゼピン	石橋　みどり，他：医学と薬学42(6)：1061～1074，1999.
エトサクシミド	宮本　侃治：臨床化学6(3)：202～211，1978.
バルプロ酸	石橋　みどり，他：医学と薬学42(6)：1061～1074，1999.
遊離バルプロ酸	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
ゾニサミド	野口　秀人，他：薬理と治療16(12)：4805～4811，1988.
トリメタジオン	斉藤　正行，他：ドラッグレベルモニタリング　治療への臨床化学的アプローチ：100～110，1982.
クロナゼパム	Heaziewood RL et al：Journal of Chromatography 336：229～233，1984.
ニトラゼパム	Heaziewood RL et al：Journal of Chromatography 336：229～233，1984.
ジアゼパム	Brodie RR et al：Journal of Chromatography 150：361～366，1978.
クロバザム	Kunicki PK：Journal of Chromatography B 750：41～49，2001.
レベチラセタム	Mendu，D R，Soldin S J：Clinical Biochemistry 43：485～489，2010.
トピラマート	Matar，K M：Clinica Chimica Acta 411：729～734，2010.
ガバペンチン	Forrest G，et al：Journal of Chromatography B 681：421～425，1996.
アセタゾールアミド	Sadee W et al：ドラッグレベルモニタリング：90～91，1982.
リチウム	Hisayasu GH et al：Clinical Chemistry 23(1)：41～45，1977.
ハロペリドール	白井　晶子，他：医学と薬学49(6)：1011～1017，2003.
プロムペリドール	白井　晶子，他：医学と薬学50(1)：101～107，2003.
ジゴキシン	水内　由利，他：医学と薬学35(4)：847～851，1996.
リドカイン	宮本　侃治：臨床化学6(3)：202～211，1978.
キニジン	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
ジソピラミド	扇谷　茂樹，他：臨床検査機器・試薬6(2)：520～523，1983.
プロカインアミド	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
プロパフェノン	Steurer G et al：European Heart Journal 12：526～532，1991.

参考文献一覧

検査項目	測定参考文献
薬物検査	
メキシレチン	坂本　伸哉，他：TDM研究3(2)：126～128，1986.
ピルジカイニド	上野　和行：Pharma Medica 11(4)：97～99，1993.
シベンゾリン	寺川　雅人，他：薬物動態3(6)：761～771，1988.
フレカイニド	Piovan D et al：Pharmacological Research Communications 18(8)：739～745，1986.
ピルメノール	市川　林，他：臨床医薬11(4)：903～906，1995.
アプリンジン	高田　充隆，他：病院薬学14(4)：256～261，1988.
ベプリジル	山崎　泰志，他：臨床医薬14(1)：139～145，1998.
アミオダロン	Ress K et al：Journal of Chromatography 417：465～470，1987.
プロプラノロール	Ahnoff M et al：Journal of Chromatography 340：73～138，1985.
ゲンタマイシン	石橋　みどり，他：医学と薬学42(6)：1061～1074，1999.
トブラマイシン	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
アミカシン	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
アルベカシン	久保　博昭，他：医学と薬学19(6)：1545～1547，1988.
バンコマイシン	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
テイコプラニン	諸岡　美里，他：JJCLA 38(1)：79～82，2013.
ボリコナゾール	臼杵　英俊，他：医学と薬学53(6)：817～821，2005.
サリチル酸	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
アセトアミノフェン	木村　英樹，他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)：860～864，2008.
シクロスポリン	古屋　実，他：医学と薬学70(5・6)：961～973，2013.
タクロリムス	古屋　実，他：医学と薬学70(5・6)：961～973，2013.
メトトレキサート	中原　佑香里，他：医学と薬学72(4)：761～767，2015.
テオフィリン	石橋　みどり，他：医学と薬学42(6)：1061～1074，1999.
イマニチブ	Bakhtiar R，et al：Journal of Chromatography B 768：325～340，2002.

専用容器の取り扱い方法

検体の採取・取り扱い方法

血　液

[採血時間]　一般的に早朝安静空腹時(緊急性や指定条件を除き)を原則としています。

[検体採取]

○血液　所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後，速やかに転倒混和させ，特に指定が無い場合，室温および冷蔵保存の場合はこのままで，凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。

○血清　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合，採血後室温に静置させ，凝固を確認後3000rpm10～15分間遠心分離してください。
遠心分離後，上清を提出容器に移し，指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目により異なりますので，各検査項目の保存条件をご参照ください。

○血漿　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合，所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後，速やかに転倒混和させ，3000rpm10～15分間遠心分離してください。
遠心分離後，上清を提出容器に移し，指定の保存条件にてご提出ください。
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので，各検査項目の備考および保存条件，専用容器の取り扱い方法をご参照ください。

[注意事項]

○真空採血にあたり
容器の規定採血量より少ない場合，容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。必ず，指定容量を採取してください。

○シリンジ採血にあたり
シリンジから注射針を外し，採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。

○溶血を避けるにあたり
採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
十分に乾燥した採血容器を用いてください。
物理的刺激(極度の高温や低温，振動など)を避けてください。

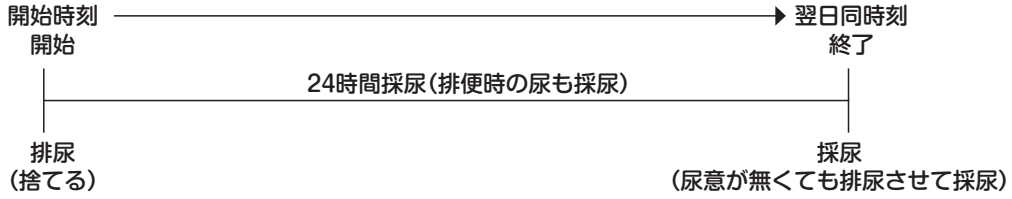
尿

[部分尿]

採尿容器に尿を採取して，必要量を提出容器に移し，指定の保存条件にてご提出ください。
採尿時間を指定している検査項目もありますので，各検査項目の備考および専用容器の取り扱い方法をご参照ください。

[24時間蓄尿]

蓄尿開始時に完全に排尿させ(捨てる)，それ以降の翌日同時刻までに排尿した尿の全てを蓄尿容器に採尿します。蓄尿の間は，蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。
蓄尿終了後，蓄尿量を測定し，よく混和させ必要量を提出容器に移し蓄尿時間と蓄尿量を記入のうえ指定の保存条件にてご提出ください。
防腐・安定化などの目的で蓄尿開始時に添加剤を必要とする場合がありますので，各検査項目の備考をご参照ください。



専用容器について

各頁掲載の専用容器は弊社にて準備してございますので担当営業員にお申し付けください。
なお，有効期間につきましては目安とお考えください。

汎用容器

<table>
<tr><th>容　器　形　態</th><th>検査項目</th><th>採取量
(mL)</th><th>提出量
(mL)</th><th>検体の取り扱い方法</th></tr>
<tr>
<td>01

8.5mL用

5mL用</td>
<td>分離剤入り
（真空採血量
8.5mL又は5mL）
貯蔵方法
室温
有効期間
1年</td>
<td>生化学検査一般
血清学的検査一般
その他</td>
<td>適量</td>
<td>適量</td>
<td>左図の容器に，検査項目に応じて必要量を採血した後，4～5回静かに転倒混和し，室温にて30～60分放置してください。
血液の凝固を確認後，遠心分離し容器Ⓧ（ポリスピッツ）に血清を分注しご提出ください。
検体量不足にならないようにご注意ください。

遠心分離は，2000Gで10分間遠心してください。
（下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。）
換　算　表
<table>
<tr><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th></tr>
<tr><td>10</td><td>4200</td><td>22</td><td>2800</td></tr>
<tr><td>12</td><td>3800</td><td>24</td><td>2700</td></tr>
<tr><td>14</td><td>3500</td><td>26</td><td>2600</td></tr>
<tr><td>16</td><td>3300</td><td>28</td><td>2500</td></tr>
<tr><td>18</td><td>3100</td><td>30</td><td>2400</td></tr>
<tr><td>20</td><td>3000</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>02

9mL用

5mL用</td>
<td>分離剤なし
（真空採血量
9mL又は5mL）
貯蔵方法
室温
有効期間
1年</td>
<td>薬物検査
LE細胞</td>
<td>適量</td>
<td>適量</td>
<td>左図の容器に，検査項目に応じて必要量を採血した後，4～5回静かに転倒混和し，室温にて30～60分放置してください。
血液の凝固を確認後，遠心分離し容器Ⓧ（ポリスピッツ）に血清を分注しご提出ください。また，項目（頁参照）により血餅が必要な場合があります。

遠心分離は，2000Gで10分間遠心してください。
（下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。）
換　算　表
<table>
<tr><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th></tr>
<tr><td>10</td><td>4200</td><td>22</td><td>2800</td></tr>
<tr><td>12</td><td>3800</td><td>24</td><td>2700</td></tr>
<tr><td>14</td><td>3500</td><td>26</td><td>2600</td></tr>
<tr><td>16</td><td>3300</td><td>28</td><td>2500</td></tr>
<tr><td>18</td><td>3100</td><td>30</td><td>2400</td></tr>
<tr><td>20</td><td>3000</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

専用容器の取り扱い方法

容器形態	容器形態
X ポリスピッツ 尿用 X 新容器記号 A00 分離血清・血漿用 	Y 尿用容器 新容器記号 U00 尿用容器

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
E 	フッ化Na入り (真空採血量2mL) 内　容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	ヘモグロビンA1c (HbA1c) (NGSP)	血液 2.0 (フッ化Na加)		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。
		グルコース	血液 1.5～2.0	血漿 0.5		左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		グリコアルブミン	血液 2.0	血漿 0.8		

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
g 	EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内　容 EDTA-2K 2.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	末梢血液一般検査	血液 (EDTA-2K加) 2.0		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。 溶血，凝固および凍結検体は測定できません。 検体は採取後，当日中にご提出ください。
		網状赤血球数				
		好酸球数				
		末梢血液像				
		ABO・Rh(D因子)式血液型	血液 (EDTA-2K加) 2.0			
		直接クームス試験	血液 (EDTA-2K加) 1.0			

細菌容器

容器形態	検査項目	容器形態	検査項目
r1 滅菌ポリスピッツ 	細菌検査(培養) (尿・皮膚・爪) (各種材料，目的菌により異なりますが，いずれも検体を乾燥させないようにしてください。)	m1 カルチャーボトル(ゴールドラベル) 嫌気性菌用 内容 トリプトソイ培地25mL 貯蔵方法　室温 有効期間　1年 q1 カルチャーボトル(シルバーラベル) 好気性菌用 内容 トリプトソイ培地30mL 貯蔵方法　室温 有効期間　9カ月	細菌検査 (動脈血，静脈血)

容器形態	検査項目	容器形態	検査項目
ℓ 滅菌喀痰採取容器 新容器記号 X00 貯蔵方法　室温	細菌検査(喀痰) (各種材料，目的菌により異なりますが，いずれも検体を乾燥させないようにしてください。)	n 嫌気ポーター 内容 寒天培地　5mL 貯蔵方法　室温 有効期間　2年	細菌検査 (嫌気性菌培養用)
k シードスワブγ1号 内容 キャリーブレア 改良培地　5mL 貯蔵方法　室温 有効期間　1年8カ月 k1 シードスワブγ2号 内容 変法アミューズ 培地　5mL 貯蔵方法　室温 有効期間　1年8カ月	細菌検査 (咽液，耳液，分泌液，便，膿) (各種材料，目的菌により異なりますが，いずれも検体を乾燥させないようにしてください。)	U1 キャリーブレア採便管 	細菌検査(便)

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
A 新容器記号 PN7 	EDTA-2Na入り (真空採血量7mL) 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	カテコールアミン3分画 A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン	血液 各4.0~5.0	速やかに 冷却遠心 血漿 各1.5	凍結	左図の容器に採血し，速やかによく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		ドーパミン総				
		L-ドーパ				
		VMA		血漿 各1.5		左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		HVA				
		MHPG				
		セロトニン		速やかに 冷却遠心 血漿 1.5		左図の容器に採血し，速やかによく混和させ，低温(4℃)で900rpm20分間(PRP)または1,500rpm10分間(P)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		5-HIAA		血漿 1.5		左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
C 新容器記号 PN5 5mL用		ムンプスウイルスRNA	血液 (EDTA-2Na加) 各5.0		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		麻疹ウイルスRNA				
		水痘・帯状ヘルペスウイルスDNA				
		単純ヘルペスウイルスDNA定量				
		単純ヘルペスウイルスDNA				
		ヒトヘルペスウイルス6型DNA				
		ヒトヘルペスウイルス7型DNA				
		サイトメガロウイルスDNA定量				
		サイトメガロウイルスDNA				
		サイトメガロウイルスpp65抗原(C10，C11)				左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。採血後，速やかにご提出ください。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合，検出率の低下が認められます。
		EBウイルスDNA定量				左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		EBウイルスDNA				
		EBウイルスDNA (クロナリティ)	血液 (EDTA-2Na加) 7.0			左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
A 新容器記号 PN7 	EDTA-2Na入り (真空採血量7mL) 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	HTLV-Ⅰ(ATLV) プロウイルスDNA (pX領域)	血液 (EDTA-2Na加) 各7.0		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		HTLV-Ⅰ(ATLV) プロウイルスDNA (クロナリティ)				左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。
		L-CAT	血液 4.0～5.0	血漿 1.5		左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
B 新容器記号 PAC 	ACD-A保存液入り 内　容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 (アルミ包装 開封後1カ月)	PAIgG (血小板関連IgG)	血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	冷蔵	指定の採取量を採血し，左図の容器に注入し，よく混和させ，冷蔵保存してください。 (注) 末梢血の血小板数が$3\times10^4/\mu L$以下の場合は，専用容器2本を使用し必ず10mL以上採血してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
b2 新容器記号 U90 	抗プラスミン剤入り 内　容 アプロチニン 精製ゼラチン デヒドロ酢酸 ナトリウム 貯蔵方法 室温 有効期間 2年 (25本入り アルミパック 開封後1～2カ月)	FDP定量	部分尿 (新鮮尿) 2	部分尿 (上清) 0.5	凍結	新鮮尿を採取し，左図の容器に注入し，よく混和後，3000rpm5～10分間遠心分離してください。 上清(部分尿)は必ず凍結保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
C 新容器記号 PN2 2mL用	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	血液 各1.5～2.0	冷却遠心 血漿 0.5	凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し，よく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		副甲状腺ホルモン(PTH)(高感度)		血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		副甲状腺ホルモン(PTH)(高濃度測定)		血漿 0.3		
		副甲状腺ホルモン(Whole PTH)		血漿 0.5	凍結	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		セロトニン	血液 (EDTA-2Na加) 1.0			左図の容器に採血し，よく混和させた後，血液をポリスピッツに移し，必ず凍結保存してください。
		コルチゾール	血液 各1.5～2.0	血漿 0.2		早朝安静時に左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
		アルドステロン		血漿 0.5		
		ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)		速やかに遠心 血漿 0.5		安静時に左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離してください。 血漿は速やかに凍結保存してください。
		レニン活性(PRA)		冷却遠心 血漿 0.3		左図の容器に採血し，よく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		レニン定量(活性型)		冷却遠心 血漿 0.5		
		アルドステロン/レニン活性比	血液 各2.0～3.0	冷却遠心 血漿 0.8		
		アルドステロン/レニン定量比		冷却遠心 血漿 1.0		
C 新容器記号 PN5 5mL用		アンギオテンシンⅠ	血液 各1.5～2.0	冷却遠心 血漿 0.2		
		アンギオテンシンⅡ		冷却遠心 血漿 0.3		
		ペントラキシン3(PTX3)		速やかに冷却遠心 血漿 0.3		左図の容器に採血し，速やかによく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		サイクリックAMP		冷却遠心 血漿 各0.3		左図の容器に採血し，よく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		PIVKA-Ⅱ	血液 1.5～2.0	血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	血液 1.5～2.0	血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	血液 (EDTA-2Na加) 3.0		室温	左図の容器に採血し，よく混和させ，室温保存してください。採血後速やかにご提出ください。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合，検出率の低下が認められます。
		イマチニブ	血液 1.5～2.0	血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
C 新容器記号 PN2 2mL用	EDTA-2Na入り(真空採血量2mLまたは5mL) 内容 EDTA-2Na 3.0mgまたは7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	Rh-Hr式血液型	血液(EDTA-2Na加) 2.0		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。
		不規則性抗体(抗体同定・抗体価測定)	血液10.0～15.0(別容器02に採血)と血液2.0	速やかに遠心 血清5.0と	冷蔵	血液2.0mLを左図の容器に採血し，よく混和させ，室温保存で速やかにご提出ください。 また，別容器02に血液9.0～15.0mL採血し，速やかに血清分離し，冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。
				血液(EDTA-2Na加) 2.0	室温	
		血液型不適合妊娠	血液10.0～12.0(別容器02に採血)と血液2.0	速やかに遠心 血清4.0と	冷蔵	血液2.0mLを左図の容器に採血し，よく混和させ，室温保存で速やかにご提出ください。 また，別容器02に血液9.0～12.0mL採血し，速やかに血清分離し，冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。
				血液(EDTA-2Na加) 2.0	室温	
C 新容器記号 PN5 5mL用		膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	血液各1.5～2.0	血漿0.3	凍結	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アミノ酸分析(39種)[LC/MS]		速やかに冷却遠心 血漿各0.5		左図の容器に採血し，速やかによく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アミノ酸分析(9種)[LC/MS]				
		アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)[LC/MS]				
		総ホモシステイン		血漿0.3	冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
C 新容器記号 PN5 5mL用	EDTA-2Na入り(真空採血量5mL) 内容 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	男性AICS(5種)	血液3.0～5.0	速やかに冷却遠心 血漿0.5	凍結	1. EDTA・2Na入り採血チューブにて血液約5mLを採取してください。 2. 採血直後，血液を2～3回軽く転倒混和してください(ローラでの混和は行わないでください)。 3. 混和後直ちに（1分以内）採血チューブを氷水中（血液の液面まで氷水につかる状態）で冷却(15分間以上，遠心操作まで冷却)してください。 4. 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離（4℃，3,000回転，15分）または通常遠心分離（3,000回転，15分，ローターが昇温してないこと)してください。 5. 遠心後，直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し，分注してください。 6. 分注後，血漿を4時間以内に凍結保存してください。
		女性AICS(6種)				

専用容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
D 新容器記号 PAP 	EDTA-2Na＋ アプロチニン入り (真空採血量3mL) 内　容 EDTA-2Na 3.75mg アプロチニン (1500単位) 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	血液 各1.5～2.0	冷却遠心 血漿 各0.5	凍結	左図の容器に採血し，よく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		グルカゴン(IRG)				
		ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	血液 各1.5～2.0	速やかに冷却遠心 血漿 0.5		安静時に指定の採取量を左図の容器に採血し，よく混和させ，低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		活性型GLP1 (抽出法)	血液 1.5～2.0	速やかに冷却遠心 血漿 0.5		あらかじめ冷却した左図の容器に採血し，血液1.0mLに対し10μLのDPP-Ⅳinhibitorを採血後30秒以内に加え，混和後速やかに冷却遠心を行い，血漿分離して直ちに凍結してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
d5 便中ヘモグロビン専用スティック 内　容　保存液 貯蔵方法　室温 有効期間　1年	便中ヘモグロビン (ラテックス凝集法)	冷蔵	1. アルミシールは破らないでください。 2. 容器の液を捨てたり，水を足したりしないでください。 3. なるべく新しい便を提出してください。 4. 生理中は採便をしないでください。 5. 人体に直接使用しないでください。 6. 大便をとる目的以外には使用しないでください。 7. 保管は子どもの手の届かないところにしてください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
d7 便中ヘリコバクターピロリ抗原専用容器 新容器記号 F70 内　容　リン酸バッファー1.0mL 貯蔵方法　室温 有効期間　1年	便中ヘリコバクターピロリ抗原	冷蔵	1. 採取ブラシの柄に巻かれたラベルを広げて所定事項を記入し，もとのとおり巻きつけてください。 2. 採取ブラシを便に突き刺し，ブラシのあいだに便が入るようにブラシを回転させながらとってください。 3. 採取ブラシを，アルミシールを剥がした容器に差し込み，しっかりねじ込んで軽く5～6回振ってください。 4. 容器を添付のビニール袋に入れて冷暗所に保管し，すみやかにご提出ください。 (注)青キャップは絶対にはずさないでください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
d8 便中ヘモグロビン及びトランスフェリン専用容器 新容器記号 F80 内容 保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	冷蔵	●採取方法 1. キャップを回してスティックを取り出し，便の表面をまんべんなくこすり採ります。 2. 1回だけ差し込み，キャップをしっかり締めます。 3. 袋に入れ冷蔵保存し，ご提出ください ●注意事項 1. 容器の中の保存液は捨てないでください。 2. 便は溝が埋まるくらい採ります。採りすぎ，少なすぎにご注意ください。 採便時の食事制限はありません。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
e 新容器記号 SZZ 	凝固促進剤入り(真空採血量3mL) 内容 トロンビン ヘパリン中和剤 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	アルミニウム(Al)	血液 2.0～3.0	血清 1.0	冷蔵	コンタミネーション防止のため，シャントから滴下または真空採血してください。採血後は直ちに十分転倒混和し，遠心分離後そのまま冷蔵保存にてご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
e1 新容器記号 SEC 	血清分離剤＋凝固促進フィルム(真空採血量3mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	ECP	血液 2.5～3.0	血清 0.2	冷蔵	血液2.5～3.0mLを採血し，転倒混和を5回繰り返した後，室温(24～28℃)で60～120分間静置してください。静置後10分間遠心分離し，血清を(X)(ポリスピッツ)にてご提出ください。なお，静置時の温度条件により値が大きく変動する場合がありますので，温度変化にご注意ください。

専用容器の取り扱い方法

容器形態	検　査　項　目	保存
F2 新容器記号 V20	淋菌およびクラミジアトラコマチスrRNA同時同定	冷蔵

（尿用）

（分泌物用）

内　　容
　ラウリル硫酸リチウム，添加剤
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

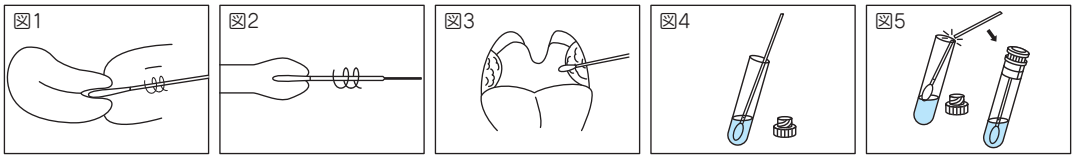
●尿検体からの採取
1. 検体採取1時間以上前までに排尿をすませてください。
2. 初尿20～30mLを尿採取カップに採取します。（尿を多量に採取しすぎた場合，検体が希釈され検出感度の低下につながりますのでご注意ください。）
3. 直ちに，添付のスポイトで尿を2mL分取し，専用容器に採取混合してください。専用容器にある黒線と黒線の間に尿があれば，正しい分量が採取されたことになります。
4. 採取後，冷蔵保存にてご提出ください。

●子宮頸管からの採取
1. クリーニング用スワブ（白色）で子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を取り除きます。クリーニング用スワブは廃棄してください。
2. 採取用スワブ（青色）を子宮頸管内に挿入します。
3. スワブを時計方向に10～30秒間ゆっくり回転させ擦過物を採取します。（図1）
4. スワブの先が膣粘液に触れないように注意しながら抜き取ります。
5. 直ちにスワブを専用容器の保存液に混和します。（図4）
6. 内容物が飛散しないように注意しながら，スワブを所定の位置で折ります。（図5）
7. スワブを入れたまま専用容器のキャップを閉め，冷蔵保存にてご提出ください。（図5）

●男性尿道からの採取
1. 検体採取1時間以上前までに排尿をすませてください。
2. 採取用スワブ（青色）を尿道に2～4cm挿入します。（図2）
3. スワブを時計方向に2～3秒間ゆっくり回転させ擦過物を採取します。（図2）
4. 直ちにスワブを専用容器の保存液に混和します。（図4）
5. 内容物が飛散しないように注意しながら，スワブを所定の位置で折ります。（図5）
6. スワブを入れたまま専用容器のキャップを閉め，冷蔵保存にてご提出ください。（図5）

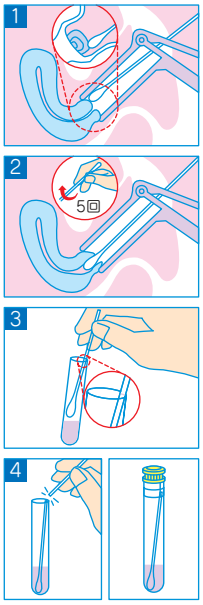
●咽頭からの採取（咽頭スワブ検体）
1. 採取用スワブ（青色）で扁桃の側面部分をしっかりと擦過し，擦過物を採取します。（図3）
   採取前に口腔内洗浄や飲食をしないようにしてください。
2. 直ちに青色スワブをスワブ搬送用チューブ内のスワブ搬送液に混和します。
3. 内容物が飛散しないよう注意しながら，青色スワブを所定の位置で折ります。（図4）
4. スワブ搬送用チューブのキャップをしっかりと閉めて冷蔵保存にてご提出ください。（図5）

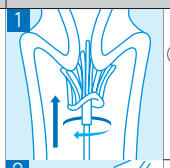
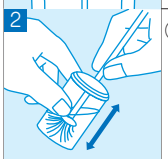
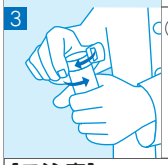
［ご注意］
検体採取時に無理な力がかかりますと，綿棒が折れる可能性がありますので，十分ご注意ください。

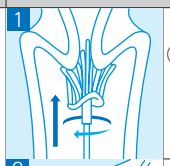
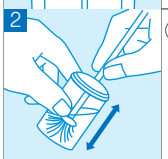
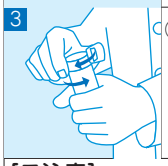


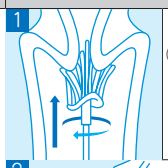
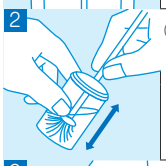
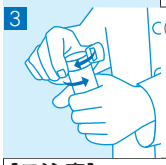
容　器　形　態	検査項目	保存	検体の取り扱い方法
F3 新容器記号 V50	クラミジア トラコマティス DNA	冷蔵	1 スワブ検体採取セット附属の1本目のスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を充分拭い取ります。 2 附属されている2本目のスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。
	淋菌DNA		3 専用容器のキャップを開け，採取したスワブの先端の綿球が容器内の溶液に漬からないように注意しながら入れ，柄につけられた黒い線を専用容器の縁に合わせます。
	淋菌およびクラミジア トラコマティス DNA同時同定		4 専用容器の縁を利用して，スワブの柄につけられた線で折り入れキャップをしっかり閉め，冷蔵保存にて提出してください。

内　　容
　グアニジン塩酸塩
貯蔵方法　室温
有効期間　1年



容器形態	検査項目	保存	採取方法
f6 新容器記号 V41 内　容 メタノール55%含有 貯蔵方法　室温 有効期間　1年6カ月	細胞診(婦人科) [ベセスダシステム]	室温	 ①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具(ブラシ，スパーテル)を用いて細胞を採取してください。
	細胞診(婦人科CR)		 ②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ，容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後，強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。
	ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ)(LBC)		 ③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し，蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように，しっかり蓋を閉め，室温保存してください。 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。
	ヒトパピローマウイルスDNA(ローリスクグループ)(LBC)		[ご注意] 妊婦より細胞を採取する場合は，安全性を考慮し，ブラシ，スパーテル等の採取器具の使用は避け，綿棒を使用してください。ただし，綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために，採取前に別の綿棒で粘液を除去し，採取に使用した綿棒を保存液中で充分にすすぎ，採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存してください。また，綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意ください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
f6 新容器記号 V41 内　容 メタノール55%含有 貯蔵方法　室温 有効期間　1年6カ月	ヒトパピローマウイルスDNA(16型，18型，その他ハイリスクグループ)	室温	 ①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具(ブラシ，スパーテル)を用いて細胞を採取してください。
			 ②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ，容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後，強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。
			 ③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し，蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように，しっかり蓋を閉め，室温保存してください。 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。
			[ご注意] 妊婦より細胞を採取する場合は，安全性を考慮し，ブラシ，スパーテル等の採取器具の使用は避け，綿棒を使用してください。ただし，綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために，採取前に別の綿棒で粘液を除去し，採取に使用した綿棒を保存液中で充分にすすぎ，採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存してください。また，綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意ください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
f6 新容器記号 V41 内容 メタノール55%含有 貯蔵方法　室温 有効期間　1年6カ月	ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	室温	1  ①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具(ブラシ，スパーテル)を用いて細胞を採取してください。 2  ②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ，容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後，強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。 3  ③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し，蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように，しっかり蓋を閉め，室温保存してください。 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。
	細胞診(婦人科LBC)		
	細胞診(婦人科LBC)[ベセスダシステム]		[ご注意] 妊婦より細胞を採取する場合は，安全性を考慮し，ブラシ，スパーテル等の採取器具の使用は避け，綿棒を使用してください。ただし，綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために，採取前に別の綿棒で粘液を除去し，採取に使用した綿棒を保存液中で充分にすすぎ，採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存してください。また，綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
G 新容器記号 PH5 	ヘパリン入り(真空採血量5mL) 内容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	結核菌特異的IFN-γ	血液(ヘパリン加)5.0		室温	本図の容器に採血し，よく混和させ，室温保存(18～25℃)してください。検体は採取後，当日中にご提出ください。
		γ-アミノ酪酸(GABA)	血液3.0	速やかに遠心 血漿1.0	凍結	左図の容器に採血し，よく混和させ，直ちに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		全脂質中脂肪酸分画	血液各1.5～2.0	血漿各0.5	凍結	早朝空腹時に左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		脂肪酸分画			凍結	早朝空腹時に左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
		極長鎖脂肪酸	血液4.0～5.0	血漿2.0	凍結	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
		リポ蛋白リパーゼ(LPL)	血液1.5～2.0	速やかに冷却遠心 血漿0.3	凍結	早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し，15分後に左図の容器に採血し低温(4℃)で遠心分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		ニコチン酸(ナイアシン)	血液(ヘパリン加)1.5		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させた後，血液をポリスピッツに移し，冷蔵保存してください。
		鉛(Pb)	血液(ヘパリン加)3.0		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。
		クロム	血液(ヘパリン加)各0.7		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。
		マンガン			冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。
		カドミウム	血液(ヘパリン加)0.5		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。
		エタノール	血液(ヘパリン加)1.0		凍結	左図の容器に採血し，よく混和させた後，血液をポリスピッツに移し，必ず凍結保存してください。
		フェノバルビタール	血液各1.5～2.0	血漿0.2	冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		プリミドン		血漿0.3	冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
G 新容器記号 PH5 	ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	フェニトイン	血液 各1.5～2.0	血漿 各0.2	冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ，血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		カルバマゼピン				
		エトスクシミド				
		レベチラセタム		血漿 各0.3		
		トピラマート				
		ラモトリギン		血漿 各0.5		
		ガバペンチン				
		キニジン		血漿 0.4		
		ジソピラミド		血漿 0.3		
		プロカインアミド		血漿 0.4		
		ピルシカイニド		血漿 各0.5		
		シベンゾリン				
		フレカイニド		血漿 0.3		
		ピルメノール	血液 3.0～4.0	血漿 1.3		
		アプリンジン	血液 各1.5～2.0	血漿 0.5		
		ベプリジル		血漿 0.5		
		アミオダロン		血漿 0.6		
		プロプラノロール		血漿 0.3		
		ボリコナゾール		血漿 0.5		
		メトトレキサート	血液 2.0～3.0	血漿 1.0		

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
G3 新容器記号 PHS 	ヘパリン入り (真空採血量4mL) 内　容 ヘパリンNa 83.6単位 貯蔵方法 室温 有効期間 18カ月 (アルミ包装 開封後1カ月)	遮光 コプロポルフィリン	血液 (ヘパリン加) 各1.5		冷蔵	左図の遮光容器に採血し，よく混和させ，冷蔵保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。
		遮光 ウロポルフィリン				
		遮光 プロトポルフィリン				
		遮光 赤血球遊離 プロトポルフィリン	血液 (ヘパリン加) 1.0			

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
g1 新容器記号 PKF 	EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内　容 EDTA-2K 3.6mg 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	ビタミンB_1	血液 (EDTA-2K加) 1.0		凍結	左図の容器に採血し，よく混和させ，凍結保存してください。
		遮光 ビタミンB_2	血液 (EDTA-2K加) 0.5			左図の容器に採血し，よく混和させ，必ず遮光ポリスピッツ（i）に移し替え，凍結してご提出ください。
		シクロスポリン	血液 (EDTA-2K加) 0.7			左図の容器に採血し，よく混和させ，血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。
		タクロリムス	血液 (EDTA-2K加) 0.7			左図の容器に採血し，よく混和させ，血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 投与量を明記してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
h 新容器記号 PSD 	SDS EDTA-2Na入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温	アデノウイルスDNA	結膜ぬぐい液 適量	結膜ぬぐい液 (SDS加) 適量	室温	滅菌綿棒にて患部をぬぐい，指定の容器に入れ，そのまま室温保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		エンテロウイルスRNA	咽頭ぬぐい液 適量	咽頭ぬぐい液 (SDS加) 適量		
		水痘・帯状ヘルペスウイルスDNA	患部ぬぐい液 各適量	患部ぬぐい液 (SDS加) 各適量		
		単純ヘルペスウイルスDNA				
		ヒトヘルペスウイルス6型DNA				
		ヒトヘルペスウイルス7型DNA				
		サイトメガロウイルスDNA				
		EBウイルスDNA				

容　器　形　態
i　貯蔵方法　室温 新容器記号 ASS   遮光ポリスピッツ

容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
K1 	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量1.8mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	プロトロンビン時間(PT) 活性化部分 トロンボプラスチン時間(APTT) フィブリノーゲン	血液各1.8	速やかに遠心 血漿各0.5	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し，転倒混和を5～6回繰り返した後，速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で，採血量が1.8mL以上の場合，(L) の容器をご利用ください。)

容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
K1 	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量1.8mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	血液各1.8	速やかに遠心 血漿0.5	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し，転倒混和を5～6回繰り返した後，速やかに血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
		C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)		速やかに遠心 血漿0.2		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し，転倒混和を5～6回繰り返した後，速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で，採血量が1.8mL以上の場合，(L) の容器をご利用ください。)
		FDP定量		速やかに遠心 血漿0.2		
		凝固因子活性検査：第Ⅱ因子(F2)		速やかに遠心 血漿各0.3		
		凝固因子活性検査：第Ⅴ因子(F5)				
		凝固因子活性検査：第Ⅶ因子(F7)				
		凝固因子活性検査：第Ⅷ因子(F8)				
		凝固因子活性検査：第Ⅸ因子(F9)				
		凝固因子活性検査：第Ⅹ因子(F10)				
		凝固因子活性検査：第ⅩⅠ因子(F11)				
		凝固因子活性検査：第ⅩⅡ因子(F12)				
		凝固因子活性検査：第ⅩⅢ因子(F13)		速やかに遠心 血漿0.4		

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
K1	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量1.8mL) 内容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	フォン・ウィルブランド因子抗原定量	血液各1.8	速やかに遠心 血漿0.2	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し，転倒混和を5～6回繰り返した後，速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で，採血量が1.8mL以上の場合，(L) の容器をご利用ください。)
		フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)		速やかに遠心 血漿各0.5		
		フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析				
		プラスミノーゲン				
		アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター)				
		アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)				
		ヘパリン		速やかに遠心 血漿0.3		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し，転倒混和を5～6回繰り返した後，速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で，採血量が1.8mL以上の場合，(L) の容器をご利用ください。) 〔注意事項〕 ＊トータルPAI-1につきましては以下の点にご注意ください。 1. 採取容器は(K1)を用い，必ず冷却遠心してください。室温遠心や容器 (L) での採血はデータが高値となるため，避けてください。 2. 速やかに分離できない場合は，氷水中に保存し，1時間以内に分離してください。
		可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)				
		フィブリンモノマー複合体定量		速やかに遠心 血漿各0.5		
		Dダイマー				
		α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)		速やかに遠心 血漿0.2		
		トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)		速やかに遠心 血漿0.5		
		プロトロンビンフラグメントF1＋2		速やかに遠心 血漿各0.3		
		プロテインC(抗原量)				
		プロテインC活性		速やかに遠心 血漿各0.2		
		プロテインS(抗原量)				
		プロテインS活性				
		プロテインS(遊離型抗原量)				
		トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)		速やかに冷却遠心 血漿0.5		

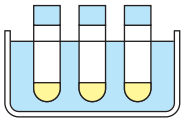
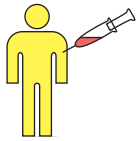
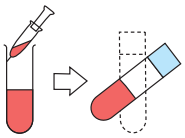
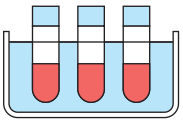
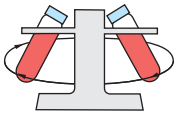
容器形態		検査項目		採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
L 新容器記号 PC5 	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量4.5mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 (25本入りプラスティックケース開封後1カ月)	(遮光) ビタミンK分画		血液 各4.5	速やかに遠心 血漿 2.5	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し，転倒混和を5～6回繰り返した後，速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず「遮光ポリスピッツ」(i) にてご提出ください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		ループスアンチコアグラント			速やかに遠心 血漿 1.0		採血後，速やかに室温で1500G以上15分間遠心後，バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は，測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r：遠心器のローター半径(cm) n：1分間あたりの回転数(rpm)
		凝固抑制因子検査	第Ⅷ(8)因子 第Ⅸ(9)因子		速やかに遠心 血漿 各1.0		3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し，転倒混和を5～6回繰り返した後，速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

容器形態
L2 新容器記号 XC0 貯蔵方法　室温   結石専用容器

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
ℓ 新容器記号 X00 	滅菌喀痰採取容器 貯蔵方法 室温	マイコプラズマニューモニエDNA	喀痰 各2.0		凍結	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		結核菌群核酸同定(TRC)				
		MAC核酸同定(TRC)				
		結核菌DNA				
		MAC核酸同定(マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー)(TRC)				
		ニューモシスチスカリニDNA				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
P1 新容器記号 S5F 5mL採血用	凝固促進剤＋ 血清分離剤入り (真空採血量5mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	HBV DNA定量 (リアルタイムPCR)	血液 5.0	血清 1.8	凍結	指定の採取量を左図の容器に採取後，4～5回静かに転倒混和し，室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後，遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 左記項目以外との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		HBV DNA定量	血液 各3.0	血清 0.3		指定の採取量を左図の容器に採取後，4～5回静かに転倒混和し，室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後，遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 左記項目以外との重複依頼は避けてください。 なお，左記項目内重複依頼の場合は，5mL採血用容器をご使用ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		HCV RNA コアジェノタイプ		血清 各0.5		
		HCV RNA 1b(NS5A)				
		HCV RNA定量 (リアルタイムPCR)	血液 5.0	血清 1.8		指定の採取量を左図の容器に採取後，4～5回静かに転倒混和し，室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後，遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 左記項目以外との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
P3 新容器記号 PSF 	EDTA－2K＋ 血漿分離剤入り (真空採血量8mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	HIV-1 RNA定量 (リアルタイムPCR)	血液 8.0	血漿 3.0	凍結	指定の採取量(8mL)を左図の容器に採取後，4～5回静かに転倒混和し，室温にて遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 左記項目以外との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法		
Q 新容器記号 PBT (真空採血禁止) 抗血小板剤入り 内　容 テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 1年	β-トロンボグロブリン(β-TG)	凍結		あらかじめ専用容器（Q）を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。 角氷は使用しないでください。
				できるだけ20ゲージ（19～21ゲージでも可）の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。（採血にあたって，専用容器（Q）を使用しての直接採血は絶対にしないでください。）	真空採血管，カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。 また，止血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け，出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採血してください。
				針を取って静かに専用容器（Q）のフタを開け，血液2.7mLを静かに移し，ゆっくり2～3回反転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。 専用容器は振とうさせないでください。
				専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液液面が下になるようにしてください。
			以上の操作を2分以内に行ってください。		
	血小板第4因子(PF-4)			砕氷水に15～30分間放置後，採取血液を2,000Gで30分間，2～4℃で遠心分離してください。（右表は2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。） ＊遠心回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r：遠心器のローター半径（cm） n：1分間あたりの回転数（rpm）	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。 換　算　表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4,200 / 22 / 2,800 12 / 3,800 / 24 / 2,700 14 / 3,500 / 26 / 2,600 16 / 3,300 / 28 / 2,500 18 / 3,100 / 30 / 2,400 20 / 3,000
				上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取してください。 血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。 （血漿の全量採取は避けてください。） 検体は必ず凍結保存してください。 （1ヵ月安定）	

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
R 新容器記号 PNK 	保存液入り (真空採血量5mL) 内　容 保存液0.7mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年 (アルミシート開封後1カ月)	NK細胞活性	血液 (保存液加) 5.0		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和させ冷蔵保存してください。 なお，リンパ球の少ない患者さんは多めに採血してください。検体は採取後，当日中にご提出ください。

容　器　形　態
r　貯蔵方法　室温 新容器記号 ARR   滅菌ポリスピッツ

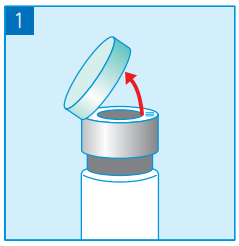
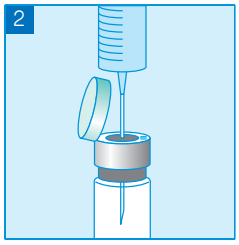
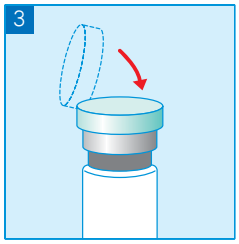
容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
r3 新容器記号 M30 	除蛋白液入り (内容量1mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年	乳酸 ピルビン酸	血液 各1.0	速やかに遠心　除蛋白液 各0.4	冷蔵	採血後，直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え，十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し，その上清液をご提出ください。

容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
r4 新容器記号 M40 	除蛋白液入り (内容量4mL) 内　容 タングステン酸Na, 硫酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年	アンモニア	血液 1.0	速やかに遠心　除蛋白液 3.0	凍結	採血後，直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え，十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し，その上清液をご提出ください。

容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
r5 新容器記号 M50 	除蛋白液入り (内容量0.5mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年	遮光 ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.5	除蛋白上清 0.5	凍結	採血後，直ちに血清分離し，正確に血清0.5mLを専用容器に加え，十分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し，その上清液を遮光ポリスピッツ(i)に移し替え，凍結してご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
t 新容器記号 Z10 	[オブジェクトケース] プレパラート (スライドグラス) 貯蔵方法 室温	骨髄像	骨髄塗抹標本 2～3枚		室温	骨髄塗抹標本をご提出ください。 室温保存してください。
		特殊染色標本作成	血液塗抹標本 必要枚数			血液，骨髄塗抹標本をご提出ください。 室温保存してください。
			骨髄塗抹標本 必要枚数			
		鼻汁中好酸球	鼻汁塗抹標本 2～3枚			標本は新鮮鼻汁で作成しご提出ください。 室温保存してください。

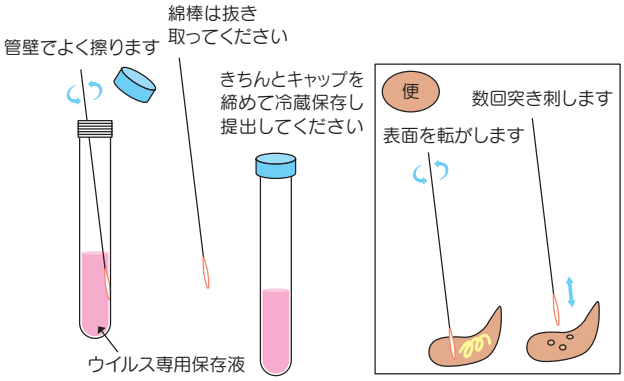
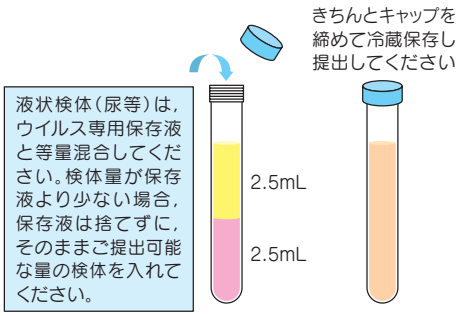
容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
T3 新容器記号 PE2 	(真空採血量2mL) 内　容 ノボヘパリン 15IU 貯蔵方法 室温 有効期間 1年	エンドトキシン定量	血液 (ノボヘパリン加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し，よく混和してください。 室温保存ではデータ影響が認められるため，速やかに冷蔵保存してください。 β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。
		β-D-グルカン				左図の容器に採血し，よく混和してください。 速やかに冷蔵保存してください。 エンドトキシン定量以外との重複依頼は避けてください。

容器形態		検査項目	保存	検体の取り扱い方法
T4 新容器記号 PE4 	(真空採取量:4.0mL) 内　容 安定化剤 0.1mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年	透析液中 エンドトキシン (A液，B液，RO水，調製液，その他)	冷蔵	 T4容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ，アルミ部分を切らないように，(カラーキャップが完全に外に落ちないように)開け，ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。  無菌的に透析液を注射針付きのシリンジで採取し，T4容器のゴム栓部に刺します。  注入が終わりましたら，カラーキャップを元通りに被せ，ただちに4回ほど容器を振り，安定化剤を均質に混ぜ，速やかに冷蔵保存し，提出してください。

専用容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U	糞便容器 貯蔵方法 室温	アデノウイルスDNA	糞便 500mg		凍結	糞便500mgを指定の容器に入れ，必ず凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので，検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
		ロタウイルス抗原	糞便 1g			糞便の中央部より1g（栂指頭大）を左図の容器に入れ，必ず凍結保存してください。

容器形態	容器形態
u1 凍結組織材料作製セット 新容器記号 VP1 貯蔵方法　室温 有効期間　1年	u5 病理専用容器 10%ホルマリン液を充填してお使いください。 貯蔵方法　室温

容器形態	検査項目	保存	検体の取り扱い方法
V 新容器記号 V10 ウイルス専用 保存液入り 貯蔵方法　冷蔵 有効期間　6ヵ月	ウイルス分離 ウイルス同定 アデノウイルス抗原 インフルエンザ ウイルス抗原 パラインフルエンザ ウイルス抗原 水痘・帯状ヘルペス ウイルス抗原 単純ヘルペス ウイルス抗原 サイトメガロ ウイルス抗原 インフルエンザ ウイルスRNA	冷蔵	●患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　等 滅菌綿棒でぬぐい，下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し，冷蔵保存してください。  ●尿・髄液・胸水・鼻汁　等 下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し，冷蔵保存してください。  ●組織 組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ，冷蔵保存してください。

容器形態	検査項目	保存
W1 新容器記号 V30	水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原 単純ヘルペスウイルス特異抗原	凍結

貯蔵方法　室温
有効期間　1年

●検体の採取方法
病巣基底細胞が多数得られるように採取してください。
早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液および膿は，検体として不適当です。
①滅菌針を用いて，上部の皮あるいは痂皮を剥がします。（図1）
②病巣を覆っていた上部の皮を，ピンセット等で除去します。（図2）
③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
④ウイルス感染細胞は，病巣基底部にありますので，病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。（図3）
●注意
膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り，別の綿棒で検体を採取してください。この時，病巣基底部をかき乱さないよう注意してください。

●操作法
●検体の塗抹
①綿棒を回転させながらスライドグラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は，スライドグラスに平行にして，全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意してください。（図4）
②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば，そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
③そのまま風乾します。
④乾燥したスライドグラス上に十分な量（検体にゆきわたる）のアセトンを添加し，蒸発させます。
・検体はスライドグラス2枚をご提出ください。

●検体の保存
乾燥後のスライドグラスは，塗抹面を下にし，オブジェクトケースに入れ，検査項目名，病院名，氏名等を記入後，凍結保存してください。

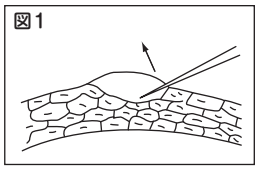
図1


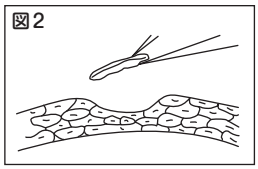
図2


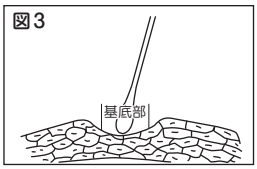
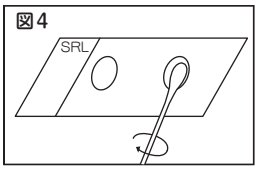
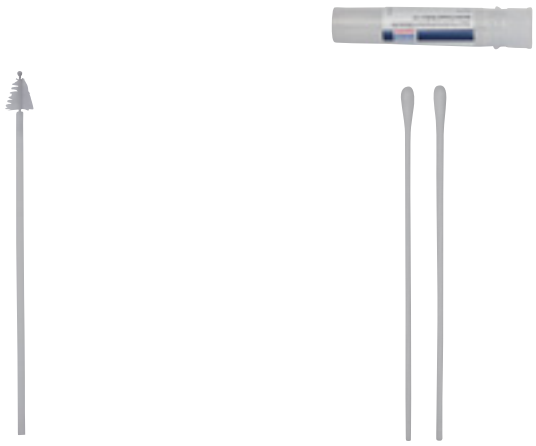
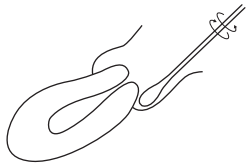
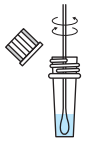
図3


図4


容　器　形　態
W3（新容器記号 V60）　内　容　保存液 貯蔵方法　室温 有効期間　3年  一般用　　妊婦用 ヒトパピローマウイルスDNA（ハイリスクグループ，ローリスクグループ） ［ご注意］検体採取時に無理な力がかかりますと，綿棒が折れる可能性がありますので，十分ご注意ください。

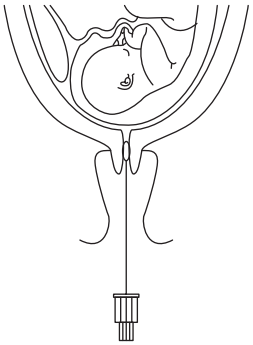
容器形態	検査項目	保存	採取方法	
W5（新容器記号 VP5） 内　容　抽出液 貯蔵方法　室温 有効期間　1年	ヒト癌胎児性 フィブロネクチン	凍結		専用綿棒を後膣円蓋に挿入し，約10秒間回して分泌物を吸収させます。 ［ご注意］ 検体採取時に無理な力がかかりますと，綿棒が折れる可能性がありますので，十分ご注意ください。
				検体抽出容器の白色キャップをはずし，分泌液を吸収させた綿棒を浸けて，5回程度綿棒を回します。（この際，容器から液がこぼれないよう注意してください。）
				綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。
				検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。
				検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し，チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。
			●注意事項 ・検体の採取は膣洗浄前に行ってください。 ・検体中に精液が混入しているときは，その検体は使用しないでください。 ・検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合，正確な結果が得られない可能性があります。	

容器形態	検査項目	保存
W6 新容器記号 VP6	子宮頸管粘液中　顆粒球エラスターゼ	凍結

内　　容
　抽出液
　（リン酸バッファー）
貯蔵方法　室温
　（抽出液は冷蔵）
有効期間　1年

採取方法

正しい採取部位

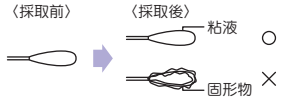


子宮膣部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。

綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3）

綿棒をゆっくりと2回転させ，頸管粘液を採取します。注4）

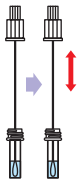
●注意事項
1）子宮頸管部より採取してください。
2）検体採取は膣部洗浄前に行ってください。
3）綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。
4）綿棒1回転あたり約5秒をかけ，自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には，接子等で取り除いてください。



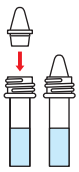
5）採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。

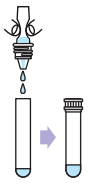
［ご注意］
検体採取時に無理な力が掛かりますと，綿棒が折れる可能性がありますので十分ご注意ください。

①
抽出液の入った抽出容器の青いキャップをはずします。

② 
頸管粘液を採取した綿棒を浸けて，2～3分間放置します。
その後，綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。

③
綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後，綿棒を取り除きます。

④ 
フィルターをセットします。

⑤ 
検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴（約300μL）を分取します。
必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。
検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵（8℃）で3日以内，冷凍（－15℃以下）で3カ月以内に測定してください。

容器形態

W7
新容器記号
V80

内　　容　リン酸バッファー
貯蔵方法　冷蔵
有効期限　1年

アデノウイルス抗原〔ELISA〕

容器形態	検　査　項　目	保存
W9 新容器記号 V91	クラミジアトラコマティス抗原	冷蔵

女性用

W9
新容器記号
V90

男性初尿用

内　　容
保存液1mL
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

●子宮頸管からの採取
①膣鏡を用いて，露出した子宮膣部（外子宮口を中心にして）をガーゼまたは綿棒で軽く清拭し，過剰な粘液を除去します。
②専用綿棒を外子宮口部より子宮頸管内に挿入し，5～10秒間回転させて上皮細胞を採取します。（図1）
③綿棒を膣壁に接触しないようにして，引き抜きます。
④検体採取後，綿棒を専用容器の希釈液の中に入れます。（図2）
⑤綿棒軸には綿球の先端より約5cmの位置にスリットがありますので，このスリットを容器口にあてて折り，綿球を入れたまま密栓してください。（図3）
⑥密栓後，冷蔵保存してください。

図1

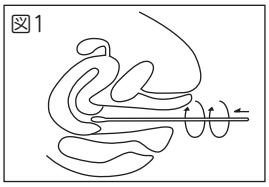


図2

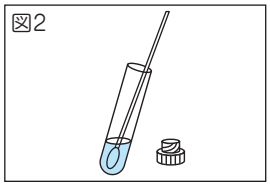
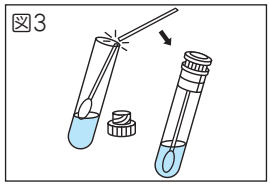


図3



［ご注意点］
綿球の先端を子宮頸管内に強く挿入したり，押し付けながら強く擦過すると，スリットの位置で綿棒が折れる可能性がありますのでご注意ください。

●男子初尿からの採取
①検体採取の少なくとも1時間前より佩用しないでください。
②初尿約10mLを採尿カップに採取します。
③採取後，1,500～2,500G（ローター回転半径15～25cmの遠心器3,000rpm）で15分間遠心分離します。
④遠心分離後，上清を捨て沈渣を残します。
⑤沈渣に専用容器中の希釈液を全て加えて良く攪拌します。
⑥専用容器に移し換えて冷蔵保存してください。

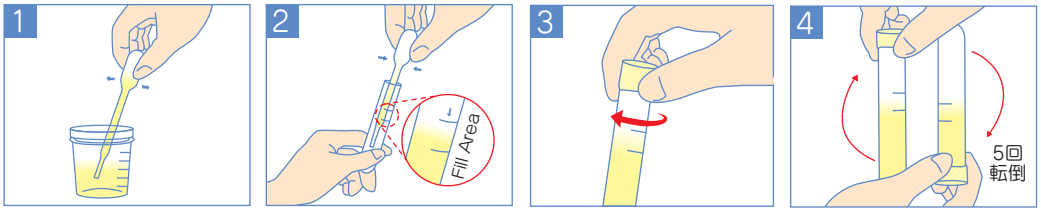
注：専用容器のため，他項目との重複依頼は避けてください。

容器形態	検　査　項　目	保存
Y1 新容器記号 U10	クラミジアトラコマティスDNA 淋菌DNA 淋菌およびクラミジアトラコマティスDNA同時測定	冷蔵

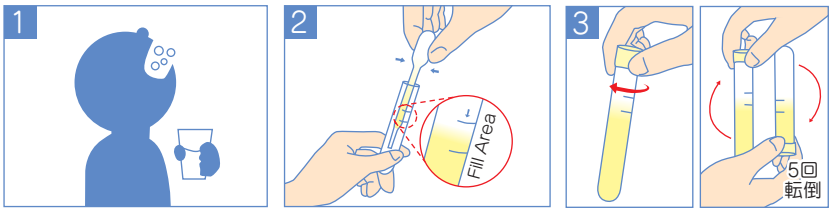
滅菌スポイト
滅菌カップ

内　　容
グアニジン塩酸塩
貯蔵方法　室温
有効期間　1年

●尿検体からの採取
最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。
①滅菌済みカップに初尿を採取し，滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。
②専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。
③専用容器のキャップをしっかりと閉めてください。
④専用容器を5回転倒混和して冷蔵にて提出してください。



●うがい液からの採取
検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。
①滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み，顔を上に向けて10～20秒間，勢いよくうがいを行ないます。
②うがい液全量をコップに回収し，スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。
③専用容器のキャップをしっかりと閉め，5回転倒混和して冷蔵保存にて提出してください。



容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
Y5 新容器記号 U50 	保存剤入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	尿中ミオグロビン	部分尿 6		冷蔵	採取した尿を速やかに専用容器（Y5）のラベルに印刷してある線まで入れ，よく混和させ冷蔵保存にてご提出ください。 凍結保存は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
Y7 新容器記号 U70 	Tris+Hcl入り (容器容量10mL) 内　容 1.5M Tris-Hcl 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5		冷蔵	早朝一番尿を採取し，左図の容器に注入し，よく混和させ，冷蔵保存してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
Y8 新容器記号 U80 	保存液入り (容器容量10mL) 内　容 尿安定化剤 貯蔵方法 遮光・室温 有効期間 2年6カ月	尿中核マトリックスプロテイン22 (NMP22)	部分尿 適量 (別容器)	速やかに遠心 部分尿 (上清) 5	冷蔵	採取した尿を速やかに遠心し，その上清を専用容器の採尿範囲まで入れ，よく混和してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避け，冷蔵にてご提出ください。

容器形態
Z 新容器記号 AZZ 酸洗浄済みのポリスピッツ 貯蔵方法　室温   金属検査

新規検査項目記入欄

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）（治療濃度範囲）	備考

2020～2021 総合検査案内

非売品

発 行　株式会社エスアールエル北関東検査センター
〒379-2141 群馬県前橋市鶴光路町141-15
TEL　027（265）6498

SRIL KITA KANTO 株式会社エスアールエル北関東検査センター

●検査結果のお問い合わせ，検査項目については，当社データインフォメーションへお問い合わせください。

TEL．027(265)6498

VEGETABLE OIL INK

2020年４月作成，①KG